女性優位社会が、世界を支配する。

IWAO OTSUKA

目次

「１２」積極性。チャレンジ精神の強さ。加点主義。
「１３」プレゼンテーション技術の発達しやすさ。
「１４」社会的階級の発生。社会的不平等の固定化。
「１５」思想面での統制の強さ。思想面での絶対者気取りの発生しやすさ。
「１６」独創性。先進性。革新性。ブレークスルーの重視。
「１７」個性の重視。科学性。実証性。
「１８」ライバルに対する好戦性。セキュリティの重視。
「１９」普遍性。グローバリズム。それらの重視。
「２０」女性の無力化。女性の男性化。それらの推進。
「２１」交通。通信。それらの発達しやすさ。
「２２」犯罪性。粗暴性。攻撃性。それらの強さ。
「２３」有能感。全能感。自信。それらの強さ。
「２４」異質性。多様性。少数性。それらへの寛容さ。
「２５」社会福祉への注力。その熱心さ。
女性が形成する社会の概要。「女性優位社会」と「女性専用社会」。
女性が形成する社会を調査する方法。「女性優位社会」と「女性専用社会」。
女性優位社会の特徴
（１）『対人関係の重視』
（２）『コミュニケーションの重視』
（３）『対人関係の累積』
（４）『対人関係の癒着』
（５）『集団主義』
（６）『所属の重視』
（７）『定住の重視』
（８）『同調性の強さ。強い嫉妬心。』
（９）『同期制や、先輩後輩制の重視』
（１０）『物真似指向』
（１１）『和合の重視』
（１２）『小グループ間の無関心』
（１３）『被保護への欲求』
（１４）『権威主義』
（１５）『リスクの回避』
（１６）『前例踏襲指向』
（１７）『後進性。現状維持。』
（１８）『恥や見栄の重視』
（１９）『気配りの重視』
（２０）『清潔さの重視』

（２１）『責任の回避』
（２２）『懐きの重視』
（２３）『事前合意の重視』
（２４）『失敗恐怖症』
（２５）『閉鎖性。排他性。』
（２６）『受動性。被害者意識の強さ』
（２７）『相互監視の重視』
（２８）『間接的対応』
（２９）『局所性。（ローカル性。）』
（３０）『感情性。』
（３１）『小スケール性。』
（３２）『高密度指向』
（３３）『厳格さの重視』
（３４）『減点主義』
（３５）『管理統制主義』
（３６）『従順さの重視』
（３７）『総花的』
（３８）『突出の回避』
（３９）『中心指向』
（４０）『マイナス思考』
（４１）『真実や内実の隠蔽』
（４２）『多数派指向』
（４３）『安定指向』
（４４）『批判への耐性の低さ』
（４５）『無謬性の主張』
（４６）『製品の品質や完成度の高さ』
（４７）『上位者好みと下位者への冷酷さ』
女性優位社会の特徴。それらの内容についての分類。
女性優位社会の掟
人々の性格の女性優位な度合いの判定基準
移動、定住生活様式と、男女の遺伝的性差
女性優位社会の憲法、男性優位社会の憲法
男性優位社会、女性優位社会の優位性比較。
女性優位社会と男性優位社会。コンピュータによるシミュレーション。
父性と母性。男性優位社会と、女性優位社会。その支配的な価値観。その発生源。
女性優位社会における権力行使
女性優位社会と派閥、一匹狼
女性優位社会における、いじめ。あるいは、所属集団からの追放。

女性優位社会での人生
女性優位社会、男性優位社会。教科書への信仰。
女性優位社会と近代化
共産主義、社会主義の社会。女性優位社会。両者を混同するな！その男性優位社会での実現が、新たに必要である。
女性優位社会。その共産主義革命。その真意。共同性の優先。
民主主義と、女性優位社会。
男性優位社会。そのタイプ分け。宗教。血縁関係。
女性優位社会の女性優位な人々。彼らは、有力な学説を信じる。
女性優位社会における、科学。その社会にとっての上位者が、先進的な男性優位社会である場合。
女性優位社会における社会学やフェミニズム。先進的な男性優位社会が、スーパー上位者の場合。
女性たち。女性優位社会の人たち。定住生活様式者たち。彼らは、社会学者として、根本的に無能である。
女性たち。女性優位社会の人たち。定住生活様式者たち。彼らは、テレワークにおいて、根本的に無能である。
女性や、女性優位社会。自己保身性と自己中心性。その同時発生。
女性優位社会と、勉強。
女性優位社会。女性同士。上下関係。対等な関係。
女性優位社会における、上下関係。その社会的な真実。
女性優位社会。定住生活様式。専制支配行為を順送りで行うこと。
女性優位社会。定住生活様式。上位者から、下位者への、理不尽な仕打ち。その仕打ちの内容の、世代間における、時系列的な継承。
女性優位社会における、人々の本名についての扱い。それは、社会的な機密情報である。
中心者。周辺者。女性優位社会。
優しい女性。厳しい女性。女性優位社会。
男性優位社会。女性優位社会。支配者。権力者。社会の支配。その形態。
男性優位社会。女性優位社会。集団における下位者の昇進。その条件。
女性優位社会。新しい上位者。過去の上位者。両者に対する扱いの違い。
男性優位社会。女性優位社会。言論統制の共通性。
男性優位社会における言論統制
「女性優位社会。権力構造。言論統制。」
　　女性優位社会における権力構造。
　　女性優位社会における言論統制。
　　女性優位社会が、他の社会に従う。その分類。

女性優位社会。男性優位社会。それらによる相互作用。
女性優位社会における右派。
女性優位社会における左派。
女性優位社会における、社会不適合者。
女性優位社会。敗戦、劣勢への対応。
女性優位社会同士の、マウント合戦。
女性優位社会。「自己責任論」。
女性優位社会が衰退する、没落する。その社会が持つ特徴。
女性優位社会。定住集団の内部。その真の内情。それは、機密情報として扱われる。
女性や女性優位社会。定住生活様式。人々を説得する方法。人々を動かす方法。その注意点。
女性優位社会。相互監視の積極的な実現と、プライバシーの欠如を肯定すること。
女性優位社会。定住生活様式中心社会。そうした社会において、統合失調症患者が、迫害を受けること。その原因。
女性優位社会としての稲作農耕民社会
（ご参考）人生投資家としての女性。投資先企業家としての男性。
女性の社会的優位性。
女性優位社会の外見は、なぜ男性優位社会に見えるのか？
１．女性優位社会。強者女性は、弱者男性の存在を、故意に、偉くする。
２．女性優位社会。強者女性は、対外的なガード役の男性を、強く見せる。
３．男性優位社会と、女性優位社会との相互作用。それは、副作用をもたらす。
４．女性優位社会。性的役割分業の永続。それは、表面には出てこない。
５．女性優位社会の存在についての主張。それは世界的に消去される。
６．女性優位社会。それは、その内実を、告白しない。
偽物のフェミニズムと本物のフェミニズム
はじめに
女性優位男性を生成する方法。女性が男性を本質的に弱くする方法。
女性優位を実現する社会環境の作り方
男性優位社会の弱い女性を社会的に強くする方法
女性優位社会と母権社会
女性優位社会の男性と、その母親
女性優位社会。夫にとっての妻。

女性優位社会。定住生活様式。下位者による、上位者に対する、批判や異議申し立て。その社会的な取り扱い。
女性優位社会。母親と子供。上位者と下位者。両者の間の社会的な関係。子宮的思考との関連。
「男性優位社会のフェミニズム」。それは、女性優位社会では、有害である。
　「男性優位社会のフェミニズム」。その女性優位社会への導入。それは、変質した。
　女性優位社会。強者女性は、「キャリア指向」になる。それは、女性の社会的地位を、低下させる。
男性優位社会と女性優位社会。「綺麗事」。
独立系女性優位社会による、従属系女性優位社会に対する救出活動。その必要性。
男性優位社会と、女性優位社会。相互の恋愛と結婚。
女性優位社会が、世界的な覇権を握ること。その実現の方法。
男性的な女性。彼らの、長所。
（資料）女性専用社会の内部を知るのに有用な情報源（一例）
私の書籍についての関連情報。
　私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。
　筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。
　参考文献。
　私が執筆した全ての書籍。その一覧。
　私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。
　私の略歴。

女性優位社会が、世界を支配する。

大塚いわお

（当書籍の内容面における女性優位社会についての記述の優先に付きまして。）

当書籍におきましては、以下の点に、ご注意下さい。
筆者は、現在の人間の世界社会において、以下のように、判断しています。
「女性優位社会の内部についての情報が、男性優位社会についての情報に比べて、極めて少なく、圧倒的に不足している。」。
筆者は、読者の皆様が、女性優位社会の内実についてもっとよく知ってもらうことを、希望しています。
筆者は、そのため、女性優位社会についての情報内容を大幅に優先して掲載しております。
予めご了承下さい。

本書の主張。その総合的な要約。女性優位社会が、世界を支配する。

女性優位社会が、世界を支配する。

女性優位社会は、実在する。女性優位社会の存在。それは、当然である。それは、普通である。それは、自然である。
定住生活様式は、女性優位を生み出す。定住生活様式中心社会。それは、女性優位社会である。
男性優位社会は、移動生活様式中心社会にのみ存在する。その存在は、世界標準では、全く無い。

女性優位社会は、表向き、男性優位のふりをしている。人々は、それに騙されてはいけない。その真実を見抜く方法。筆者は、それ

を、新たに開発した。
女性優位社会は、既に、世界的にメジャーな存在である。女性優位社会は、世界の二大勢力の、片方である。その存在は、昔から、伝統的である。

男性優位社会。女性優位社会。各々の社会。それらの価値観や社会規範。それらは、互いに個性的である。それらは、互いに異質である。それらは、互いに相反する。それらの差異。その言語表現は、以下である。社会的性差。
男性優位社会。女性優位社会。それらは、相互作用する。それらは、互いに、相手の本質を理解できない。

定住生活様式中心社会が、世界を支配する。それらが作る製品は、以下の特質を備える。最高の品質。最高の完成度。最高のち密さ。最高の繊細さ。最高の調和。それらに勝てる競争相手。それは、世界に存在しない。
女性優位社会が、世界を支配する。女性優位社会は、世界の中心に君臨する。
女性優位社会にとって、男性優位社会は、以下の存在になる。リスクを一方的に背負う、下請けの労働者。奴隷。

男性優位社会。女性優位社会。それらは、結婚すべきだ。それは、社会間における性別役割分業である。それは、世界社会の真の繁栄をもたらす。

（初出2020年8月）

正しい社会的性差研究の進め方

１．基本的な前提

人間の社会的性差の研究は、基本的には、以下のことを前提として研究すべきである。

人間は、有性生殖を行う生物である。
人間は、性欲のかたまりである。

人間は、有性生殖の生物である以上、性差を無視することは出来ない。
男女間で、身体の仕組みに根本的な差がある。
人間が有性生殖の生物である以上、性差は無くせない。
男性も女性も強い性欲を持っており、どちらもセックスは大好きである。
それは、遺伝的子孫を残すには当然の行動様式である。

研究者は、「人間の性欲を否定したり、隠ぺいすること」を肯定してはいけない。
研究者は、このことを肯定し続ける限り、性差研究は正しく行えない。

あるいは、
研究者は、同性愛者みたいな、性的マイノリティの存在について、もう一度、考え直す必要がある。
研究者は、彼らのような少数派への社会的配慮は必要である。
しかし、研究者は、そこばかりに着目してはいけない。
研究者は、人間社会の大局を、見失ってはいけない。

人間社会は、次の内容を、原動力として動く。
（１）男女間で、性欲が発動すること。
（２）それに基づいて、男女が、遺伝的子孫を生成すること。
（３）その生成が、世代を超えて永続すること。

研究者は、人間社会の基本的現実を、今一度、きちんと認識すべきである。
研究者は、以下のことを、認識すべきである。
「人間社会は、取り巻く環境の変化によって、男性優位になったり、女性優位になったりする。」

人間社会は、以下の二種類に分けられる。
（１）移動重視の生活をする社会。遊牧民、牧畜民の社会。
（２）定住重視の生活をする社会。農耕民の社会。

そして、そのことと、男女の性差とは、以下のような関係がある。
（１）移動生活様式では、男性が優位になる。
（２）定住生活様式では、女性が優位になる。

男性は、移動生活様式に適した心理構造、行動上のプログラムを、遺伝的に持っている。
女性は、定住生活様式に適した心理構造、行動上のプログラムを、遺伝的に持っている。

今の社会的性差の研究者たちは、以下の状態を実現することを、重視しがちである。
（１）社会における、男女の勢力的均衡。
（２）社会における、勢力面での男女平等。

しかし、これらの状態は、移動生活様式と、定住生活様式との間の、「真ん中」の状態でしか実現できない。
それは、実際には、実現は困難である。

今の社会的性差の研究者たちは、次のことを、揃って、主張する。
「人間社会では、普遍的に、男性が優位である。」

しかし、このことは、ちっとも世界標準ではない。
研究者は、以下のことを、認識すべきである。
女性優位の、女性優位社会が、世界にたくさん存在すること。
女性優位社会は、勢力が大きいこと。
女性優位社会は、男性優位社会を、圧倒するようになってきていること。

女性優位の、女性優位社会は、例えば、中国、ロシア、日本、韓国、東南アジア諸国である。

女性は、世界的に見て、決して、性的マイノリティではない。
女性は、次の社会の中では、性的マジョリティの地位に、就いている。
それは、「定住生活様式指向の、女性優位の、女性優位社会」である。
女性は、そこでは、男性を、性的イマイノリティ扱いしている。
女性は、そうした男性たちを、社会的劣等者、使えない社会的弱者として、扱っている。
女性は、そうした男性たちに、強制的に、奴隷労働などをさせたりして、社会的に虐待を行っている。

男女間では、身体における能力面や、心理的関心面に、様々な差

異、相違、凸凹がある。
それは、次の事実をもたらす。
社会における性差別は無くせない。
性差そのものの存在を否定する形で、男女平等を実現することは、できない。
そうしたきれいな理想は、しょせんは、絵空事である。

現状の世界社会では、次の思想が、主流となっている。
（１）性差別に反対する思想。
（２）男女平等を実現する思想。

こうした思想は、実際には、以下の考えに基づいている。「社会において弱い女性を、強い男性並みにすること。」。
それは、男性優位社会に特有の思想になっている。
それは、そのままでは、世界標準にはなり得ない。
こうした男性優位社会の理想は、世界に数多く存在する女性優位社会には、上手く適用できない。
それは、強引に適用しても、想定外の変な結果をもたらすだけである。
男女を逆にした場合もしかりである。
女性優位社会の理想を男性優位社会に適用したとする。それは、意味の無い、おかしな結果をもたらすだけである。

社会的性差の研究は、以下の方向で行ってはいけない。
「男女の性差を無くす方向。」。

それは、以下の方向で行くべきである。
「男女それぞれの優れたところを、社会的に活用する方向。」。

現在の世界社会における、男女の社会運動は、以下の二通りである。
（１）フェミニズム。女性の社会的勢力を、一方的に強化しようとする社会運動。
（２）マスキュリズム。男性の社会的勢力を一方的に強化しようとする社会運動。

研究者は、このどちらとも、一緒にはならずに、一定以上の距離を置く。
研究者は、男性優位価値観と、女性優位価値観の、どちらか一方に肩入れすることを、避ける。

研究者は、この両者のどちらからも、中立を保つ。
研究者は、男性優位社会、女性優位社会の両者について、それぞれの現実を、冷静沈着に、眺める。研究者は、それを、観察する。

これとは逆の手法も、存在する。
研究者は、フェミニズムと、マスキュリズムの両方を、積極的に利用する。
研究者は、以下のことを、公平に見極める。
「女性の社会的優位性と、男性の社会的優位性が、それぞれどこにあるか？」
研究者は、上記の二種類の社会運動を、以下のように、利用する。
「公平な判断を行うための、分析、判断、評価上の材料、ツール。」
研究者は、その視点が、男女の一方に偏らないようにする。研究者は、その上で、こうした社会運動を、積極的に利用する。

研究者は、世界社会において、以下のことを、絶えず探るべきである。
（１）男性優位社会と女性優位社会との交流、相互作用のあり方や、その特徴。
（２）これら相互の勢力抗争や支配従属関係の流動的な変化。そして、その変化が生じる原因。

それは、以下の理由である。
世界社会で主流となる社会規範のあり方は、次のことで、大きく変化したり、交代したりする。
それは、次のことである。「男性優位社会と、女性優位社会と、どちらが世界的に覇権を握るか？」

（初出2020年5月）

２．男性優位社会における、社会的性差の研究。その課題。

男性優位社会では、人々は、「男性優位」を前提とした思考をする。
それは、思考上のバイアスである。男性優位社会の人々は、その除

去に成功できていない。
男性優位社会には、次のような、強い意思が存在する。
「自分たちの社会における様々な価値観を、世界に普遍的に広めよう。それらを、世界に対して、強引に押し付けよう。」
それらは、いずれも、「男性優位」を前提とした価値観である。
それらは、女性優位社会の存在の無視につながっている。
それらは、女性優位社会を理解する上で、根本的な障害になっている。

男性優位社会に属する研究者たちは、今まで、たくさん、女性優位社会と接触して、いろいろ調査を行っている。
それなのに、彼らは、女性優位社会の真実に、全く到達できていない。彼らは、女性優位な思考が理解できない。
また、男性優位社会の女性の思考は男性化している。彼らは、女性優位思考の真実を理解することが不可能になっている。
男性優位社会には、純粋男性と、男性化した女性しかいない。

彼らは、女性優位思考や、女性優位社会規範に、到達できない。

男性優位社会の人々は、以下の点で、優れている。
（１）個人行動重視の精神。
（２）個人的な全能感、有能感。
（３）個人の自由独立の精神。
（４）未知へのチャレンジ精神。

しかし、彼らは、必ずしも、いつも実証的、科学的ではない。
男性優位社会の人々は、絶えず、孤独な個人行動を取る。
そのため、彼らは、父親代わりの絶対者に対して、心理的に依存しようとする。
そのことは、彼らの間に、宗教的、非科学的、権威主義的な感情や価値観を絶えず生み出している。

男性優位社会の人々は、次のような、宗教的な感情を重視する。
（１）人々は、父親代わりの普遍的な絶対者を、師と仰ぐ。
（２）人々は、個人の心の中で、絶対者と対話する。
（３）人々は、絶対者による正しい判断、アドバイスを仰ごうとする。

彼らは、こうした男性優位な宗教的感情に基づいて、次のような特徴を持つ理想を、考え出す。

それは、男性優位な価値観に合致する。
それは、人間社会における、理想的状態、天国的状態を実現しようとする。
彼らは、それを、「この理想は、人間社会全体に対して、普遍的に当てはまる。」と、身勝手に考える。
彼らは、それを、男性優位なチャレンジ精神満載の行き方で、考え出す。

そうした理想は、例えば、次のようなものである。
（１）「独立した存在である個人に固有の、基本的な人権が確保されている状態。」
この状態は、個人による独立行動が、絶えず可能であることを前提としている。
それは、男性優位社会固有の前提である。それは、男性優位社会でのみ、実現が可能である。

（２）「男女間に性差別が存在しない、男女平等が実現している状態。」
これは、次の考え方を前提としている。
（２－１）女性は、男性に比べて、弱い劣った存在である。
（２－２）そうした女性の地位や扱いを、男性並みに引き上げたい。
（２－３）そうして、「女性への、男性並みの扱い」を実現したい。
これは、社会における、男性優位を前提としている。
それは、男性優位社会固有の前提である。
それは、男性優位社会にのみ当てはまる願望である。それは、男性優位社会でのみ、実現可能である。

男性優位宗教の布教においては、宗教者は、天国の状態を、自分たちで勝手に創造した。彼らは、それを世界社会に向かって押し付けた。
それは、例えば、キリスト教や、イスラム教である。

上記の理想の押し付けは、こうした男性優位宗教の布教と、やり方が同じである。
男性優位社会の人々は、次のように動く。
（１）人々は、以下のように、勝手に考える。「自分は、人間社会の普遍的理想に到達した。」。
（２）人々は、宗教的思想家気取りである。

（３）人々は、その「理想」を、男性優位社会の中だけで、決定してしまう。
（４）人々は、その「理想」を、先験的に恣意的に勝手に決定してしまう。

彼らは、そうした、男性優位な内容の理想や主張を、以下のように、広め、押し付けようとする。
（１）彼らは、それを、世界社会全体に向かって、普遍的に強引に行う。
（２）彼らは、それを、自分たちへの絶対的な自信に基づいて、行う。そうした自信は、自分自身の持つ全能感、有能感に由来する。

しかし、世界社会には、本来、男性優位社会ばかりでなく、女性優位社会もたくさん存在する。

彼らの取るこうしたアプローチは、まさに、男性優位社会から女性優位社会への、身勝手な一方通行になっている。
男性優位社会の人々は、このアプローチを続ける限り、次のことが不可能なままである。
それは、彼らが、次の状態へと、到達することである。
「女性優位社会における、女性優位価値観への理解を実現した状態」。

この現状を変えるには、次のことが、必要である。
それは、男性優位社会の人々が、何らかの形で、女性優位社会の人々と、以下のことをすることである。
「相互の価値観の根本的な違いを、理解して尊重し合うこと。」。
両者は、そのための相互対話の機会を持つことが必要である。

また、男性優位社会の人々は、個人の自由行動を重視する、移動生活様式を行う。
彼らは、そこで、以下のことを、求められ続ける。
「絶えず、周囲の相手と、一定の距離を置いて、冷静な自己判断を行うこと。」

彼らは、そのため、物事に対する理性的、客観的、科学的アプローチを好む。
彼らは、このアプローチを、世界標準にしようと試みる。
それは、世界社会の近代化にとって、かなり効果があった。

そのことは、事実である。

しかし、彼らが、こうしたアプローチをとることは、以下のことを示している。
「彼らの思考は、男性優位思考に大幅に偏っている。」。

その思考の偏りは、以下の通りである。
（１）感情や情緒優先で動くことを避ける傾向。
（２）相手に向かって、一定以上の心理的距離を取って、離れる傾向。
（３）相手に対して、冷めた態度を取る傾向。
（４）相手に対して、一体感や共感の欠如した態度を取る傾向。

このアプローチは、女性優位社会の人々が好むアプローチと、と真逆である。
女性優位社会の人々が好むアプローチの傾向は、以下の通りである。
（１）相手への心理的距離を無くす傾向。
（２）相手との感情的、情緒的一体感の実現を最優先する傾向。

男性優位社会の人々は、物事に対する、理性的、客観的、科学的アプローチにこだわる。
そのままでは、彼らは、女性優位社会の真実や、女性優位価値観を理解することは、不可能である。

男性優位社会の人々の中では、同じ個人の中に、以下の両面が、矛盾なく同居している。
（１）理性的、実証的、科学的精神。
（２）宗教的精神。父性的絶対者への依存の精神。

そして、これら二つの精神の、その両方が、根源的に男性優位思考になっている。
それは、女性優位な思考、女性優位社会の社会規範の理解への到達を妨げている。
男性優位社会においては、研究者は、次のことは、本来は避けるべきである。
「宗教的な教会や、モスクや礼拝所に出入りすること。」
研究者は、そのことで、父性優位的、男性優位的な考え方に無意識

のうちに染まる。

彼らは、次のことを認識すべきである。
「男性優位前提の考え方では、女性優位の社会の内実の理解には到達できないこと。」

しかし、これらは、実際には、実現不可能である。
研究者は、今のままでは、男性優位社会の中で、まともな形で、社会的性差を研究することは、不可能である。

（初出2020年5月）

３．女性優位社会における、社会的性差の研究。その課題。

女性優位社会は、以下のことを、維持し続ける。
（１）人々が、一か所に定住して、共同生活をすること。
（２）人々が、仲良し定住集団に所属すること。

そこでは、人々がいったん得た前例、しきたりは、永続的に有効である。
人々は、個人行動やチャレンジ精神、批判的精神を拒絶する。

女性優位な人々は、次のような思考を持つ。
その思考は、社会的支配者である強者女性も、その支配下で女性優位化した弱者男性も、共通である。
（１）人々は、何事も自分が一番大切である。
（２）人々は、自己愛にまみれている。
（３）人々は、自己中心的である。
（４）人々は、尊大である。
（５）人々は、保身第一で動く。

女性優位な人々は、この思考を、社会的に実現する。人々は、以下のように動く。

（１）

人々は、前例、しきたりを絶対視する。
人々は、師匠、先輩、古参者に対して、心理的に隷従する。
人々は、後輩、新参者に対して、自分への隷従を強制する。

人々は、前例、しきたりを、社会や集団全体に向けて、上から目線で、一方的に強制する。
人々は、それへの反論を全面的に禁止する。
人々は、反論者に対して、社会的制裁を行う。
人々は、前例に囚われない、自由な思考を、禁止する。

（２）
人々の間には、事なかれ主義がまん延する。
人々は、自己の保身に脅威となる行為を、とても嫌う。
人々は、未知への危険なチャレンジを、とても嫌悪する。人々は、それを、社会的に禁止する。

（３）
人々は、互いに、身を守ろうとする。
人々は、心理的な護送船団方式を好む。
人々は、相互同調、一体化を好む。
人々は、個人の自由行動、思考を、禁止する。
人々は、個人による、周囲に合わせない行動、思考の機会を、徹底的に排除する。

（４）
人々は、所属集団内に永住することを、前提として動く。
人々は、相互の和合を重視する。
人々は、所属集団内で、異論や意見の割れが発生することを、排除する。
人々は、相互の心理的和合状態の中で、異論を唱えることを禁止する。

（５）
人々は、自分を守ってくれそうな、有力な存在に、取り入る。
人々は、その時々の有力な上位者に、取り入る。
人々は、上位者が主張する意見、学説に、取り入る。
人々は、そうした存在に対して、次のように、行動する。忖度。ご機嫌取り。丸呑みの形での暗記学習。
人々は、そうした存在に対して、反論することを禁止する。

（６）
人々は、自分たちの保身に都合の悪い社会的真実に到達することを不可能にする。
人々は、もし、到達された時は、その隠ぺいと消去を行う。
人々は、きれいなスローガンばかりをアピールする。
を行う。
（７）
人々は、どこかの集団へ、必ず所属する。
人々は、集団の内外区分を明確化する。
人々は、誰かが集団に加入しようとする時に、厳しい入試を実施する。
人々は、所属集団内部において、メンバー相互の同調性、一体性、和合性を、保持する。
人々は、集団の対外的な閉鎖性、排他性を、保持する。
人々は、集団内情報の秘密性を、保持する。
人々は、集団メンバーによる内部告発を禁止する。

（８）
人々は、相手と、心理的距離が無い。
人々は、感情的、情緒的である。
人々は、主観的な好き嫌いで動く。
人々は、相手と心理的距離を置く、客観的、科学的精神を嫌う。
人々は、非科学的な、精神論、根性論を振り回す。
人々は、論理や理屈の行使を徹底的に排除する。
人々は、相手に対して、自分への心理的配慮や共感を強制する。

女性優位社会の人々は、こうして、社会統制、言論統制に走ってしまう。
女性優位社会の人々は、こうした社会統制、言論統制を破ると、直ちに、社会や集団から、追放処分を受ける。
そうした人々は、どの集団にも入れてもらえなくなる。人々は、直ちに生きていけなくなる。
人々は、こうした統制に従って生きるしかない。

女性優位社会では、人々の思考は、終始、後進的、前近代的になってしまう。

こうした女性優位社会は、以下には、ほとんど向いていない。
「探査的な、リアルさを重視する実証研究を実施すること。」
女性優位社会では、研究者が、その社会の一員として留まっている

限り、以下のことを経験する。

女性優位社会は、言論統制や社会統制の度合いが強くて、研究の自由が根本的に無い。
そうした女性優位社会の中に、新たに、先進的な男性優位社会体制が、表面的に導入されて、受容される。
すると、研究者は、元々の女性優位社会規範を公に表に出すことが社会的に許されない。
研究者には、以下のことが、一切許されない。
「社会的に新たに受容された、男性優位家父長制価値観に対して、反論すること。」
そのため、女性優位社会の中では、研究者は、まともな形で、社会的性差研究に従事することは、不可能である。
研究者には、女性優位社会からの精神的な脱退が、必須である。

（初出2020年5月）

４．現状の総合的な課題

「まともな形で、社会的性差研究を行える環境」は、現状、男性優位社会にも、女性優位社会にも、実質存在していない。
研究者が、まともな形で、社会的性差研究を行うには、精神的にどちらの社会にも属さずにいるしかない。
研究者は、社会的アウトサイダー、傍観者、外部観察者として、い続けるしかない。
研究者は、男性優位価値観からも、女性優位価値観からも、中立を保つ必要がある。
研究者は、男性優位価値観にも、女性優位価値観にも、どちらにも取り込まれてはならない。研究者は、どちらからも自由でなくてはならない。
研究者は、そのことで、とても困る。
世界の人間社会には、実質的に、男性優位社会か、女性優位社会か、どちらかしか存在の選択肢が無い。
研究者は、まともな形で研究を行おうとする。研究者は、どちらからもアウトサイダーでいようとする。
すると、研究者は、そもそも、世界社会、人類社会の中で、居場所が全く無くなってしまう。
研究者は、世界社会、人類社会そのものから、「社会的な引きこもり」をするしかない。

研究者は、社会的引きこもりの状態を実現しつつ、研究の持続を可能にする。
そのためには、研究者は、以下のことを実現する必要がある。
（１）研究者は、経済的に自立した状態を実現する。彼は、予め働いて貯金をたくさんする。彼は、投資家生活をする。
（２）研究者は、食糧や住居とかをどこかに何とか確保する。
（３）研究者は、必要最低限、外部社会とのやりとりを可能にしておく。

あるいは、研究者は、次の方法を取る。
（１）研究者は、男性優位社会における、実証的、科学的思考を生かす。
（２）研究者は、そこに、男性優位的思考が介入することを阻止する。
（３）研究者は、その精神で、女性優位社会を、そのままの形で、何とか解剖する。

この現状を変えるには、男性優位社会の人々と、女性優位社会の人々とが、
相互の価値観の根本的な違いを理解して尊重し合うことが必要である。
彼らは、そのために、相互対話の機会を、たくさん持つことが必要である。

研究者は、次の点にも留意する必要がある。
（１－１）女性優位社会は、男性優位価値観が、自分たちの社会の中核に到達しないようにする。女性優位社会は、それを、ブロックする。
（１－２）女性優位社会は、自分たちの社会の中核に存在する、女性優位価値観を守る。
（１－３）女性優位社会は、強力な精神的バリアを備えている。

（２－１）男性優位社会は、女性優位価値観が、自分たちの社会の中核に到達しないようにする。男性優位社会は、それを、ブロックする。
（２－２）男性優位社会は、自分たちの社会の中核に存在する、男性優位価値観を守る。
（２－３）男性優位社会は、強力な精神的バリアを備えている。

男性優位社会も、女性優位社会も、互いに、相手の本質的な価値観を理解、受容することが、そのままでは、とても難しい。
研究者自身、男性優位社会か、女性優位社会かのどちらかの出身者となる。これは、必須である。これは、免れることができない。

研究者は、自分の出身では無い方の社会の価値観を理解することが、無意識のうちに困難になっている。
研究者は、この限界の存在を、以下のこととして、知っておくべきである。「研究を進める上での、自分自身の問題。」

（初出2020年5月）

５．全般的な正しい研究の進め方

研究者は、次のことを重視すべきである。
（１）人間社会のあり方の真実に近そうな、より説明力の高い学説を、追求すること。
（２）そうした学説を、試行錯誤で探査すること。
（３）その都度、より説明力の高い学説を発見して、どんどん高いレベルに到達して行くこと。

研究者は、研究においては、きれい理想は、追ってはいけない。研究者は、きれいな理想を、先に設定してはいけない。
研究者は、研究を、理想優先で行ってはいけない。

研究者は、研究においては、以下のコースを進むべきである。
（１）物事を現実的に考えること。
（２）人間社会の実態を、ありのままに、詳細に観察すること。
（３）社会のあり方をよりよく説明できるように、前進すること。
（４）新たな、今までよりもさらに有効な、説明や解釈の内容を、発明すること。

研究者は、研究では、理想よりも、リアルさを優先すべきである。

研究者は、次のことを心掛けるべきである。
（１）研究者は、男性優位社会、女性優位社会各々の良し悪し、あるいは、長所短所を、両方見る。
（２）研究者は、それらを、隔てなく、あからさまに見る。
（３）研究者は、それらの生成理由を、何とか考える。

（４）研究者は、周囲の環境の変動次第で、以下のことが、容易に逆転することを、想定する。
「そうした良し悪し、長所短所についての価値観。」

（初出2020年5月）

６．研究において、確保するべき、主な視点。

研究者は、社会的性差の研究に当たって、以下の視点を確保するか、重視するように心がけるべきである。
（１）「鳥瞰性。俯瞰性。」。両方の性を、遠方から離れて、それらの大局的な全体像を同時に視覚的に捉えること。
（２）「解放性。」。視点的にどちらの性からも解放されていること。
（３）「公平性。」。どっちの性も、えこひいきなく、平等、対等に見ること。
（４）「客観性。」。主観を交えない客観的な観察対象として、性差を捉えること。
（５）「冷静さ。」。どっちの性にも感情移入しない、冷静さを保持すること。
（６）「個人性。」。個人の自由な発想、個人の発想面での独立を重視する、個人ベースの発想で行くこと。
これらは、どちらかというと、男性優位な視点であると言える。まともな研究は、女性優位視点だと、こうした視点が全く取れないので、そもそも不可能である。女性には、社会的性差の研究は、本質的にあまり向いていない。
結局、研究に求められる視点は、以下の通りである。
（１）男性優位視点。男性優位アプローチ。
（２）その視点から、「男性優位の視点への偏り」を取り除いた、新たな視点。

（初出2020年5月）

７．研究における、「真の男女平等」の視点の実現。

従来の社会的性差の研究では、研究者たちは、既存の男性優位価値観に基づいて、女性を弱者として捉える立場から、「性差を無くす

ことで、男女平等を達成するべきだ。」と主張している。
しかし、その主張は、物の見方が、男性優位社会の視点へと一方的に偏っている。その主張は、まがい物に過ぎない。
研究者は、この見方を取る限り、社会的性差の真実には、永遠にたどり着けない。

研究者は、次のことを行うことで、真の男女対等、男女平等の立場、視点に立つことができる。
（１）男性優位価値観と女性優位価値観の両方を、双方から距離を置いて、対等に置いて、客観的に、相互比較すること。
（２）そうして、「性の客観化」や、「性的中立」の視点を取ること。

研究者は、男性性、女性性の両方から同時に超越する。
研究者は、男性優位社会と女性優位社会を、両者を同時に上から見下ろして、様子を観察する。そこでは、研究者は、絶対者、天の神の視点が必要である。
研究者には、男性性と女性性の両方を、上から客観的に離れて見下ろす、「メタな男性性」が必要である。
研究者は、以下の経験を持つことで、この境地に達することができる。
「男性優位社会と、女性優位社会との、両方から疎外される経験。」

筆者は、もともと、女性優位社会に属していた。筆者は、以下の主張を、同時に行った。
（１）男性優位社会に向けて、以下を、主張すること。
（１－１）無神論。
（１－２）生物学的に女性が優位であること。
（２）女性優位社会に向けて、以下を、主張すること。
（２－１）個人行動の自由の必要性。
（２－２）その社会内部で、女性優位社会規範が実在すること。

筆者は、この両方を同時に主張した。筆者は、そうして、両方の社会から、同時に疎外された。筆者は、その結果、一発で、この境地に達することができた。

（初出2020年5月）

８．研究に必要な、背景の知識、知見、経験。

研究者は、男女の心理的性差に関する、十分な背景知見が必要である。
研究者は、次の内容を、トレースする。
（１）「生身の男性」の心理。
（２）「生身の女性」の心理。
特に、遺伝的に決定している心理内容。

研究者は、社会学の研究ばかりやっていては、社会的性差の真実にはたどり着けない。

これについては、読者の皆さんは、例えば、筆者による以下の別書籍を参照して欲しい。

「Sex differences and female dominance」「男女の性差と女性の優位性」

研究者は、男性優位社会と、女性優位社会の両方について、次のことを、経験する。
（１）それらの社会の内部で、生活すること。
（２）それらの社会の基本的な価値観を、純粋な心で、信仰すること。

（初出2020年5月）

９．研究と、人間社会の社会不適合者

社会的性差の研究は、人間社会の社会不適合者にとって本質的に適している研究分野である。
この研究には、例えば、人付き合いが嫌いな統合失調症気質のメンヘラーとかが、向いている。

この研究は、外部社会との交流があると、自由な発想での研究がしにくくなる。
研究者は、そうした交流を持った途端に、外部社会の規範に囚われる。
その規範は、男性優位か、女性優位か、少なくともどちらか必ず一方が、優越する。
人間社会の社会不適合者は、人付き合いしなくて済む分、
自分の好きな研究に対して、誰にも気兼ねすることなく、いくらでも打ち込めるメリットがある。
このメリットが、社会的性差の研究においては、大きく生かされる。

（初出2020年5月）

純粋な性。変質し、劣化した性。それらの区別。

環境に応じて、どちらかの性が、より環境適合的になって、主流となる。
他方の性は、環境不適合者扱い、非主流扱いの性になる。

非主流扱いの性は、主流扱いの性から、以下のことを強制される。
（１）精神面での、環境に不適合な部分を除去されること。
（２）環境に適合する精神を注入されること。

一方、主流の性は、元の精神の維持、強化がなされる。

主流の性は、子育てを主導する。そのことで、次のことが行われる。
（１）主流の性における、元の精神の維持、強化。
（２）非主流の性が、精神の改造を受けること。

どちらかの性が主流な社会で、主流の性は、純粋な元の本質を保つ。これが、純粋な性である。
非主流の性は、主流の性によって、その精神を主流化するために、精神の強制的な改造を受ける。

非主流の性は、そうして、その精神的な中身が変質、劣化する。これが、劣化した性である。
劣化した性になると、精神を改造される前の元の性の考え方が、うまく理解、体得できなくなる。

///////////

移動生活様式環境

男性（適合）　女性（不適合）

定住生活様式環境

男性（不適合）　女性（適合）

///////////
///////////

男性優位社会（移動生活様式環境）

男性（主流）　女性（非主流）

女性優位社会（定住生活様式環境）

男性（非主流）　女性（主流）

///////////
///////////

男性優位社会

男性優位の男性（純粋）　男性優位の女性（劣化）

女性優位社会

女性優位な男性（劣化）　女性優位な女性（純粋）

///////////

社会的性差の研究においては、劣化が起きていない、純粋な性を、優先して観察するべきである。
（１）男性優位社会を知るには、
「男性優位な男性が、同性で構成する社会」
を見るべきである。
「女性優位な男性が、同性で構成する社会」を見ると、
女性優位社会を見るのと、大して変わらなくなってしまう。
（２）女性優位社会を知るには、
「女性優位な女性が、同性で構成する社会」
を見るべきである。
「男性優位な女性が、同性で構成する社会」を見ると、
男性優位社会を見るのと大して変わらなくなってしまう。

///////////

男性優位社会

男性優位の男性（社会的強者）　男性優位の女性（社会的弱者）

女性優位社会

女性優位な男性（社会的弱者）　女性優位な女性（社会的強者）

///////////

純粋な性が社会的強者になる。劣化した性が社会的弱者になり、純粋な性の支配を受ける。

（初出2020年5月）

男性の社会。女性の社会。その中身の分類。

（１）男性の社会、女性の社会は、まず、次のように分けられる。

//////////////
純粋に男性だけの社会　vs　女性も混じった男性が多い社会

純粋に女性だけの社会　vs　男性も混じった女性が多い社会
//////////////

上記の二者は、まとめると、次のようになる。

//////////////
純粋に同性だけの社会　vs　異性も混じった同性が多い社会
//////////////

ここで、上記の、
//////////////
純粋に同性だけの社会
//////////////
については、さらに、次のようにに分けられる。
//////////////
純粋に同性の目しかない社会　vs　異性の目にさらされる同性の社会
//////////////

同性社会は、異性の目を意識して、その内部行動のあり方を変える傾向があるので、この分類が必要である。

（２）男性の社会、女性の社会は、次に以下の二つに分けられる。

//////////////
男性優位社会＝男性優位な価値観で動く社会。男性が社会的に強い社会。男性優位男性が輝く社会。
女性優位社会＝女性優位な価値観で動く社会。女性が社会的に強い社会。女性優位女性が輝く社会。
//////////////

これは、さらに、以下のように分類される。

//////////////
男性のみの社会＝女性優位男性のみの社会。男性優位男性のみの社

会。この双方の同性の混合した社会。
女性のみの社会＝男性優位女性のみの社会。女性優位女性のみの社会。この双方の同性の混合した社会。
//////////////

//////////////
男性が多い社会＝女性優位男性が多い社会。男性優位男性が多い社会。この双方の同性の混合した社会。
女性が多い社会＝性的女性が多い社会。女性優位女性が多い社会。この双方の同性の混合した社会。
//////////////

あるいは、以下のように分けることもできる。

//////////////
性差面での社会的強者の社会＝男性優位男性のみの社会。女性優位女性のみの社会。この双方の異性の混合した社会。
性差面での社会的弱者の社会＝女性優位男性のみの社会。男性優位女性のみの社会。この双方の異性の混合した社会
//////////////

（初出2020年5月）

その社会は、男性優位社会か、女性優位社会か？それを、外部から簡単に見分ける方法。

研究者は、研究対象とする社会が、男性優位社会か、女性優位社会かを、外部から簡易的に見分ける。それには、以下の判定基準を用いる。

１．その社会における、食糧生産の様式の違い。
その社会における食糧生産が、遊牧、牧畜に大きく依存する社会は、移動生活様式中心になり、男性優位である。
一方、その社会における食糧生産が、農耕に大きく依存する社会は、定住生活様式中心になり、女性優位である。
例えば、日本のような稲作農耕に大きく依存する社会は、女性優位である。

２．その社会での、家庭内部における、主要な権限の所有状況。
（１）家計管理や、お金の出し入れを行う許認可権限の担い手が、主に、男性か、それとも女性か？
その担い手が、父親や夫といった男性であることが多ければ、その社会は男性優位である。
その担い手が、母親や妻といった女性であることが多ければ、その社会は女性優位である。

（２）自分の子供の子育てにおいて、独占的に主導権を握り続ける存在。自分の子供に対して、幼少期のみならず成人後も生涯にわたって、精神的なしつけや精神的な支配を行う存在。そうして、子供を自分に対して一生にわたって精神的に依存、畏怖させ続ける存在。そうした、子供の教育の主要な担い手。それらは、主に、男性か、それとも女性か？
その担い手が、父親や夫といった男性であることが多ければ、その社会は男性優位である。
その担い手が、母親や妻といった女性であることが多ければ、その社会は女性優位である。
具体的には、例えば、家庭における子育ての状態が、母子分離状態であれば、その社会は男性優位社会である。
一方、家庭における子育ての状態が、母子癒着状態であれば、その社会は女性優位社会である。
男性優位社会では、母子間に強い父親が介入し、母親が弱くて、母子分離状態になり、永続する。
女性優位社会では、母親が強く、母子癒着状態で、父親が弱くて、母子間に介入不可能で、母子癒着状態になり、永続する。

３．その社会において受容されている宗教において、宗教上の信仰対象が、主に男性か、それとも女性か？
その信仰対象が、父親や夫といった男性であることが多ければ、その社会は男性優位である。

その信仰対象が、母親や妻といった女性であることが多ければ、その社会は女性優位である。
例えば、同じキリスト教を信仰対象にしている社会については、以下のようになる。
天の父なる神や、その息子を主に信仰する社会は、男性優位である。
聖母信仰を主に行う社会は、女性優位である。

４．その社会において見られる、自我の確立の程度に対する、外部評価。
自我の確立の程度が高く成熟しているという評価を受ける社会は男性優位である。
自我の確立の程度が低く未成熟のままであるという評価を受ける社会は女性優位である。

５．その社会において見られる、個人主義、集団主義の程度に対する、外部評価。
個人主義的であるという評価を受ける社会は男性優位である。
集団主義的であるという評価を受ける社会は女性優位である。

６．その社会の内部が、外部に対して与える明暗、温冷、乾湿の感覚。
（１）明るい感じの社会は男性優位である。ほの暗い感じの社会は女性優位である。
（２）冷たい感じの社会は男性優位である。温かい感じの社会は女性優位である。
（３）乾いた感じの社会は男性優位である。湿った感じの社会は女性優位である。

７．その社会の内部に関する情報についての、外部からの入手しやすさの程度。その社会の持つ、開放性や閉鎖性の程度。
その社会の内部に関する情報が、外部から入手しやすい、開放的な社会は、男性優位である。
その社会の内部に関する情報が、外部から入手しにくい、閉鎖的な、秘密主義的な社会は、女性優位である。
例えば、以下の評価を受けるタイプの社会は、女性優位である。
「その社会の外周は、鉄のカーテンのような障壁物によって張り巡らされている。その社会の外部からは、内部の様子は、ほとんど分からない。」
このタイプの社会の典型は、ロシアとか中国とかである。

（初出2020年5月）

男性優位社会と、女性優位社会。それらの内情を、効果的に解明する方法。

男性優位社会は、その仕組みがある程度オープンであり、その内情に誰でも比較的容易にアクセスできる。
男性優位社会の内情を効果的に知るには、以下のようにする。
例えば、世界社会には、以下の書籍が、いろいろ出回っている。
「男性優位社会が持つ、主要な価値観を記述した書籍。人々が男性優位社会で生きていく上で必要とする、思想上のガイドブック。」。
そこで、研究者は、それをたくさん読む。
特に、以下の方法が、男性優位社会の価値観や社会規範を知る上では、一番手っ取り早い。
「男性優位社会で主流になっている宗教の経典を見ること。その本文そのものや、その解説書を読むこと。そうして、その内容を、いろいろ理解すること。」。（例えば、キリスト教の聖書など。）
一方、女性優位社会は、機密性が極めて高いため、その内情を知ることがそのままでは困難である。
それは、次のことを引き起こした。
「研究者が、女性優位社会の内情に、なかなか上手にアクセスできないこと。」。
それは、以下のことの原因となっている。
「女性優位社会の解明が遅れたこと。そうして、男性優位社会の知見が、世界社会一般のスタンダードになりやすかったこと。」
男性優位社会は、以下が早かった。
「その社会の内情解明をスタートする時期。」。
このことで、男性優位社会が、今のところは、以下の存在となっている。
「人間社会における、スタンダードとしての存在。」。
その一方で、女性優位社会は、実質的に、存在しないことになっている。
今回、筆者は、以下の存在を、効果的に突破する方法を新たに考え

ついた。
「女性優位社会における、機密性を保持するバリア。」。
筆者は、その方法を用いて、実際にこのバリアの突破に成功した。
今後は、筆者と同様の方法を、まねして採用する研究者が増える。
その結果、女性優位社会に関する様々な知見が世界中に急速に広まる。

こうした存在を効果的に突破する有力な方法。」の代表例は、以下のようなものである。
（１）以下の社会に、入ること。
「女性が、社会的強者として、君臨する社会。（例えば、日本。）」。
そこで、以下のことをすること。
以下の場所にアクセスすること。
「参加者を、女性に限定している、ネット上の匿名掲示板。」。
そうして、女性同士の生のやり取りを観察すること。

そのことで、以下の情報を取得、整理すること。
「女性だけが共有することを許される秘密情報。」。
特に、次のような、女性優位女性による、実体験についての情報。
以下の集団における、苛酷な内情。
「純粋に、女性のみからなる、集団。」。（例えば、女子高生の集団。女性看護師の職場集団。）。
それらを、女性たちが、仲間内で、暴露して、共感し合う情報。

そのことで、以下のことを、あからさまに知ること。
「女性優位社会において、純粋な女性集団が本来持つ、価値観や社会規範。彼女たちが、外部に対して、隠したいと考えている、機密性の高い、その価値観や社会規範。」。

（２）以下のような女性優位社会を見つけること。
「欧米のような、男性優位社会の社会規範を、表面的に導入済みである、女性優位社会。」。（例えば、日本。）。
その社会において、以下の情報を、集め、分類、整理すること。
以下の内容に関する情報。
「その社会における、伝統的な、社会的価値観、社会規範。」。

そうした情報は、以下のところで見つかる。ネットの一般向けの匿名掲示板。ツイッター。

それらは、その女性優位社会の人々から、以下のように考えられている。
（２ー１）それらは、既に導入済みの男性優位社会の先進的社会規範に、内容面で、違反、逸脱している。
（２－２）その内容は、とかく後進的で、前近代的で、克服されるべきものである。
それらは、人々によって、表向きには、嫌われたり、批判や否定の対象となっている。
それらは、次の社会において、表面的に否定され、忌避されている。
「社会の近代化、先進性の実現を強く指向する、女性優位社会。」。

そうした価値観、社会規範こそが、女性優位価値観、社会規範の本体、中核、根源である。
それらは、女性優位社会が、本来備えているものである。
それらは、女性優位社会全体を、強力に支配し続けている。

（初出2020年5月）

女性優位社会、男性優位社会 比較まとめ表

筆者は、女性優位社会と男性優位社会のあり方を比較した結果を、簡単な表にまとめた。

	女性優位社会	男性優位社会
	液体的	気体的
	湿っている。温かい。	乾いている。冷たい。
	姑、母、お局	父
	日本的。東アジア的。	アメリカ的。西欧的。
1	保身	
101	保身、安全を重視すること。	危険への対峙を重視すること。
	人々は、互いに自分のことが一番大切であ	人々は、自分自身より大切な存在が他にい

	る。人々は、軍事的に守られるのを好む。 人々は、危険を冒さない、冒険しない。人々は、取る態度が退嬰的である。	る。人々は、それを守るのを自己の使命とする。 人々は、危険に直面し、対決する。
102	前例、しきたり、暗記を重視すること。保守性。 人々は、その通りにやれば大丈夫、無難と分かっている前例、しきたりが確立されたことしかしようとしない。 人々は、物の見方が保守的である。 人々は、前例、しきたり通りに行動する。 人々は、既存知識を細かいところまで暗記するのを重視する。	探検、独創性を重視すること。革新性。 人々は、うまく行くかどうか分からない、前例のない事柄に挑戦して、失敗を重ねながら、新たな前例に当たる知見を作り上げる。 人々は、物の見方が革新的である。
103	減点主義 人々は、相手のマイナス点、あら探しを粘着的に延々とするのを好む。人々は、相手を褒めない。人々は、いつまでも陰口、悪口を言う。人々は、建設的でない。	加点主義 人々は、相手の長所を積極的に褒める。人々は、建設的である。
104	人々は、対人関係がソフト、デリケートである。人々は、批判に弱い。 人々は、対人関係がソフト、デリケートで事なかれ主義のため、他者からの批判、クレームに対して弱く、すぐ妥協しやすい。人々	人々は、対人関係がハード、頑強である。人々は、批判に強い。 人々は、対人関係がハードで頑強なので、他社からの批判、クレームに強く、安易な妥協をしない。人々は、相手の欠点を、単

	は、そのため批判そのものを許さない。人々は、上位者が下位者に、全人格的な隷従を要求する。	刀直入に直接的に批判、攻撃して、修正されたら、あっさり余所へ行く。人々は、上位者は下位者を、契約の範囲内で支配する。
105	小改良、微調整を行う能力が高いこと。アウトプットの完成度が高いこと。 人々は、製品とかの小改良、微調整の能力に長けていて、アウトプットの完成度、競争力が高い。	根本的、大局的な発見、発明を行う能力が高いこと。アウトプットの完成度が低いこと。 人々は、根本的、大局的に新しい発見、発明が得意である。人々は、大雑把、粗雑で、アウトプットの完成度、競争力が低い。
106	決定、責任を回避すること。 人々は、決定を先送りする。 人々は、意思決定を集団で行うことで、個人での責任を回避する。	決定、責任が不可避であること。 人々は、決定を先送りせず、リアルタイムで決定する。 人々は、単独で意思決定を行うため、責任が回避できない。
107	受動的。受け。クッション。受信指向。 人々は、自分からは動かず、周囲に促されて、攻められて初めて重い腰を上げる。人々は、受け身である。 人々は、巨大クッションとなって、周囲からの攻めを包み込み、受け止め、無効化する。 人々は、周囲の情報を受信し、自分からは発信しない。	能動的。攻め。砲弾。発信指向。 人々は、自分から能動的、自発的に動く。 人々は、周囲に向かって、砲弾となって、どんどん攻め込む。人々は、周囲に向けて、積極的に発信する。
108	強者、上位者批判をタ	強者、上位者および弱

	ブー視すること。弱者、下位者いじめを当然視すること。	者、下位者の双方を攻撃すること。
	人々は、強者、上位者のことは批判してはいけないと考え、強者、上位者に隷従する。	人々は、自分の方針、イデオロギーに合わない者は強者、上位者および弱者、下位者の両方を区別せず批判、攻撃対象とする。
	人々は、弱者、下位者が自分のことを批判するのを禁止、処罰する。	
	人々は、強者、上位者へ媚び、なびき、迎合、忖度を行うとともに、弱者、下位者いじめ、叩き、攻撃を行う。	
2	一体性	
201	相互の一体性を重視すること。	相互の独立性を重視すること。
	人々は、互いに一つになること、融合することを好む。	人々は、互いにバラバラに独立するのを好む。
	人々は、互いの一体感を重視する。人々は、仲良し集団を作るのを好む。人々は、相手が自分と肌に合うかどうかを気にする。	人々は、意見の割れを当たり前と考え、多数決を好む。
	人々は、意見の割れを避けようとする。人々は、満場一致を好む。	
202	依存心の強さ。強権を好むこと。	自立を好むこと。
	人々は、自分一人だけで自立するのが不安で、誰か周囲に支えてもらいたいと考える。人々は、周囲に助け、庇護を求める。人々	人々は、自分一人で自立するのを理想とし、周囲に助けを求めない。人々は、権力から自由であることを望む。

	は、自分を積極的にリードしてくれる、強い能力の持ち主や、強権政治に惹かれ、なびく。	
203	包含の重視。「袋」指向。枠内指向。制限指向。 人々は、相手を包み込む、相手に包み込まれる感覚を好む。人々は、「袋」の中にいるのを好む。人々は、決められた枠内に止まること、枠を守ること、制限することを好む。	解放の重視。開放性。枠からの飛び出しを指向すること。打破指向。 人々は、包まれていた、閉じ込められていたところから解放されることを好む。人々は、オープンなのを好む。人々は、決められた枠からはみ出すこと、飛び出ること、枠を破ることを好む。
204	全人的支配と従属を好むこと。 人々は、母子関係のように、相手を全人格的に包み込んで支配したり、全人格的に従属するのを好む。	支配の部分性と、自由の残存を好むこと。 人々は、相手を支配するが、相手の全人格を支配するのではなく、相手のコアの部分には、自由を残す。
205	相手の人格を制御すること。 人々は、教育などで、相手教師の人格、人柄そのものを慕って付いて行こうとする。人々は、相手子供の人格そのものをコントロールしよう、しつけようとする。 人々は、他人を中傷する時に、相手の人格（性格とか）を攻撃する。	相手を、道具的、手段的に制御すること。 人々は、教育などで、相手の人格そのものには手を付けず、相手を、専ら効果的な学習のための道具、手段として効果的に利用する。人々は、相手を、具体的な指示、教示を与える対象として冷静に目視しようとする。 人々は、他人を中傷する時に、相手の能力の欠如、意見の誤りを、

		客観的に攻撃する。
206	所属の重視（所属主義）	本人個人の重視。フリーであること、自由であることの重視（自由主義）
	人々は、他人を見る時に、その人がどの集団、団体に属しているかを重視する。	人々は、他人を見るときに、本人の所属ではなく、本人個人そのものを直視の対象とする。人々は、どこにも従属せず、自主独立の自由な存在であることを重視する。
207	つながり、コミュニケーション、縁故、コネの重視。	初対面、別れ、切断前提の付き合い、契約の重視。
	人々は、他人とのつながり、コミュニケーションを重視する。人々は、他人を判断する時に、その人が自分とどういうつながりがあるか、どういう縁故を持っているかを重視する。人々は、採用とかで、自分とつながりのない他者をシャットアウトする。人々は、「一見さんお断り」の精神で行動する。	人々は、他人を判断する時に、その人自身の能力、利益を生み出す力を重視する。人々は、能力のあると思った人は、初対面で縁故がなくても採用する。人々は、用件が済んだら、その人と、さっさと別れて、関係を切る。人々は、関係が切れることを前提とした、「契約関係」を重視する。
208	嫉妬、足の引っ張り合いを好むこと。抜け駆けの禁止を重視すること。	自他の区別、割り切りを重視すること。ライバルへの攻撃を重視すること。
	人々は、自分と関わりのある、かつて自分と同等以下で、その後自	人々は、自分は自分、他人は他人と区別し、割り切る。
	分より上等になったか、なろうとする他者のことを妬んで、互い	人々は、自分の利益、築いた立場を浸食しようとするライバルを敵

	に足を引っ張る。人々は、自分は自分、他人は他人と割り切ることができない。人々は、他者が、一人抜け駆けをして、一人だけ良い思いをするのを許さない。	視して、攻撃、ダメージを加えようとする。
209	近接。粘着。くっつき。	離反。距離感。はがれ。
	人々の人間関係は、相手に近づきくっつくのを好む結果、粘着的になり、ベタベタ、ドロドロしたしつこいものになる。	人々の人間関係は、相手とあまりベタベタくっつかずにはがれる、距離を保った、あっさりしたそっけないものとなる。
3	集団	
301	集団、団体行動の重視（集団主義）	個人行動の重視（個人主義）
	人々は、集団で行動すること、群れることを好む。人々は、相手に連れ立って一緒に付いていくこと、つるむことを好む。人々の間では、個人行動は忌避され、咎められる。	人々は、個人単位で行動するのを好む。人々の間では、周囲と別行動を取っても咎められない。
302	同調、協調、調和、和合を重視すること。個性を一定枠内でのみ許容すること。	独自判断、違和感、反対を許容すること。個性を重視すること。
	人々は、意見を周囲や相手に合わせるのを好む。人々は、物事を、相手と一緒に共同でするのを好む。人々にとっては、個性の重視とは、一定枠内に止まりながら、その枠内で最大限目立とうとする	人々は、意見を周囲に合わせずに独自の判断をしたり、周囲と反対の意見を述べて、平気である。人々は、そのことを、個性として許容する。

	ことである。	
303	流行、トレンドへ追従すること。 人々は、皆が追随する最新、最先端の流行を身につけようとする。 人々は、その時々のトレンドに乗っていこうとする。人々は、自分の意見を持たず、自分を無にして、周囲のトレンドに必死に合わせ、一体化する。	自己流であること。独自性を貫徹すること。 人々は、周囲の動向にお構いなく、自分流を貫くのを好む。 人々は、各自が、自分は独自の最先端の位置に付けているのだと、自分自身に言い聞かせる。
304	仲間外れや、仲間内で浮くことの発生。無視や、いじめの発生。 人々は、集団の調和を乱す浮いた存在の人を、よってたかって仲間外れにして、無視したり、いじめる。	バラバラな単独行動を重視すること。 人々は、各自が、勝手にバラバラな方向に単独行動を取る。人々は、反対する者同士で、攻撃を加え合う。 人々にとっては、仲間は一時的な存在であり、別れることが前提である。人々の間では、全員が浮いている。
305	非競争の重視。護送船団方式の重視。談合の重視。 人々は、自由競争を好まず、互いに一体となって、一緒に進もうとする。人々は、競争のない年功序列、先輩後輩制、談合を好む。 人々は、抜け駆けを許さない。	自由競争の重視。能力主義。成果主義。 人々は、互いに自由競争で、自分の持つ能力を最大限に発揮して、自分が成果を上げて生き残り、他者を蹴落とそうとする。
306	多数派指向。	個人、少数派を尊重すること。

	人々は、自分と同類が沢山いて安心できる多数派に自分も付こうとする。人々は、数の力で少数派を抑え込む。	人々は、各自が独立して一人でいるのを好む。人々は、少数派の意見を尊重する。
4	人間、有機	
401	人間指向。有機指向。	機械指向。無機指向。
	人々は、人間、対人関係そのものに対して関心、注意が行きやすい。 人々は、無機質な機械や、岩石（宇宙）とかにあまり興味がない。	人々は、冷たい機械や岩石（宇宙）とかに興味を持つ。 人々にとっては、人間も、客観的な冷たい距離を置いた観察対象となる。
402	相互監視、密告、牽制の重視	プライバシーの重視
	人々は、互いに周囲の他者が何をやっているかに関心が行き、盛んに首を突っ込んで、監視、牽制しようとする。	人々は、互いに、他者に踏み込まれない独自領域を確保することに熱心である。
403	噂、陰口を指向すること。	自己主張を指向すること。
	人々は、他人の陰口やうわさ話を流すのを好む。	人々は、他人ではなく、自分自身の主義主張を、周囲に向かって宣伝するのを好む。
404	恥を重視すること。	恥知らずであること。
	人々は、周囲の他人の目を盛んに気にして、恥ずかしがる。人々は、自分が他人にどう思われているかを気にする。 他人にどう見られるかを気にする。	人々は、他人の目に無関心である。人々は、人目を気にせずに、自分のやりたいことに邁進する。
405	媚び、化粧、服飾を指向すること。	自己評価を重視すること。
	人々は、周囲の他人に	人々は、周囲の他者で

	よく思われようとする。人々は、周囲に盛んに媚を売る。人々は、演技をする。人々は、自分が周囲によく見えるように、自分を飾る化粧や服飾に注意が行く。	はなく、自分自身で自己を客観的に見つめなおし、自己評価を良くして行こうとする。
406	関係保持的配慮、気づきを重視すること。	制御的配慮、気づきを重視すること。
	人々は、互いに、相手が、何か自分に注目してほしいというサイン（メール、ブログ、SNSへの書き込み等）を、自分に対して送っているかどうかに常に神経を配り、リアルタイムで相手に注目していますよとすぐ返事を返すことで、相手の被注目欲求を満足させ、良好な対人関係を保持しようとする。	人々は、対象となる人（部下とか）や物（乗り物とか）が、自分にとって道具、手段として自分に最高の利益をもたらすように適切に動作、行動しているかどうかに常に神経を配り、リアルタイムでコントロール、軌道修正する。
5	条件	
501	好条件、温室を指向すること。	悪条件（寒暑）を受容すること。
	人々は、条件のよい温室の中に止まるのを好む。人々は、ぬるま湯を好む。	人々は、条件の悪い所に放り出されるのを受容して、それに何とか適応していく。
502	内部を指向すること。「奥」を指向すること。内外を区別すること。「膜内」を指向すること。	代表になることを指向すること。外部への露出を指向すること。
	人々は、より環境の安定した内側に止まること、奥にいることを好む。（人々は、「奥	人々は、代表として、対外的に露出することを許容する。 人々は、寒暑変動の激

	様」でいることを好む。）人々は、「袋」の中にいるのを好む。 人々は、集団の内と外を区別する。人々の間には、内外を隔てる膜がある。	しい、厳しい環境の外部に出る。 人々は、集団の内と外をあまり区別しない。
503	内輪指向。閉鎖性。排他性。 人々は、気心の知れた親しい仲間内、身内だけで結束し、外部の人間に対して冷たい態度を取る。 人々は、ひそひそ話、内輪話を好む。	開放性。オープンさ。 人々は、誰にでも平等に開かれた空間の存在を大切にする。 人々は、外部の人間と親しくする。 人々は、初めて来た人も、古くからの人と同様に受け入れる。
504	集団ベースのセキュリティを重視すること。 人々は、集団の中に変な人が入ってこないように、集団への加入条件を厳しくする。（人々は、入試を難しくして、なかなか入れなくする。）人々の間では、集団内部において、セキュリティが「なあなあ」になって緩くなりがちである。	個人ベースのセキュリティを重視すること。 人々は、新たに近づいてくる人物が危険かも知れないので、その場合排除、自身を護衛できるように、銃の所持とか、個人単位でのセキュリティを重視する。
505	安定指向 人々は、自分の地位や生活が安定するのを好む。	流動指向。不安定さを許容すること。 人々は、新しい方へどんどん動き回ろう、流動しよう、冒険しようとする。人々は、自分の地位や生活が、多少不安定でも問題ないと考える。
6	感情	

601	感情的、情緒的、主観的対応を重視すること。 人々は、相手に対して、冷静に割り切ることができず、情緒、感情を露にして対応する。人々は、思わず涙をこぼす。 人々は、ドロドロした愛憎の世界を好む。 人々は、相手を好き嫌いで判断する。人々は、相手を客観的に突き放すことができない。	論理的、客観的対応を重視すること。 人々は、相手に対して、冷静、客観的に割り切って対処する。 人々は、情緒、感情を露にせず、論理、理性で攻めきろうとする。 人々は、相手を金銭勘定のような損得、コストと利益で判断する。 人々は、相手を冷たく突き放す。
602	生肌的、粘膜的な対応を重視すること。 人々は、感覚的な肌合い、肌触りや粘膜(口、鼻等)への働きかけを重視する。人々は、自分自身の肌や粘膜の状態に敏感である。人々は、相手が自分と肌に合うかどうかを気にする。	「よろい」着用による対応を重視すること。 人々は、直接肌の感覚に訴えるのを回避して、肌を覆う固いよろいに身を包もうとする。人々は、相手を判断するのに、肌への感覚を遮断する。
603	第六感による総合的判定を重視すること。 人々は、物事を判定するのに、個別の要素に分けるのではなく、第六感を駆使して、一挙に総合的に判定する。	要素還元による判定を重視すること。 人々は、物事を判定するのに、個別の要素へと還元して、部分的判定を積み上ることで、全体の判定につなげることを好む。
7	植物	
701	重心が低いこと。定住、定着を重視すること。植物的。 人々は、大地、一カ所	重心が高いこと。浮上、移動を重視すること。動物的。 人々は、重心が高く、

にどっしりと根や腰を下ろした状態を好む。人々は、重心が低い。人々は、腰が重い。人々は、定住、定着を好む。人々は、農耕植物栽培に従事する。人々は、農耕民的である。	ふわふわ浮いてあちこち移動すること、根無し草のようなフリーな状態であることを好む。人々は、動物、家畜の飼育、放牧に従事する。人々は、遊牧民的、牧畜民的である。

（初出2017年4月）

男性優位社会の特徴—その権威主義的性格

「１」その、移動生活様式における、発生しやすさ。

男性優位社会は、移動生活様式を行う社会で、発達する。
それは、遊牧民社会や、牧畜民社会で、主に発達しやすい。
そこでは、生きていく上で、以下のことが必要になる。
（１）家畜を放牧し、育成すること。
（２）そのために、個人が、絶えず、空間を移動し続けること。
（３）それに伴って、以下のことが、絶えず必要になる。それに対処すること。
（３－１）予測困難な危機に対して、対応すること。
（３－２）体力勝負の高負荷作業を、続けること。

「２」個人主義。自由主義。人権の概念。それらの発達。

男性優位社会では、個人による、自由で、独立した、単独の、物理的、心理的な移動を重視する。
男性優位社会では、個人主義、自由主義的な行動が多い。
男性優位社会の人々は、個人のプライバシーや、意思の自己決定性を重んじる。
男性優位な人々は、それに対して責任を取ろうとする。

男性優位な人々は、個人のスペースを広く取ろうとする。
男性優位な人々は、「人権」の概念を重視する。それは、個人の自由独立を、自明のものとして権利化した概念である。

「３」守護者。絶対者。それらの存在への希求。その発生しやすさ。

男性優位社会では、人々は、個人主義、自由主義的に、行動する。
人々は、個人で、一人になって、誰もいない物理的、心理的空間を、自由に動き回る。
その中で、人々には、一人で孤独な状態で動き回ることに対して、強い心理的な不安が生じる。
人々は、自分のことを、絶えず、孤独で、無力な状態にあると考える。
人々は、心強い、オールマイティな、守護者、絶対者の存在をとても強く求める。
人々は、そうした、守護者、絶対者に、次のことを、絶えず求める。

（１－１）自分のことを、見守ってくれること。
（１－２）自分に対して、精神的に加護してくれること。
（１－３）自分のことを、援助してくれること。
（１－４）自分のことを、救ってくれること。

（２－１）自分一人について、そうしてくれること。
（２－２）自分がいつでもどこにいても、そうしてくれること。

これはどの男性にも共通する心理である。
男性は、心理的に、比較的にハードである。
男性は、リスクを取って積極的にチャレンジを行う。
男性は、個人の自由独立行動の精神に溢れている。

しかし、男性は、一人で動いている最中は、生きる危険や不安に、絶えずさいなまれる。
そうした男性は、孤独な弱者としての存在になる。

男性はこうした精神的保護者、絶対者の存在を強く望む。
男性は、単独行動中に、絶えず、絶対者との対話を交わしたいと考

える。
男性は、そうして、不安を取り除き、自分の心理を安定させようとする。
男性も、一人で行動している時は、孤独で、心理的に弱い。そうした男性は、「大いなるもの」による助けを求める。

この絶対者が、例えば、ユダヤ教やキリスト教、イスラム教においては、「天の父なる神」に当たる。
人々は、こうした絶対者の存在を絶えず求める。
人々は、そうした絶対者と、いつも一緒にいて、話せる感じを持てると、安心である。
人々は、絶対者による、自分の精神に対する「永遠の救い」を求める。
男性優位な人々は、心の永遠の安寧を求める。
人々は、死後の天国の存在を信仰する。
天国は、絶対者が運営する、死後の楽園である。
男性優位な人々は、自分の死後、天国に加入したいと考える。

人々は、次のことの実現を求める。
（１）絶対者による、永遠の、精神的な救い。
（２）自身の、死後における、天国への加入。

人々は、次のことを、徹底的に回避する。
彼らは、それらが、上記のことの実現を阻害する、と考える。
（１）自身による、罪悪感の伴う行為。
（２）それに対する、悔い改めの欠如。

人々にとっての強者、支配者は、こうした絶対者や、それと同じことを、彼らに対して行う社会的存在である。
人々は、宗教書を読み、内容を生活の参考にする。
宗教書は、絶対者の代理人、仲介者によって書かれた、絶対者の言葉や業績を記した文書である。
人々は、絶対者への信仰に、その代理人、仲介者を通じて、入信しようとする。
これが教会、モスクである。
人々は、自分にとって必要な見守り、加護、援助を教会で得られる。

こうして、人々は、絶対者に対して強い全能性、権威性を抱いて安

心する。
彼らは、絶対者に対して思想的な忠誠を抱く。
彼らは、絶対者による、上からの、適切な思想統制を求める。

人々は、絶対者に対して、以下のことができることを望む。
（１）個人的悩みの相談。
（２）犯した罪悪への懺悔。
彼らは、そうして、精神的救いが得られることを望む。
彼らは、このことの実現を、絶対者の代理人に求める。
宗教者は、絶対者の代理人として動く。
宗教者は、信者の人々から、こうした相談内容を受け取る。
彼は、絶対者と対話して、その相談内容を、絶対者に渡す。
彼は、絶対者からの返答を、信者に返す。

「４」絶対者への仲介者。宗教者。その役割の重要性。

男性優位社会では、次の存在が、最上位である。
「絶対者。人々の見守り、加護、援助を行う存在。人々に、生きる糧を提供する存在。万能である存在。」
その存在は、モバイル、リアルタイムである。
彼は、人々を、いつでも助ける。
彼は、人々が、どこにいても、助ける。

男性優位社会では、次の存在が、社会的強者の側に回る。
（１）宗教者。絶対者の代理人。人々と、絶対者とを、仲介する存在。
（２）教会。モスク。宗教者が、そうしｔた仲介サービスを行う場所。

彼らは、人々に対して、次のことを行う。
（１）生活援助。彼らは、人々が、移動中に、食事や生活に困ったら、炊き出しや、寝床の確保を行う。
（２）告解。彼らは、個人が、移動中に抱えた、悩みや、罪悪感の相談に当たる。彼らは、絶対者の代理人として、その相談を、処理する。

「５」絶対者への権威主義的な服従。その発生しやすさ。

男性優位社会の人々にとっては、絶対者は、自分たちを、絶えず見守り、指導する存在である。
人々の間では、絶対者への権威主義的服従と、心理的依存が起きる。

男性優位社会の人たちは、絶対者の代理人の言うことを、絶対者の言葉として聞いて、信仰する。
男性優位社会では、絶対者の代理人が、大きな権力を持ちやすい。
男性優位社会では、彼らを通じて、社会における思想統制が行われる。

その点、男性優位社会は、以下の相反する傾向を持つ。
（１）その社会は、人々の個人行動、自由な行動を基本的に許す。
（２）その社会は、社会統制の色合いが、強くなりやすい。

社会統制は、人々が抱く、以下の気持ちが原因となって、発生する、
（１）人々が、絶対者に対して抱く、心理的依存心。
「自分は、いつも一人でいる、弱い存在である。そうした自分を、絶えず、助け、救ってほしい。」
（２）人々が抱く、絶対者の言うことを、素直に信じようとする気持ち。

男性優位社会の人々は、個人の自由行動中に、単独で、ひとりぼっちで、孤独に生きる。
彼らは、人間としての弱さ、脆さを内蔵した存在である。

そこに、以下のことが発生する余地がある。
それは、彼らが、絶対者と、その代理人による、教えや思想統制に、素直に従うことである。

男性優位社会においては、宗教上の思想統制が頻発する。そのメカニズムはこれである。

男性は、個人の思想の自由独立を重視する。

一方、男性は、人間としての弱さを持つ。

男性は、個人による自由行動をしている最中に、次の心理的必要に迫られ続ける。
それは、以下のような、万能の存在を、いつでも、どこでも、リアルタイムで、絶えず求め続ける気持ちである。
（１）自分を、絶えず良い方向に導いてくれる存在。
（２）絶えず、自分と対話してくれる存在。
（３）自分に、心理的勇気を与えてくれる存在。
（４）自分のことを、加護してくれる存在。
（５）自分のことを、援助して、救ってくれる存在。

天は、人間にとって、いつ、どこにいても、見える存在である。
天は、男性による、上記のような、心理的に深刻な、さまざまな必要、需要を満たす存在である。
男性は、天に、人格を持った、父性的な絶対者を求める。
こうして、例えば、「天の父なる神」のような存在が成立する。

これが、男性優位社会において、以下の心理を生じさせる。
絶対者（天の父なる唯一神。ユビキタスな、万能の存在。）への、絶対的な信仰心、権威主義的感覚、心理的依頼心。

これが、男性優位社会において、以下のことを生み出している。
社会的規範の形成と、社会的な思想統制。それは、絶対者への信仰を前提とする。それは、絶対者である天の父なる神の名に基づく。

男性優位社会の男性は、二面性を持っている。

男性は、個人の自由独立行動を重視する。

一方で、男性は、以下のような社会思想統制へ隷従する。
（１）その統制は、絶対者や、その代行者としての宗教者が行う。
（２）その統制は、権威を伴っている。
（３）その統制は、有無を言わさない絶対服従性が求められる。
（４）その統制は、信仰性を伴う。

男性優位社会でも、女性優位社会と同様に、心理的隷従が発生する。
それは、女性優位社会とは、全く異なるメカニズムで、発生する。
男性優位な人々は、絶対者や、その代理人を名乗る宗教者に対して、心理的に隷従する。

心理的な隷従は、男性が強い、遊牧民、牧畜民社会で起きる。
心理的な隷従は、絶対者を信仰する宗教で起きている。
それは、例えば、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の、いずれの宗教においても、起きている。

男性は、絶対者の存在を、強烈に望む。
絶対者は、男性による、個人での単独行動中に、一人きりの自分の心理的弱さ、頼りなさ、孤独感を補ってくれる。
絶対者は、男性にとって、頼もしい、なくてはならない存在である。

男性に、こうした心理的傾向が続く限り、男性優位社会において、次のような、権威主義的社会規範が、存続する。
絶対者への宗教信仰を、守旧的に指向すること。
絶対者への心理的隷従を指向すること。

男性優位社会規範には、次の二種類がある。
（１）権威主義。
（２）チャレンジ精神。

チャレンジ精神は、もう一つの男性優位社会規範である。それは、以下の特徴を持つ。
それは、個人行動を重視する。
それは、自由な、科学的な、客観的な、理性的な、アプローチを重視する。
それは、未知へのチャレンジを重視し、それによる前例打破を、重視する。

この二つの社会規範は、男性優位社会の中で、
互いに、対極的な二面性を保ちつつ、
双方が矛盾せずに、表裏一体、同時並行、同居、共存の形で、存続し続ける。

女性優位社会の人々は、自分の保身を図る。
人々は、そのために有効な、以下の社会規範を絶対的に重視する。
人々は、それらに権威主義的に従う。

（１）伝統的な、前例、しきたり。
（２）今の社会的上位者が取り入れた社会規範。

男性優位社会の人々は、とても権威主義的である。その権威主義は、女性優位社会の人々とは、全く異なる。

従来、男性優位社会において、ドイツのナチズムは、権威主義の代名詞とされて、批判されてきた。
しかし、それは、男性優位な権威主義の単なる一類型に過ぎない。
ユダヤ人たちは、ナチズムを、権威主義と呼んで、批判してきた。
しかし、ユダヤ人たちも、以下に対して、心理的依存と隷従を行っている。
「全能の父なる神」という絶対者。
その点では、両者は、心理的に共通である。
両者は、しょせんは、似た者同士の権威主義者たちなのである。

結局、権威主義と人間とは切っても切れない関係にある。
人間は、女性も男性も、その中身は大きく異なるものの、共通に、本質的、普遍的に、権威主義的存在なのである。

男性優位社会の人々も、女性優位社会の人々も、いずれも、権威主義的である。
その権威主義の中身は、両者で、大きく異なる。
しかし、権威主義的であること自体については、両者は、共通している。
世界の人々は、みんな権威主義的である。
人間は、世界共通に、本質的に、権威主義的である。

現代の男性優位社会で、無神論、唯物論の普及が苦戦するのは、以下の理由である。
（１）今の無神論、唯物論は、科学的、合理的アプローチで進む。
（２）そこでは、以下が、欠如している。「男性優位な人々が心理的に依存し、加護を求める、絶対者的存在。」
（３）それは、そうした絶対者に代わる、代理の存在を、ちっとも提示できていない。
（４）それは、男性優位な人々が強く持ち続けている、絶対者の存在を求める心理的欲求に、応えられていない。

「６」権威主義。チャレンジ精神。それらの体現者。その社会的な強力性。

男性優位世界で強いのは、以下のような人々である。
「男性優位社会における、代表的な価値観を体現する存在。」。

（１）権威主義。
（１）＠１．宗教者。絶対者の名による社会思想統制を行う、絶対者の代理人。

（２）チャレンジ精神。
（２－１）有能者。次のような能力にたけていている人。
（２－１－１）個人の自由独立行動をベースにして動く能力。
（２－１－２）様々な、互いに全く異なる、新しい局面に対応する能力。
（２－１－３）度重なるチャレンジで、何度も、大きく成功する能力。

それは、例えば、以下のような人々である。
（２－１）＠１．起業家。経営者。事業に成功した人。
（２－１）＠２．研究開発者。独創的な成果を出した人。
（２－１）＠３．投資家や資産家。お金儲けに成功した人。

（２－２）こうした有能者を、社会的にバックアップする人。
（２－２）＠１．参謀役のコンサルタント。成功した有能者たちの新たな知見をもとに、社会で成功するための、様々なノウハウ、アドバイスを提案してくれる人。
（２－２）＠２．生活援助者。慈善事業者。人々は、社会的に積極的にチャレンジする分、失敗して、社会的に下位に転落する。そうした人々を助けて、直ちに社会的再起や、地位の再上昇につなげる側に回ることのできる人。
（２－２）＠３．資本家。例えば、地主や工場主、小売業者。人々が、生活の糧を得るために必要な、生産設備を所有する人。それらを、人々に使わせる人。そうして、人々に、生産活動をさせて、賃金を支払いつつ、自分自身の富を大きく増やすことのできる人。
（２－２）＠４．株主。資本家が、そうして得る利益から、大量の金額の配当を受け取る人。

（２－２）@５．銀行家。人々に、生活や生産活動に必要な資金を融資する、お金持ちの人。

「７」契約の重視。

男性優位社会の人々は、個人単位で、別々に動く。彼らは、個人間の信用、信頼をとても重視する。
彼らは、「契約」を重視する。それは、個人間の信用、信頼を生み出すための、以下のような、社会的行為である。

その行為は、たまたま出会った個人間で行われる。
その行為は、仕事内容のような、互いに順守すべき規範内容を、確認し、確定する。
その行為は、その場での、瞬時、即時の取り決めである。

彼らにとって、彼らを恒常的に見守る絶対者、全能の父なる神との関係も、「契約」として捉えられる。

男性優位社会は、個人同士による、一時的関係を前提として動く。それは、以下のような経過をたどる。
（１）個人同士は、もともと、別々に離れて、動いていた。
（２）個人同士は、互いに新たに出会う。
（３）個人同士は、しばらく一緒にいる。
（４）個人同士は、再び別れて、それぞれの別行動をする。

「８」離合集散の激しさ。流動性の強さ。能力主義。

男性優位社会の人々は、離合集散が激しい。
人々は、互いの新たな出会いを大切にし、歓迎する。
男性優位社会では、企業などで、人々の、雇用面での流動性が、激しい。
それは、特に、新規のチャレンジを繰り返す、ベンチャー的な企業で激しい。
一方、役所などでは、流動性は、やや欠ける。
そこでは、場合によっては、終身雇用のところも存在する。
いずれの場合も、各人の職務範囲が明確に決まっている。
そこでは、各人の仕事内容に関する責任が明確になりやすい。

人々は、その範囲で、成功を、自分の手柄にしつつ、失敗を、他人に押し付けようとして、必死になる。
人々の仕事の評価や給与、地位は、能力主義で決まる。
企業などにおいて、新しい、有能とされた人材が、年齢や性別制限なく、いつでもどんどん入ってくる。

人々は、上位者の要求する能力水準を満たす仕事ができないと、短期間であっさりと解雇される。
その一方で、長期間に渡って、同じ職場で働き続ける人々も、それなりに多い。
人々は、能力面で一定水準を満たす働きを続ける。
人々は、そうしていれば、勤続年数によって、その解雇されにくさが決まる。

「９」命令のトップダウンの強さ。意思決定の明快さ。

男性優位社会の集団組織は、以下の特徴を持つ。
そこでは、上位者から下位者への、命令のトップダウンが見られる。
それは、明快で素早い。
それは、単純な、フラットな経路で、実現される。
その意思決定は、迅速で、効率が良い。
そのため、それは、経営面で、世界的な競争力が高い。

「１０」異論の許容。多数決の重視。

男性優位社会の人々は、個人ベースの能力の高さで、その人間の社会的地位を測定する。
彼らは、能力主義で動く。
彼らは、
「自分は何でもチャレンジでき、成功できるんだ。」
という思いが強い。
彼らは、自分個人の、有能感、全能感、自信がとても強い。
男性優位社会では、人々の押しが強い。
人々は、各自が、明確な、自分の意見、主義や主張を持つ。
彼らは、どんどん自己主張をする。彼らは、デモを積極的に行う。

彼らは、個々人が、バラバラで、心理的な距離が遠い。

彼らは、互いの考えの異質性を前提として行動する。
彼らは、自分と異なる、批判的意見の持ち主と、議論、対話を、積極的に行う。
彼らは、それを、客観的で、論理的な姿勢で、感情的にならずに、冷静に行う。
彼らは、その過程で、相互の異質性や個性を、改めて確認する。
男性優位社会では、集団内での異論の許容、各人の個性の許容、が行われやすい。

男性優位集団においては、その意思決定は、以下のように行われる。
（１）人々は、集団内での意見の割れを許容する。
（２）人々は、多数決での、集団的な意思決定を好む。

男性優位社会では、人々は、集団ではあまり動かず、個人でバラバラに行動する。
人々の間では、以下のことが起きる度合いは、緩めである。
（１）集団の統制。
（２）行動面での、同調性の強制。

「１１」開放性。

男性優位社会では、人々は、オープンな議場での、リアルタイムな議論、討論を好む。
人々は、自分の意思を、社会に反映させようとする。
そこで、人々は、社会の指導者や、議員たちを公開投票で選ぶ。
議員は、オープンな議場で、社会政策を決める上での討論と決定を行う。
人々は、彼らに社会の運営を委託する。

「１２」積極性。チャレンジ精神の強さ。加点主義。

男性優位社会では、人々は、物事に対して、チャレンジングで、リスクを取ることを好む。
人々は、何事も、積極的で、肯定的、前向きで、加点主義で行こうとする。

「１３」プレゼンテーション技術の発達しやすさ。

男性優位社会では、討論上の言論のオープンさや自由が保証されることが多い。
そこでは、上位者への、自由な抗議、反論が許される。
しかし、上位者は、それに対して、再度、有効そうな反論をして、強引に、一方的に潰してしまう。
それは、頻発する。

男性優位社会では、人々による、上位者や支配者側への、内部告発や訴訟も可能である。
男性優位社会では、「主張のテクニック」が発達する。
それは、人々が、以下の目的を達成するために、発達する。
（１）上位者やライバル、周囲に対して議論で打ち勝つこと。
（２）下位者やライバル、周囲を上手に説得すること。

男性優位社会では、「プレゼンテーションのテクニック」が発達する。
それは、人々が、以下の目的を達成するために、発達する。
「自分の主張について、その説得対象となる、周囲メンバーの同意を、より得られやすくすること。」

「１４」社会的階級の発生。社会的不平等の固定化。

男性優位社会では、社会的階級が、生まれやすい。
その社会では、社会的不平等の固定化が、発生しやすい。それは、以下の理由で起きる。

（１）血縁関係の重視。
既に、社会的上位を確保した、上位者の人々による、血縁面での世襲。
上位者間での、婚姻関係の形成。それによる、上位者間での、上流の地位の、独占的な維持。

（２）能力主義の重視。
有能さを得た人々が、社会上位に滞留することを持続する可能性の

大きさ。
人々の有能さは、以下によって得られる。
（２－１）能力の高い遺伝子の取得。
（２－２）高レベルの教育を得る機会の取得。

そこでは、以下の問題が、存在する。
（１）能力の低い人々が、社会的地位が低い状態を続ける可能性の大きさ。
（２）彼らの地位向上に対する、機会や、社会的ルートの乏しさ。

「１５」思想面での統制の強さ。思想面での絶対者気取りの発生しやすさ。

男性優位社会では、人々は、個人行動中に、以下を、とかく求めがちである。
「心理的依存ができる、万能の存在。」

そこでは、宗教的性格を持った集団組織の内部で、以下のことが起きやすい。
集団組織内での、社会的思想統制。
以下の存在に対する、思想面での迫害。異端尋問。
「思想統制中に、それに異を唱える者。」
それらは、絶対者的存在と、その代理人に対する、権威主義的服従の心理をベースとする。
（それは、カルト宗教組織を含む。）

そこでは、これと同様に、社会運動や政治運動とかの集団組織で、以下のことが起きやすい。
そこでは、指導者が出現する。
指導者は、以下のことを醸し出す能力の高そうな人である。
指導者は、人々にとって、尊敬できそうな人である。

（１）高い人格的信頼感。
（２）人格の尊敬可能性。
（３）人格のカリスマ性。
（４）主張の独創性。

（５）提示する目標の達成魅力性。
（６）人心コントロールテクニックの高さ。

人々は、指導者を、以下のように扱う。
（１）人々は、彼を、万能の絶対者に近い、頼もしい存在と見なす。
（２）人々は、彼に、権威主義的に服従する。
（３）人々は、彼による、社会思想統制を積極的に受ける。

人々は、その状態で、社会運動、政治運動に、熱狂的、宗教的に強い信心でまい進する。
それらの運動は、彼らの当初の目標である、主義主張の実現に当たる。

一定数の人たちは、途中で、その運動についていけなくなる。
彼らは、異端者扱いされ、迫害される。

男性優位社会では、次のような場合、宗教的組織間での抗争が、とても激しい。
（１）それらの間で、絶対者や、絶対者的存在が、互いに異なる場合。
（２）それらの間で、社会統制思想の主義主張が、相反する場合。
そこでは、攻撃の応酬が、いつまでも、絶え間なく、続きやすい。

男性優位な人々は、以下の心理的傾向を持つ。
（１）人々は、自分自身に対して、強い有能感、万能感を抱く。
（２）人々は、自分自身のことを、絶対者そのもの、絶対的存在と見なしやすい。

人々は、自分自身が、社会における絶対者になろうとする。
あるいは、人々は、実際に、絶対者的存在になる。
人々は、絶対主義的な、支配体制を生み出す。
例えば、それは、フランスの絶対王政である。

男性優位社会では、社会的強者、富者となった人々が、以下のことを行う。

彼らは、独自の社会的理想や、主義主張を、生み出す。
その内容は、彼らにとって、自分たちに都合の良い、一方的で、独善的なものである。

彼らは、絶対者気取りになる。
彼らは、その主義主張を、自分たちの周囲の人々、自分たちの社会、あるいは世界全体に向けて、一方的に強引に押し付ける。
例えば、それは、欧米諸国における、ネオリベラリズムである。

人々の持つ、そうした心理的傾向は、人類一般への思いへと拡張される。
人々は、以下のように考える。
（１）人類が、地球上の絶対者である。
（２）人類は、地球の自然環境を、一方的にコントロールし、変動させている。
（３）人類は、地球の自然環境を、完全に支配している。
（４）人類は、他の全ての生物の最上位に立つ、絶対的支配者である。

「１６」独創性。先進性。革新性。ブレークスルーの重視。

男性優位社会では、人々は、その社会のあり方を、未知の困難が発生しても、容易に対応しやすくすることを望む。

人々は、以下のような態度で、研究調査や開発を行う。
人々は、以下を重んじる。
（１）個人の自由な発想。
（２）客観的で、実証的で、十分な検証可能性を伴う、科学的アプローチ。
（３）思考面での、独創的なチャレンジ。
（４）失敗を恐れない、リスクテイキングを伴う、積極的な、試行錯誤の遂行。
（５）自由なアイデアを生み出しやすくする、メンバー間のブレーンストーミング。
（６）自由で激しい議論を伴う、新たな真実の飽くなき追求を行う、会議。
（７）新規の、独創的、革新的で、近代的なアイデアを発想する可能性。

こうした態度が、男性優位社会に、先進性、革新性を、常にもたらす。

男性優位社会は、以下のことの実現を重んじる。
（１）前例、しきたり打破による旧秩序の破壊。
（２）それに代わる、自分たちが作った、新たな新秩序の樹立。
（３）ブレークスルーの実現。

男性優位社会の人々が出す、そうした結果内容は、以下の問題点を持つ。
（１）その内容は、マクロで大局的な観点からは、十分優れている。
（２）その内容は、細部は、いい加減である。
（３）それは、品質や完成度がそれほど高くない。
（４）それは、微調整や小改良の余地が残っている。

「１７」個性の重視。科学性。実証性。

男性優位社会では、教育は、以下のようにして、行われる。
（１）人々は、教育を、個人ベースで行うことを好む。
（２）人々は、個人間で、学習内容の理解のあり方が、異なることを尊重する。
（３）人々は、個々の学習者の、性格面での個性を尊重する。
（４）人々は、科学的で実証的なデータに基づいた、合理的な学習やトレーニングを進める。

「１８」ライバルに対する好戦性。セキュリティの重視。

男性優位社会では、人々は、以下を、積極的に潰そうとする。
「自分たちを脅かす、周辺部の脅威、ライバル。」。
人々は、好戦的な態度を取る。
人々は、ライバルに対して、積極的に、偵察行動や、警告行動を行う。
人々は、ライバルを潰すのに十分な武器を、絶えず確保しようとする。
人々は、ライバルとの相互牽制で、交渉が決裂したら、容赦なく、攻撃を開始する。

人々は、社会や個人を、脅威から守ることを重視する。人々は、そのために、セキュリティ技術を高めることに、大変熱心である。

「１９」普遍性。グローバリズム。それらの重視。

男性優位社会では、人々は、次の成果を、以下のように扱う。
「自分たちの持つ、男性優位社会規範や価値観。自分たちの研究開発した成果。」。
（１）人々は、それらを、世界に向けて積極的に発信する。
（２）人々は、以下のことを、絶えず狙う。「それらを、全世界に普遍的に普及させて、事実上の世界標準とすること。」。
（３）人々は、そのために、強引なアピールを、世界社会に対して行う。
男性優位社会では、グローバリズム、普遍主義が盛んに主張される。

「２０」女性の無力化。女性の男性化。それらの推進。

男性優位社会では、女性を、以下のように扱う。
女性は、個人の自由独立行動や、チャレンジを本質的に嫌う。
男性優位社会の男性は、女性を、以下の存在と見なす。
「そのままでは男性優位社会規範を守れない、社会的に劣った存在。社会的弱者。」。
彼らは、女性を、本質的に嫌悪の対象として見下す。

男性は、女性の性格が男性優位になるように、女性に対して、以下の矯正を施す。
（１）生育過程で、母子の間を、徹底的に隔離すること。
（２）男性優位な個人主義、自由主義の教育を強制すること。

男性は、そうして、女性から、女性優位精神を消去する。
男性は、女性の精神を男性化して、「劣化した男性」にする。

男性は、女性を、以下の立場から、徹底的に疎外する。
（１）子供の育児を主導する立場。
（２）家庭の家計管理を主導する立場。

男性は、その上で、社会的弱者扱いの女性の能力を、社会的に、少しでも男性並みに活用しようとする。

男性は、表向きは、男女平等や、性差別反対を掲げる。
男性は、そうして、女性を、強引に職場進出させるなどしようとする。
あるいは社会によっては、男性は、そのことを最初からあきらめる。
男性は、女性を、徹底的に、社会的下位に置いて、差別対象とする
男性優位社会は、女性優位な社会規範を嫌う。
その内容は、自分たちの男性優位社会規範に反する。

女性優位な社会規範は、例えば、以下のような内容である。
（１）周囲への同調、忖度行動を強制すること。そのことへの不適合者を、社会から追い出すこと。
（２）上位者から下位者への、反論を許さないこと。そうした、一方的な、権威主義的な言論を好むこと。
（３）プライバシーの欠如や、人々の相互監視を好むこと。
（４）社会の閉鎖性が強いこと。

男性優位社会は、これらを、とても嫌う。

男性優位社会は、そうした女性優位社会規範や、女性優位社会の存在そのものを、自分たちへの敵対対象と見なす。
男性優位社会は、女性優位社会規範が、自分たちの社会に入ってこないようにする。
男性優位社会は、女性優位社会が、自分たちを支配することを、とても恐れる。
男性優位社会は、それを、社会全体で、必死になって、阻止しようとする。男性優位社会は、それを、全体主義的に、歩調を揃えて、行う。
男性優位社会は、本来、個人主義的、自由主義的である。
しかし、男性優位社会は、この側面では、言論の自由の全く存在しない、全体主義的社会である。
アメリカによる、中国、ロシアとの冷戦は、この典型である。
男性優位社会は、以下のことを、一生懸命試みる。「自分たちが支配下に置いた女性優位社会を、男性優位社会へと矯正すること。」
例えば、アメリカは、自分たちが占領支配した、女性優位な日本社会に、日本国憲法を導入した。

「２１」交通。通信。それらの発達しやすさ。

男性優位社会では、人々は、個人の独立性や、プライバシー、セキュリティを尊重する、移動や交信を好む。
そこでは、以下のような、新規の研究開発が進みやすい。
（１）交通機関の開発。各人が、広い空間を、効率的に動き回るため。航空機など。
（２）通信設備の開発。各人が、一斉に、広範囲の、個別の、双方向の、情報伝達が簡単に行えるため。インターネットなど。

「２２」犯罪性。粗暴性。攻撃性。それらの強さ。

男性優位社会では、主に男性の間に、以下の行動が見られる。

（１）犯罪方面への積極的なチャレンジ。
（２）粗暴で攻撃的な行動、。
（３）腕力、筋力、運動能力の高さに任せた、強引で、乱暴で、破壊的な行動。

男性優位社会は、絶えず治安が悪い。そこでは、犯罪者たちに対して、警察や軍隊が、実力で交戦する事態が、頻発する。

「２３」有能感。全能感。自信。それらの強さ。

男性優位社会において、社会的に優位に立つための人間的要素は、以下の通りである。

（１）能力面での優位性。
（１－１）自分自身の有能感、全能感、自信の強さ。
（１－２）運動能力の高さ。腕力や武力の強さ。度胸の強さ。
（１－３）積極的に他者と交流して、自分の意見を強力に主張する力。その主張を行うテクニックの高さ。
（１－４）リスクに対して物怖じしない態度の強さ。
（１－５）チャレンジへの意欲の強さや、成功能力の高さ。
（１－６）高度な論理性や合理性の保持。高度な数学や科学等への知的理解能力。
（１－７）高度な独創的アイデア導出能力。

（２）態度面での優位性。
（２－１）権威主義的、宗教的な態度。絶対者による、自分自身へ

の、見守りや、加護を支持する態度。精神的救いが存在することを、支持する態度。

こうした優位性を持つ人は、社会的な上位者、指導者、支配者になる。それは、以下のところで実現される。
（１）家庭。
（２）学校。
（３）自分自身が就職した、企業、官公庁。
（４）自分自身で起業した企業。
（５）社会運動の集団。

こうした優位性を持つ人は、異性にモテやすい。

一方、これらの能力で劣った人間は、下位者扱いとなる。
彼らは、異性にモテない。
彼らは、徹底的ないじめの対象になりやすい。

男性優位社会は、能力による、社会的格差や、扱いの差別の度合いが、とても大きい。

「２４」異質性。多様性。少数性。それらへの寛容さ。

男性優位社会では、人々は、各自が、広い空間を、個人で自由に動き回ることを指向する。
その社会のあり方は、根本的にオープンである。
人々は、外部の人材、移民を積極的に受け入れやすい。
人々は、自分たちも積極的に外部に出て、移民化しようとする。
人々は、自分たちとは異質な、未知の人材も、積極的に受け入れる。
人々は、そうして、そうした人材による発想が持つ、自分たちにとっての目新しさを、活用しようとする。
男性優位社会は、人々の多様性を重視する。
男性優位社会は、人種とかの分布も多様になりやすい。
男性優位な人々は、社会的少数派のマイノリティの存在に比較的寛容である。

「２５」社会福祉への注力。その熱心さ。

男性優位社会では、人々は、社会福祉に力を入れる。
男性優位な人々は、自分たちが積極的にチャレンジを行う分、失敗をすることが多くなる。
人々は、そのままでは、その都度、容易に、社会の下位に沈む。
人々は、以下のように想定する。「自分たちが、チャレンジに失敗して、社会の下位に一時的に転落した。」。

人々は、それに対応する、以下のような、社会的仕組みを整えることに熱心である。

（１）容易に命を食つなぐことができること。
（２）そこですぐに人生を再起できること。
（３）その場で再度チャレンジする機会が、社会的に豊富に用意されていること。
（４）それによって再び成功して、社会の上位に簡単に行けるようにすること。

男性優位な人々は、貧困状態に陥っている人たちへの慈善事業に熱心である。
なぜなら、男性優位な人々は、以下の可能性を、強く認識しているからである。
（１）人々は、チャレンジをした結果、失敗すること。
（２）その結果、自分たちが、容易に貧乏状態になりやすいこと。

（初出2020年5月）

女性が形成する社会の概要。「女性優位社会」と「女性専用社会」。

女性が形成する、女性主体の社会集団は、次のように、分類することができる。
（１）「女性優位社会」。
（２）「女性専用社会」。

（１）「女性優位社会」は、世界に広く分布する社会の一種であ

る。
「女性優位社会」は、「女性優位な人々」が形成する社会である。
（女性優位女性。女性優位男性。）
「女性優位社会」は、定住生活様式を行う社会である。
それは、例えば、稲作農耕民の社会である。例えば、日本や東アジア、東南アジア。
そこでは、女性が強い。そこでは、女性が主流、主体となっている。
それは、女性優位男性を含む。女性優位男性は、精神が女性化した男性である。
彼らは、次の原因によって、生まれる。「女性が、その育児を独占すること。」。
（これに対して、男性優位社会は、遊牧民、牧畜民の社会である。例えば、欧米諸国。）

（２）「女性専用社会」は、女性のみで構成される、女性限定の社会である。
「女性専用社会」は、都市にも農村にも共通に存在する。
「女性専用社会」は、以下のように、分類することが出来る。
それらは、女性同士の社会である。
（２－１）「職場」。従業員同士。官公庁、企業。
（２－２）「学校」。母親同士。保育園。幼稚園。PTA。学区。託児所。学校。（小学校。中学校。高校。大学。）。
（２－３）「地縁」。住民同士。村落。町内会。自治会。介護老人施設。彼女たちは、地域の公園や、公共施設を、共用する。
（２－４）「血縁」。家族同士。親戚同士。姑、小姑と嫁。母と娘。
（２－５）通信。ネット。」。ユーザー同士。（ネット掲示板。SNS。）

（初出2017年4月）

女性が形成する社会を調査する方法。「女性優位社会」と「女性専用社会」。

女性主体の社会集団は、以下の二次元によって、捉えることができる。

（１）「女性優位社会」。
（２）「女性専用社会」。

ここでは、以下のことが、可能である。
「この（１）と、（２）とを、掛け合わせること。」。

女性主体の社会集団は、排他的、閉鎖的である。
その社会は、余所者を受け入れない。
その社会は、内情を隠蔽する。

仮に、女性主体の社会集団において、以下のことが発生した、とする。
「そのメンバーの誰かが、その社会集団の内情を、部外者に対して、うっかり明かすこと。」
すると、その本人は、内部告発者扱いされる。その本人は、裏切り者として、仲間外れにされてしまう。

そのため、女性主体の社会集団では、次のことは、期待できない。
「誰かが、その社会集団の内情を、外部に向けて、明瞭な形で話すこと。」。

例えば、次のことは、期待できない。
「外部の研究者が、その内部情報を、集団メンバーから、直接対面で、聞き出すこと。」

そのため、外部の研究者には、その内情、真実が分かりにくい。

次の社会の内情は、特に分かりにくい。
『「女性優位女性」向けの「女性専用社会」。』

それは、以下の女性たちが、女性専用の形で作る、社会である。
『女性優位社会において、その社会を支配する、女性優位女性。』

もしも、研究者が、その内情を知ることができる、とする。すると、研究者は、「女性優位社会の核心」へと、一気に到達することができる。
研究者は、「女性優位社会の核心」に到達する。研究者は、そこで、以下の内情を、知る必要がある。
『「女性優位女性」向けの「女性専用社会」』。
研究者は、こうした社会について、どうすれば、その内情を、効果

的に知ることが出来るか？

その方法の正解は、以下の通りである。
研究者は、まず、女性優位社会に、何らかの方法で、アクセスする。（例えば、日本社会。）
研究者は、そうした女性優位社会において、以下の対象を、見つける。
（１）「ネット上で、女性のみが匿名発言をしている場所。」
（２）「以下のコンテンツ。女性同士に限定された会話内容や、情報内容。女性著者によるコンテンツ。」

研究者は、その内容をいろいろ閲覧する。
それは、以下のことに、つながる。
（１）「女性優位女性の専用社会」について、その内情を知ること。
（２）そのことで、女性優位社会の本質を、解明すること。

そのために有効な方法は、例えば、以下のものである。
（１－１）公開された匿名掲示板において、人々による発言内容を、精査すること。
（１－２）その掲示板では、女性のみが、匿名で、話をしていること。

つまり、有効な方法は、以下の内容を、詳しく閲覧することである。
「女性専用の匿名掲示板における、女性たちによる、さまざまな発言内容。」

例えば、日本では、以下の匿名掲示板が、女性専用であるとして、有名である。「ガールズちゃんねる」。「発言小町」。
研究者は、その掲示板の内部について、検索をかける。
研究者は、例えば、次のキーワードで、検索する。「女社会」。「怖い」。
すると、その検索結果として、以下のスレッドが、数多くヒットする。
『「女性だけが共有している機密情報」がたくさん書き込まれているスレッド。』
研究者は、それを、たくさん閲覧する。

あるいは、次の方法が、有効である。
（２－１）匿名の質疑応答サイトにおいて、匿名の人々による、質疑応答の内容を、閲覧すること。
（２－２）その質疑応答の内容は、以下の内容を、聞き出すものであること。
（２－２－１）「女性専用社会の内部についての様子。」

例えば、日本では、以下の質問回答サイトにおいて、匿名での情報のやり取りが、数多くなされている。
「教えてgoo」。「Yahoo知恵袋」。
そこでは、時々、以下のような質疑応答が、なされている。
『「女性専用社会の内部における、苛酷な現実」を、暴露する内容。』
これについては、例えば、以下のものを発見できる。
「匿名の女性が、落書の形式で投稿している、内部告発のメモ。」
この場合、投稿者の女性は、その内容について、わざと、表記をいじっている。彼女は、そのことで、内容を、とても読みにくくしている。それは、まさに、機密情報である。

しかし、それらの回答の中には、以下のような内容のものも、数多く、混じっている。
「偽りのメモ。匿名の女性が、女性専用社会の内部を隠ぺいするために、人為的に、きれいごとを書き込んだ。」
研究者は、こうした虚偽の内容を、取り除く必要がある。
研究者は、数多くの回答の中から、より真実に近そうな内容を、選別する。
研究者は、それらを、よく読む。

あるいは、次の方法が、有効である。
（３－１）ツイッターにおいて、女性が作ったアカウントを、たくさん購読すること。
（３－２）そうして、女性同士のやり取りを、追跡すること。

例えば、日本のツイッターにおいては、、以下のアカウントが、たくさん存在する。
「女性のフェミニストたちが作った、意見発信用のアカウント。」
そこでは、女性同士が、遠慮のない、感情をむき出しにした、熾烈な内部抗争を、繰り広げている。
研究者は、それらの内容を、よく読む。

あるいは、次の方法が、有効である。
（４－１）女性作者原作のコミック、アニメについて、その作品を、たくさん読むこと。
（４－２）その作品の内容は、以下のものであること。
（４－２－１）その登場人物は、女子中学生や、女子高生だけに、限定されていること。そうした人物のみが、大量に登場すること。
（４－２－２）その内容は、登場人物たちによる、日常的な生活や活動を描いたものであること。（例えば、学校の部活動についての、緩い内容。）
例えば、日本では、こうした内容の、コミック、アニメが、たくさん流通している。
研究者は、それらの内容を、大量に視聴する。
研究者は、そうして、女性同士のやり取りを、たくさん観察する。

あるいは、次の方法が、有効である。
（５－１）以下のようなネットニュースのサイトについて、その記事を、たくさん読むこと。
（５－１－１）女性向けに限定した情報発信を行っているサイト。
（５－２）その記事は、匿名の女性ライターが、発信していること。
（５－３）その内容は、以下の内容を、記述したものであること。
（５－３－１）女性が多数派である職場についての内容。そうした場所における、女性同士の対人関係について、アドバイスを行う内容。

例えば、日本では、以下のニュースサイトが存在する。「マイナビウーマン」。
研究者は、その内容を、たくさん閲覧する。

あるいは、次の方法が、有効である。
（６－１）以下のような、書籍や、ネット上のサイトの内容を、たくさん読むこと。
（６－１－１）匿名女性が、女性優位女性向けに書いた書籍や、サイト。
（６－２）その内容は、女性専用社会の内幕について、それを暴露し、内部告発したもの。

例えば、日本では、以下の内容の書籍が、多く出ている。

「女子専用の中学校や高校についての内情を、元生徒だった女性が暴露した内容。」。

研究者は、それを探して、その内容を、たくさん読む。

あるいは、次の方法が、有効である。
（７－１）以下のような、書籍や、ネット上のサイトの内容を、たくさん読むこと。
（７－２）女子専用の学校に勤務する教師が、学術目的で執筆した、書籍や、サイト。
（７－３）その内容は、そうした学校における、女子生徒たちの行動様式についてのもの。その問題点と対策を、詳しく分析したもの。

例えば、日本では、以下のような教師が執筆した書籍が、相当数、出版されている。
「女子専用の高校に、長年にわたって勤務している、男性教師。」

研究者は、それを探して、その内容を、たくさん読む。

あるいは、研究者にとっては、以下が、有意義である。
「女性優位社会一般について、その内実を知ること。」

そのために、研究者は、以下の社会について、その社会慣行や、人々の世論の傾向を、詳しく知る。
「定住生活様式中心社会。伝統的な農耕民の社会。」
それは、女性の支配力の強い社会である。

それは、例えば、以下の地域の社会である。日本。東アジア。東南アジア。ロシア。

研究者は、それらの社会の内部情報を、大量に閲覧する。
研究者は、それらの情報を得るために、以下の内容を参照する。
（１）書籍。ネット上のサイト記事。
（２）匿名掲示板における書き込み。

（３）ＳＮＳにおける書き込み。（例えば、ツイッターへの書き込み。）

研究者にとっては、例えば、以下の内容が、特に参考になる。
（１）外国人の記者が執筆した記事。特に、その社会の内部を暴露した内容の記事。
（２）その社会に暮らす、一般人の移住者が執筆した記事。その社会と、母国社会とを比較した内容の記事。特に、双方の社会規範の違いについての記事。

研究者は、そうして、それらの内容が持つ、共通の特徴や傾向を、調査する。

研究者は、それらを、以下の内容と、照合する。
以下の社会における、その社会慣行や、人々の世論の傾向。
移動生活様式中心社会。遊牧民の社会。牧畜民の社会。
その社会では、男性が強い。
その地域は、例えば、以下の通りである。欧米諸国。中東。モンゴル。

研究者は、そうして、双方の異質な点を抽出する。

筆者が調査した限りでは、次のことが言える。
「以下の二通りの社会の特徴が、ほぼ完全に一致していること。」
（１）女性優位女性の専用社会。
（２）定住生活様式中心社会。女性が強い社会。一般的な特徴。各社会に共通する特徴。

両者は、共通に女性優位社会へと統一して捉えることができる。

従来、世界の心理学者や、社会学者は、以下の人々による著書を紹介することが多かった。
「移動生活様式中心社会に所属する女性たち。特に、欧米諸国の女性たち。」
しかし、それらの女性たちは、男性優位な家父長制社会の下で、精神が、男性化してしまっている。
なので、それらは、純粋な女性優位社会のあり方を知る上では、あまり参考にならない。

研究者は、なるべく、以下の社会で、女性による匿名の発言など

を、探す。
「定住生活様式中心社会。女性の強い社会。特に、以下の地域における、稲作農耕民の社会。日本。東アジア。東南アジア。」

従来、性差の研究者たちによって採用されていた方法は、以下が主流であった。
（１）細かい、各論レベルの視点。詳細な事実についての検討。それらの、積み重ね。
（２）実験。被験者を集めて行う方法。それを、統制された条件下で実施する方法。
しかし、それだと、研究者は、以下の内容へと、たどり着くことは、いつまで経っても、難しい。
「女性優位社会の全体像。その総論。」

筆者は、今までにない、次のことを実現することが、新たに必要であると、考えた。
（１）女性優位社会の全体像について、素早く知ること。
（２）そのために、今までに無い、新たな研究方法を、採用すること。

筆者は、女性優位社会の全体像や、総論を、手っ取り早く知りたかった。
そこで、筆者は、筆者自身が先ほど、たくさん列挙した方法を、新たに採用した。
筆者は、それによって、以下の情報を、長期間にわたって、継続的に、大量に、閲覧し続けた。
「女性優位社会に関する、様々な生の情報。」

筆者は、それらの情報を、自分の頭の中に、たくさん蓄積した。それは、次のことと、同じである。
「生身の人間が、ニューラルネットワーク機械学習を、たくさん実行し続けること。」

筆者は、そこから、以下の内容を、新たに想起した。
「女性優位社会の全体像や、グランドデザイン。それに当たる、社会規範の大まかな傾向。そのまとめと、要点。」

筆者は、中でも、以下のことを、最優先とした。
「以下の明確化。女性優位社会の社会規範。その総論。その重要事項。」

筆者は、その内容面において、更に、以下のことの実現を重視した。
「漏れが無いこと。網羅性の高さ。」

筆者は、その内容面での要点を、次々と想起して、リストアップしてまとめた。
そのために、筆者は、絶え間なく、以下のデータを、読み漁り続けた。
「女性優位社会の内情。生の情報。多角的で、新しい内容の情報。」

筆者は、そこから、必要に応じて、詳細な各論を割り出す解析作業を行った。

筆者は、こうした全体的な調査、解析を行うために、少なくとも10年以上を要している。

本書の以下の内容は、上記の方法で調査、解析した結果を反映したものとなっている。
（初出2017年4月）

女性優位社会の特徴

筆者は、以下において、女性優位社会、女性優位な人々の特徴がどのようなものか、説明を個別に行っている。
（初出2017年4月）

（１）『対人関係の重視』

「対人関係を、重視すること。つながりや絆を、指向すること。」
女性は、対人関係を、本質的に重視する。
女性優位な人々は、無機的な物質よりも、人間の方に興味が行く。
女性優位な人々は、人間関係や、縁故や、コネや、人脈の構築に注力し、得意とする。
女性優位な人々は、人と人とのつながりや、絆を重視する。
女性優位社会は、政党などで、明確な目標論争や、ビジョンの相違

によって、グループができるのではない。
女性優位な人々は、人物や、対人関係本位で、縁故関係を作る。
例。「私は、あの時、XX先生に、XXで、お世話になったから、XX先生の門下に、入ろう。」
そうした縁故関係が、派閥や、学閥などとなって、その社会を動かしている。
女性優位な人々は、他人の気持ちに対して、敏感である。
女性優位な人々は、人の心の動きを読むことに、関心を持つ。
女性優位な人々は、心理学や、カウンセリングに、関心を持つ。
女性優位な人々は、他人に構ってもらうことを、好む。
女性優位な人々は、他人の面倒を見たり、世話をすることを、好む。

女性優位な人々の考え方は、女の子の考え方である。
それは、以下のような内容である。
小さいときから、人形や、周囲の人間に対して、興味を惹かれて、気に入られるように行動すること。
（男の子は、無機的な機械や物質に、興味を惹かれる。女の子は、そうした度合いが、低い。）

（ＶＳ男性：
男性優位な人々にとって、対人関係は、何か目標を実現するための手段に過ぎない。
それは、男性優位な人々にとって、一時的なものである。
男性優位な人々にとっては、つながることよりも、独立して自由に動けることが、より重要である。）

（２）『コミュニケーションの重視』

「コミュニケーション、話し合い、打ち解け合いを重視すること。」
女性は、対人関係の構築や維持のために、職場などにおいて、コミュニケーションや、通信を、やたらと重視する。
女性優位な人々は、周囲の親しい他者と、対話や会話をしたり、しゃべったり、打ち解け合ったりすることを、好む。
女性優位な人々は、ペラペラと気軽におしゃべりすることが可能な、電話や、メッセンジャーのアプリを、好む。
女性優位な人々は、親しい相手との、手紙や、メールや、メッセージの、間を置かない頻繁なやり取りを、望む。

女性優位な人々は、対人関係維持のために、要件が無くても、長話することを、好む。
女性優位な人々は、直接メッセージのやり取りができるコミュニケーション手段を、好む。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々にとって、コミュニケーションは、何か目標を実現するための手段に過ぎず、それ自体が目標になるものではない。）

（３）『対人関係の累積』

「対人関係が累積し続けて、そのリセットが出来ないこと。転身が難しいこと。」
女性の場合、対人関係が、世代を重ねて、どんどん累積していく。
女性優位な人々は、対人関係や、コネの切断や、リセットや、初期化が出来ない。
女性優位な人々は、一度できた関係やコネを、そのままずるずる続け、保持していく。
女性優位な人々は、ある分野や領域で一度できたコネを、気軽に切って、別の分野や領域に転身することを、嫌う。
女性優位な人々は、一度入った分野や領域にずっと居続けることを、要求する。
女性優位な人々の場合、友人関係などにおいて、学校や職場に入った最初の一瞬で、その後の関係が、ずっと決まってしまう傾向がある。
女性優位な人々が、別の領域や組織集団に転身しようとしても、既にその領域に、既存の対人関係が、累積して出来上がってしまっている。
そのため、彼らは、そこに後から入り込むことや、そこに入れてもらうことが、容易には出来ない。
あるいは、彼らは、そこに入れてもらったとしても、身分や立場の低い、新参者の扱いになってしまう。

女性優位社会は、以下のような仕組みになっている。
もしも、人々が、新学年で、仲間集団に入れない場合。
人々は、その先、なかなか集団に入ることが出来なくなること。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、対人関係は簡単にリセット出来て、次の新天地

への転身が可能である。）

（４）『対人関係の癒着』

「対人関係が、長期にわたって持続すること。対人関係が、癒着し、粘着しやすいこと。公私混同や、談合の体質であること。」
女性の場合、いったん出来た対人関係が、長期にわたって延々と持続する。
女性優位な人々は、対人関係が、粘着的であり、しつこい。
女性優位な人々の間では、一度始まった会話や説教が、延々と長引き、なかなか終わらない。
女性優位社会は、人間関係が、納豆みたいに、ネバネバして、ベタベタしている。それは、「納豆社会」と、呼べる。
女性優位な人々においては、対人関係が癒着しやすい。
女性優位な人々は、親しくなった相手との公私混同を起こしやすい。
女性優位な人々は、常日頃慣れ親しんだ複数の相手との間で、談合を、起こしやすい。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々の場合、対人関係は、短期的なものであり、淡白であり、あっさりしたものである。）

（５）『集団主義』

「一緒にいることを、重視すること。群れを、重視すること。仲良しグループを、形成すること。護送船団方式を、好むこと。対人関係での巻き込みや、連帯責任が、生じやすいこと。」
女性は、皆で一緒にいようとする。
女性優位な人々は、群れることを、好む。
女性優位な人々は、集団や団体での行動や共同作業を、好む。
女性優位な人々は、集団主義者である。
女性優位な人々は、一人では行動できない。
女性優位な人々は、一人で行動することを、好まない。
女性優位な人々は、互いに、べたべたくっつき合おうとしたり、一緒になろうとしたりする。

女性優位な人々は、派閥を作りたがる。
女性優位な人々は、互いに主流になろうとして、派閥間で、いがみ合う。
女性優位な人々は、彼ら自身の派閥の勢力を、伸ばしたり、維持しようする。
そのため、女性優位な人々は、ライバルの派閥との間で、とげとげしい、感情丸出しの、悪口攻撃や嫌がらせによる抗争を、繰り返す。
女性優位な人々は、一人では気が弱くて、何もできない。
しかし、彼らは、徒党や集団を組むと、途端に気が大きくなって、「数の力」を頼りにして、大声で騒ぎ、傍若無人なことを行う。

女性優位な人々は、以下の行為を、許容する。
一人や少人数の対象を、大勢の集団で、寄って集っていじめること。
（多勢に無勢。）

女性優位な人々は、集団内の一体感や、愛情を、何よりも重んじる。
女性優位な人々は、集団の一体感の強さや、集団が一心同体であることを、やたらと強調する。
例。彼らのグループが作る標語。「皆で、一丸となって、取り組もう。」
女性優位な人々は、皆で、一斉に集中して、何かをすることを、好む。
女性優位な人々の社会は、以下のような社会である。
人々が、互いの安全、保身を確保することを、最優先すること。
それを実現するため、人々が、皆で一緒に群れて、つるんで、周囲と互いに守り合う形で、行動すること。
それは、「護送船団方式」の社会である。

女性優位な人々は、皆が、分け隔てなく処遇されることを、求める。
女性は、食事もトイレも、皆、仲良しグループで、つるんで行動したがる。

女性優位な人々は、以下のような傾向を持つ。
一人が何か行動を起こした場合。その行動は、その人自身で自己完結せず、周囲の人々を否応なく巻き込んで、大事や、騒動になること。そうした可能性が、高いこと。

一人が起こした行動の責任が、その人自身の責任にとどまらず、グループなどの連帯責任になりやすいこと。

女性優位な人々は、周囲と無関係で居続けることが、難しい。
（ＶＳ男性：男性優位な人々は、グループよりも、一人で、独立し、自立していることを重視する。
男性優位な人々は、互いに訴訟し合うことを好む。
男性優位な人々の場合、責任は、個人で動く結果、一人で取る結果になる。）

（６）『所属の重視』

「所属を重視すること。包含の感覚や、胎内にいる感覚を、重視すること。みんなで一緒に死ぬことを、好むこと。」
女性優位な人々は、所属を重視する。
女性優位な人々は、彼ら自身の保身を、最優先する。
女性優位な人々は、彼ら自身を守ってくれる複数の他者の存在の確保を最優先する。
女性優位な人々は、必ず、どこかの集団に、所属しようとする。
女性優位な人々は、どこかに所属していないと、不安である。
女性優位な人々は、所属する集団から排除されることを何より恐れる。

女性優位な人々は、所属集団の他メンバーに対して、以下のように行動する。
彼ら自身が、他メンバーの機嫌を損ねて、集団から追い出されないようにすること。
彼らは、そのために、必死で、他メンバーに対して、忖度や、ご機嫌取りを、行うこと。
彼らは、集団内部のメンバー間において、行動面での同調性の確保や、心理的一体感の維持を、最優先すること。
彼らは、他メンバーへの批判を、意図的に控えて、迎合すること。

女性優位な人々が、いったん、所属集団から排除された場合。
彼らは、次の集団に入ろうとすると、なぜ前の所属集団から排除されたかについて、厳しい審査を、受ける。
彼らは、次の集団に、なかなか入れてもらえない。

女性優位な人々は、集団に属さずに、一人で独立し、自律すること

を、根底で嫌う。
女性優位な人々は、以下のように行動する。
どこの集団にも所属していない、一匹狼のような、自由な人。
そうした人を、フリーターや、フリーランスと呼ぶこと。
そうした人を、社会的に軽蔑すること。
そうした人の社会的評価ランクを下げること。
そうした人を、信用しないこと。

女性優位な人々は、どこの集団に入ったか、あるいは、どこの集団に所属しているかを、重視する。
女性優位な人々は、これから入ったり、所属する学校や会社の、名前やブランドを、重んじる。
女性優位な人々は、既に入ったり、所属しているか、過去に所属した学校や会社の、名前やブランドを、重んじる。
女性優位な人々は、正規の所属であることや、その集団内部の正規のメンバーであることを、重んじる。

女性優位な人々は、以下のように行動する。
臨時の非正規の集団メンバー。
そのメンバーが、正規のメンバーと、同じ仕事をしている場合。
そのメンバーを、集団内部に入れようとしないこと。
そのメンバーを、所属しているとは見なさないこと。
そのメンバーに対して、待遇面で、格差を設けること。

女性優位な人々は、メンバーが、所属集団のために、彼ら自身を犠牲にして、汗を流すことを、賞賛する。
女性優位な人々は、以下のように行動する。
所属集団の維持発展。
「私たちは、そのために、こんなに努力している。」
「私たちは、そのために、こんなに苦労している。」
「私たちは、そのために、こんなに自己犠牲している。」
そうした姿勢を、周囲に向けて、しきりにアピールして、彼ら自身の優越性を主張すること。

女性優位な人々は、以下のような行動を、重視する。
メンバーは、所属集団へと、身も心も、完全に包含され、吸収されること。
メンバーは、所属集団と、常に一体化していること。
メンバーは、彼ら自身が、あたかも、所属集団を代表する一人であるかのような心意気で、行動すること。

メンバーは、所属集団の身体の一部として、動くこと。
メンバー各自が、所属集団へと、完全に溶解し、融解すること。
所属集団それ自体が、ひとまとまりの人格を持って、動くこと。
そのような印象を、外部に対して、与えようとすること。

女性優位な人々の所属する集団は、メンバーに対して、姑のように、うるさく、厳しい。

女性優位な集団に所属するメンバー。
彼らは、会社や学校などの所属集団から、以下の行動を、要求される。
彼ら自身の全ての時間を、浮気せずに、１００パーセント全部、捧げること。
それは、休日や、残業時間を含める。
そのことを、生涯にわたって、強制されること。
そのことに対して、不平や文句を、一切言わずに、従順であること。

そうした集団のメンバーは、以下の対人関係を、要求される。
所属集団との、可能な限り長時間の、生涯にわたる付き合い。

女性優位な集団のメンバーは、以下の行動を、要求される。
彼ら自身のプライベートの全てを削って、所属集団に合わせること。
彼ら自身の時間の全てを、所属集団のために使い切ること。
（例。滅私奉公。）

女性優位社会は、息苦しく、束縛感、閉塞感に満ちている。
それは、奴隷状態と似ている。

女性優位な集団のメンバーが、所属集団によって、時間的にも、空間的にも、完全に包含されること。
そのことが、社会的に望まれる。
女性優位な集団のメンバーは、永続的に、所属集団に所属する。
女性優位な集団は、所属第一主義である。

女性優位な集団では、以下のことが発生する。
所属集団側で、そのメンバーの所属を維持できなくなった場合。
所属集団側によって、一方的に、メンバーとの関係が、破棄されること。

メンバーは、所属集団から自己都合で脱退することを、強いられること。

女性優位な集団の場合。
所属集団側では、いったんメンバーを集団の中に入れると、そのメンバーを外に出すことが、なかなか出来ない。

女性優位な集団のメンバーは、以下の行動を、要求される。
彼ら自身の所属集団の存続を、第一に考えること。
その存続のために、死力を尽くして、集団の全員が一丸となって、最期まで戦おうとすること。

女性優位な人々は、最後まで戦って、それでダメだった時は、所属集団丸ごと、滅びようとする。
女性優位な人々は、集団自決や、集団で一緒に死ぬことを、好む。
女性優位な人々は、集団への所属は、その集団限りで、完結させ、終わりにしようとする。

女性優位な人々は、以下の事象の発生を、好まない。
ある集団のメンバーが、他集団によって、拾われること。

女性優位な集団の場合。
所属集団は、メンバーが、一つの所属集団にのみ終生忠誠を誓うことを、望む。
所属集団は、メンバーが、2つ以上の集団に、同時あるいは逐次に所属することを、嫌う。

女性優位な集団のメンバーには、以下のように考えることが、求められる。
所属集団の存続が行われれば、彼ら自身は、その犠牲になって、一向に構わない。
所属集団の存続が行われれば、彼ら自身は、どうなってもよい。

女性優位な人々は、以下の精神を、尊ぶ。
集団のメンバーが、所属集団のために、特攻隊のように、進んで犠牲になること。

女性優位な所属集団は、運命共同体である。
女性優位な所属集団は、メンバーに対して、以下の考え方を、求め

る。
メンバーが、所属集団と、最後まで運命を共にすること。
メンバーが、所属集団と、一緒に死滅すること。

女性優位社会では、人々に対して、以下の行動が、求められる。
人々は、学校などを卒業すると同時に、どこかの企業や官公庁に、入社すること。
人々は、そのための内定を、予め取っておくこと。
仮に、人々が、所定の日に、きちんと新卒で、どこかの企業や官公庁に、入社しなかった場合。
人々は、所属集団から、外れ、放り出されたものとして、扱われる。
（それは、以下のように呼ばれる。既卒扱い。）
その結果、人々は、どこの会社にも、入れてもらえなくなってしまう。
（それは、以下のように呼ばれる。既卒差別。）

学校卒業の場合。転職の場合。
人々が、今までの所属集団から、時間的に切れ目なく、次の所属集団に入ること。

女性優位社会では、人々に対して、以下の扱いが、なされる。
人々が、所属において、どこにも所属しない、フリーの期間がある場合。
人々が、その履歴にブランクがある場合。
人々は、他の集団に、なかなか入れてもらえない。

女性は、以下のことを望む。
彼ら自身が、集団内部の一員で有り続けること。
彼ら自身が、集団の外に出されないこと。

女性優位な人々は、以下の言動を、要求される。
所属集団に対して、絶えず一体化し、同調し、気配りし、尽くすこと。
所属集団に対して、そうした姿勢を、ずっと見せ続けること。
そうでない場合。
人々は、所属集団の他メンバーの不興を買って、冷たく、よそよそしくされる。
人々は、所属集団の上位の女性によって、所属を、一方的に外され

る。
人々は、その結果、所属集団から、追い出されてしまう。
これが、女性優位社会の生きにくさの、根本的な原因である。

女性優位な人々は、転職を、所属集団からの排出と見なして、嫌う。
女性優位な人々は、転職を、ネガティブに捉える。
女性優位な人々にとっては、転職は、スキルアップとは、見なされない。
女性優位な人々にとっては、転職者や、転職の行為は、以下のように見なされる。
彼らが、前にいた集団で、他のメンバーと、うまくやっていけなかったこと。
そのため、彼ら自身が、その集団から、外に出されたこと。
あるいは、彼ら自身が、自主的に、その集団の外に出たこと。

女性優位社会では、以下の事象が発生する。
集団のメンバーが、彼ら自身の所属集団を、彼ら自身の意思で、出て行った場合。
その行為が、裏切り者の行為と見なされること。
その行為が、マイナスポイントとみなされること。
その行為が、非難されること。
そうした評価が、そのメンバーが持っていた、元の意図や目的に関わりなく、強制的に付くこと。

女性優位社会では、集団のメンバーは、以下の行動を要求される。
所属集団の用意した、人生のレールや、人生のエスカレーター。
メンバーが、そこから、決して外れないこと。
メンバーが、そこから、決して降りないこと。
所属集団は、その状態が保持される限り、そのメンバーの生活を、保証する。

一方、集団のメンバーが、いったん、所属集団のレールやエスカレーターを、彼ら自身の意思で、降りたり、卒業した場合。
メンバーのその後の生活は、自己責任扱いになる。
所属集団は、メンバーのその後の生活に対して、一切関与しない。
所属集団は、メンバーを、その後、一切助けない。

女性優位な人々は、以下のような感覚を好む。
所属集団に、彼ら自身が、包含された感覚。

所属集団が、彼ら自身の母代わりとなる感覚。
そのことで、あたかも、彼ら自身が、母の胎内にいるかのような感覚。

女性優位な人々は、所属集団との一体感が極めて強い。
それは、相手との一体感を重んじる、女性優位な性格である。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、どこかに所属するよりも、一人で独立し自立して、冒険することを重視する。
男性優位な人々は、所属することによって生じる束縛を避け、フリーな状態を好む。）

（７）『定住の重視』

「定住や、定着や、根付きを、重視すること。継続を、重視すること。専門家を、重視すること。一か所に固執すること。」
女性は、一箇所に定住し、定着して、長期間にわたって根付くことを、好む。
例。村落での居住する土地。勤め先の官公庁や企業。

女性優位な人々は、土着を、好む。
女性優位な人々は、転出して、出ていく人を、裏切り者と呼んで、嫌う。
女性優位な人々は、勤務先の企業などを、転々と変えることを、嫌う。
女性優位な人々は、定住しない、浮き草や根無し草のような人たちを、軽蔑する。
女性優位な人々は、以下のような人を、信用しない。
転職を繰り返す人。一つの職場に定職を持たない人。

女性優位な人々は、以下の行動を、好む。
一箇所に、腰を落ち着けること。
例。住居。職場。
その場で、居心地の良い、長期間居着くことを目的とした巣作りを、すぐ始めようとすること。

女性優位な人々は、重心が低く、腰が重い。

女性優位な人々は、一箇所に腰を落ち着けて、そこから動こうとしない。

女性優位な人々は、以下の行動を、重視する。
早いうちから、一つの分野を専攻すること。
そこに、腰を落ち着けて、根付くこと。
そこから、浮気せずに、その専門の一本道をずっと継続して歩むこと。
例。学者。役者。

女性優位な人々は、専門家を、重視する。
女性優位な人々は、「継続は力なり。」という言葉を、重んじる。
女性優位な人々は、以下の人々のことを、信用せず、軽んじる。
数多くの専門外のことに対して、多様な関心を持って、首を突っ込む人。
専門を、持たない人。専門を、決めない人。

女性優位な人々は、以下の内容に付いて、何でも知っており、答えられないことが無いことを、当然とする。
彼ら自身が代々住んでいる土地のこと。
彼ら自身の専門分野のこと。

女性優位な人々は、専門知識面での百点満点を、指向する。
女性優位な人々は、以下のことを、恥ずかしいことである、と考える。
知らないこと。
質問に対して、答えられないこと。
そうした質問に、他の人が、答えられること。

女性優位な人々は、以下の行動を、好む。
彼ら自身が回答可能な範囲を、狭く決めておくこと。
彼ら自身が、その範囲内では何でも答えられるようにすること。
そうすることで、彼ら自身が、専門家としての、彼ら自身の高いプライドを、維持すること。

女性優位な人々は、以下のことを、第一に考える。
知っていること。
知識があること。
彼らは、以下の行為に対して、エネルギーを集中する。
知識を、学習すること。

知識を、暗記すること。

女性優位な人々は、学殖のある知識人や、学者を、重んじる。

女性優位な人々は、以下の行動を、取る。
彼ら自身が根を下ろした、今までの意見。
それに対して、固執すること。
意見を柔軟に譲ろうとしないこと。
意見を変えようとしないこと。
何度でも、同じ意見を、蒸し返すこと。

女性優位な人々は、以下のように考えがちである。
「もしも、私が譲ったら、私の負けである。」
「もしも、私が変えたら、私の負けである。」

女性優位な人々は、以下の行動を、取りがちである。
彼ら自身にとって、譲歩の契機となる、対話や審議。
それを拒否すること。
その会議を欠席すること。

その話し合いが、いつまでも、平行線のままで、続くこと。
その話し合いが、押し問答となること。
その話し合いで、強行採決を、繰り返すこと。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、どこかにずっと定着するよりも、一人でどんどん新天地へと移動していくことを、重視する。
男性優位な人々は、新分野への新規参入能力や、新規アイデアや知見を生む能力を、重視する。）

（８）『同調性の強さ。強い嫉妬心。』

「同調性が強いこと。相互の心理的な一体化を、重視すること。画一性や、横並びや、流行や、トレンドを、重視すること。相対評価を、好むこと。嫉妬心が、強いこと。」
女性優位な人々は、同調性が強い。

女性優位な人々は、以下の行動を、重視する。

互いに、行動や考えを、同調させ、合わせること。
そうして、相互に、心理的な一体感を、得ること。
そして、その心理的一体化の状態を、絶えず持続させること。

女性優位な人々は、以下の性質を、重視する。
相互の考え方や、行動面における、同質性。
生育環境や、社会的身分における、類似性。

女性優位な人々は、流行や、協調性を、重んじる。
女性優位な人々は、周囲の流行に対して、敏感である。
女性優位な人々は、流行に対して、振り回される。
女性優位な人々は、メジャーな流行に対して、皆で追随しようとする。
（例。映画。アニメ。）

女性優位な人々は、付和雷同を、好む。
女性優位な人々は、トレンドに合わせて動くことを、好む。
女性優位な人々は、互いの間の気配りや、互いの足の引っ張り合いが、得意である。
女性優位な人々は、以下の状態を、強要される。
みんなが、一緒に、横並びでいること。
みんなが、分け隔てなく、同じであること。

女性優位な人々は、授業などを、一斉に行うことを、好む。
女性優位な人々は、以下の状態を、嫌う。
周囲の動きに、付いて行けないこと。
「落ちこぼれ。」
そうした立場の人々になること。

女性優位な人々は、以下のような人々に対して、以下の行為を行う。

///
性格面とかの問題で、周囲に対して、行動や考えを、上手く合わせていけないこと。
個人行動が好きで、周囲に対して、行動や考えを合わせないこと。
そうした他者。

///
異質者扱いすること。

いじめること。
仲間集団から、排除すること。
社会不適合者として、隔離すること。
軽蔑すること。
そうした他者が困っても、自己責任扱いして、助けないこと。
///

女性優位な人々は、以下の態度を、好む。
周囲との協調性や、気配りを、やたらと重視すること。

女性優位な人々は、以下のことわざを、信奉する。
「出る杭は打たれる。」

女性優位な人々は、以下の人々を、寄って集って、いじめる。
遅れて、お荷物になる人間。
周囲に歩調を合わせない、独立独歩タイプの人間。

女性優位社会では、以下の行為が、人々の間で、頻発する。
メンバー同士の相互同調。
それが作り上げる、その場を流れる一体感。
それが、女性優位な空気を形成すること。
その場にいるメンバーに対して、その空気に従うことを、強制すること。

女性優位な人々は、自由や、フリーであることを、本質的に嫌う。

女性優位な人々は、以下の心理を持つ。
///
相互牽制を好むこと。
嫉妬心が強いこと。

///
以下の行為の実現を、望むこと。
みんな同時に、同じところ、に同調して行くこと。

///
以下の行為を、決して許さないこと。
誰かが、一人だけ、抜け駆けをしようとすること。

女性優位な人々は、以下の行為を、好む。
人間や組織についての、成績評価。
それを、偏差値を利用して、周囲との相対評価で決めること。
偏差値の高さに対して、こだわること。

女性優位な人々は、以下の行為を、好む。
彼ら自身に対して気分を害する人が、出ないようにすること。
そのため、誰に対してでも、八方美人的に、平等に配慮すること。

女性優位な人々は、嫉妬深い。
女性優位な人々は、以下の状態の発生を、全力で阻止しようとする。
他の人が、彼ら自身よりも、上位に行くこと。
他の人が、彼ら自身よりも、良い思いをすること。
他の人が、彼ら自身よりも、楽をすること。

女性優位な人々は、以下の行為を、常に行う。
他者や、他の集団と、彼ら自身の立ち位置とを、相対的に比較すること。
上位を行く他者に対して、必死で追いつこうとすること。
上位を行く他者に対して、必死で追い越そうとすること。
そのために、互いに、各自を鍛錬し、向上させようとすること。

女性優位な人々のこうした嫉妬心の強さ。
それが、女性優位社会の向上の原動力となっている。

女性優位な人々は、以下の状態を、強力に指向する。
他人が、彼ら自身と、結果的に平等であること。
他人が、彼ら自身と、待遇面で、同一であること。
他人が、彼ら自身と、格差が無いこと。

女性優位な人々は、以下の行為を、好む。
彼ら自身に対する、不公平な扱い。
それを、嫉妬心満載で、金切り声を上げて、全力で告発すること。
例。「あの人は、私たちよりも、良い扱いを受けている。それは、私たちに対する差別である！」

その結果、女性優位社会では、以下のことが発生する。
そのようにして、足を引っ張られた者が、出る杭を打たれて、下に

沈むこと。
そうして、社会が、平等化し、均質化すること。

それは、女性優位な人々が持つ、以下の傾向に基づく。
上手く立ち回る他人に対する嫉妬心が強いこと。
上に行こうとした女性を、引きずり下ろすこと。
そうして、互いの、処遇上の一体感を求めること。
それらは、女性優位な性格である。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、以下の実現を、優先しようとする。
周囲と同調するよりも、各自が強い個性や独自性を持って、バラバラに、各自の能力を発揮できること。
各自が、新規のトレンドを生み出し、それに真っ先に乗って、追随者を多く生み出すこと。
男性優位な人々は、それらの実現に対して、心血を注ぐ。）

（９）『同期制や、先輩後輩制の重視』

「同期意識が強いこと。年功序列や、先輩後輩制や、エスカレーターを、好むこと。追い抜きや競争を、嫌うこと。」
女性優位な人々は、以下の行為を、好む。
集団に入るタイミングを、年一回などへと、一斉に合わせ、同期させること。

女性優位な人々は、以下の行為を、好む。
一緒のタイミングで同じ集団に入った人々。
その人々を、以下の存在と見なすこと。
互いに、同期している人々。
女性優位な人々は、以下の状態を、を求めたがる。
同期の人々の間で、互いに格差の無い、同一で、均等の待遇がなされること。

女性優位な人々は、以下の状態の発生を、好む。
同じ入団年次の人々。同期の人々。
彼らが、揃って、同期して、昇進すること。
彼らの昇進において、格差が生じないこと。

女性優位な人々は、以下の状態の発生を、好む。

彼ら自身が、エスカレーターに乗ること。
それと、同じように、彼ら自身に、以下のことが起きること。
彼ら自身が、年を取るに従って、その役職が、より上位へと、順調に昇進して行くこと。
組織内で年を取った先輩の人が、後輩の人よりも、常に上位者扱いされること。
年功序列の永続。
先輩後輩制の永続。

女性優位な人々は、以下の状態の発生を、嫌う。
同期の関係にある人同士。
彼らが、役職で上下に格差が生じた状態で、互いに顔を合わせること。

女性優位な人々は、以下の行為を、取りたがる。
同期の関係にある人同士。
役職の低い方の人が、役職が高い方の人と、互いに顔を合わせないようにすること。
その実現のため、以下の対策を取ること。
役職の低い方の人が、所属集団の外局に、落下傘のように降下すること。
役職の低い方の人が、組織の外に出ていくこと。
例。天下り。

女性優位な人々は、以下のことの発生を嫌う。
先に組織に入った先輩の人が、後から組織に入ってきた後輩の人に、昇進などで、追い抜かれること。
後輩の人が、先輩の人を、追い抜くこと。

女性優位な人々は、追い越しを伴う競争を根本的に嫌う。

女性優位な人々は、以下のことの発生を嫌う。
後輩の若い人が、先輩の年取った人よりも、上位になること。
そのことは、両者が、互いに、相手のことを扱いにくいとして、双方で、同時に、嫌う。

女性優位な人々は、以下の行為を、好む。
飛び級を嫌うこと。

用意された階段を、一段ずつ、順次登っていくこと。
例。学校での昇級。企業での昇進。

女性優位な人々は、以下のことの発生を嫌う。
彼ら自身が、いったん登った地位から、降格されること。

こうした性格は、以下の実現を求めることにつながる。
///
互いの処遇が、時間的に揃うこと。
互いの処遇における、一体性。
///
それは、女性優位な性格である。

こうした性格は、以下の行為を重視することにつながる。
彼ら自身に対して、安全性を担保する、前例や、知識や、経験。
それらの習得。

こうした性格の人は、以下の状態の発生を、当然のこととして、考える。
先に入学した人。先に入社した人。古参者。
彼らは、前例蓄積の度合いが、大きいこと。
彼らが、相対的な新参者に対して、上位になること。
その状態は、無条件で発生すること。
その状態は、いつまでも続くこと。

それらは、女性優位な性格である。

彼ら自身の子供を設けた女性。
彼らは、以下の条件に合致する者同士で、以下の対人関係を形成する。
///
彼ら自身の子供の就学年齢が、同じ者。
///
同期の「母親の友人」。
彼らは、互いに、同格の立場で、子供の教育のための情報交換を、一生懸命行う。

子供の学年の上下によって、「母親の友人」の間に、先輩後輩制が生成する。
母親同士の年功序列は、子供の年齢によって、決まる。
子供の年齢が同じ母親同士。
彼らは、各々の母親の実年齢に大きな格差があっても、同期の仲間扱いになる。
同学年の子供の他に、より年長の子供を持つ母親。
彼女は、年齢が若くても、先輩として、扱われる。

母親たちにとって、以下の条件が、以下の社会規範を、決定している。
彼ら自身の子供の年齢。その高低。
「母親の友人」の集団における、年功序列の基準。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、同期にこだわらない。
男性優位な人々の間では、以下の状態の発生が、当たり前である。
若い人が、年取った人よりも、役職が上であること。

男性優位な人々の場合、追い抜きや、競争が、日常茶飯事である。）

（１０）『物真似指向』

「物真似や、コピーや、合わせることが、好きであること。」
女性は、他人の物真似を好む。
女性は、物真似や、コピーや、パクリの文化の、持ち主である。
女性優位な人々は、周囲の動向や、流行に対して、必死になって付いて行こう、同調しよう、同期しようとする。
女性優位な人々は、周囲とは別の独自の途を、一人で歩むことを、好まない。
女性優位な人々は、各自の行動を、周囲に合わせようとする。

個人のオリジナリティ。個人の独創性。
女性優位な人々は、それらを、根本的に嫌う。
女性優位な人々は、以下の意見を持つ。
「一人だけ、周囲と違ったことをすることは、好ましくない。」

女性優位な人々は、以下の行為によって、以下の状態を発生させる

ことを、好む。
///
周囲の他者の真似をすること。
///
周囲との一体感の持続を、確保すること。
///

女性優位社会。
人々は、周囲と離れて一人ぼっちになることを、恐れる。
人々は、皆で一緒に群れて行動することを、好む。
それは、「護送船団」社会である。
人々は、彼ら自身の保身に対して、人一倍、気を遣う。
それは、女性優位な性格である。
（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、独自性を好む。
男性優位な人々は、個人のアイデアに基づく独創性を、好む。）

（１１）『和合の重視』

「和合や、一体感や、共感を重視すること。」
女性優位社会は、以下の状態の発生を、好む。
集団内部における、メンバー相互の一体感や、共感や、調和や、和合。
それらが実現すること。
それらが持続すること。

その社会は、以下の内容を持つ。
調和社会。
仲良しクラブ社会。
微笑みの社会。

女性優位な人々は、以下の状態を、良いことであると考える。
互いに同質で同じ考えを持つこと。

女性優位な人々は、以下の行為を、許さない。
集団の調和を乱す、個人個人の、バラバラで異質な、強い自己主張。

女性優位社会は、以下の人物に対して、以下の行為を行う。

///
集団の調和を乱す、突出した考えや行動の持ち主。

///
その人を、みんなで、いじめること。
その人を、寄って集って、袋叩きにすること。
その人を、潰そうとすること。
その人を、集団から、追い出そうとすること。

女性優位な人々は、以下のような傾向を持つ。
集団の存続。それ自体が、いつの間にか、彼らの間で、自己目的化すること。
集団内部が、メンバー同士の喧嘩別れによって、割れること。その発生を、嫌うこと。

女性優位な人々は、以下のような傾向を持つ。
彼ら自身が、互いに、集団の調和が保たれる方向へと、各自の行動を合わせること。
その社会は、以下のような社会である。
「迎合の社会。」「媚の社会。」

女性優位な人々は、以下のような対人関係を、好む。
相互の体温や、温もりが感じられること。
互いの距離感が無いこと。
互いに、親近性があること。
互いに、親しい相手に対して、プライバシーが欠如していること。

女性優位な人々は、以下の行き方に対して、以下のような態度を取る。
///
科学的な行き方。
相互の間で、距離を取ること。
対象となる相手を、客観的に、冷静に、見ようとすること。

///
そうした行き方を、根本的に嫌うこと。
「それは、相手との関係が、余りにも冷たい。それは、非人間的である。それは、不快である。」
///
それは、相互の一体感や、融合感を、重んじる。

それは、女性優位な性格である。

女性優位な人々は、以下の傾向を持つ。
揉め事などを、何事も丸く収めようとしがちであること。
訴訟や、裁判を嫌うこと。なるべく和解しようとすること。
物事の形状において、円形や、丸型や、柔軟なクッションを、好むこと。
円満解決や、大団円を、好むこと。
争いごとを避けること。
丸腰体質であること。

女性は、生得的に、集団主義者であり、同調主義者である。
そうした性格は、いずれも、個人主義的な、男性優位社会では価値が低い。
しかし、そうした性格は、女性優位社会では、とてもメジャーな存在である。

日本の国民性が、集団主義であること。
それは、以下のことの、動かない証拠である。
日本社会が、女性優位社会であること。
日本社会において、女性が強いこと。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、意見の対立や訴訟や戦争を、厭わない。
男性優位な人々は、人と意見が違っていて、当たり前である。）

（１２）『小グループ間の無関心』

「形成する小グループ同士が、バラバラで、無関係で、無連携で、無関心で、縦割りで、不仲であること。」
女性は、互いに一体感の持てる交遊の範囲を、個別に狭く限定しようとする。
女性は、互いに独立した、外に向かって閉じた、小さな集団や、サークルや、派閥を、沢山作りたがる。
（例。学校のクラスの女子高生たちが生成する、仲良しグループ。）
女性優位社会では、学校や企業などにおいて、メンバーの形成する社会集団が、小さく固まり、個別に小さく、互いにバラバラになり

やすい。
女性優位社会では、複数の小さな仲良し集団同士が、互いに閉鎖的で、排他的で、不仲である。
そのため、女性優位社会では、各々独立し、孤立した、個別の小集団同士の意思疎通が、そのままでは不足になる。

女性優位社会では、全体集団や、全体組織が、以下のようになりがちである。
///
互いに、ばらけたままの状態。
互いに、統合されにくい状態。
互いに、統制が取れない状態。
互いに、無関係で動く状態。
///

女性優位社会では、より小さなグループのまとまりが、より大きなグループのまとまりよりも、優先される。

女性優位社会では、例えば、政党において、派閥が、それぞれ独自に勝手に動いて、政党全体のまとまりを欠きがちである。

女性優位社会では、以下の事象が発生する。
集団の下位グループが、互いに連携しようとせずに、勝手にバラバラに重複して動くこと。
そうした動きは、その集団や社会全体の利益を損なう。
それは、縦割りの弊害である。
女性優位社会では、そうした弊害が、発生しやすい。

女性優位社会では、以下の事象の解決が、社会的な課題になる。
そうした閉鎖的な個別の小集団間の間を、取り持つこと。
それら相互の意思疎通を、図ること。
それらの間で、何とか互いに一体感を持たせること。
そうして、全体の統率を持たせること。

女性優位な人々は、個人について、以下のように言われることを、好まない。
「あなたは、独自である。」

一方、女性優位な人々は、彼ら自身の形成するグループについて、以下のように言われることを、好む。

「あなた方のグループは、独自である。」

女性優位な人々は、個人が、周囲からかけ離れて突出することは、好まない。
しかし、女性優位な人々は、所属グループごと突出することは、以下の理由で、喜んで受容する。
///
そのことで、彼ら自身の存在を強く主張できること。
そのことで、彼ら自身のグループのイメージを、強くすることにつながること。
そのことで、彼ら自身の自己保身が、有利になること。
///

女性優位な人々は、以下のように言われると、喜ぶ。
「あなた方は、他のグループや国と違う、他に無い、独自で独特の文化を、持っている。」

（ＶＳ男性：男性優位な人々にとって、グループは一時的なもので、個人単位でバラバラ、無関係である。男性優位な人々は、自分の利益のために、互いに関心を持ちドライに連携しようとする。）

（１３）『被保護への欲求』

「守られたいこと。頼りたいこと。養ってもらいたいこと。甘えたいこと。寄生したいこと。そうした心理が強いこと。自立しないこと。相互依存や、助け合いの心理が強いこと。自己愛が強いこと。強権者が好きであること。」
女性は、一人では不安を感じる度合いが強い。
女性は、以下のような気持ちが強い。
保護されたい、という気持ち。
守ってもらいたいという気持ち。

女性優位な人々は、依存心が強い。
女性優位な人々の間には、甘えの心が、充満している。
女性優位な人々は、大組織に対して、依頼心や、帰属意識や、甘えの心が、大きい。
例。官庁や大企業。

女性優位な人々は、以下の人物を、好む。
強くて頼りがいのある人。彼ら自身を、守ってくれそうな人。
そうした権力者。そうした異性。
彼らは、強い者の味方である。

女性優位な人々は、一人で自立するのは不安である。
女性優位な人々は、、誰かに助けてもらいたがる。
女性優位な人々は、強い者になびき、惹かれる。
女性優位な人々は、以下の存在に対して、心がときめく。
彼らのことを積極的にリードしてくれる、強権者。
女性優位な人々は、強権政治の出現を、心の底で望む。
女性優位な人々は、強権者の集団を、「上位者」と呼んで、神格化し、敬い、従う。
女性優位な人々は、「上位者」の言うことを信じて、その後を付いていく。
女性優位な人々は、以下の考え方に対して、根本的に馴染まない。
人々の、権力者からの自由を主張する、欧米流の、男性優位な民主主義。

女性優位な人々は、力の弱い者に対して、徹底的に冷たい。
女性優位な人々は、そうした人たちのことを、集団で、いじめたり、無視したり、差別したりする。
女性優位な人々は、力の弱い者が、少額の受益者になることを叩く。
（例。生活保護の受給者。）
しかし、人々は、強者による多額の受益に対しては、見て見ぬ振りをする。
（例。首相とその私的友人。）
女性優位な人々は、誰かに寄生して養ってもらいたがる。
女性優位社会における、「寄らば大樹の陰」ということわざが、この辺の事情を明示している。

女性優位な人々は、就職のとき、大きな企業を選びたがる。
そのことも、この一例である。

女性優位な人々は、ひとりで外部に露出することが不安である。
女性優位な人々は、強い存在に対して、頼ろうとする。
女性優位な人々は、強い存在によって、守ってもらおうとする。
女性優位な人々は、強い者や、お金のある者から、おこぼれを頂戴

しようとする。
女性は、集り根性が強い。
女性は、年収の多い男性から、食事をおごってもらおうとする。

女性優位な人々は、以下の考え方を、重視する。
持ちつ持たれつであること。
困った時はお互い様であること。
相互依存。
助け合い。

女性優位な人々は、お世話になった相手に対して、お返しをする。
彼らは、そのことで、相手との関係を、対等にしようとする。

女性優位な人々は、自己愛が強く、自己中心的である。
女性優位な人々は、自分のことが、一番大事で、大切である。

女性優位な人々は、以下の傾向を強く持つ。
自己保身について、気を遣うこと。
何事においても、優先して守られ、エスコートされること。その実現を、周囲に対して、絶えず要求すること。
それは、女性優位な性格である。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、自分の身は自分で守る。
男性優位な人々は、自助を基本とする。）

（１４）『権威主義』

「権威主義者であること。批判、反論を許さないこと。」
女性は、権威や、ブランドに対して、弱い。
女性優位な人々は、権威主義者である。
女性優位な人々の文化は、媚の文化や、迎合の文化である。
女性優位な人々は、自らの保身のため、以下の人々を、「先生」と呼んで、その後を追従し、ペコペコする。
権威ありそうな、主流派を形成している人。
大学、病院のような知的権威のある機関に属する教師や医師。

女性優位な人々は、先輩後輩制の生みの親であり、その熱烈な支持

者である。
その制度の下では、以下の者は、以下の者に対して、以下の行為が可能である。
///
年長者。古参者。旧住民。
///
年下の者。新参者。新住民。
///
一方的に、権威ある上位者の面をして、威張ること。
何でもありの、専制支配を、行うこと。

女性優位な人々は、彼ら自身も、権威ある者の後ろを歩めば、安全であり、威張っていられると考える。
女性優位な人々は、権威ある人の言う事を聞いていれば、大丈夫であり、間違いない、と考える。

女性優位な人々は、以下の存在を、求めたがる。
彼ら自身の身の安全。彼ら自身の判断の正しさ。
それらを保証してくれる存在。
彼ら自身よりも、外部の存在。
彼ら自身よりも、大きな存在。

女性優位な人々は、彼ら自身よりも強そうな者に対しては、媚を売り、ペコペコと頭を下げる。
しかし、彼らは、相手が弱そうな場合は、途端に強気に出る。
彼らは、相手に対して、嫌な仕事の押しつけや、恐喝まがいのことを、平気で行う。

女性優位な人々の取る態度。
///
上位者に対して、隷従すること。
例。同調すること。一体化すること。忖度すること。ご機嫌取りをすること。
///
下位者に対して、専制支配を行うこと。
ふんぞり返ること。威張ること。
///

女性優位な人々は、以下の事象に対して、以下の態度を取る。
///
下位者による反論。
///
それを、一切許そうとしないこと。
「それは、生意気な反逆である。それは、勝手な自己主張である。」
///

女性優位な人々は、下位者による、上位者への隷従を、当然のように要求する。

女性優位な人々は、以下の行動を取る。
///
彼ら自身を、権威付け、高く見せること。
そのために、評価の定まったブランド品を、進んで身に付けようとすること。
欧米列強などの社会的強者の文物を、権威があるとして、やたらと崇拝すること。
///
とりあえず信じておけば間違いない、定説とされる学説。
それを、宗教のように信仰すること。
それに対して、異を唱えることを、一切認めないこと。
///
権威ある定説が書かれた教科書の内容。
その通りにすれば、決して失敗しない、と考えること。
その内容を、盲目的に、そのまま丸呑みする形で、暗記学習すること。
その内容に対して、心理的に同調し、一体化すること。
その内容の正しさを、盲目的に、信仰し続けようとすること。
///

女性優位な人々は、以下の存在に対して、以下の行為を行う。
///
彼ら自身を、押し倒し、圧倒した、強大な存在。
///
それに対して、なびくこと。

進んで、その色に染まること。
そうした存在に対して、盲目的に追従し、進退のお伺いを立てること。

女性優位な人々は、以下の存在に対して、以下の行為を、一切許さない。
///
権威ある者。
例。先生。先輩。
///
彼らに対する、以下の行為。
口答え。批判。反論。
///

女性優位な人々は、それらの行為について、以下の事象の発生を、懸念する。
///
そのことで、相互の一体感が損なわれること。
そのことで、言われた方の威信に、大きな傷が付くこと。
///

彼らは、そうした存在に対する絶対服従を、周囲に対して、強要する。

女性優位な人々の社会では、以下のことが存在しない。
下位者から、上位者への、反論の自由。

女性優位な人々の社会では、言論は、専ら、以下の状態になる。
上位者から、下位者への、一方通行。

その社会では、言論の自由は存在しない。

女性優位な人々の社会。
その社会では、下位者は、上位者に対して、言論面では、一方的に忍従するしかない。
その社会では、下位者は、以下の場合を除いて、上位者の言うことを聞くしかない。
///

下位者が上位者に対して、取り入って、ご機嫌取りをすること。
そのことで、下位者が、上位者から、以下の行為の実行を、許されること。
///
下位者が、上位者に対して、懐くこと。
そうして、下位者が、上位者から受容されること。
///

女性優位な人々は、以下の行為を、発達させ、促進する。
尊敬語や謙譲語といった、敬語の使用。

それは、以下の行為を前提とした、言葉遣いである。
対人的権威。一方的な上下関係。
それらの積極的容認。それらの社会的強制。

女性優位な人々は、批判に対して、根本的に弱い。
そのため、彼らは、彼ら自身の保身のため、彼らに対する一切の批判を、許さない。

女性優位な人々は、権威に寄りすがろうとする。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、権威に盾付く。
男性優位な人々は、批判や反論の自由を、求める。
彼らは、そうした自由を行使することを、好む。）

（１５）『リスクの回避』

「安全第一で、保身第一であること。不安感が強いこと。退嬰的であること。リスクやチャレンジを、回避すること。独創性が欠如すること。」
女性は、安全第一で、自己保身第一で、行動する。
女性は、不安を感じる度合いが、強い。
女性は、臆病で、退嬰的である。

女性優位な人々は、冒険しない。
女性優位な人々は、ベンチャーを嫌う。
女性優位な人々は、失敗を怖がる。

女性優位な人々は、前例がないと何もできない。
女性優位な人々は、彼ら自身が、失敗しないことを、最優先する。
そのため、彼らは、何をやるにも必ず、以下の人々に相談し、アドバイスを受けようとする。
///
成功例や成功するノウハウを知っていそうな経験者。
既に成功した権威者や上位者。
例。先生。先輩。
///

女性優位な人々は、教科書の内容を、暗記学習しようとする。
その中には、以下の事項が、書かれている。
その内容に従って学習すれば、社会的に失敗しない、成功できるノウハウ。

女性優位な人々は、独創性が欠如している。
女性優位な人々は、先進国が生み出した学説の後追いばかりを、やっている。
例。大学の人文社会科学分野。
例。欧米諸国の学説の後追い。

女性優位な人々は、以下の実現についての気概に乏しい。
既存の学説を乗り越えて、新たな学説を、作ろうとすること。

女性優位な人々は、既存学説との、同化や一体化の力が、強過ぎる。

女性優位な人々は、以下の分野に関して、以下のような考え方を持つ。
///
未知の分野。
///
その中では、どんな失敗をするか分からない。
その中に入ることは、怖い。
///
彼らは、その分野には、手を出したがらない。

女性優位な人々は、以下のように、考える。
「私たちは、先頭に立たず、先駆者の後を追う方が、より安全である。」

女性優位な人々は、以下の行為を、避ける。
///
危ないこと。
リスキーなこと。
未知の新しいこと。
///

女性優位な人々は、以下のことが、嫌である。
///
モルモットになること。
実験台になること。
///

女性優位な人々は、以下の態度を取る。
///
より危険で、風当たりの強い、一番手になることを嫌うこと。
より安全で、楽な、二番手で行こうとすること。
///
以下の存在になることを、避けること。
皆を先んじて率いるため、より大変な、リーダー。

以下の存在になりたがること。
ただ、リーダーの後を付いて行くだけで良い、楽な、フォロワー。
///

女性優位な人々は、チャレンジを心の底で嫌う。

女性優位社会の科学技術が、男性優位社会より、常に遅れること。
女性優位社会の後進性の現れ。
それは、以下のような女性性と、関係がある。
不安の強さ。
安全指向。
退嬰性。
前例指向。

そのことは、例えば、日本社会において、女性が強い証拠に当たる。

女性優位な人々は、以下の行動を取る。
//
危険の回避。
//

その具体的な内容。

彼らは、以下のように、行動する。

////
危険性。
その内容について、彼ら自身で、積極的に、考えること。
それを伴う内容。それらを、彼ら自身で、実行すること。
//
危険な事態。
その発生を想定して、行動すること。
////

それらのことを、嫌うこと。
それらのことを、回避すること。

//
最悪の事態。
その発生を想定して、行動すること。
//

それらのことを、嫌うこと。
それらのことを、回避すること。

最悪の事態。
それは、とても危険な状況である。
それは、人々の命に関わる状況である。

女性優位な人々。
彼らは、以下のように、行動する。

//
彼ら自身の保身。
その保持。
その永続。
それらを脅かす事態。
//
危険な事態。
彼ら自身の命を脅かす事態。
//

そうした場面に対して、直面すること。
そうした状況が発生すること。
それらの可能性。

//
彼らは、それらのことを、回避する。
彼らは、それらのことを、想定しようとしない。
彼らは、それらのことを、考慮しようとしない。
彼らは、それらのことについて考えること自体を、回避し、拒絶する。
//

彼らは、以下の内容のみを、想定する。

////
彼ら自身の保身。
その確保を、最優先すること。
//
安全第一主義。
事なかれ主義。
////

それらが有効な世界。
それらの実現が可能な世界。

仮に、誰かが、以下の内容を主張した場合。

////
危険な事態。
彼ら自身の命を脅かす事態。
そうした場面に対して、直面すること。
そうした状況が発生すること。
それらの可能性。
//
人々が、それらのことを、想定すべきであること。
人々が、それらのことを、予め、考慮すべきであること。
////

その人物は、女性優位な人々から、敬遠される。
その人物は、女性優位社会から、追放される。

仮に、誰かが、以下の行為を実行した場合。

////
危険な行為。
安全性が保証されない行為。
前例を踏襲しない行為。
////

その人物は、女性優位な人々から、敬遠される。
その人物は、女性優位社会から、追放される。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、安全や保身に対して、こだわらない。
男性優位な人々は、リスクに対して、積極的にチャレンジする。
男性優位な人々は、独創性に富んでいる。）

（１６）『前例踏襲指向』

「前例や、しきたりや、レールの偏重をしやすいこと。前例の小改良や磨き上げが、得意であること。先輩後輩関係や、師弟関係が、きついこと。」
女性は、前例となる知識やノウハウの、急速な学習や、消化や、吸収において、長けている。

例。女性優位社会である日本。その社会は、明治維新の時などにおいて、欧米先進国の新知識を、素早く吸収し、学習し、程なく我が物にすることに成功した。

女性優位な人々は、学校や学習塾や予備校などにおいて、前例となる知識やノウハウの学習について、とても熱心である。
女性優位社会では、前例や、しきたりの蓄積の度合いに応じて、
人々の上下関係が決まる。
女性優位社会では、前例や、しきたりを豊富に持っている人ほど、
集団や組織の中で、上位者になれる。
女性優位な人々の間では、年功序列や、先輩後輩関係がきつい。
その社会では、後輩は、先輩に対して、逆らえない。

女性優位社会では、集団や組織において、以下の事象が発生する。
古参者と、新参者との関係。古参者と新参者との間における、支配と隷従の度合いが、きついこと。

女性優位社会では、集団や組織において、以下の事象が発生する。
師弟関係。師匠と弟子との間における、支配と隷従の度合いが、きついこと。

女性優位社会では、以下の事象が発生する。
///
前例や、しきたりを、たくさん習得しているとされる人。先生や、師匠。
前例や、しきたりについて、無知とされる人。生徒や、学生や、弟子。

前者は、後者に対して、威張って、反論を一切許さない。
前者は、後者に対して、一方的な講義や説教を行っている。
後者は、それをありがたがって、拝聴している。
///

女性優位社会では、、以下の事象が発生する。
高齢者が、前例や、しきたりを、たくさん習得していると見なされる。
彼らは、無条件で、上位者扱いされやすい。
例。家庭における、祖母。

その社会では、老人による社会支配が本質的に起きやすい。

女性優位な人々は、老人や古参者による社会支配に対して、永遠に従い続ける。
女性優位な人々は、そのことで、彼ら自身の社会が老化して、機能不全に陥っても、彼ら自身では、それを変えられない。
女性優位社会では、新人いじめが、当たり前に行われる。
その社会では、いずれの組織においても、新参者の地位が、低い。
その社会では、いずれの組織においても、若者の地位が、低い。
それは、女性優位社会の家庭における、嫁姑関係に通じる。
それは、家風習得の度合いの面で、姑が先輩に当たり、嫁が後輩や新参者に当たる。
そのことで、姑は、嫁を盛んに虐める。

女性優位社会では、前例となる知識や技能を持っている者が、理屈抜きで偉いとされる。
その社会では、若者が豊富に持つと考えられる独創性は、評価されない。

安全性を第一と考えること。
そのことを実現するために、未知の危ない道を通ることを避けて済ませること。
人々がそれらを行うには、取るべき行動の前例となる経験知識を豊富に積んでいることが必要である。
そうした前例としての経験知識は、年功の上の人たちが、より多く持っている。

女性優位な人々は、以下の行為に長けている。
既に誰かが先行して成し遂げた、オリジナルの前例を、吸収、学習すること。
そうして、その小改良を着実に重ね、磨き上げを重ねて、競争力を付けること。
そうして、オリジナルの存在を凌駕し、競り勝つこと。
その結果、最終的に、オリジナルを打倒すること。

女性優位な人々は、人生において、決まったレールの上を進むことを、好む。
彼らは、レールから外れることを恐れ、歓迎しない。
それは、未知の危険を避け、前例のある道のみを行こうとする性格である。

それは、女性優位な性格である。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、前例や、しきたりに対して、こだわらない。
男性優位な人々は、それらを、積極的に、破壊し、批判する。
男性優位な人々は、代わりに、彼ら自身の力で、新しい知見を生み出す。
男性優位な人々は、それを、普遍的に普及させようとする。）

（１７）『後進性。現状維持。』

（１７－１）「思考が伝統的で、封建的で、後進的であること。」
（１７－２）「無競争や、無風や、停滞や、既得権益などの現状維持が好きであること。不変を好むこと。」
（１７－３）「外部からの先進的考えの流入に抵抗するが、いったん突破されると諾々と受容すること。しかし、それらの流入が止むと、元に戻ること。」
女性は、考え方が伝統的で、後進的で、遅滞的で、封建的である。
女性優位な人々の社会では、祖母や、姑や、古株の人のような古参者が偉くて、新参者が古参者を超えることができない。
女性優位な人々は、古い伝統に縛られ、前例やしきたり、現状維持を重視する。
女性優位な人々は、集団内部での内発的な進歩的な新たな試みを、危険であるとみなして皆潰してしまう。女性優位な人々による、こうした心理は「姑根性」という言葉で表現できる。
女性優位な人々は、新参者が古参者を後から追い越す可能性のある競争を嫌う。彼らは、既存の安寧秩序を守ろうとする。
女性優位な人々は、波風が立つのを嫌い、無風や、凪や、停滞や、事なかれであることを好む。
女性優位な人々は、既得権益などの不変性や、その維持を好む。
女性優位な人々は、自分たちの世代がした苦労を、次世代の人たちにもさせよう、押し付けようとする。女性優位な人々は、次世代の人たちが技術革新によって楽をすることを、嫌う。
女性優位な人々は、外来の新しい文化の流入に抵抗する。しかし、彼らは、それらに圧倒され、突破されると、それらを無条件で受容し、追随する。
女性優位な人々は、進歩的な文化、制度が外部からやってくることを、警戒し抵抗する。

女性優位な人々は、外部文化に圧倒され、突破されると、手のひらを返して、その進歩的な考え方に、ほとんど盲目的に追随し、丸呑みしようとする。
女性優位な人々は、外部から入ってくる、優勢で抵抗しがたい、自らの力では生み出せない、新たで進歩的な考え方、思想、製品に、無条件、無批判で、我先に追随し、取り入れよう、真似しよう、小改良しようとする。
女性優位な人々は、率先して取り入れたこと、導入した結果を、周囲に対して箔付けして、自慢する。
外部からの先進的な考えが入り込むことに抵抗しつつ、いったん突破されると諾々と受容、丸呑みすることは、男性優位な精子に対する、女性優位な卵子の受精関係に似ている。これは、卵子的行動様式と呼べる。
女性優位な人々が、そのように進歩的で新しい、競争的な態度を取ることは、外部から優勢な新しい考えが存在し、流入していて、それに対処する必要が生じている間だけである。
女性優位な人々は、外部からの新規文化の流入が止まると、元の無風の凪状態で、現状維持的で、既得権益を維持する気風に戻る。
女性優位な人々は、日本の天皇制のように、ずっと不変なもの、永続するものを好む。
女性優位な人々は、変化を嫌う。女性優位社会の遅滞や封建制の本質は、危険やチャレンジを避けて、安全な前例を守ろうとする女性や、母性の性格にある。
（ＶＳ男性：男性優位な人々は、思考が、伝統に囚われず、先進的である。男性優位な人々は、競争や、変化を好む。男性優位な人々は、外部からの先進的な考えを、当初から積極的に歓迎し、発展させようとする。）

（１８）『恥や見栄の重視』

「恥や、見栄を重んじること。内部問題を、対外的に隠蔽すること。綺麗事や、美辞麗句を好むこと。」
女性は、自分に対して向けられる他者の視線や評価を非常に気にする「恥の文化」の持ち主である。
女性優位な人々は、自分が周囲にどう思われているか盛んに気にして、周囲によく思われようとして、いろいろ気を遣ったり、演技をしたりする。
女性優位な人々は、八方美人であり、周囲の国にいい印象を与えることに懸命である。

女性優位な人々は、周囲から自分がどう思われているか、自分が気に入られているかどうかが、気になって仕方がない。
女性優位な人々は、自分が周囲に気に入られるように、盛んに媚びたり、いい子ぶったりする。
女性優位な人々は、自分の周囲に対する印象をよくするために、やたらと気配りをしたり、外面的な見かけを整えたりすることに、忙しい。
女性優位な人々は、面目や体面を、とても気にする。
女性優位な人々は、常に人の目が気になって仕方がない。
女性優位な人々は、他の人に見られているという感じが、強い。
女性優位な人々は、他人の視線を前提とした、見栄張りの行動を行う。それは、「見栄の文化」である。
女性優位な人々は、自分が他人にどう見えるかについて、自意識過剰である。他人の視線を前提とした化粧や服装のチェックは、女性の方が、行う度合いがより高い。
女性優位な人々は、自分や自分たちのグループが内部に問題を抱えていることを、外部に対して、必死になって隠そうとする。
女性優位な人々は、問題が無い振りをしようとする。
女性優位な人々は、良い格好をしようとする。
女性優位な人々は、対外的に良い子でいようとする。
女性優位な人々は、「ぶりっ子」をする。
女性優位な人々は、自分についての良くない噂が広まること、そうした騒ぎが起きることを、何よりも恐れる。対外的に自分が良く見られたい、受け入れられたいとして、問題を隠すなど自分の印象操作することは、女性の方が、行う度合いがより高い。
女性優位な人々は、感覚的に美しく快い美辞麗句やスローガンを使うことを好む。
女性優位な人々は、大勢がいる中で発言することで、皆の注目を集めてしまうことや、失笑を買うことが恥ずかしくて、他人の目が気になって、発言できない。
女性優位な人々は、シャイである。
女性優位な人々は、プライベートな小グループの中だと、発言できる。
（ＶＳ男性：男性優位な人々は、人目を気にせず、自分の良かれと思うことを恥も外聞も無く堂々と行う。男性優位な人々は、セキュリティのために内部プライバシーを重んじる反面、情報のオープンな提示に積極的である。男性優位な人々は、公開の場で歯に衣を着せない発言をして、物議を醸す。）
R.Benedictが、「菊と刀」の中で唱えた、罪の文化や恥の文化との関連。

男性は、「罪の性」である。男性優位な人々は、誰かに見られていなくても、悪いことをしたとして罪悪感を感じ、償いの行動を起こす。男性は周囲の動向とは独立して、独りだけで罪悪感を感じる点、ドライであり、罪の文化（男らしい文化）の基盤をなす。
女性は、「恥の性」である。女性は、「赤信号、皆で渡ればこわくない」といったように、罪悪感を感じるかどうかが、周囲の視線の有無や動向に左右される点、ウェットであり、恥の文化（女々しい文化）の基盤をなす。女性は、他者に「見られている」感が強く、他者の視線を前提にした自己アピールである、化粧や服飾やファッションを好む。
日本が「恥の文化」に基づく社会となったのは、恥の性である女性が、社会の根幹を支配しているからである。

（１９）『気配りの重視』

「配慮や、気配りや、遠慮を重視すること。」
女性は、周囲の他者に対して、心情的に細やかな配慮や、気配りや、遠慮をすることを重視する。
女性優位な人々は、周囲に対して、温かい思いやりの気持ちを持って接することを重視する。
女性優位な人々は、温もりに満ちた社会の実現を、目指そうとする。
周囲への細やかな気配りは、女性のほうが得意である。
（ＶＳ男性：男性優位な人々は、直接的な物言いを好み、配慮や、気配りに欠ける。男性優位な人々は、遠慮をせず、どんどん物を言う。男性優位な人々は、積極的に交渉する。）

（２０）『清潔さの重視』

「清潔さを好むこと。みそぎをすることや、洗い流すことや、総取り替えすることを、好むこと。」
女性は、自分の心身を、洗い流して清めることが好きである。
女性優位な人々は、汚れや、穢れを嫌う。
女性優位な人々は、清潔好きで、きれい好きである。
女性優位な人々は、河川などにおいて、清流を好む。
女性優位な人々は、自分の吐く息などが他の人に臭ったりしないかどうかのエチケットに、やたらとうるさい。
女性優位な人々は、彼ら自身の汚れや、穢れが、他人に回ったり、

転移したり、伝染したりしないか、影響を及ぼさないか、とても気にする。
女性優位な人々は、他人の汚れや、穢れが、彼ら自身に回ってきたり、転移したり、伝染したりしないか、影響を及ぼさないか、とても気にする。
女性優位な人々は、他人に対して、汚れていない、綺麗な、清らかな、良い印象の自分を見せようとする。彼らは、やたらと彼ら自身の髪や身体を洗うことを好む。
女性優位な人々は、綺麗な水流に入って、心身の汚れや、穢れを洗い落としたつもりになることを好む。
女性優位な人々は、風呂に入ることを好む。
女性優位な人々は、失敗や過去を、「水に流して」済まそうとする。
女性優位な人々の考え方は、自身の身体の汚れに対して自意識過剰になって毎朝シャワーやシャンプーを繰り返すことに余念が無い女子中学生と、考えが一緒である。
女性優位な人々は、互いに（女性優位に）自己の保身を図るために、護送船団方式で、互いに密集して一体感を持って共同生活することを指向する。
女性優位な人々は、そのため、互いに、近場の他人の身体の汚れが、彼ら自身に付かないか、伝染しないかについて、敏感になっている。彼らは、互いに、彼ら自身の身体の汚れが他人に付かないか、伝染しないかについて、敏感になっている。

女性優位な人々は、新しい導入物に感化されやすい。
女性優位な人々の社会は、新たに外から圧倒的な力を持って入ってきた文化や、国内から新機軸を打ち出して成功した新興勢力の文化に対して、社会全体が一瞬のうちに簡単に感化されてしまう。
女性優位な人々は、今まで自分たちが大切にしてきたはずの、もともと持っていた文物を、新しい文物と総取り替えで、簡単に二束三文で投げ捨ててしまう。
女性優位な人々は、新しい権威やカリスマが生み出した、新たな力ある文物に、各自が自分だけ乗り遅れないように、必死で追随しようとする。
女性優位な人々の社会では、社会全体が、一斉に新たな文物に乗り換えて、古い殻を脱ぎ捨てる現象が起きる。
女性優位な人々は、各自が周囲の動向に敏感で、少しでも遅れて仲間はずれになるまいとして、必死で同調する、
女性優位な人々は、力ある存在に我先に順応して、我が身の保身を図ろうとする。それらは、いずれも女性優位な性格である。

（ＶＳ男性：男性優位な人々は、汚れに寛容であり、シャワーの回数が少ない。男性優位な人々は、新文物が導入されても、古い、よりオリジナルな思想に基づく文物は、捨てない。男性優位な人々は、各自、互いに一人で我が道を行くことを、許容する。）

（２１）『責任の回避』

「責任を回避すること。決定や判断を、停止し、回避し、先送りすること。無責任であること。匿名行動を好むこと。」
女性は、責任回避や、責任転嫁の傾向が強い。
女性優位な人々は、彼ら自身の取った行動の結果生じる責任を一人で負うことをいやがり、皆で連帯責任にして、一人当たりが負うリスクを軽くしようとする。
女性優位な人々は、そうすることで、失敗の責任を取らされて危ない目に会うことや、社会的生物を失うことを、避けることができる。
女性優位な人々は、あるいは、物事の決定について、できるだけあいまいな玉虫色の態度を取ることで、責任の所在を不明確にして、責任逃れができるように逃げ道を作ることが上手である。
女性優位な人々は、そもそも責任が生じる意思決定を行うことや、判断すること自体を、回避し、停止し、保留する。
女性優位な人々は、彼ら自身からは決断せず、誰かに決めてもらおうとする。
女性優位な人々は、彼ら自身以外の、責任を取れる人に、判断を一任する。彼らは、その判断が下るまで、彼ら自身からは決定せず、待ちの姿勢を取り、判断対象を体良く無視し続ける。
女性優位な人々は、判断を他人に決めさせることで、決めた他人に決定責任を押し付ける。
女性優位な人々は、彼ら自身から進んで動くと、行動責任を問われるので、彼ら自身からは進んで動かず、誰か他の人がモルモットになるのを待つ。
女性優位な人々は、彼ら自身では責任を取りたくないので、誰か、自身の行動に責任を取ってくれる指導者の存在を望む。
女性優位な人々は、決定や、決断を先送りする。
女性優位な人々は、無責任である。
女性優位な人々は、彼ら自身が取った行動について、後々まで彼ら自身がやったという証拠が残って、責任追及されることを避ける。
女性優位な人々は、そのため、彼ら自身が誰かを、他者に特定されることを恐れ、匿名でいようとしたがる。

女性優位な人々は、証拠が残ることを好まない。
女性優位な人々は、SNSなどで、個人情報や、実名や、顔を出すことを好まない。
女性優位な人々は、失敗時、潔く責任を取ろうとせず、責任逃れの言い訳をすることを好む。それは、社会的に、責任を取ることを免除されやすい、女性優位な性格である。
（ＶＳ男性：男性優位な人々は、個人行動を基本とするため、責任は回避できない。男性優位な人々は、決定や判断を、急ぐ。男性優位な人々は、責任感がある。男性優位な人々は、実名での行動や顔出しを、好む。）

（２２）『懐きの重視』

「可愛がること。懐くこと。慕うこと。情けを掛けること。気に入られること。それらの重視。」
女性優位な人々は、上位者によって気に入られることを重視する。
上位者は、定住集団の主宰者であり、集団内の秩序決定者である。
女性優位な人々は、上位者を慕う。
上位者は、人々にとって、尊敬できる。
上位者は、既に、有能さや名声を確立している。
あるいは、上位者は、将来が有望そうである。

女性優位な人々は、以下のことの実現を重視する。
上位者に気に入られて、上位者が主宰する定住集団への入団や所属を許されること。
尊敬する上位者や集団メンバーと、心理的に一体化すること。
それによって、次のことが実現すること。
彼ら自身の自尊心の向上。
彼ら自身の人生の将来性の向上。
彼ら自身の個人的な保身の度合いの向上。

女性優位な人々は、所属する定住集団の中で、以下のことの実現を指向する。
上位者を慕い、上位者に懐くこと。
上位者の内面を、より詳しく理解すること。
上位者とより親密になること。
上位者に対して、心理的な忠誠心を見せること。
彼ら自身が上位者のために必死になって努力しているところを、上位者に見せること。

彼ら自身が、上位者の気に入る意見を述べること。
彼ら自身が、上位者の気に入る成果を上げること。
そうして、以下のことを実現すること。
上位者に心理的に取り入ること。
上位者に気に入られること。
上位者によって可愛がられること。

女性優位な人々は、以下のことの実現に必死になる。
所属する定住集団への所属状態を維持すること。
そのために、上位者ばかりでなく、所属する定住集団の他のメンバーにも、心理的に受け入れられ、可愛がられること。
女性優位な人々は、以下のことを避けることに必死になる。
所属する定住集団の他メンバーに嫉妬されること。
他メンバーに自分の無能さをうっかり見せてしまうこと。
他メンバーの機嫌を損ねて、排除されること。

女性優位な人々は、そのために、必死になって気を遣い、努力する。

女性優位な人々は、以下のことの実現を重視する。
彼ら自身が、上位者に気に入られること。
彼ら自身を、上位者の手で、所属する定住集団内で、より上位の地位に引き上げてもらうこと。
彼ら自身が、定住集団の中で、出世昇進すること。
そのことで、定住集団内の他メンバーを心理的に超越して、優越感に浸ること。
上位者特権集団の一員になって優遇されること。
彼ら自身の身分が、高止まりで安泰になること。
彼ら自身の保身が、より確実になること。

女性優位な人々は、以下のことの実現を重視する。
所属する身内集団の中で、彼ら自身が、上位者から、その後継者として選ばれること。
上位者の地位が、彼ら自身へと、譲られること。

女性優位な人々は、以下のことの実現を回避する。
所属する定住集団の中で、上位者の意向に逆らう言動をすること。
そうして、上位者の機嫌を損ねること。
その結果、定住集団内部で一気に疎外され、冷遇されるようになること。

女性優位な人々は、上位者に気に入られている状態を、必死になって維持、継続しようとする。
女性優位な人々は、その時々の上位者に、自分の保身を最優先して、その都度、態度の手のひら返しをして、しきりに気に入られようとする。
女性優位な人々は、以下のことの実現を重視する。
彼ら自身を可愛がる上位者に対して、懐いている態度を見せること。
その上で、上位者に対して、個人的お願いや相談の形で、さりげなく意見を述べること。
そうして、上位者との心理的一体感を維持しつつ、上位者の意見を、彼ら自身の望む方向へ変えること。

女性優位な人々は、以下のことの実現を重視する。
彼ら自身が尊敬し、慕い、懐く上位者に、彼ら自身の進退のお伺いを立てること。
そうして、彼ら自身の人生を、上位者に預けること。

女性優位な人々は、以下のことの実現を重視する。
成員が、その中枢に深く入り込んだ集団内で、上位者に可愛がられること。
成員が、上位者になつくこと。

女性優位な人々は、以下の行動を取りがちである。
失敗しても、責任を問われないようにすること。
失敗を、仲間内で内輪で、なあなあの態度で、もみ消し、穏便に済ませようとすること。

女性優位な人々は、以下の行動を取りがちである。
失敗した人物を、冷たく切り捨てることが出来ないこと。
その人物に対して、情けを掛けようとしたがること。

女性優位な人々は、情状酌量によって、処分が甘くなる。
女性優位な人々は、冷徹さを嫌い、情緒的な対応を好む。

女性優位な人々は、以下の行動を取りがちである。
可愛い部下や生徒といった、お気に入りの下位者に対して、えこひいきをすること。
彼ら自身に懐かない、彼ら自身にとって気に入らない下位者を、冷

たく遇すること。

女性優位な人々は、以下の行動を取りがちである。
彼ら自身にとっての下位者。
それは、以下のような存在である。
彼ら自身を慕い、彼ら自身に懐いていた存在。
彼ら自身にとってお気に入りの存在。
その下位者が、心変わりをして、彼ら自身に懐かなくなること。
そのことが原因で、彼ら自身が、大きな心理的ショックを受け、落ち込むこと。
そのことの発生を、全力で回避しようとすること。
彼ら自身が可愛がっている、お気に入りの下位者。
その下位者が、心変わりして、他の上位者のところに行かないように、必死で邪魔をしたり、引き留めようとすること。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、冷徹な能力主義を貫徹し、失敗に容赦しない。）

（２３）『事前合意の重視』

「事前合意を重視すること。いったん合意した流れや方針の変更が、困難であること。慣性で進もうとすること。」
女性は、予め、利害関係者同士で、内密に議論して、落とし所や事前の合意点を決めておくことを、好む。
女性優位な人々は、関係者への事前の根回しや談合を、好む。
仮に、誰かが、女性優位な人々に対して、前もって、事前合意を取らずに、突然、新たな話を、進め、決めようとしたとする。すると、その行為は、彼らから反発され、拒否される。
女性優位な人々は、その場その場の即興の公開討議を嫌う。彼らは、事前の密室での利害関係者を集めた交渉と合意形成を好む。
それは、予め互いの合意、賛成を取り付けておくことで、互いに和合することを好む、女性優位な性格である。
女性優位な人々にとっては、既に、皆で合意し決定した内容や方針や流れを、後から変更し、覆すことが、根本的に難しい。
女性優位な人々は、いったん決めた方針にとって有利な数字合わせを、後付けで行う。
女性優位な人々は、いったん進むと決めた流れの方向に、不都合が起きても、そのまま慣性の力で、ずっと進もうとする。

それは、いったん形成した合意による皆の一体感、仲良し状態を、後から人為的に壊してしまうのを怖がる、女性優位な性格である。
（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、リアルタイムの公開討議による合意形成を好む。男性優位な人々は、方針変更をあっけなく大胆に行う。）

（２４）『失敗恐怖症』

「失敗恐怖症であること。チャレンジをしないこと。」
女性は、自分を高貴で大切な存在と考え、自己愛が強く、プライドが高い。女性は、皆の前で、良い格好をしようとする。
女性優位な人々は、失敗して、皆の前で自分のプライドが傷つくことを、何よりも恐れる。そうした性格は、英語などの語学の授業で顕著である。
女性優位な人々は、誰かが失敗するところを見ると、それを馬鹿にして、失敗した人に対して、総攻撃を加えて、陰口を叩いたり、周囲に触れ回ったりする。
女性優位な人々は、本当は、彼ら自身が公衆の面前で失敗することが、怖くて仕方がない。
女性優位な人々は、失敗を、誰でも起こす可能性があることや、ごく日常的なことであるとして、許容することが、できない。
女性優位な人々は、失敗者を、日頃の鬱憤晴らしの対象として、責め立てる。
女性優位な人々は、未知領域への探検やチャレンジを、危険であり、大きな失敗をして自分自身が傷つく可能性があり、自分の保身に大きく影響するとして、根本的に回避する。女性優位な人々は、失敗回避のため、既知領域に止まり、従っていれば安全な前例やしきたりの偏重や、事なかれ主義に徹する。そのため、女性優位な人々の社会は、彼らの内部だけで排他的に固まり、外部からの新たな知見を導入しない限り、進歩が停滞して、いつまで経っても近代化しない。女性優位な人々の社会は、内発的な進歩や近代化にとって必要な内部のエンジンが、根本的に欠けている。
女性優位な人々は、試行錯誤による失敗の繰り返しを避けて、誰か成功した事例はないかと探し回る。そして、彼らは、その事例が見つかったと分かった途端、一斉に、その成功事例の真似をする。
女性優位な人々は、その成功事例を究極の正解、侵してはならない信仰対象として、それに改良の磨きをかける。
女性優位な人々は、そこから少しでも外れた者を、エラーや間違いを犯したとして、直ちに叱り飛ばす。それは、彼ら自身を大切で貴

い存在と見なし、失敗によって彼ら自身に少しでも傷が付くことを嫌がる、女性優位な性格である。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、未知の危険領域へと積極的にチャレンジをして、失敗を恐れない。男性優位な人々は、自分は有能だというプライドが高い。）

（２５）『閉鎖性。排他性。』

「閉鎖性や排他性が強いこと。内外を区別する感覚が強いこと。入試があること。白紙採用を好むこと。思考が内向きであること。閉塞感が強いこと。対内融通や配慮が効くこと。自前で済ませようとすること。」
女性は、形成する社会集団が、閉鎖的で、排他的である。
女性優位な人々は、集団の内部と外部とを、厳格に区別し、よそ者に対して、門戸を閉ざす。
女性優位な人々は、純血性を保った自前の集団の内部で、他集団に対抗する形で強固に結束し、自前の集団内部に縁故の糸をはりめぐらす。
女性優位な人々の社会は、よそ者を入れずに内部のメンバーだけで強固に結束する、鎖国社会である。
女性優位な人々は、親しく、付き合い上の安全が保障された、内部のメンバーだけで固まろうとする。
女性優位な人々は、よそ者に対して、とても冷淡である。
女性優位な人々は、オープンさが欠如している。
女性優位な人々は、内部のメンバー同士の会話や馴れ合いに夢中で、外界について関心が薄い。
女性優位な人々は、思考が内向きである。それは、女子中学生や女子高生の仲良し集団が原型である。
女性優位な人々は、集団内部での仲の良さを、外部に向けてアピールする。
女性優位な人々は、集団内部で浮いているメンバーを、外部からは分からないように、陰湿にいじめ、差別する。
女性優位な人々は、仲間から無視されることや、仲間外れにされることを、根本的に恐れる。
女性優位な人々の社会は、集団内部から外れたり、仲間外れにされると、他に行くところが無い社会の仕組みになっている。
女性優位な人々は、そのために、皆、所属集団から外されないよう

に必死になって、他の集団メンバーに配慮する。
女性優位な人々の社会では、誰かが、いったん集団に入ると、集団から用済みになるまで、その中にずっと居続けて、浮気をしないことが、要求される。
女性優位な人々は、以下のように考える。よそ者は、私たちと行動様式が異なり、何を考えているか分からない。なので、よそ者は、私たちにとって、安全でない。
女性優位な人々は、よそ者の存在を、本気で心配する。彼らは、次のように考える。もし、よそ者が、私たちと一緒になると、よそ者は、私たちの属する集団のしきたりや風紀を乱すことを、平気で行うのではないか？
女性優位な人々は、よそ者と一緒にいると、不安で、安心できない、と考える。
女性優位な人々は、集団への中途転入者に対して、いじめを行ったり、屈辱的な扱いを強制したりする。
女性優位な人々は、そもそも外部から入ってくる者を、一時的、部分的にしか、自分たちの組織にタッチさせず、締め出そうとする。この場合、よそ者を許容することが自身の保全に悪影響を与えるという女性優位な心配が、女性優位社会の持つ閉鎖的な風土を生み出す要因となっている。
なお、この閉鎖性は、自分たちの所属する身内集団内部の一体感を保つため、よそ者が入ることを防いでいるという点で、女性の好きな、他者との一体融合感維持指向に通じるものがある。
女性優位な人々の社会では、人々が、あらゆる物事に内と外があると考える、「内外区別の感覚」を持っている。
女性優位な人々は、そして、外部から内部に移行する「入る意識」を重視する。
女性優位な人々は、とにかくどこでも良いから、入れてもらおう、とする。「入る」という意識は、相手、対象が閉鎖的な場合にのみ生じるものである。

女性優位な人々が、何かと「入ること」にこだわるのは、社会や集団が閉鎖的であることの現れである。男性優位社会のようにオープンな社会のもとでは、人々の「内外区別の感覚」「入る意識」は弱いと考えられる。
女性優位な人々は、あらゆる物事について、入ることが大変な入試を求める。
女性優位な人々にとっては、卵子に例えられる、外部に比べてよりリッチな栄養のある内実を持つ閉鎖空間に何でも良いから入ることが、人生の目的になる。それは、例えば、名門学校などである。

女性優位な人々の社会は、誰かが、中に入れてもらうと、優遇され、リッチな気分を味わえる仕組みになっている。それは、内部メンバーになることや、内部に溶け込むことや、他の内部メンバーと一体化することで、実現する。
女性優位な人々は、そのように内部に入れたことを、周囲に向かって何かと自慢しがちである。
女性優位な人々の社会は、白色無垢の者のみ、加入を許す。
女性優位な人々は、どこか別の集団に長いこと加入していた、「別の集団の色が付いている人」を採用することを、嫌う。
女性優位な人々の社会は、嫁入りで白無垢の装束を着ることを好む。その社会は、学校の部活などで、特定の色の付いていない新入生の白色採用や白紙採用を好む。
女性優位な人々の社会では、人々は、次のような態度を見せないと、集団の中に新たに入れてもらえない。彼ら自身が、色の付かない無垢の状態のままであるという態度。今まで彼ら自身に付いた色を全てご破算にして、すなわち、社会的に一旦死んで、一から所属先の新たな色に染まります、という決意表明。この場合、集団は、例えば、企業や、官公庁や、嫁入り先の家族などである。
女性優位な人々は、新規加入者が、集団の既存の色を乱さないことや、新規加入者による集団の既存の色との調和や融合を、重んじる。
女性優位な人々は、付いた色の濃い人が先輩で、付いた色の薄い人が後輩である、とする。
女性優位な社会では、人々は、集団に居続けるに従って、彼ら自身に染み付く色が徐々に濃くなって行く。人々は、それに伴って、他集団への転出が難しくなって行く。
女性優位な人々は、部外者が集団に入るために、やたらと厳しい入試を設けたがる。それは、例えば、学校の入学試験や、企業や官公庁の入社試験である。
女性優位な人々の社会では、人々が集団の中に入れてもらうことが、大変である。
女性優位な人々の社会では、仮に、誰かが、厳しい入試を突破して、いったん集団の中、内部に入れてもらうことができた、とする。すると、その人は、途端に、母の胎内にいるような、融通が効く、クッション感のある、柔軟な動きが取れる、温かい、利便性に満ちた、優遇された扱いを受けることが可能になる。
女性優位な人々は、親しい身内、内部者に対しては柔軟で融通が利く、配慮に満ちた態度を取る。彼らは、部外者に対しては、杓子定規で、利便性を考慮しない、硬直した、配慮に欠ける態度を取る。
女性優位な人々は、彼ら自身の本当の気持ちや意見は、親しい内部

メンバーに対してのみ開示する。
女性優位な人々は、部外者に対しては、見かけの表面上取り繕った、上辺の気持ちや意見のみを示す。
女性優位な人々の間では、以下のような思考様式がまん延している。国外や、社外といった、外部に対して関心の薄い、所属集団内部のことに専ら関心が行く、内向き思考。
女性優位な人々の社会では、閉塞感が強い。
女性優位な人々の社会では、所属集団の中に閉じこめられている感覚や、所属集団の外に出にくいという感覚が、強い。
女性優位な人々は、人材の調達において、外部に頼らず、所属集団内部メンバーのみで、自前で、全て揃え、済ませようとする。
女性優位な人々は、互いに、他の集団に任せず、彼ら自身の所属集団でやろうとする。
女性優位な人々の社会では、その結果、似たような内容の組織やアウトプットが、隣接地域などで、重複して発生、生成しがちである。
女性優位な人々は、所属集団以外の他の集団を、ライバルと見なして、頼ろうとしない。異なる集団同士は、互いに閉じているため、頼ることが出来ない。その社会の人々は、彼ら自身が所属する集団の内部で自活し、自給自足し、自己完結しようとする。
女性優位な人々は、家電製品や携帯電話などで、必要な機能が予め全部入っている、オールインワンの機種を好む。
女性優位な人々は、彼ら自身の領域に侵入してくる者以外の、外部の動向に対しては、どうなろうと知ったことではないと考え、無関心である。
女性優位な人々は、彼ら自身の領域や領空を直接侵犯してくる者以外の他者や他の集団の存在に対して、徹底的に無関心であり、冷たい。
女性優位な人々は、税金を、彼ら自身の企業や家庭から、国家などに支払った場合、それは、彼ら自身の管轄外に拠出されてしまったと考え、その使い道に無関心になる。
（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、開放的である。
男性優位な人々は、開かれた空間内にいるため、内部と外部との区別があまり無い。
男性優位な人々にとって、転出や転入は、日常茶飯事である。
男性優位な人々は、アウトソーシングや、買収と売却が、得意である。）

（２６）『受動性。被害者意識の強さ』

「受動性が強いこと。行動主体が非明確であること。主体性が欠如していること。他者のリードを求めること。被害者意識が強いこと。静止状態や不動状態が、好きであること。」
女性は、取る行動が受動的であり、受け身である。
女性優位な人々は、自分からは積極的に行動を起こさず、意思決定を先送りし、周囲からの働きかけや外国からの外圧があって初めて「仕方なく」行動を起こす。
女性優位な人々は、そうして、周りに引きずられる形で、意思決定をする。
女性優位な人々は、自主性に欠ける。
女性優位な人々は、退嬰的である。
女性優位な人々は、静止状態や、不動の状態を好む。
女性優位な人々は、行動を起こした原因が自分ではないとして、責任逃れをする。それは、男女の恋愛において、結婚のプロポーズやセックスへのアプローチといったリードを、ほとんど男性側が行うことと、根が同じである。
女性優位な人々は、主体性が無い。
女性優位な人々の文化は、待ちの文化である。女性優位社会は、自分からは変われない。女性優位社会が変わるには、外圧が必要である。
女性優位な人々は、自分からは動かず、誰かにやらせようとしたり、誰かにやってもらおうとする。
女性優位な人々は、自分は何もしていないのに他人に一方的に嫌なことをされたとか、何事も自分ではなく他人が悪いとする被害者意識が常にとても強い。彼らは、何事も他人のせいにして、責任転嫁する。それは、自己保身のためである。あるいは、それは、彼ら自身からは、なかなか動かないためである。
女性優位な人々は、彼ら自身を落ち度のない弱い立場の被害者に見立てて、他人が自分への攻撃を出来ないようにブロックした上で、他人や社会を、落ち度のある強い立場の加害者として、一方的に攻撃することが、得意である。
女性優位な人々は、誰が行為責任を負うかが明確になってしまうことを避けるため、行為の主体を、はっきりさせない。
女性優位な人々は、主語を省略して表現する。
女性優位な人々は、行為の主体をはっきりさせないことで、周囲との一体同調の強さや、心理的な凪や調和や静止状態の心地よさをアピールする。
（ＶＳ男性：

男性優位な人々は、能動的である。
男性優位な人々は、行動主体が明確で、主体性がある。
男性優位な人々は、他者を進んでリードする。
男性優位な人々は動きまわるのが好きである。）

（２７）『相互監視の重視』

「相互監視や告口を好むこと。他人の噂話を広めることを、好むこと。他人のプライベートを、詮索すること。プライバシーが欠如していること。」
女性は、相互監視が行き届いている。
女性優位な人々は、互いに、周囲の他者が何をしているか、チェックすることに忙しい。女性優位な人々は、相手の細かいところまで詮索の手を緩めない。
女性優位な人々は、プライバシーが無い。
女性優位な人々は、他人について、噂を広めたり、陰口を叩くことが好きである。
女性優位な人々は、権威者や政府当局に対して、密告をすることを好む。女性優位な人々は、例えば、学校の教室で「先生、xxさんが隠れてxxしています！」と告げ口することを好む。
女性優位な人々は、彼ら自身のことが、そうした噂や陰口の対象にならないように、絶えず彼ら自身の保身に気を遣い、安全地帯にいようとする。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、互いに、他者が何をやっているかについて、無関心である。
男性優位な人々は、彼ら自身のことに忙しい。
男性優位な人々は、プライバシーを重んじる。）

（２８）『間接的対応』

「間接的で、ソフトで、遠まわしな対応を好むこと。」
女性は、対応が、間接的であり、陰湿である。
女性優位な人々は、相互の一体感、和合をできるだけ維持する。そのため、彼らは、他人に対して批判をする際に、直接的で明らさまな表現を、嫌う。
女性優位な人々は、意見を口に出さず、相手に直接直言せず、以心

伝心で伝えようとする。
女性優位な人々は、表現をソフトにしようとして、間接的な遠回しの表現を好む。
女性優位な人々は、そうした遠回しの表現の真意に気づかない他者を、鈍いとして、陰口を叩いて批判し、無視したりする。彼らは、陰で、他人に分かりにくい形で、他者のことを、いろいろ寄ってたかって、いじめたり、意地悪をする。
女性優位な人々は、ソフトだが、真綿で首を閉めるような、陰険なやり方をする。
女性優位な人々は、相手に直接意見を言わず、間接的に陰湿なやり方で、相手の足を引っ張る。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、対応や物言いが直接的であり、ハードである。
男性優位な人々は、直接進言、批判する。）

（２９）『局所性。（ローカル性。）』

「近視眼的で、場当たり的で、個別的で、局所的な対応を好むこと。」
女性は、対応が、近視眼的で、場当たり的である。
女性優位な人々は、彼ら自身にとって身近な目先の場所や、時間的に目の前の事柄に、注意が、専ら行き届く。
女性優位な人々は、ずっと先の未来や、世界全体規模をコントロールしようとする、長期的で遠大な計画性や視点に、欠けている。
女性優位な人々は、彼ら自身のいる周囲の動向のみに、注意を払う。
女性優位な人々は、彼ら自身の居場所の狭い個別の事例や利害に囚われて、物の見方が局所的になりやすい。
女性優位な人々の間では、「xxの説は、私のところとは違うので、正しくない。」という言説が、平然として、まかり通る。
一方、男性優位な人々の考えは、「xxの説は、全体のxパーセントが当てはまらないか、あるいは論理的にxxなので、正しくない。」といった、普遍的で客観的な感じの内容になる。
女性優位な人々は、自己中心的で、周囲が見えない。
女性優位な人々は、全体を鳥瞰して判断することが、苦手である。
女性優位な人々は、道路の用地買収などにおいて、全体の利益を考えず、個別の利害をゴリ押しする。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、対応が長期的で、計画的で、普遍的である。）

（３０）『感情性。』

「ヒステリックで、情緒的で、非科学的な対応を好むこと。感情的に反応すること。」
女性は、取る対応が、ヒステリックで感情的である。
女性優位な人々は、相手からの刺激に対して、冷静に分析することができない。
女性優位な人々は、思わずキーッとなって、集団全体で感情的に激昂する。彼らは、前後の見境がなくなって、予想外の飛んでもない行動に出る。（例えば、日本による、太平洋戦争時のアメリカ領土の真珠湾攻撃など。）
女性優位な人々は、相手との一体感の有無や、相手に対する好き嫌いを目安にして、行動する。
女性優位な人々は、相手に対して、客観的に突き放す形で向き合う事ができず、相手に対する感情的な好き嫌いをむき出しにして、対応する。
女性優位な人々は、好き嫌いに基づく、対人面でのえこひいきや情実人事を好む。
女性優位な人々は、対象との一体感を重んじ、対象と距離を置いて物事を見ることができず、物の見方が非客観的である。
女性優位な人々は、冷静で客観的に物事や状況を捉える科学を嫌い、精神論や根性論や努力万能論を振り回すことを好む。それは、例えば、以下のような主張である。「何事も気合を入れて努力して行えば、不可能なことは無い。」
女性優位な人々は、熱血指導を好む。
女性優位な人々は、周囲に対して、情緒的で主観的な自己アピールを盛んにを好む。彼らは、「私たちは、一生懸命、みんなのために、頑張って、尽くしている。私たちは、みんなのために、必死に働いて、自己犠牲している。」とする
男性優位な人々は、彼ら自身の成果を、客観的数値でアピールする。
女性優位な人々は、学説のような、本来冷静に突き放して評価すべき対象に対して、主観的で情緒的な思い入れやこだわりを強く持ち続ける。彼らは、その内容を他人に批判されると、感情的に反応する。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、対応が客観的で、科学的である。）

（３１）『小スケール性。』

「スケールが小さいこと。高精細であること。」
女性は、やることのスケールが、小さい。
女性優位な人々は、小さな精密部品の設計や組み立てのような、微調整や、神経の細やかさが必要な、高精細で、高い正確性を要求される事項について、並ぶ者のない強みを発揮する。
女性優位な人々の社会は、重箱の隅をつつくような、細かい視点が、入学試験などで要求される。その社会は、それに適応した若者を次々と生み出している。
女性優位な人々は、小さく、か弱く、柔らかく、「可愛い」、それでいて色気のある、「萌える」存在を、アニメやコミックなどで次々生み出すことが得意である。
女性優位な人々は、天地を駆け巡る壮大なスペクタクル叙事詩を著述するのが苦手である。彼らは、俳句のように、小さく凝縮した箱庭のような小さい世界を著述することを、好む。小さい可愛いもの。それらは、女性がより好み、生み出すことを得意とする。
男性優位な人々が開発した製品やアウトプットは、目新しく革新的だが大雑把で粗雑な出来である。
女性優位な人々は、その内容を素早くコピーして、それに精細で緻密な小改良を加えて、その完成度を飛躍的に向上させ、最終的に世界的な製品開発競争に勝利する。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々はスケールが大局的で、細かいところには神経が行き届かず、大雑把になってしまう。）

（３２）『高密度指向』

「高密度や、詰め込みや、集中を好むこと。」
女性は、高密度や、詰め込みや、集中を好む。
女性優位な人々は、個人のスペースの空きを、できるだけ詰めようとする。
女性優位な人々は、ゆとりを嫌う。
女性優位な人々は、満員電車を当たり前のものと考える。

女性優位な人々は、重箱に、料理をぎっしり詰め込むことを、好む。
女性優位な人々は、教育で、子供への多量の知識の詰め込みを、重視する。
女性優位な人々は、首都を中心とする首都圏への一極集中や密集を好む。女性は、男性に比べて、過密状態を、より好む。
（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、低密度で、空間的に余裕や自由があることや、空きがあることを、好む。
男性優位な人々は、分散や拡散を、好む。）

（３３）『厳格さの重視』

「厳格で、正確であること。」
女性は、厳密さや、厳格さや、厳正さを好む。
女性優位な人々は、より安全で安心になるためには、より厳しい審査をしなければならない、と考える。女性優位な人々は、少しでもリスクがありそうだと分かると、やたらと不安になる。女性優位な人々は、医薬品などの検査数値の設定が甘かったことが原因で、いざリスクが発生した場合、その責任を取りたくない、と考える。
それは、誤りや、落ち度や、突っ込みどころや、隙や、減点箇所が無いことを過剰に求める、女性優位な責任回避の心理がなせるものである。そうした考え方は、嫁のすることに対して、うるさく、厳しくチェックを入れて嫁を叱る姑の考え方と、根が同じである。そうした考え方は、「姑根性」と呼べる。
女性優位な人々は、正確さを好む。
女性優位な人々は、時間に対して、やたらと正確である。
女性優位な人々は、定時性や、定刻性を重視する。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、コンピュータ設計のような論理的な、理屈面での正確さ、厳密さにこだわる。
それは、父性的な正確さ、厳密さの指向である。）

（３４）『減点主義』

「正解や、正論や、完璧さや、無難さや、無傷であることを、指向

すること。減点主義であること。」
女性は、物事には正解があることを、最初から自明視する。
女性は、物事には完璧で完全な状態があることを、最初から自明視する。
女性優位な人々は、正解と見なされることのみ行おうとする。
女性優位な人々は、正しく批判されにくい正論を、主張する。
女性優位な人々は、間違うことを恐れる。
女性優位な人々は、完全であることを目指そうとする。例えば、テストの点数で、百点満点を取ること。
女性優位な人々は、彼ら自身に傷や瑕疵が付くことを、恐れ、嫌がる。
女性優位な人々は、人や物事の評価を、百点満点の完璧で無傷な状態から、どの位下方に離れ、格差が出来ているかによって、判断しようとする。
女性優位な人々は、人や物事の評価を、百点満点からの引き算で行う、減点主義で動く。
女性優位な人々は、無難であることや、欠点が無いことを、重んじる。
女性優位な人々は、評価対象に目立った長所があっても、同時に、見逃せない欠点や粗があると分かると、直ぐに否定的な評価を下す。
女性優位な人々は、完璧な状態に少しでも近づくことを目指し、必死で修行する。
女性優位な人々は、物事に失敗したり、正解が直ぐに見いだせない状況になったりすると、道に迷ったとして、途端に怖くなって混乱する。女性優位な人々は、それより先には進もうとせず、元来た道をすぐ後戻りしようとする。
女性優位な人々は、正解とされる定説を、習得すべき前例と見なして、その奥義習得に励む。女性優位な人々による、そうした行動は、正しく安全が保証された道のみを、奥義を求めて極めようとする、自己保身第一の女性優位な心理が元になっている。
女性優位な人々は、彼ら自身の心や、自分の持ち物について、少しでも傷が付くことを恐れる。
女性優位な人々は、彼ら自身の買ったスマートフォンのディスプレイなどに、少しも傷が付かないように、保護ケースや保護シートなどで、万全で完璧に対策しようとする。
女性優位な人々は、自宅の床などを、無傷でピカピカに洗い上げ、磨き上げることを好む。
女性優位な人々は、彼ら自身の心に傷が付かないように、彼ら自身の心に傷を付ける可能性のある他者との交流や対人関係を避け、引

きこもりがちになる。それは、彼ら自身や彼ら自身にとって大切なものを傷つけるという、自己保身にとってマイナスとなる行為を嫌う、女性優位な心理である。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、人や物の長所を、それらの短所よりも積極的に見出して評価し、活用を図ろうとする。
それは、加点主義である。
男性優位な人々は、人や物に難点が見つかっても、長所がそれを上回れば、そうした人や物を採用する。）

（３５）『管理統制主義』

「一体行動や一斉行動を好むこと。管理主義や統制主義であること。牽制や長時間拘束を好むこと。休むことを罪悪視すること。自由行動を許さないこと。」
女性優位社会では、集団などの所属者全員が、一体となって動くことを、要求される。
女性優位社会では、集団内部において、個人の自由で勝手な行動をすることが、許されない。
女性優位な人々は、教育などにおいて、集団メンバーの管理や統制や締め付けや縛りを行うことが、好きである。
女性優位な人々は、個人の単独での自由行動を、自分勝手であると決めつけて、束縛し制限しようとする。
女性優位な人々は、誰かが集団から外れた行動をした場合、そのことを、個人責任と見なす。彼らは、例え、行動した本人が助けを求めても、勝手な行動をしたとして、その人物を冷たく突き放し、助けない。
女性優位な人々は、学校などで、団体行動での高度な統率や、一斉に揃った行動をすることを、好む。彼らは、学校や職場で、みんなでお揃いの制服やバッジを着用することを好む。
女性優位な人々は、役所などで、相手の行動を自由に許可したり禁止したりできる、許認可権限を得たり、行使したりすることを好む。
女性優位な人々は、周囲の他者が、思い通り自由に振る舞うことを妬む。彼らは、他者の振る舞いを、規制し、牽制し、長時間拘束して不自由にしようとしたがる。女性優位な人々は、休むことを悪いことだと考える。彼らは、長時間労働や、長時間残業を、美化する。女性優位な人々は、一人だけ仕事を早退することを、非難す

る。それは、以下のような文言である。「皆が頑張っているのに、一人だけ帰ることは、けしからん！」
女性優位な人々は、自由が与えられることを、どう行動すればよいか分からず途方に暮れるとして、怖がる。
女性優位な人々は、不自由であることや、他人に指示されることや、他人に行動を合わせることを、心の奥底で望んでいる。女性優位な人々による、こうした考え方は、奴隷根性である。
集団全体が統制されることで、集団メンバー間に、一体感や調和が生まれる。女性優位な人々は、そうした感覚を大切にする。それは、周囲との一体感や、集団全体の調和を重んじる、女性優位な性格である。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、バラバラの個人行動を好む。
男性優位な人々は、他人による管理統制を制限する。
男性優位な人々は、自由行動を許す。）

（３６）『従順さの重視』

「上意下達を好むこと。上位者に対して、従順であること。上位者に対して、忖度すること。上位者に対して、媚びること。」
女性は、上意下達を好む。
女性優位な人々は、上位者と下位者との間の一体感を重んじる。
女性優位な人々は、上位者と下位者間との一体感を損なう、下位者による上位者への言挙げを、嫌う。
女性優位な人々は、以下のような人間を好む。上位者の言うことを、異を唱えずに素直に聞く人間。上位者の命令をそのまま誠心誠意、忠実かつ誠実に守る人間。上位者の指示を守って動く人間。上位者の意を自主的に汲んで動く人間。
女性優位社会。その上位者は、普通の人々にとって、彼ら自身の手の届かない高みに存在する。普通の人々は、自力では、上位者の足を引っ張ることが出来ない。
女性優位な人々は、そうした上位者に対して、素直に従おうとし、従順であろうとする。
女性優位な人々は、上位者に対して、従順で反抗しないようにしようとする。女性優位な人々は、それとともに、下位者に対して、彼ら自身に対して従順であり、彼ら自身に対して決して反抗しないことを、要求する。
女性優位な人々は、強い上位者に惹かれ、媚び、忖度する。一方、

女性優位な人々は、弱者、下位者をいじめ、叩き、奴隷扱いしようとする。
女性優位な人々は、国などの上位者の決めた規則を、忠実に守ろうとする。それは、上位者と下位者との間に生まれる一体感を、大切にする考え方である。それは、相互の一体感を重んじる、女性優位な性格である。
女性優位な人々は、上位者に積極的に忖度して、上位者への批判を抑制する検閲や言論統制を自主的に行う。
女性優位な人々は、上位者に媚びて、上位者の応援団を自主的に形成する。
女性優位な人々は、上位者の指示内容を、周囲に向けて、積極的に宣伝する。
女性優位な人々は、周囲の他者に対して、上位者の指示をきちんと守るように、うるさく説教する。
女性優位な人々は、上位者の指示に従わない周囲の他者の行動を、自主的に告発し、取り締まり、上位者に対して密告し告発する。
（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、反逆や反抗や異を唱えることに寛容である。
男性優位な人々は、自分流を好む。）

（３７）『総花的』

「総花式や、オールインワンであることや、万能であることや、八方美人であることを、好むこと。」
女性は、総花式を好む。
女性優位な人々は、偏りがあることを好まない。
女性優位な人々は、特定面のみが優れていることを、好まない。
女性優位な人々は、何でも出来る万能さを、好む。
女性優位な人々は、製品などにおいて、あらゆる面で平均以上に優れていることを、好む。
女性優位な人々は、製品の機能がオールインワンで、製品の中に、様々な機能が万遍なく入っていることを、好む。
女性優位な人々は、八方美人で、誰からも好かれることを、好む。
女性優位な人々は、絵を描く時の色遣いにおいて、特定の色に偏らず、万遍なく使おうとする。
女性優位な人々は、学校給食において、生徒たちに対して、特定の食物に偏らず、万遍なく食べさせようとする。
女性優位な人々は、全てを満たそうとする。
女性優位な人々は、何でもこなせるジェネラリストを、役所など

で、重んじる。
女性優位な人々は、特定の仕事しかこなせないスペシャリストを、嫌う。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、製品などが、特定機能に優れていて、ライバルがいないことを、好む。
男性優位な人々は、鋭い判断が出来るスペシャリストを、好む。）

（３８）『突出の回避』

「突出を回避すること。目立たないようにすること。標準や普通を、指向すること。」
女性優位な人々は、ネットなどにおいて、目立ったことをした他者について、すぐその身元を特定し、プライバシーを暴露することに、情熱を注ぐ。
女性優位な人々は、逆に、彼ら自身は、突出した目立った行動を取ることを、極力控えようとする。
女性優位な人々は、そうすることで、以下のことの発生を避ける。彼ら自身が、外部に対して目立つことで、危険な目に合いやすくなること。彼ら自身のプライバシーが暴露されることにつながること。彼ら自身が、周囲との協調や和合を乱すこと。
女性優位な人々は、普通や標準の存在でいようとする。
女性優位な人々は、「オタク」のように特殊扱いされることを嫌い、一般人や普通人でいようとする。
女性優位な人々は、一人だけ目立つことを嫌う。
女性優位な人々は、目立ちたい時は、学園祭のステージなどで、周囲の他人と一緒かつ同時に目立とうとする。
女性優位社会では、人々は、何か一人で行動を起こすと、何かと突出して目立ち、叩かれる。それを避けるため、人々は、彼ら自身からは何も行動を起こさず、無為でいようとする。
女性優位な人々は、彼ら自身からは変われない。
女性優位な人々は、誰か他の人が勇気を出して行動すると、それに便乗する。
それは、突出することで集団から浮くことを恐れる、女性優位な性格である。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、突出しようとする。

男性優位な人々は、強烈な個性で目立とうとする。
男性優位な人々は、特異性を求める。）

（３９）『中心指向』

「中心と周辺とを、区別し差別したがること。中心や都心を、指向すること。」
女性優位社会は、人々が中心部を目指す度合いや、中心形成の度合いが、強い。
女性優位な人々の社会では、人々の分布に関して、中心と、周辺や地方との差が、大きい。
男性優位社会では、人々の分布が、バラバラ、散り散りで、中心の形成が弱い。その社会では、中心があまり無いか、中心と周辺の差があまり無い。
女性は、皆が一カ所に集まろうとする。
女性優位な人々は、中心部に集中して存在しようとする。
女性優位な人々の社会は、過密状態になりやすい。
女性優位な人々は、中心や中枢を、一斉に目指そうとする。それは、以下の考えに基づく。皆で集まった方が、護送船団と同じで保身に有利であること。中心に近いほど、外部環境露出が少なくて、保身に有利であること。それらは、自己保身重視の女性優位な考え方である。
女性優位な人々は、彼ら自身が、皆の中心に位置して、皆の注目を集めたい、と考える。
女性優位な人々は、中心視と周辺視が強い。
女性優位な人々は、中心や中央と、周辺とを、区別し差別する考えが、強い。女性優位な人々は、中華思想を持ちやすい。中華思想とは、以下の考え方である。私たちが世界の中心であること。私たちが世界の中心にいて、偉いこと。中心部が偉くて、周辺部は劣っていること。
女性優位な人々は、中心や本土を守るために、周辺の人々を捨石扱いする。
女性優位な人々は、彼ら自身が、より大きなグループ、世界の中心や中枢や中央になろうとする。
女性優位な人々は、中枢で周囲から温かく守られることと、それと共に、周辺に向けて命令できることを、好む。
女性優位な人々は、中心に集中する。
女性優位な人々は、中央や中心を目指そうとする。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、あまねくグローバルに普遍的に拡散して分布しようとする。
男性優位な人々は、自分や自国の文化や指令について、中心の不定な、普遍的でグルーバルな感染や拡張や拡大や広がりを目指す。
男性優位な人々は、気体の空気やガスのように、あまねく世界中に広がり、普及し、拡散することを、指向する。
男性優位な人々は、空気に乗って伝播や伝染をするインフルエンザのウィルスと同じ行動を取る。）

（４０）『マイナス思考』

「他人の陰口や悪口を、好むこと。他人の欠点探しや粗探しをしたり、他人の足を引っ張ることを、好むこと。思考や、やり口が、ネガティブで、マイナスで、陰湿で、陰険であること。」
女性は、他人のマイナス面に関心が行き、他人の欠点や失敗、粗探しを行おうとする。女性優位社会は、人々が、他人に対して駄目出しをすることを好む、「駄目出し社会」である。
女性優位な人々は、他人が彼ら自身の上を行くことに我慢が出来ず、他人の足を引っ張るためのネガティブ要素を探すことに、夢中になる。
女性優位な人々は、学校や会社で、彼ら自身が気に入らなくて、かつ、その場にいない他人の陰口を叩き、悪い噂話を広めることを、好む。
女性優位な人々は、彼ら自身が貶めたいと考える他人に関する故意の嘘のでっち上げをして、それを周囲に向けて、平然と流そうとする。
女性優位な人々は、そうすることで、その人物のマイナス評価を周囲に広め、その人物の足を引っ張り、その人物に大きなダメージを与えようとする。
女性優位な人々は、思考や、やり口がネガティブでマイナスで減点主義である。
女性優位な人々は、宴席などで、その場にいない人物の悪口を言い合って盛り上がり、その場に居合わせた一同が、悪口を叩かれた不在者を出汁にして、一致団結しようとする。
女性優位な人々は、一方、その人物がその場に居合わせる時は、面と向かっては当たり障りの無いことを言ってごまかしたり、見かけ上褒め合ったり、迎合したりして、裏表が激しい。
女性優位な人々は、気に入らない相手を直接攻撃せず、周囲から、

からめ手で間接的に足を引っ張る。
女性優位な人々は、やり口が陰湿で陰険である。それは、相手の欠点や粗ばかりを探そうとする、減点思考やマイナス思考である。それは、姑根性のような性格である。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、他人の長所を見出し積極的に褒めて、勇気づける。
男性優位な人々は、ライバルと正々堂々と勝負する。）

（４１）『真実や内実の隠蔽』

「相手から急所や真実を突かれると、無反応状態になるか、相手を無視すること。真実や内実を隠蔽すること。秘密主義であること。公式や公開の発言の場で沈黙すること。」
女性優位な人々は、相手が急所や真実を突いてきた時、そこが急所や真実であることを気づかれないために、無反応だったり、知らん顔をしたり、わざと取り繕ってお茶を濁したり、茶化したり、ことさら無視したり、話題を関係ないものに変えようとしたりする。
女性優位な人々は、自分にとって都合の悪いことや、自分が既得権益を持っている事実を指摘されると、それを無視して反応せず、時間の経過を待つ。（例えば、日本女性が、日本の家計の財布の紐を握っていることなど。）
一方、女性優位な人々は、自分たちが権益を持っていない事項については、「自分たちは弱者だ、被害者だ、差別されている！」と大声を出して繰り返し世論に訴える。（例えば、企業における女性進出が進まないこと。）
女性優位な人々は、そうして、権益をいともたやすく勝ち取る。
（例えば、企業における管理職昇進への、女性優遇措置など。）
女性優位な人々は、本当のことや、真実や、内実を、知られると騒ぎになると考えて、それらを隠蔽して、語ろうとしない。
女性優位な人々は、女性優位社会の内実を、いつまでも語ろうとしない。そのため、女性優位社会のことは、科学的になかなか解明されない。
女性優位な人々は、真実からかけ離れた、当り障りのない、表面的に都合の良い、綺麗事のみを強調した、建前の議論で、お茶を濁そうとする。
女性優位な人々は、秘密主義者であり、非公開主義者である。
女性優位な人々の社会は、リアルな真実を外部に対して語ること

が、社会として出来ない。

女性優位な人々の社会は、陰湿な内実を、隠蔽する。

女性優位な人々は、公式や公開の場で発言せずに沈黙する。

女性優位な人々は、建前上の、無難な、その場の大勢に迎合した、良い子、ぶりっ子の発言のみを行う。

女性優位な人々が積極的に自由に発言することは、ある程度非公式か、非公開の場に限られる。

女性優位な人々は、衆目の監視の中で発言すると、発言内容に公の責任が生じる。それを恐れる人々は、保身のため、何も発言しないで、黙って含み笑いしているか、誰かの書いた脚本通りにしゃべるのみである。

女性優位な人々は、親しくない人が大勢いる中で自由な発言をすることに、抵抗がある。

女性優位な人々は、親しい仲間内でないと、自由に発言できない。

女性優位な人々が、他者から、彼ら自身にとって不都合な、彼ら自身への批判に当たる情報を、SNSや掲示板書き込みとかで、突き付けられた場合。

女性優位な人々は、そもそも反論自体をせず、その場で笑ってご1まかしたり、馬鹿にして、情報は見なかったことにして、討論の話題には乗せない。

女性優位な人々は、その後、わざと話題を別のものに逸らしたり、関係無い話題をどんどん持ち出して、時間稼ぎや不都合な情報の流し去りをする。彼らは、その情報の話題を無視することで、情報をそもそも無かったことにする。

女性優位な人々は、不都合な情報の書き込みに対して、仲間総出で示し合わせたように、無反応を長期間決め込み、その情報の存在を実質忘れさせて、消去し、無効化する。

女性優位な人々は、その情報源の他者に対して、沈黙するように、執拗に配慮のお願いを繰り返して、情報発信者のやる気を削ごうとする。

あるいは、女性優位な人々は、その情報源の他者に対して、「あなたは、私たちをこれ以上困らせるな。あなたは本当に迷惑な存在だ。社会の敵だ。」と、逆切れのような形で主張して、彼ら自身への気持ち面での一方的な忖度を、強要する。

女性優位な人々は、彼ら自身を批判する情報によって、彼ら自身の名誉が傷つけられた、と主張する。彼らは、警察のような公権力の介入とかを示唆し始めて、情報発信を強引に制限しようとする。

女性優位な人々は、SNSや掲示板などの管理者に対して、批判情報の書き込みの削除や凍結要求を、仲間総出で殺到させる。

女性優位な人々は、その後、ほとぼりが冷めたところで、再び彼ら自身に都合の良い話題で盛り上がる。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、彼ら自身の個人の独立に忠実であるために、社会の真実を積極的に語ろうとする。
男性優位な人々は、急所を突かれると、直ちに猛反撃を開始する。）

（４２）『多数派指向』

「多数派に属そうとすること。与党に投票すること。大きな組織に属そうとすること。数の力に頼ろうとすること。少数派を叩くこと。」
女性優位な人々は、多数派に就こう、属そうとする。女性優位な人々は、メジャーな存在が大好きである。女性優位な人々は、常に自分の所属する集団の大きさに注意が向く。彼らは、その集団が少数派だとすると、力が弱く差別される、と考える。
女性優位な人々は、選挙で、多数派の与党に投票しようとする。女性優位な人々は、自分が与党の一員となることで、より多数の人と同じ仲間に属することによる安心感を、心の中で求める。女性優位な人々は、マイナーな少数派に属することを、不安がる。
女性優位な人々は、野党を、少数派と見なして、見下す。
女性優位な人々は、就学や就職などで、大きな組織、会社に属そうとする。
女性優位な人々は、結婚で、大きな組織や会社に属する男性と、結婚しようとする。
女性優位な人々は、「寄らば大樹の陰」ということわざに沿って、行動する。

女性優位な人々は、何事も団体行動である。そのため、彼らは、団体の大きさや、数の力を、とかく重視する。女性優位な人々は、数の力に任せて、少数派を叩き、弾圧する。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、個々人が独立しているため、彼ら自身が少数派になる可能性を常に計算し、少数派の意見をある程度尊重しようとする。）

（４３）『安定指向』

「安定を好むこと。」
女性優位な人々は、彼ら自身の地位や生活が安定することを好む。
女性優位な人々は、一生安泰でいようとする。
女性優位な人々は、彼ら自身や結婚相手が今の良い生活を捨てて新天地に挑むことを、不安に思い、嫌う。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、新しい方へどんどん動き回ろう、流動しよう、冒険しようとする。
男性優位な人々は、彼ら自身の地位や生活が多少不安定でも問題ないと考える。）

（４４）『批判への耐性の低さ』

「批判への耐性が低いこと。批判に弱いこと。メンタルが傷つきやすいこと。忖度を大量に発生させること。褒め、癒しを渇望すること。」
女性は、彼女自身への批判に弱い。
女性優位な人々は、彼ら自身が批判されることに耐えられない。
女性優位な人々は、彼ら自身への社会的、心理的攻撃に弱く、すぐショックを受ける。
女性優位な人々は、自己保身第一で、いつも安全地帯にいようとしている。なので、彼らは、いざ彼ら自身が傷つけられることにとても弱い。
女性優位な人々は、メンタルな表面がソフトであり、すぐ容易に傷つく。
女性優位な人々は、批判されるとすぐ取り乱してしまう。
女性優位な人々は、批判されると、以下のような状態になる。すぐ切れること。感情的になること。怒り出すこと。ヒステリーを起こすこと。暴れること。とても気分がとげとげしくなること。とても不機嫌になること。そのため、以下のイベントが必須になる。周囲の人々による、彼らへの、ご機嫌取りや、忖度。
女性優位社会では、上位者への忖度が大量に発生しやすい。その社会の人々は、上位者に絶えず忖度しないと、女性優位社会では、生

きていけない。
女性優位社会は、体制批判が不可能である。その理由。
女性優位社会では、以下のことが起こる。
仮に、誰かが、うっかり体制批判をした、とする。
すると、体制における女性優位な上位者のメンタルが、すぐ容易に傷ついて、切れてしまう。
そうした上位者は、体制批判者に対して、直ちに、体制をあげての、苛酷で残虐な報復行為に出る。

女性優位社会では、上位者は、下位者たちが所蔵する定住集団の主宰者である。そこでは、上位者は、定住集団の秩序決定者である。女性優位社会。
仮に、ある下位者が、その上位者の意向に反する発言をした、とする。
すると、その下位者は、定住集団の和合や秩序を乱す異物扱いになる。
上位者と、その意を汲んだ定住集団内部の他の下位者たちは、一斉に徒党を組む。そうして、彼らは、上位者に異を唱えた下位者を、定住集団から追い出してしまう。
このことは、女性優位な人々にとっては、死活問題である。その理由。
彼らは、自己保身のため、互いにどこかの定住集団に所属して、自分の身の安全を図ることが必須である、と考えるため。
しかも、下位者は、一度、ある定住集団から追い出されると、他の上位者が主催する定住集団にもなかなか入れてもらえない。その可能性は、とても高い。

女性優位な社会において、下位者が、上位者のことを批判すること。その社会において、下位者が、上位者に異を唱えること。
その社会的リスクは、とても大きい。
なので、女性優位な社会では、下位者たちは、皆、内心では意に反していても、上位者を怒らせないようにする。
下位者たちは、上位者を批判することを抑えて、上位者に必死に忖度しまくる。
下位者たちは、上位者による一方的な説教を、忍従して耐えて、やり過ごし続ける。
下位者たちは、そうするしかない。

女性優位な人々は、心の容易な傷つきの繰り返しを、回避する。
そのため、彼らは、他人に、彼ら自身への批判や攻撃を、根本的に

許さない。
女性優位な人々は、上位者のことを批判したり傷つけないように、必死で忖度や気配りを行う。
女性優位な人々は、上位者が彼ら自身のことを批判すると、ショックですぐ落ち込み、泣き出す。
女性優位な人々。仮に、下位者が、彼ら自身のことを批判した、とする。すると、彼らは、想定外に裏切られたとして、傷ついて、烈火のごとく怒り、厳罰を下す。

女性優位な人々は、下位者に対して、無批判の絶対服従を要求する。
その結果、女性優位な社会では、以下のような社会が、出来上がりやすい。
上位者への批判に対して、不寛容な社会。
上位者に対して、自由に物が言えない社会。
それは、独裁社会である。

批判をメンタル的に一切受け付けない、女性優位な上位者。
彼らを何とか批判するには、女性優位な人々は、さらに、その上位者の権威を借りるしかない。

女性優位な人々は、彼ら自身のことを批判した相手のことを、いつまでも根に持つ。
彼らは、その相手に対して、しつこく徹底的に粘着して、報復行為を行う。

女性優位な人々は、批判を受けると、すぐ仲間集団に泣きついて、援護射撃を求める。
女性優位な人々は、彼ら自身のことを批判した個人に対して、集団で反撃に出る。

女性優位な人々は、彼ら自身への批判を回避する。
彼らは、彼ら自身が批判されることに神経質になる。
彼らは、周囲から肯定的に受け入れられようとして、あるいは、周囲に褒められようとして、必死になる。

女性優位な人々は、批判されずに、褒めたたえられようとする。
女性優位な人々は、批判されて絶えず容易に傷つく心の癒しやケアを、絶えず必死に求める。

女性優位な人々は、彼ら自身が、心理的に傷つきたくない。
そのため、彼らは、批判されても、延々と言い訳をして、なかなか受け入れようとしたり、直そうとしたりしない。
彼らは、かえって逆上する。
彼らは、以下のような行動を、必死になって開始する。
彼ら自身を批判してきた相手の人格攻撃。
その相手のプライバシーの暴露。
その相手の欠点の粗探し。
その相手の中傷。
批判者への集団尋問や詰問。

女性優位な人々は、批判してきた相手への感情的なしこりが、いつまでも残る。
彼らは、批判してきた相手と、なかなか仲直りができず、対立したままとなる。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、メンタル的にハードな表面を備えている。
彼らは、彼ら自身への批判に対して、傷つきにくい。
彼らは、批判されても、ある程度は平気である。
彼らは、他者への直接批判も、相手が上位者か下位者かを問わず、平然と行う。）

（４５）『無謬性の主張』

「自分自身の無謬性を主張すること。不都合な記録の隠ぺいや、改ざんや、抹消を行うこと。社会的真実を、軽視し、無視すること。」
女性優位な人々は、何事も彼ら自身の保身が第一である。
彼らは、いかなる時も、彼ら自身は悪くないとする。
彼らは、彼ら自身の無謬性を主張することについて、一生懸命である。

女性優位な人々は、以下のような行動を取る。
真実の内容が、とても不都合まみれで、酷い場合。
それが明らかになった時の、周囲に与える影響や、不安や、心配の大きさ。
彼ら自身が結果的に被ることになる、責任の大きさ。
それがとても心配になること。

そのため、周囲に対して、それについての過少申告や虚偽の報告をすること。
そうして、真実を誤魔化すこと。
例。「それは、大したことは無い。それは、問題無い。それは、上手く行っている。」

女性優位な人々は、以下のような行動を好む。
旧日本軍の大本営発表のような行動。
周囲に対して、虚偽の安心感を与え続けること。
酷い真実の露呈の引き延ばし。
彼ら自身の都合による、事態の勝手な幕引きの試み。
それらを、繰り返し行うこと。

そうした不都合な真実を隠しきれなくなった場合。
女性優位な人々は、以下のような行動を取る。
自己保身第一で動くこと。
ほとぼりが冷めるまで、周囲の面前から姿を消して、雲隠れすること。
「止むを得ない事情があった。」と言い訳をすること。
「私は悪くない。」と、彼ら自身の無謬性を主張すること。
他者への責任転嫁に走ること。

女性優位な人々は、以下のような行動を取る。
他者から失敗の責任を追及された場合。
彼ら自身の保身に必死になること。
言い逃れをするための言い訳を、盛んに行うこと。
彼ら自身以外の他者に対して、責任転嫁を試みること。

女性優位社会の上位者。
彼らは、無謬者扱いされ、神格化される。
彼らは、失政しても、責任は一切取らなくて済む。
女性優位社会。
その社会では、上位者が彼ら自身の誤りを認めない。
その社会には、自浄性が欠如している。

女性優位な人々は、以下のような行動を取る。
他人から、彼ら自身の良くない点を指摘された場合。
以下のような言動を取ること。
「私たちはこんなに酷くない。
その指摘は全く当たっていない。

その指摘は、私たちへの勝手な悪意や嫌悪による、中傷であり、
でっち上げだ。
私たちの悪口を言うな。」
そのように主張して、必死で自己擁護に走ること。

女性優位な人々は、彼ら自身の保身を最優先する。
彼らは、そのために、以下のような行動を取る。
不都合な記録を、隠ぺいし、改ざんし、抹消すること。
そのようにして、何も無かったかのような、きれいごとの世界を、
作ること。
それらの実現を、指向すること。

女性優位な人々は、彼ら自身にとって不都合な意見に対しては、無
視や、無反応を貫く。
彼らは、その社会的な消去を図る。

女性優位な社会は、以下のような行動が、大好きである。
不都合な記録の書かれた内部文書。
それらを、全て黒塗りにして外部に提示すること。
それらを、シュレッダーにかけて、処分したり、焼却したりするこ
と。

女性優位な人々は、以下のような性質を持つ。
彼ら自身にとって不都合な、正確な記録。
それを、敢えて後世に残そうとする精神。
それに根本的に欠けていること。

女性優位社会で横行する、データ改ざんの主導。
女性優位社会の歴史記録が信用できない状況。それを生み出してい
る根本的な原因。
女性の活動の歴史記録が残りにくい理由。
それは、隠ぺいや、改ざんや、抹消が、社会的に横行しているせい
である。

女性優位な人々は、以下のことを重視しない。
社会的真実を知ること。社会的真実を語ること。

女性優位な人々は、彼ら自身の保身を最優先する。
そのため、彼らは、その時々の上位者に忖度する。
そのため、彼らは、その都度、社会的真実を、彼ら自身の保身に都

合の良い内容へと、無意識のうちに、手のひら返しをして改ざんする。
それは、その時々の上位者にとって、都合が良い。

彼らは、本当の社会的真実には、そもそも気付こうとしない。
女性優位な社会生活を送る上では、そもそも社会的真実は必要ではない。
それは、円滑な人間関係遂行の上では、マイナスである。
なので、それは、容易に消去される。
その結果、きれいごとの捏造内容のみが、残る。

女性優位社会では、同調や、忖度といった、人間関係の維持や、推進が重視される。
そのため、その社会では、以下の行動が、人々の間で、横行する。
社会的事実。
その捏造。
そのでっち上げ。
それについての嘘つき。
その故意のお手盛り。
その過剰か過少な申告。
その歴史修正を、故意に行うこと。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、彼ら自身の誤りの可能性や、責任の所在を、ある程度認める。
彼らは、社会的真実を追求する。
彼らは、客観的で公正で正確な記録を、後世に残そうとする。）

（４６）『製品の品質や完成度の高さ』

「作る製品の完成度や競争力が高いこと。物事の微調整や小改良の能力に優れること。」
女性優位な人々は、以下の行為が、とても得意である。
物事への細かい配慮。
物事の、微細でミクロな調整や小改良。
物品の密度や集積度を上げること。
製品の品質や最終完成度を高めること。
女性優位な人々は、そうした能力に優れている。

女性優位社会の作る製品。
それらは、チャレンジ回避の精神で作られ、物真似が多く、新機軸に欠ける。
しかし、それらは、細やかな心配りがされている。
それらは、品質や完成度が高い。
それらは、優秀で、国際競争力がとても高いことが、通例である。

女性優位な社会。
その社会は、非科学的で、非合理的で、非論理的である。
その社会は、保身第一で動き、チャレンジを嫌う。
その社会は、根本的な発明や発見をしたり、画期的な新機軸を打ち出したりすることが、不得意である。
その社会は、社会の革新について、あまり貢献していない。
それにも関わらず、その社会が生み出す製品は、世界の市場を席巻する。
その社会は、大きな富を蓄積する。
その社会は、世界的に高い地位に就ける。
その理由。
製品の品質と完成度を、高く磨くことができること。
そうした、女性優位な、微調整や小改良の能力の高さ。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々の作る製品は独創的で新機軸にあふれる。
しかし、その製品は、出来が粗雑で、品質や完成度が低い。

オリジナリティのあるブランド性を必死で主張し続けること。
新機軸の製品を考案し続けること。
彼らの製品について、それらの施策を打たない場合。
彼らの製品は、女性優位社会の出す、高品質で最終完成度の高い製品に負けてしまう。
彼らの製品は、市場から駆逐される。）

（４７）『上位者好みと下位者への冷酷さ』

「上位者を好むこと。下位者に対して、冷酷であること。」
女性優位な人々は、上位者に甘く、下位者に冷たい。
女性優位な人々は、彼ら自身の保身条件を向上させる存在を歓迎し、取り入る。（例。強者。上位者。金持ち。）

女性優位な人々は、彼ら自身の保身の条件を低下させる存在を、全力で潰そうとする。（例。弱者。下位者。貧困者。）

女性優位な人々は、下位者、弱者への人権意識が、根本的に欠けている。
女性優位な人々は、下位者を哀れみ、避け、馬鹿にする。（例。モテない弱者男性。）
女性優位な人々は、平然として、身分差別や、職業差別や、貧困者や障害者への差別を、行う。
女性の強い社会では、慈善事業が進まない。

女性優位な人々は、自己保身や自己評価向上や、自己愛の実現を図る。
彼らは、そのために、下位者を、平然と犠牲にしたり、貶めたりする。
女性優位な人々は、彼ら自身の保身のことしか考えない。
女性優位な人々が、他人に対して、配慮や、気配りをすること。
それは、彼らが、そうした行為を、自己保身に役立つと考えた時のみである。

女性優位な人々は、もっぱら上位者に対して、配慮や、気配りや、忖度をする。

女性優位な人々は、以下の人物のことは、可愛がろうとすることもある。
彼ら自身のことを慕い、懐いてくる、お気に入りの下位者。

しかし、女性優位な人々は、一般的には、下位者には、ぞんざいで冷酷に接する。

女性優位な人々は、下位者が上位者に意見をすることについて、以下のように考える。
「それは、自身の立場をわきまえない、厚かましい、失礼な態度である。」
女性優位な人々は、それを、根本的に嫌い、決して認めない。

女性優位な人々は、上位者に対して隷従すると共に、下位者を隷従させる。

女性優位な人々は、上位者や強者の文化を、必死で学ぼう、まねよ

う、導入しようとする。
女性優位な人々は、上位者との接触や同化に、必死になる。
女性優位な人々は、下位者との接触や同化を、全力で阻止する。

女性優位な人々は、以下のことを嫌がり、全力で阻止する。
彼ら自身の拠出した資金や税金が、彼ら自身の仲間以外の第三者の下位者、劣位者に対して使われること。
下位者が、上位者に援助を要求すること。
下位者が、援助を得ること。
女性優位な人々は、それらの行為を、厚かましいと考える。

下位者による、社会的な援助の申請。
女性優位な人々は、そうした行為を断念させようとして、必死になる。
女性優位な人々は、社会的福祉の概念に乏しい。

女性優位な人々は、以下の行為に、必死で走る。
社会的下位者の生活を助ける、生活保護制度。
それへのバッシング。

女性優位な人々は、以下の行為を、嫌がる。
慈善事業にお金を出すこと。

女性優位な人々は、以下のことを好まない。
彼ら自身の保身条件を下げる下位者。
そうした下位者が、社会的に生存し続けること。

女性は、以下のことを望まない。
下位者の男性や、弱者男性。
その遺伝子が存続すること。

女性は、以下のことを、全力で避ける。
下位者の男性や、弱者男性との、セックスや結婚。

女性は、デートやセックスや結婚への活動で、上位者の男性や、強者男性のもとに、集中する。
女性は、以下の男性としか、付き合ったり、セックスしたり、結婚したりしようとしない。
彼ら自身の保身条件を大幅に引き上げてくれそうな男性。

女性は、以下のイベントの発生を、待ち続ける。
彼ら自身の保身条件を大幅に引き上げてくれそうな男性。
そうした男性が、彼ら自身のところにやってきて、彼ら自身のことを見出してくれること。
そうした男性が、彼ら自身のことを気に入り、プロポーズしてくれること。

女性優位な人々は、以下のことを、あまり考慮することができない。
彼ら自身が、下位者の立場へと、転落すること。
その可能性の大きさ。

女性優位な人々は、以下のような社会を作りやすい。
一度失敗すると、下位者に転落したまま、再起が困難な人生。
そうした人生を、生涯にわたって、人々に対して強制する社会。

女性優位な人々。
彼ら自身が下位者になった場合。
彼らは、とても卑屈になる。

彼ら自身が、下位者の身分に転落していること。
そのことを、周囲に知られること。
彼らは、それを、とても嫌う。

上位者に対して、援助等の要求をすること。
彼らは、それを、厚かましい行為であるとして、躊躇する。

彼らは、以下のイベントの発生に期待する。
上位者が、自発的に、彼ら自身を助けに来てくれること。

女性優位な人々。
彼らは、プライドが高い。
彼らは、恥の概念が強い。
社会における、彼ら自身の相対評価が、公然と低下すること。
彼らは、それを恐れる。

彼らは、以下の行為を好まない。
彼ら自身のプライドを捨てて、上位者による援助に対して、公然と頼ること。
上位者に対して、援助を公然と要求すること。

生活保護の申請を行うこと。

女性優位な人々は、以下のような行動を取る。
彼ら自身が、社会的に下位者になっていて、低待遇状態にある場合。
彼ら自身の待遇を向上させるように、運動することを、実行しようとしないこと。
彼ら自身と似たような条件で、好待遇を得ていたり、得ようとしている他者。
そうした他者に対して、以下のような言動をすること。
「私たちは、低待遇状態で、こんなに苦労したり、我慢している。
私たちは、低待遇でも、こんなに必死に努力して、頑張っている。
それなのに、あなたたちは、勝手に好待遇を得て、良い思いをしたり、楽をしている。
私たちは、あなたたちのことが、決して許せない。」
そうした主張をすること。
そうした、嫉妬心満載の、猛烈な批判を、展開すること。

そうした、好待遇を得ようとする他者に対して、以下のような言動をすること。
「あなたたちも、私たちと同様の低待遇のままで、ずっと一緒に我慢しろ。
あなたたちは、私たちに黙って、勝手に良い思いをするな。
社会的な不公平は許せない。」

そうした女性優位な人々は、以下のような行動を取る。
彼ら自身における、社会的な低待遇や、耐乏生活。
そこでの、彼ら自身の必死の努力。
それに対する、自慢や自画自賛。
「低待遇自慢。」
他者に対して、低待遇のままで留まることを、当然のように要求すること。

自分自身の社会的待遇や社会的地位を向上させようとする他者。
その他者の足を、当然のように、必死で引っ張ること。
そうして、その他者の社会的な待遇を、彼ら自身と同レベルの、低い水準に下げること。
その結果として、以下の内容を、社会的に確保すること。
「待遇の悪平等性。」

そのため、女性優位な社会では、以下のような現象が起きやすい。
待遇を低い方に合わせるよう要求する圧力。
それが人々の間に働くこと。
その結果。低待遇の人たちの社会的な待遇が上がりにくいこと。
下位者は、いつまでも互いに足を引っ張り合って、下位者のままでいること。

（ＶＳ男性：
男性優位な人々は、上位者にも下位者にも誰にもドライで冷淡である。
しかし、男性優位な人々は、以下のことを、常に認識する。
彼ら自身が、チャレンジ失敗の結果、下位者に一時的に転落する可能性。
そのため、男性優位な人々は、下位者支援の慈善事業を、積極的に行う。）

（リストアップはここまで）

女性優位社会の特徴。それらの内容についての分類。

自己保身性。

////
//（１３）『被保護への欲求』
//（６）『所属の重視』
////

////
//（１５）『リスクの回避』
//（２４）『失敗恐怖症』

////

////
//（１６）『前例踏襲指向』
//（１７）『後進性。現状維持。』
////

//（２６）『受動性。被害者意識の強さ』

//（３６）『従順さの重視』
//（１４）『権威主義』

////
//（２１）『責任の回避』
//（４５）『無謬性の主張』
//（４４）『批判への耐性の低さ』
////

//（４１）『真実や内実の隠蔽』

////
//（３８）『突出の回避』
//（３７）『総花的』
////

////
//（４６）『製品の品質や完成度の高さ』

//（３１）『小スケール性。』

//（３２）『高密度指向』

//（３３）『厳格さの重視』

//（３５）『管理統制主義』

//（３４）『減点主義』
//（４０）『マイナス思考』
////

自己中心性。

//（１８）『恥や見栄の重視』
//（３９）『中心指向』

自己保身性。 || 自己中心性。 ||| その両方。

//（４２）『多数派指向』
//（４７）『上位者好みと下位者への冷酷さ』

定住生活様式。

//（７）『定住の重視』

自己保身性。 || 定住生活様式。 ||| その両方。

//（４３）『安定指向』

共存性。共同性。

////
//（８）『同調性の強さ。強い嫉妬心。』
//（１０）『物真似指向』
////

////
//（１１）『和合の重視』
//（２３）『事前合意の重視』
////

////
//（３０）『感情性。』
//（２２）『懐きの重視』
////

////
//（２９）『局所性。（ローカル性。）』
//（１２）『小グループ間の無関心』
//（２５）『閉鎖性。排他性。』
////

共存性。共同性。 || 自己保身性。 ||| その両方。

//（５）『集団主義』

//（９）『同期制や、先輩後輩制の重視』

//（２８）『間接的対応』

共存性。共同性。 || 自己保身性。 || 自己中心性。 ||| それらの全部。

////
//（１）『対人関係の重視』
//（２）『コミュニケーションの重視』
//（３）『対人関係の累積』
//（４）『対人関係の癒着』

////

////
//（１９）『気配りの重視』
//（２０）『清潔さの重視』
//（２７）『相互監視の重視』
////

女性優位社会の掟

女性優位社会で生き抜くには、良くも悪しくも、以下のような対処をすることが必要になる。
このことは、公言してはいけない裏の掟である。
この掟の中には、人権上問題のある掟も多々含まれているので、注意が必要である。

（１）
「所属集団の選択」
皆さんが初めて入った所属集団。皆さんが生まれた所属集団。
それらが、皆さんが、生涯にわたって、ずっと過ごす所属集団になります。
その選択は、後からはやり直しができません。
なので、皆さんは、入る所属集団の選択を、くれぐれも誤らないようにしなさい。
（集団を選択するタイミング。例。入学時。クラス替え時。学校を新規で卒業した時。就職活動する時。結婚する時。）

皆さんは、入ろうとする所属集団のことを、事前に徹底的にチェックしなさい。
（集団をチェックする内容。例。規模。将来性。安定性。福利厚生。校風。社風。家風。）
皆さんは、「寄らば大樹の陰」ということわざの内容に従って、行動しなさい。

皆さんは、以下の条件を満たす所属集団に、入れてもらいなさい。

///
大きいこと。
安定していること。
安全であること。
将来性があること。
福利厚生の良いこと。
///

（２）
「コミュニケーション力の重視」
皆さんは、コミュニケーションや、協調性を、重視しなさい。
皆さんは、周囲に対して、積極的に、声掛けをしなさい。
皆さんは、コミュニケーション障害の人のことは、疎外しなさい。

（３）
「食事会の重視」
皆さんは、食事会を重視しなさい。
その理由。
皆さんは、会食者と同じご飯を食べることで、彼らの仲間や、集団の内部に入れてもらえやすくなります。

（４）
「仲間に尽くすこと」
皆さんは、皆さん自身の所属集団や、仲間集団の利益を、考えなさい。
皆さんは、仲間集団と一体化しなさい。
皆さんは、仲間集団のために、尽くしなさい。
皆さんは、仲間集団のために、汗を流しなさい。
皆さんは、仲間集団のために、長時間にわたって、働きなさい。
皆さんは、仲間集団のために、積極的に、苦労をしなさい。
皆さんは、仲間集団の他の人とは、持ちつ持たれつで、相互に助け合いながら、付き合いなさい。
皆さんは、お世話になった人や、恩のある人には、お返しをしなさい。
皆さんは、よそ者は、どうなっても良い、と考えなさい。
皆さんは、よそ者のことは、無視して構いません。
よそ者とは、所属集団外の人のことです。

（５）

「個人行動や、抜け駆けの禁止」
皆さんは、所属集団から離れた個人行動は、しては駄目です。
皆さんが、所属集団に相談無く、抜け駆けすることは、禁止です。
皆さんは、必ず所属集団の内部の人に、前もってお伺いを立てなさい。

（６）
「強い人への対応」
強い人。偉い人。力ある者。
例。先輩。恩師。上司。姑。

皆さんは、彼らを立てなさい。
皆さんは、彼らに対して、媚を売ったり、気配りをしなさい。
皆さんは、彼らに対して、積極的に懐いたり、甘えたり、頼ったりしなさい。
皆さんは、彼らに対して、反論したり、理屈をこねたりしてはいけません。
皆さんは、彼らの言うことを聞きなさい。
皆さんは、彼らと良く話をして、そうした普段の話の中からふと漏れ出る個人的な弱みを握るのです。
皆さんは、そうして握った、彼らの個人的な弱みを盾に、彼らを思い通りに動かしなさい。
皆さんは、長いものには巻かれなさい。
皆さんは、彼らに対して、逆らわないようにしなさい。
皆さんは、彼らに対して、御用聞きをして取り入りなさい。

皆さんは、そのように、彼らにペコペコすることで、ストレスが溜まります。
そうしたストレスの解消方法。
皆さん自身よりも弱い者をいじめて、うっぷんを晴らしなさい。

（７）
「縁故の重視」
皆さんは、有力な人との縁故の生成や、その縁故の維持を、重んじなさい。
皆さんは、いざという時に、彼らから助けてもらえるよう、彼らに対して、常日頃から、恩を売っておきなさい。

（８）

「権威主義」
皆さんは、権威あるものには、とりあえず従っておきなさい。
（権威あるもの。例。欧米諸国のような先進国。その文物。）

皆さんは、皆さん自身も、その権威に積極的にあやかり、権威と一体化しなさい。
そうして、皆さん自身に箔を付けて、周囲より上位に立てるようにしなさい。

（９）
「先輩後輩制の重視」
皆さんは、年功序列や、先輩後輩制を、重んじなさい。
その理由は、年功の上の人ほど、有益な前例や、しきたりを、良く知っているからです。

（９－１）
「先輩の処遇」
皆さんは、古参者が偉いことを、肝に銘じなさい。
皆さんは、先輩を立てて、敬いなさい。
皆さんは、とにかく先輩の言うことを聞きなさい。
皆さんは、先輩の言う通りに動きなさい。

（９－２）
「同期の処遇」
皆さんは、同期の人々には、なるべく同等に処遇しなさい。

やむを得ず、彼らへの処遇に差が出る場合。
皆さんは、彼らが互いに顔を合わせずに済むように、配慮しなさい。

（９－３）
「後輩の処遇」
皆さんは、後輩に懐かれたり、尊敬されるだけの器量を持てるよう、頑張りなさい。
皆さんは、後輩に馬鹿にされるようでは、人間として、終わりです。
（器量。例。コミュニケーション能力。技術力。人間性。）

皆さんは、後輩のことは、部下として、こき使って構いません。

（１０）
「委員長の選出」
所属集団のまとめ役や、委員長。
その選出。

皆さんは、以下の条件を満たす人の中から、優秀な人を選びなさい。

///
長年、所属集団のことを第一に考えて、リードしてきた人。
所属集団の生え抜きの人。
年功の上の人。
///

（１１）
「空気を読むことの重視」
皆さんは、皆さん自身のことを、周囲に素早く合わせなさい。
皆さんは、周囲の動きに対して、敏感になりなさい。
皆さんは、周囲の空気を読みなさい。
皆さんは、個人的な考えや、独自の意見には、固執しないようにしなさい。
皆さんは、個人的な、独自の考えを、持たないようにしなさい。
皆さんは、周囲と一体になりなさい。
皆さんは、とにかく周囲に合わせて動きなさい。
皆さんは、皆さん自身を、無にしなさい。
皆さんは、周囲に対して、異を唱えないようにしなさい。
皆さんは、以下の意見について、時々刻々、皆さん自身の意見を合わせなさい。

その時々の上位者。彼らの意見。
所属集団の有力者。所属集団の仲間。彼らの意見。
周囲や、社会一般の中で、大勢となっている意見。

皆さんは、それらについて、カメレオンのように、迎合し、変身して、付いて行きなさい。

（１２）

「人気者になる方法」
皆さんは、以下のような意見を流布させなさい。
ライバルや社会一般の一歩先を行くような、気の利いた意見。

皆さんは、そうして、人気者になって、力を得なさい。
皆さんは、先に進み過ぎないようにしなさい。
皆さんは、以下のことを行いなさい。

先進国や、首都圏などで、人気が出たものや、出そうなもの。
それらを、周囲に先んじて、いち早く、取り入れること。
それを、周囲に向けて、さりげなく見せびらかすこと。

皆さんは、そうすることで、所属集団の人気者になれます。

（１３）
「調和や、事なかれ主義の重視」
皆さんは、所属集団内部の調和を、第一に考えなさい。
皆さんは、波を立てることを、しないようにしなさい。
皆さんは、揉め事を起こさないようにしなさい。
皆さんは、事なかれ主義に徹しなさい。
皆さんは、空気を読みなさい。

（１４）
「出る杭は打たれること」
皆さんは、出る杭は打ちなさい。
皆さんは、以下の人たちに対して、以下の行為を、以下の態度で、
行いなさい。

///
仲間集団の調和を乱す者。
目障りな者。
異質な者。
異分子。

///
叩くこと。
いじめること。
無視すること。
集団へと、強制的に同化させること。
潰すこと。

自殺に追い込むこと。
集団の外に、追放すること。
集団から、排除すること。

///
皆で寄ってたかって、行うこと。
徹底的に行うこと。

///

皆さんは、皆が一つの色に仲良く染まることを、理想としなさい。
皆さんは、皆さん自身は、余り、目立たないようにしなさい。
皆さんは、皆さん自身は、余り、浮かないようにしなさい。
皆さんは、個人行動を、しないようにしなさい。
皆さんは、皆と一緒に、地道に努力して、認められる時を待ちなさい。

（１５）
「失敗の回避」
皆さんが起こした失敗は、そのままでは、連帯責任になってしまいます。
そのことで、偉い人まで、懲戒や連座の対象になり、迷惑がかかります。

皆さんは、とにかく失敗しないようにしなさい。
皆さんは、石橋は叩いても渡らないようにしなさい。
皆さんは、慎重に動きなさい。

皆さん自身の失敗に、偉い人を巻き込まないで済む方法。
皆さんは、皆さん自身が、犠牲になりなさい。
（例。皆さんは、自己責任を取りなさい。皆さんは、自殺しなさい。）

（１６）
「遅刻や、休みの禁止」
皆さんは、始業時刻に遅刻しないようにしなさい。
皆さんは、休まないようにしなさい。
皆さんは、多少体調が悪くても、這ってでも出席し、出社しなさい。

皆さんは、周囲に合わせて、遅くまで残って、頑張りなさい。
皆さんは、自分だけ早く帰らないようにしなさい。
皆さんが、そうすると、皆さんに対する周囲の受けが、良くなります。

（１７）
「集団から出されないことの重視」
皆さんは、所属集団や、仲間集団から、決して外に追い出されないようにしなさい。
皆さんは、周囲から無視されないようにしなさい。
そのため、皆さんは、常日頃から、周囲に対する気配りを、怠らないようにしなさい。
皆さんは、所属集団に対して、何が何でもしがみつきなさい。
皆さんは、以下のように思いなさい。
「私が、一度、所属集団の外に出されたら、次は無い。」

仮に、皆さんが、所属集団の外に出された、とします。
すると、皆さんは、途端に、以下のように扱われます。
///
よそ者。
集団不適合者。
///

その結果、皆さんは、どこの集団にも入れてもらえなくなります。

皆さんは、所属集団から追い出されないよう、周囲に対して、媚を売りなさい。

（１８）
「連続所属の重視」
所属集団や仲間集団の存続や、永続。
皆さんは、そのために、我が身を削って、尽くしなさい。
（あるいは、皆さんは、周囲の受けを良くするために、尽くしている振りをしなさい。）

皆さんは、所属集団にずっと所属し続けなさい。
皆さんは、所属集団の用意した人生のレールや、人生のエスカレーターから、決して外れたり、降りたりしないようにしなさい。
そこから外れないか、降りない限り、皆さんの生活は、所属集団が保証します。

皆さんが、いったん、そうしたレールやエスカレーターを、自主的に降りた場合。
皆さんのその後の生活は、自己責任となります。
所属集団は、皆さんのその後の生活には、一切関与しません。
所属集団は、その後の皆さんのことを、一切助けません。
皆さんは、そのことについて、くれぐれも注意しなさい。

（１９）
「仲間外れの発生」
皆さんは、以下の人たちに対して、以下の行為を、行いなさい。

///
所属集団の掟を破った者。
（例。内部告発者。）
所属集団に迷惑や、負担をかける者。

///
みんなで懲戒処分にすること。
みんなで仲間外れにすること。
彼らが困っていても、みんなで無視すること。

///

皆さんは、皆さん自身が、そうした懲戒処分を受けないようにしなさい。
そのため、皆さんは、所属集団の掟には、絶対的に服従しなさい。

（２０）
「運命共同体としての所属集団」
皆さんは、所属集団と、運命を共にしなさい。
皆さんは、集団自決しなさい。
皆さんは、みんなで一緒に、死になさい。
皆さんの中の誰かが、一人だけ逃げ出すことは、もってのほかの行為です。
そうした行為は、絶対に、許されません。

（２１）
「裏切り者の条件」
以下のような人たちは、所属集団から、裏切り者扱いされます。

///
所属集団を自分の意思で勝手に出て行った者。
（例。原発事故の避難者。）
///

なので、皆さんは、その覚悟をしなさい。
皆さんは、所属集団から出ないようにしなさい。
皆さんは、一生を今いる所属集団で過ごす覚悟をしなさい。

（２２）
「気に入らない人への対処」
皆さんは、気に入らない人は、みんなで潰しなさい。
そのため、みんなで、その人の陰口や、悪口や、噂話を、流しなさい。
そうして、その人に、ダメージを与えなさい。

（２３）
「所属集団の名誉の重視」
皆さんは、見栄を張りなさい。
皆さんは、恥ずかしくないようにしなさい。
皆さんは、所属集団の名誉のために、頑張りなさい。
皆さんは、不祥事を起こして、仲間集団に対して、恥をかかせないようにしなさい。
皆さんは、仲間集団に対して、迷惑や負担をかけないようにしなさい。

（２４）
「内部告発の禁止」
皆さんは、所属集団の内部の機密事項を、外部に漏らしてはいけません。
皆さんは、内部告発をしてはいけません。
もしも、漏らした人がいたら、その人は、裏切り者です。
皆さんは、その人とは、関わらないようにしなさい。

（２５）
「余所者の不信用」
皆さんは、よそ者を信用しないようにしなさい。
皆さんは、よそ者を内輪に入れないようにしなさい。
皆さんは、仲間集団の内部だけで固まるようにしなさい。

（２６）
「上位者の神格化」
皆さんは、最高支配者を、上位者として、神のように扱いなさい。
皆さんは、上位者には、いかなる時も、絶対的に服従しなさい。
皆さんは、上位者の家来にも、絶対的に服従しなさい。
皆さんは、社会的に出世するには、以下のことを、実現しなさい。

上位者の仲間集団の内部に入れてもらうこと。
（例。政府の高級役人として、採用されること。大企業の幹部候補として、採用されること。）
その場合、新卒採用の、白紙採用の形で、入れてもらうこと。
そのために、ライバルとの間で、厳しい競争を、打ち勝つこと。

皆さんは、そのことを、皆さんの子息の教育において、究極の目標としなさい。

（２７）
「上位者への従順」
皆さんは、上位者には、ペコペコ頭を下げて、従いなさい。
皆さんは、上位者には、媚を売りなさい。

皆さんが、上位者を批判した場合。
皆さんが、上位者に反抗した場合。
そうした場合、皆さんは、皆さん自身の命は無いと思いなさい。

皆さんにとって、上位者の言うことは絶対です。
社会において、強い者が誰であるかは、時々刻々、変化します。
皆さんは、その時々の強者を、上位者と見なして、付いて行きなさい。
皆さんは、その判断において、遅れることの無いようにしなさい。

（２８）
「弱い者いじめ」
皆さんは、以下の場合、ストレスが貯まります。

///
皆さんが、上位者に対して、ペコペコ頭を下げて、忍従し続ける場合。
///

そこで、皆さんは、その捌け口として、弱い者いじめを、積極的にしなさい。

皆さんが、多数で、一人をいじめること。
その行為は、この社会では、全く問題がありません。
この社会では、数こそ、力の源泉です。
この社会では、集団こそ、力の源泉です。
皆さんは、浮いた者や、弱い者を、いじって、叩いて、無視しなさい。
皆さんは、そうして、日頃の憂さ晴らしをしなさい。

（２９）
「ピンはねの容認」

（２９－１）
皆さん自身よりも強い、上位者や元請け。
皆さんは、彼らには、頭を下げて、仕事を貰いなさい。
皆さんは、彼らにピンはねされても、生きていくためには、止むを得ません。
なので、彼らには、黙って従いなさい。

（２９－２）
皆さん自身よりも弱い、下請け。
皆さんは、彼らからは、利益をピンはねして、一向に構いません。
皆さんは、彼らのことは、徹底的に搾取しなさい。
そのことは、皆さんが生きていく上で、必要です。

（３０）
「スーパー上位者の活用」
皆さんが、国内の上位者や元請けを動かしたい場合。
皆さんは、より強い「スーパー上位者」の紹介者になりなさい。
（スーパー上位者。例。先進国。先進国の大企業。国連。）

皆さんは、スーパー上位者の立てた権威ある説の中から、皆さん自身にとって都合の良い説を、ピックアップして、主張しなさい。
皆さんは、スーパー上位者の仲間になって、国内の上位者や元請けよりも、上の立場に立ちなさい。
皆さんは、スーパー上位者に取り入って、皆さん自身にとって都合

の良い情報を、彼らに対して吹き込んで、彼らを操りなさい。
皆さんは、その力で、国内の上位者を支配しなさい。

（３１）
「上位者への反抗」
皆さんが、止むを得ず、上位者に対して反抗する場合。
皆さんは、反抗の首謀者が誰か分からないように、全ての情報を処分しなさい。

（３２）
「新入生の採用」
皆さんの所属集団に、新規で入ろうとする新参者。
（皆さんの所属集団。例。学校の部活。）

皆さんは、その採用に当たっては、以下の点に注意しなさい。

皆さんは、以下の人を採用しなさい。
出来るだけ若い、新入生の、白紙状態の人。
それは、彼を、皆さんに反抗しない、子飼いの存在にするため、必須です。

皆さんは、以下の人の採用は、避けなさい。
他の集団への所属歴のある人。他の集団の色の付いた、中古状態の人。

（３３）
「派閥抗争の容認」
皆さんは、所属集団の派閥に、積極的に入りなさい。
皆さんにとっては、派閥こそが、仲間の中の仲間です。
皆さんは、自分の派閥にとってライバルとなる、他の所属集団や、他の派閥に対して、気を許さないようにしなさい。
皆さんは、ライバルの派閥を、派閥の仲間で一丸となって攻撃し、せん滅しなさい。
皆さんは、他の派閥から、攻撃されたら、仕返しをしなさい。
皆さんは、派閥の中で力を発揮して、実力者の証を見せることを、生きがいとしなさい。
皆さんは、どこの派閥にも入ろうとしない八方美人とは、付き合わないようにしなさい。

（３４）

「情報統制の徹底」
皆さんは、以下の情報について、以下の行為を、徹底しなさい。

（３４－１）
皆さん自身の所属集団や、仲間集団にとって、マイナスになる情報。
それらの集団にとって、恥になる情報。
それらの集団にとって、都合の悪い情報。
（例。自国が、負け戦の状態になっているという情報。その噂話が、周囲に流れていること。）

そうした情報が、周囲に漏れたり、社会一般に流れること。
そうしたことが、絶対に起きないようにすること。
そのために、徹底的に情報統制をすること。

情報を流す立場の人を、会食などで、懐柔し、締め上げること。
そうした情報を流した者や、それを知っている者を、何としても探し出し、処分すること。

（３４－１－Ａ）
皆さんが知っている、皆さん自身の所属集団や、仲間集団の、内情。
それらの集団にとって、都合の悪い、恥ずかしい内情。

そうした情報を、最後の最後まで、外部に対して、隠し通すこと。
そうした情報を、焼却処分して、消すこと。

（３４－２）
皆さん自身の所属集団や、仲間集団にとって、プラスになる情報。
それらの集団にとって、名誉になる情報。
それらの集団にとって、都合の良い情報。

そうした情報だけが、周囲や、社会一般において、流れるようにすること。
そうした情報を、大々的に宣伝し、広報し続けること。

（３５）

「根性論や、精神論の重視」

（３５－１）
皆さんは、以下の条件が整えば、何事もなしうる、と考えなさい。

///
やる気。根性。精神力。
それらの心を、十分に持っていること。

///
一生懸命に、努力すること。
その行為を、毎日、長期間にわたって、継続すること。

（３５－２）
皆さんは、以下のように、考えなさい。

科学的指導など、意味が無い。

根性の無い者。耐える力の無い者。
彼らには、しごいて、焼きを入れる必要がある。

（３５－３）
皆さんは、とにかく、やる気を見せなさい。
さもないと、皆さんは、仲間集団には入れてもらえません。
皆さんは、とにかく、努力する姿勢を見せなさい。
さもないと、皆さんは、仲間集団から放り出されてしまいます。

（３６）
「嫉妬の回避」
皆さんは、周囲の女性に嫉妬されないように行動しなさい。
皆さんは、あまり良い格好をしないようにしなさい。
皆さんは、あまり目立たないようにしなさい。
皆さんは、控えめに、さりげなく、自慢しなさい。

皆さんは、人気がある異性からモテていることなどを、言わないようにしなさい。
さもないと、皆さんは、周囲の女性から嫉妬されてしまいます。
その結果、皆さんは、周囲の女性から、全力で、いじめられたり、足を引っ張られてしまいます。

（３７）
「被害者意識や、弱者意識の重視」
皆さんは、皆さん自身を、なるべく、被害者や、弱者の立場に置きなさい。
皆さんは、皆さん自身が、被害者や、弱者であるとして、涙ながらに訴えなさい。
そうすれば、皆さんは、周囲や社会を、容易に動かし、支配することが出来ます。

（３８）
「良い意味で注目されることの追求」
皆さんは、皆さん自身に、良い注目が集まるように、努力しなさい。
皆さんは、皆さん自身が、優れた人だとして、周囲から評価されるように、努力しなさい。
皆さんは、化粧や服装などの身だしなみを、磨きなさい。
皆さんは、知性や教養や判断力を、磨きなさい。

（初出2017年4月）

人々の性格の女性優位な度合いの判定基準

ある人の性格が、女性優位かどうかを判定する基準は、テスト形式で以下のようにまとめられる。
１．私は、仲間や、内部という言葉を、良く使う。→女性優位。
２．私は、先輩や、後輩や、同期という言葉を、良く使う。→女性優位。
３．私は、外人という言葉を、良く使う。→女性優位。
４．私は、先生という言葉を、良く使う。→女性優位。
５．私は、発言する時、空気を読む。→女性優位。
６．私は、人物の成績を、偏差値で評価することが、好きである。→女性優位。
７．私は、無難、事なかれ的なことが、好きである。→女性優位。
８．私は、減点主義である。→女性優位。
９．私は、誰かが失敗する原因は、本人の努力が足りないからと考

える。→女性優位。
１０．私は、誰かが失敗する原因は、本人の根気や、精神力が足りないからと考える。→女性優位。
１１．私は、自分の仲間の恥を外部に出さないようにする。→女性優位。
１２．私は、他人の目や、噂を気にする。→女性優位。
１３．私は、見栄っ張りである。→女性優位。
１４．私は、上手く行っている他人のことを、妬ましいと思う。→女性優位。
１５．私は、他人の陰口を叩くことや、他人の悪口を言うことが、好きである。→女性優位。

（初出2017年4月）

移動、定住生活様式と、男女の遺伝的性差

（１）男性は、以下のような存在である。

（１－１－１）移動生活様式向けの心理構造、行動パターンを、人々に提供する存在。
（１－１－２）そのことが、遺伝的に決まっている存在。

（１－２－１）移動生活様式中心の社会で、権力を握る存在。
（１－２－２）そのための精神構造が、遺伝的にプログラムされている存在。
（１－２－３）移動生活様式中心の社会は、男性優位社会になる。

（１－３－１）移動中に一時的に定住することを、指向する存在。
（１－３－２）男性優位社会の人々は、こうした指向を、共通に持つ。

（２）女性は、以下のような存在である。

（２－１－１）定住生活様式向けの心理構造、行動パターンを、人々に提供する存在。
（２－１－２）そのことが、遺伝的に決まっている存在。

（２－２－１）定住生活様式中心の社会で、権力を握る存在。
（２－２－２）そのための精神構造が、遺伝的にプログラムされている存在。
（２－２－３）定住生活様式中心の社会は、女性優位社会になる。

（２－３－１）定住中に一時的に移動することを、指向する存在。
（２－３－２）女性優位社会の人々は、こうした指向を、共通に持つ。

（初出2020年5月）

女性優位社会の憲法、男性優位社会の憲法

定住生活様式の女性優位社会には、世界的に、共通で一般的な社会規範や価値観がある。それらの頂点が、女性優位社会の憲法である。
その一例が、日本の伝統的社会のルールである。
移動生活様式の男性優位社会には、世界的に、共通で一般的な社会規範や価値観がある。それらの頂点が、男性優位社会の憲法である。
その一例が、西欧、北米各国の憲法である。

日本国憲法は、アメリカ牧畜民の社会規範を、日本の女性優位社会の社会規範の上に押し付けて、出来ている。
日本では、日本国憲法は、表面的には、全面的に受け入れられた。
しかし、強力な女性、母親たちの抵抗で、その内容は、ほぼ骨抜きにされた。日本社会は、以前から続く、伝統的社会のままである。
アメリカ主導で日本に導入された日本国憲法は、男性優位社会の憲法の一例である。

今の日本では、日本国憲法はただの飾りである。日本の伝統的社会のルールが、日本社会の真の憲法である。それは、女性優位社会の憲法である。

日本国憲法をもとに、男性優位社会の憲法をまとめることができる。
日本の伝統的社会のルールをもとに、女性優位社会の憲法を明文化できる。

女性優位社会の憲法は、どこも当初は男性優位社会の憲法のお仕着せになる。それは、女性優位社会が女性優位なためである。彼らは、憲法の作成は、自分ではできない。
彼らにとっては、その作成において発生する未知のリスクが、とても怖い。彼らは冒険しない。
彼らは、自分たちの社会の内部を隠す。彼らは、表の顔として、男性優位社会の憲法を活用する。彼らは、実際には、明文化されない女性優位社会の憲法で動く。

女性優位社会の日本は、「スーパー上位者」のアメリカに従順する。そうして、日本では、日本国憲法の条文は、不可侵な存在となる。女性優位社会の日本では、男性優位社会の憲法の条文の神格化が起きている。

東アジア、東南アジアやロシアの女性優位社会の国家の多くは、社会主義国家、共産主義国家である。彼らの社会の社会主義、共産主義は、マルクス主義がもとである。
マルクス主義は、西欧由来の、男性優位社会の価値観である。女性優位社会の国家における社会主義、共産主義の憲法は見かけだけである。彼らは、実際には、女性優位社会、女性優位社会の伝統的なルールで動いている。

男性優位社会の憲法と女性優位社会の憲法の違いは、「上位者」の概念の有無である。
女性優位社会の憲法は、「上位者」の概念を強力に持つ。
男性優位社会の憲法は、「上位者」の概念をあまり持たない。
筆者は、以下で、女性優位社会の「上位者」の概念について説明する。

「上位者」は、国内の最高権力者たちによる集団である。それは、単独の統一権力である。「上位者」は、国民を総合的に支配する集団である。「上位者」という呼称は、女性優位社会の人々が、支配集団に対して、自主的に付けている。それは、「自分たちは、あなたがたに対して従順です」という意思の現れである。それは、支配集団に対する敬称である。
そこでは、実質的一党支配、大政翼賛、一党独裁が行われる。
この「上位者」の概念は、女性優位社会の憲法に強く見られる。この概念は、男性優位社会の憲法では希薄である。その背後には、権力に対する男女の考え方の性差があると考えられる。

強者、権力者からの自由独立を選びたがる男性優位心理が、男性優位社会の憲法を生む。
女性は、強者、権力者に惹かれ、なびく。女性は、彼らを敬い、彼らに一体化して従う。そうしたことを選びたがる女性優位心理が女性優位社会の憲法を生んでいる。
「上位者」は女性優位な心理により発生し、存続する。

女性優位社会の社会では、「スーパー上位者」が存在する。それは、「上位者」の更に上位に位置付けられる。それは、国外から大きな影響力を持つ国際的な強国勢力に対して、人々が付ける敬称である。
例えば、日本国内では、日本を軍事的に実効支配するアメリカが「スーパー上位者」である。

東アジアの女性優位社会における「上位者」は、例えば、以下の通りである。
（１）日本（天皇家。その使用人である役人。）
（２）中国（共産党。国の役人。）
（３）ベトナム（共産党。国の役人。）
（４）韓国（大統領。与党。国の役人。）
（５）北朝鮮（金氏一族。共産党。国の役人。）

東アジアの女性優位社会における「スーパー上位者」は、例えば、以下の通りである。
（１）日本（アメリカ。西欧。）
（２）韓国（アメリカ。西欧。中国。）

		男性優位社会の憲法	女性優位社会の憲法
１．大局的なタイプ分け			
1-1	動物的思考か植物的思考か	動物的思考の憲法（人々があちこち動き回ることが前提の社会システムに合致した憲法。動的な精子に対応。）	植物的思考の憲法（人々が一箇所に定住して動かないことが前提の社会システムに合致した憲法。静的な卵子に対応。）
1-2	牧畜か農耕か	牧畜民憲法（麦作と家畜の放牧の兼用の生活に適した憲法）	農耕民憲法（稲作農耕、畑作農耕の生活に適した憲法）
1-3	男性優位か女性優位か	男性優位社会憲法（個人行動優先、責任を回避しない、リスクを取る、進歩的な人々に適した憲法。種の勢力拡張向きの精子の持ち主に対応。）	女性優位社会憲法（集団行動優先、責任分散回避、保身第一でリスク回避、遅滞的な人々に適した憲法。種の勢力温存向きの卵子の持ち主に対応。）
1-4	父性的か母性的か	父性的憲法（対人関係の分離と個人的自由の容認）	母性的憲法（対人関係の癒着と相互一体性の優先）
1-5	気体的か液体的か	気体分子運動タイプのコンピューターシミュレーションで表示される憲法	液体分子運動タイプのコンピューターシミュレーションで表示される憲法
２．地理的分布			
2-1	世界での分布地域	西欧、北米等（西洋）	東アジア、東南アジア、ロシア等（東洋）

2-2	世界での分布国の例	西欧憲法、アメリカ憲法、（アメリカの軍事的支配下で制定、運用されている）日本国憲法及び韓国憲法	中国、ベトナム、日本、韓国、北朝鮮、ロシアにおける伝統的な社会のルール
３．権力のあり方			
3-1	支配政党数	二党～多党支配	実質的一党支配、大政翼賛、一党独裁（頂点の単独統一権力者集団、すなわち「上位者」による支配）
3-2	人々の権力者集団への態度	強者、権力者集団は自分たちの自由を侵害する、自分にとって敵となる油断ならない存在である。権力者集団が自由に出来ないように監視、批判、権力者集団の社会的機能の分割を法律で明文化する。 強者、権力者からの自由独立を選びたがる男性優位心理が原型である。	絶対的上位者、強者、権力者集団、すなわち「上位者」の存在を肯定する。「上位者」を、白色で偏り無く、公正で慈愛に満ちた温かな存在とみなす。人々は「上位者」に惹かれ、なびき、媚び、「上位者」の味方をする。人々は、「上位者」に心理的に依存、信頼し、「上位者」に全部お任せする。すなわち、判断を「上位者」に委ねて自分は判断責任回避、

			「上位者」への判断責任転嫁をする。「上位者」に迎合、「上位者」の神格化をする。「上位者」とその使用人、すなわち、役人の独裁になる。強者、権力者に惹かれなびいて、その子供を産みたがる女性優位心理が原型である。
４．社会統制と秩序			
4-1	社会統制のあり方	自由主義（社会統制の度合いが小さい。個人の自由に任せる度合いが大きい。）（日本国憲法３１条）	統制主義（社会統制の度合いが大きい。個人の自由に任せる度合いが小さい。）
4-2	公共秩序の優先度	公共秩序より個人の自由を優先する。（日本国憲法３１条）	個人の自由より公共の秩序を優先する。
５．議論のあり方			
5-1	政策議論の開放的度合い	議院でのオープンな議論を好む（日本国憲法５７条）	公開の場では建前しか言わず非公開の場での秘密主義による本音での交渉を好む
5-2	多数決導入の度	多数決（仲間割	満場一致（和合

	合い	れを許容）（日本国憲法５９条）	重視と仲間割れの回避。敵対勢力の議場欠席。）
６．立法者と法治主義			
6-1	真の立法者は誰か	選挙で議員を選び、議員が立法を決定する。（日本国憲法４１条）	選挙や議員は飾り。議員の国会答弁は「上位者」の役人の書いた文書を読み上げるだけ。実質的な立法、行政は「上位者」の官邸と役人が行う。議員は利害調整がメイン。
6-2	法治の程度	法治主義（国の行動は法律準拠である。明文化された法律に従う。）（日本国憲法９８条）	恣意主義、人治主義（法治主義は「スーパー上位者」の欧米列強に合わせただけの建前。法令は、「上位者」（強者、権力者）と役人が恣意的に柔軟に適当に決める。）
７．個人の人権と自由			
7-1	基本的人権の尊重	人々の基本的人権を冒すことの出来ない永久の権利として尊重する。（日本国憲法１１条）	人々の人権は、人々の行動が所属集団の秩序に合致する限りにおいて認められる。さもなくば所属集団追放扱い＝村八分で、集団内に入れて

			もらえない状態になり人々の生死に直結する。
7-2	個人への自由、人権付与の度合い	個々人に自由と人権を与える。 自由行動、個人行動が認められる。 個人の自由、自立を好む男性優位心理が原型である。 （日本国憲法１３条）	個々人の集団所属と相互一体化が前提。あくまで全員の一斉行動、集団行動がメイン。個人行動は禁忌である。個人の自由、人権は集団行動を乱さない範囲内のみで認められる。 仲良し集団での一体行動を好む女性優位心理が原型である。
7-3	表現、報道、信教の自由を認める度合い	人々の表現の自由、信教の自由、報道の自由を大元で保証する。 （日本国憲法１９条、２０条、２１条）	表現の自由、信教の自由、報道の自由は、「上位者」許容の範囲内に限定される。監視、検閲あり。（日本では「スーパー上位者」のアメリカの影響力で自由は表面上は保証されている。）
7-4	個人尊重の度合い	個人を尊重する。 （日本国憲法１３条）	所属集団あっての個人である。集団に所属しないフリーな個人を認めない。個人よりも、個人の所属集団の意思を尊重する。

7-5	プライバシー尊重の度合い	個人のプライバシーを尊重する。（日本国憲法３５条）	相互監視、密告による集団秩序の維持を尊重する。
7-6	個人の権利の保持	個人の権利（住居、所持品等）は侵されない。（日本国憲法３５条）	所属集団あっての個人である。個人が所属集団の秩序から外れた場合、個人の権利は制限される。
7-7	個人の権利と義務の優先度	個人の義務より権利を優先する。（日本国憲法１１条）	個人の権利より義務を優先する。滅私奉公を優先する。
８．個人の平等と社会的公正			
8-1	個人の平等	（選挙等個人の政治参加で）個人は平等である。（ただし実質的に社会的特権階級や貧富の差が存在し、個人が不平等の場合が多い。）自由競争がある。個人の機会の平等が確保される。（日本国憲法１４条）	個人が不平等である。最高権力者集団の「上位者」の一員とそれ以外の人々との間に超えられない身分の壁がある（官尊民卑）。集団所属者とフリーの者との間に社会的格差がある（非正規雇用差別、既卒者差別）。所属集団に同期の年齢で入った人々同士の間で処遇が均一化され、結果の平等が確保される（公務員処遇の

			年功序列）。
8-2	社会の公正さの確保	個人の人権は平等であり、不当な差別の回避、公正さが確保される。（日本国憲法１４条）	「上位者」と癒着した御用聞きの企業の人間とかが不当に利益を得やすい。公私混同の便宜供与が起きやすい。
8-3	国の財政資金の拠出	国の財政資金は、国以外の一般団体にそのまま拠出できない。（日本国憲法８９条）	国の財政資金は「上位者」が許可すれば国以外の一般団体への拠出の自由がある。
９．政治的責任			
9-1	権力者の政治責任	最高支配者は責任を負う。	「上位者」は政治責任を負わない。とかげのしっぽ切り、頭の挿げ替えをする。
9-2	公務員の罷免	公務員を人々が罷免できる。（日本国憲法１５条）	公務員＝「上位者」の使用人であり、罷免を決めるのは「上位者」の組織の内部である。人々は公務員を罷免できない。公務員試験への門戸は公正に解放されていることが多い。
１０．権力の集中			
10-1	権力分散（三権分立）の有無	立法、行政、司法の三権分立である。権力は分	立法、行政、司法の三権融合である。権力機関

		断され、集中を制限される。	は「上位者」に一体化している。権力が一極集中する。
10-2	司法と権力者との関係	司法、裁判所は権力的に独立した存在である。刑事事件を扱う裁判所が公平を重視する。（日本国憲法７６条）	裁判所は「上位者」の一部である。裁判所は、「上位者」に有利な判決を出す。
10-3	地方自治の是認の度合い	地方自治が認められている。（日本国憲法９２条）	地方は中央の「上位者」の出先機関であり、中央の命令に従う。
１１．民主主義のあり方			
11-1	普遍性の程度	民主主義は人類普遍の原理。グローバルで、どこに行っても誰に対しても成立すべきと考える（グローバル民主主義）。（日本国憲法前文）	民主主義が成立するのは、ローカルで、自分たちの狭い身内限定（ローカル民主主義、身内限定民主主義）。身内が政治的に優遇されることにはとても熱心だが、余所者の困窮には冷たく、無関心。余所者（非正規雇用者とか）がどんなに人権を侵害されていても知ったことではないと考える。

（初出2017年4月）

男性優位社会、女性優位社会の優位性比較。

男性優位社会は、移動生活様式である。
女性優位社会は、定住生活様式である。
定住生活様式に基づく女性優位社会の方が、基本的に有利で優位である。
（１）そこは、環境的に飲み水がいっぱいあって有利である。
（２）そこは、定期的移動が必要なく、定住できて有利である。
（３）人々は、前例に従っているだけで、生活できる。
（４）人々は、生活上、今までにない新知見を、その都度、自力で生み出す必要が無い。

（１）各社会が持つ優位性。
（１－１）男性優位社会。
（１－１－１）生み出す知見の先進性。
（１－１－２）独創性。実証的、科学的な精神の高さ。
（１－１－３）チャレンジ精神の高さ。
こうした性質は、製品を作る前半工程向けである。

（１－２）女性優位社会。
（１－２－１）先進的知見を評価し、選択する能力や、模倣する能力の高さ。
（１－２－１）それらをキャッチし、吸収する能力の高さ。
（１－２－１）それらを微調整し、小改良する能力の高さ。
（１－２－１）そうして生み出す知見の持つ、最終的な完成度や品質の高さ。
こうした性質は、製品を作る後半工程向けである。

（２）各社会が持つ劣位性

（２－１）男性優位社会。
（２－１－１）製品の出来が、粗雑で、粗暴であること。
（２－１－２）製品の完成度が、低いこと。

（２－２）女性優位社会。
（２－２－１）人々の考えが、後進的である。人々は、自分からは、怖くて、チャレンジできない。
（２－２－２）人々は、非科学的である。
（２－２－３）人々は、勘に頼り、実証性が無い。
（２－２－４）人々は、感情的過ぎる。
（２－２－５）人々の間では、精神論ばかりが横行する。

従来は、男性優位社会は、自分たちの持つ先進性を武器にしてきた。
男性優位社会は、後進的な女性優位社会に対して、優位に立ってきた。
最近では、逆のことが起き始めている。
女性優位社会は、男性優位社会を、下請けにする。それは、以下の通りである。
（１）女性優位社会は、男性優位社会に、危ないことをやらせて、新知見を出させる。
（２）女性優位社会は、それを即時にキャッチして、独自の改良、品質向上を行う。
（３）女性優位社会は、そうして、最終的に、高い完成度の製品を生み出す。
（４）男性優位社会は、そうした製品に対して、太刀打ちできない。
（５）男性優位社会は、女性優位社会に負ける。
（６）男性優位社会は、女性優位社会の下僕となる。

（初出2020年6月）

女性優位社会と男性優位社会。コンピュータによるシミュレーション。

（ご案内！）

コンピュータによるシミュレーションの結果。それを示す動画。その内容について。
シミュレーション動画（１）。気体分子運動。ドライな感覚。精子の行動。男性的行動。父性的行動。移動生活様式。乾燥地帯における食糧確保行動。遊牧と牧畜の生活。個人主義。自由主義。非調和主義。先進性。地域の例。欧米。中東。モンゴル。

シミュレーション動画（２）。液体分子運動。ウェットな感覚。卵子の行動。女性的行動。母性的行動。定住生活様式。湿潤地帯における食糧確保行動。農耕の生活。集団主義。反自由主義。調和主義。後進性。地域の例。中国。韓国。日本。ロシア。

読者の皆さんは、筆者の執筆した、次の書籍の内容を参照して下さい。

「Gaseous Society, Liquid Society and the International Situation」
「気体的社会、液体的社会と国際情勢」

女性優位社会、女性優位性格は、液体分子運動パターンに当てはまっている。
液体分子運動パターンは、以下の通りである。
女性優位。母性的。
稲作農耕民的。定住生活様式的。
それは、地域面では、以下の通りである。
日本。中国。韓国。東南アジア。

女性優位行動を、コンピュータによるシミュレーションで示す。それは、以下のようになる。
人々を示す粒子群、個体群は、以下のように分布する。
それらは、派閥集団を複数作る。それは、以下のような性質を持つ。

（１）それらは、少人数である。
（２）それらは、閉鎖的、排他的である。
（３）それらは、内部が同質、同色で同調する。

そうした女性優位派閥集団は、以下の形で示される。
「液体分子運動パターンを、複数小集団に分けて、色付けすること。」

液体分子運動パターンにおいて、一つ一つの粒子、個体を女性として捉える。
それらの動きは、以下のように見える。
（１）身内集団への所属を重視すること。
（２）集団同調行動を好むこと。仮に、ある粒子が、その場から浮いた、とする。その粒子は、周囲の粒子群から、いじめられ、追い出される。
（３）身内に留まるため、絶えず自分の向きを動かし必死で周囲に気配り、空気を読むこと。
（４）絶えず群れて派閥を作ること。
（５）必死に周囲と癒着し、甘え、媚び、同調し、一体化しようとすること。
（６）護送船団方式で動き、責任分散による個人責任の回避をしようとすること。
（７）周囲を絶えず相互監視し、足を引っ張り合い、妬むこと。
（８）身内のために滅私奉公すること。
（９）閉鎖的、排他的に動くこと。

この液体分子運動パターンは、女性優位社会の特徴を、説明する。

女性は、液体的な行動原理で行動する。
女性優位社会では、女性が、社会を支配する。

女性優位社会の中で生活することは、以下のことと同じである。
「液体の中、あるいは、水中に潜って生活していること。」
その生活においては、以下の感覚が著しい。
「息が出来ない感覚。窒息感。」。

女性がこうした行動を取る背景は、以下の通りである。
「女性が、自分の保身に対して、敏感であること。」。

女性は、生物学的に貴重な性である。
女性の取りがちな行動は、根源的には、以下の点に尽きる。
（１）安全第一で動くこと。
（２）危険を回避すること。
（３）失敗が怖いこと。
（４）不安が強いこと。

女性は、生ける宝石のような、貴重品として、行動する。
女性は、護衛をする男性に、守られる。
女性は、自分の保身を、最優先にして、行動する。

（ご案内！）
女性性についての詳細な説明。
読者の皆さんは、筆者が執筆した、次の書籍を参照して下さい。
「Sex differences and female dominance」「男女の性差と女性の優位性」

こうした、女性優位行動は、女性優位社会全体に及んでいる。
つまり女性優位社会では、人々は、以下のように行動する。
（１）人々は、自分の保身に対して、不安で、敏感である。
（２）人々は、安全第一で行動する。
（３）人々は、以下を最優先にして行動する。「危険や失敗を回避すること。」
（４）人々は、自らは危ない橋を渡らない。人々は、ベンチャーのような冒険を嫌がる。

こうした行動は、女性に支持される。女性は、「貴重な性」である。それは、以下の理由である。
人々は、みんな一緒に、集団でいる。
人々は、以下の事態から逃れることができる。
「孤立して、他者の助けが得られなくなること。」
人々は、安全でいられる。

各個体は、互いに集団、護送船団を作る。
各個体は、相互牽制し合う。
すると、各個体は、以下の状態に、なりにくい。
「ひとりぼっちで、孤立無援である状態。」
そうした行動は、女性に向いている。それは、以下の通りである。
「生物学的に貴重な性として、行動すること。」

「安全な群れの中心部に、とどまること。」

上記リストにおける、各々の内容は、何らかの形で、以下の傾向に合致している。
「女性の持つ、自己保身への傾向。」
（１）自分の身を守ろうとする傾向。
（２）安全第一で行動する傾向。
（３）危険を回避しようとする傾向。
（４）誰かに保護してもらおうとする傾向。
（５）不安を回避しようとする傾向。

一方、男性優位社会、男性優位性格は、気体分子運動パターンに当てはまる。
気体分子運動パターンは、以下の性質を持つ。
男性優位。父性的。
遊牧民的。牧畜民的。
それは地域的には、以下の通りである。西欧。北米。ユダヤ。アラブ。トルコ。モンゴル。

気体分子運動パターンに対して、以下のことを行う。
「同じ属性を持つ個体に対して、同じ色を付けること。」

同質の個体同士は、以下のように動く。
（１）それらは、互いに固まらない。
（２）それらは、互いに、連携を取って動く。
（３）それらは、伝道師のように、動く。
（４）それらは、広い空間を、個人単位で、自由に、動き回る。

気体分子運動パターンでは、一つ一つの個体が、動く。それらの動きは、「人々の心理的な動き」に当たる。
それは、以下のように見える。
（１）個人主義、自由主義。プライバシーを確保できること。
（２）能動的であること。動きが高速であること。
（３）自立していること。自分のことは自分で守ること。そうしないと、生きていけないこと。責任を取ること。責任を取らされるこ

と。
（４）攻撃的であること。
（５）流れ弾が、自分のところへと、どんどん飛んで来ること。危険であること。

これらは、男性優位な性格を示している。

（ご案内！）
男性性についての詳細な説明。
読者の皆さんは、筆者が執筆した、次の書籍を参照して下さい。
「Sex differences and female dominance」「男女の性差と女性の優位性」

（初出2017年4月）

父性と母性。男性優位社会と、女性優位社会。その支配的な価値観。その発生源。

男性優位社会では、父性が、以下の発生源となっている。
「その社会における、支配的な価値観。」
そして、男性優位社会の父親は、そうした父性を、本源的に身に付けている。
父親は、以下のことを行う。
彼は、「父性由来の男性優位価値観」を持つ。
彼は、それを、自分の子供（息子、娘）に対して、向ける。
彼は、それを、彼らに対して、生涯にわたって、強力に、放射し、伝達し、浴びせ続ける。
父親は、社会的強者、支配者、権力者である。

男性優位社会の母親は、その傍らで何も出来ずに立ち尽くし続ける。母親は、無力な傍観者である。
母親は、家庭内では、強力な父子関係の外側に押しやられる。
母親は、そこから、疎外され続ける。
母親は、家庭内に、居場所が無い。
母親は、社会的弱者である。母親は、そのまま、一生を過ごす。

女性優位社会では、母性が、以下の発生源となっている。
「その社会における、支配的な価値観。」
そして、女性優位社会の母親は、そうした母性を本源的に身に付けている。
母親は、以下のことを行う。
彼女は、「母性由来の女性優位価値観」を持つ。
彼女は、それを、自分の子供（息子、娘）に対して、向ける。
彼女は、それを、彼らに対して、生涯にわたって、強力に、放射し、伝達し、浴びせ続ける。
母親は、社会的強者、支配者、権力者である。

女性優位社会の父親は、その傍らで何も出来ずに立ち尽くし続ける。父親は、無力な傍観者である。
父親は、家庭内では、強力な母子関係の外側に押しやられる。
父親は、そこから、疎外され続ける。
父親は、家庭内に、居場所が無い。
父親は、社会的弱者である。父親は、そのまま、一生を過ごす。

（初出2020年5月）

女性優位社会における権力行使

男性と女性とでは、以下が、違う。
「権力者としての行動様式。」。
女性による権力行使は、男性のそれとは、違う。

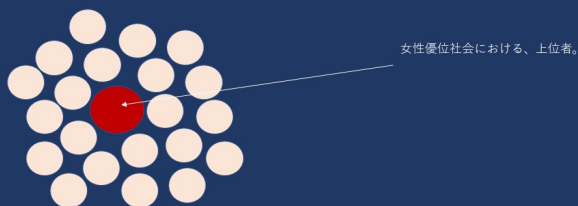
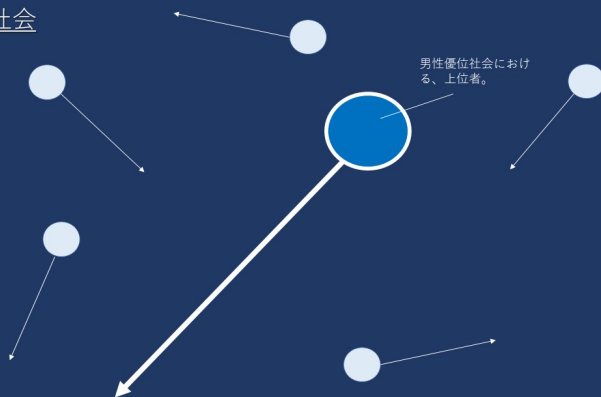
人々による、権力の行使についての実態。
女性優位社会では、それは、以下のような特徴を持つ。
（１）人々は、集団主義的である。人々は、同調・同質性の確保を優先する。
（２）人々は、人格そのものを重視する。
（２－１）人々にとっては、上位者に可愛がられることが重要であ

る。人々は、上位者への甘え、懐きを重視する。
（３）人々の間では、以下のことに勝ち得た者が、上位へと昇進する。「流行に対する、同調競争。」
（４）人々の間では、前例を多く蓄えた年長者、古参者が威張る。
（５）人々は、以下のことを好む。
（５－１）上位者に対して、権威主義的に服従すること。
（５－２）上位者を、神格化すること。
（６）人々は、一人の犯した失敗も、周囲との連帯責任とする。

女性優位社会では、権力面での上下格差（カースト）が生成する。その条件は、女性同士の場合は、以下のようになる。
（１）みんなの中心にいる女性。＞周辺にいる女性。
（２）注目される、目立つ女性。＞目立たない、地味な女性。
（３）集団に馴染める女性。コミュニケーション能力を持っている女性。＞コミュニケーション障害を持っている女性。集団に馴染めない女性
（４）多数派向けの豊富な内容を話題にできる女性。トレンドの先端を行く女性。＞少数派向けに偏った内容の話題しか喋れない女性。
（５）自分の容姿が、美人である女性。＞自分の容姿が、不細工である女性。
（６）自分の容姿が若い女性。＞自分の容姿が歳を食っている女性。
（７）古参者である女性。所属集団の前例、しきたりに通じている女性。＞所属集団の前例、しきたりを知らない女性。新参者である女性。
（８）異性、同性にモテる女性。＞異性、同性にモテない女性。。
（９）セックスの経験がある女性。＞セックスの経験が無い女性。
（１０）結婚している女性。＞独身の女性。
（１１）彼氏がいる女性。＞彼氏がいない女性。
（１２）彼氏がイケメンでモテる女性。＞彼氏がイケメンで無い女性。
（１３）お金持ちの女性。＞貧乏な女性。
（１４）自分自身が有能である女性。＞自分自身が無能である女性。
（１５）自分自身の肩書、年収が高い女性。＞自分自身の肩書、年収が低い女性。
（１６）彼氏や夫が有能な女性。＞彼氏や夫が無能な女性。
（１７）夫の肩書、年収が高い女性。＞夫の肩書、年収が低い女性。

（１８）働かなくて良い女性。経済的に余裕があり、自分の趣味に没頭できる女性。＞働かないと食べて行けない、キャリア女性。
（１９）子持ちの女性。＞子無しの女性。
（２０）自分の子供が有能である女性。＞自分の子供が無能である女性。
（２１）（自分の出身。血縁。地縁。学校。勤務先。）。名門である女性。＞庶民である女性。
（２２）家計の財布の紐を握る女性。＞家計の財布の紐を握れない女性。
（２３）貞淑な印象を与える女性。＞ビッチな印象を与える女性。
女性の間での上下関係は、こうした相対評価によって、決まる。
公園などで、母親同士は、上下関係の確認、マウンティングを行う。
それらは、この評価によってなされる。

権力指向が強い女性は、以下の性格を持つ。
（１）彼女たちは、他の女性を、引きずり落とす。
（２－１）彼女たちは、そうして、所属集団の中で、少しでも上位に行こうとする。
（２－２）彼女たちは、所属集団の中枢、中心部に這い上がろうとする。
（３－１）彼女たちは、ジメジメ、ドロドロ、ベタベタした人間関係の中に、常駐する。
（３－２）彼女たちは、常時、いがみ合い、嫉妬し合い、足を引っ張り合い、もがく。

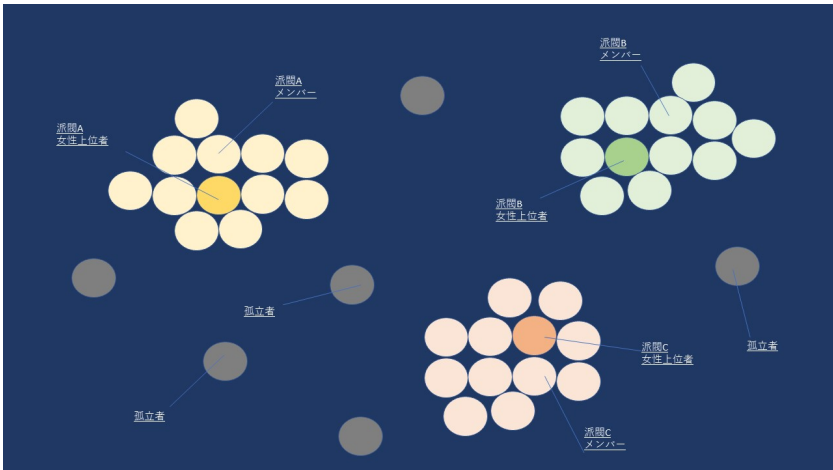
女性優位社会では、権力者は、以下のように行動する。
（１）彼女は、密集したグループの中枢に位置する。
（２）彼女は、皆の注目を一身に集める。
（３）彼女は、中央から、周辺にいる一般者たちに向かって、一方的に指令を出す。
それは、以下の図のように、まとめられる。

男性優位社会では、権力者は、以下のように行動する。
（１）彼は、次の、任意の地点に位置する。「周囲から離れた、空間的余裕のある地点。」
（２）彼は、高速に、フルパワーで、飛び回る。
（３）彼は、周囲の一般者たちを、次々と、弾き飛ばす。
（４）彼は、自分の進みたい方向へ、進んでいく。
それは、以下の図のように、まとめられる。

（初出2020年5月）

女性優位社会と派閥、一匹狼

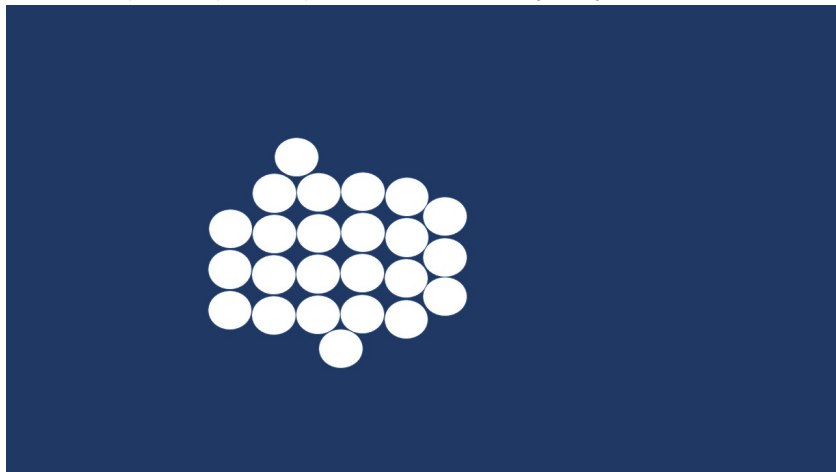
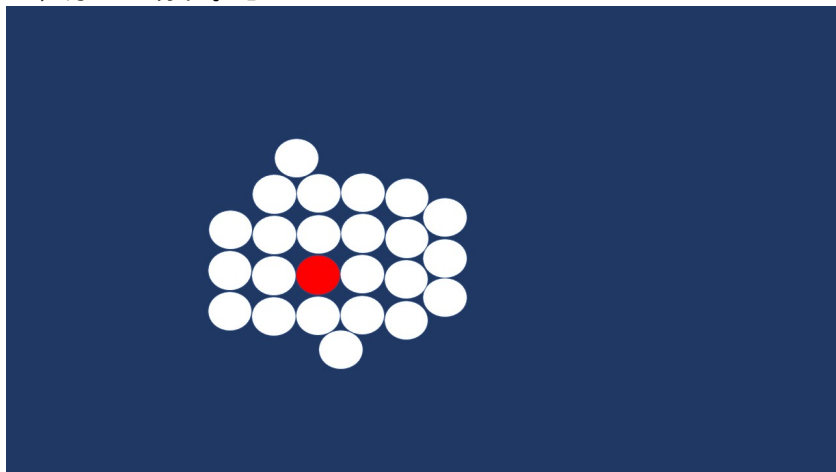
女性優位社会では、人々は、以下のように行動する。
（１）人々は、小集団の派閥を作る。
（２）人々は、互いに、排他的に振る舞う。
（３）人々は、派閥同士で、ライバル抗争を繰り広げる。

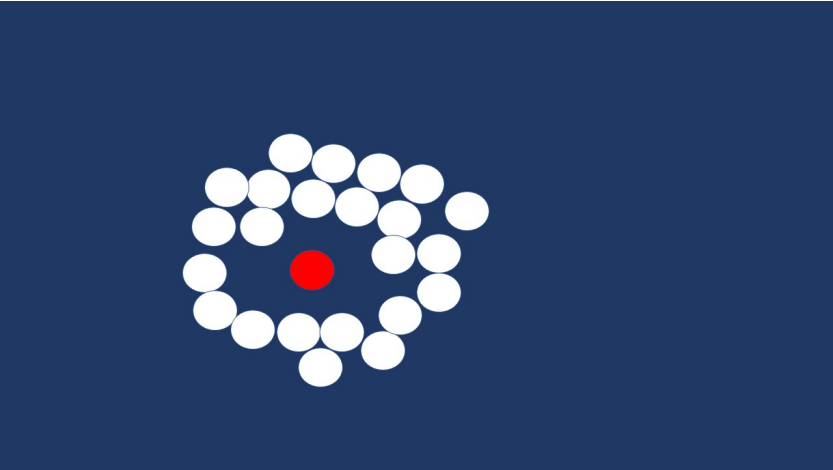
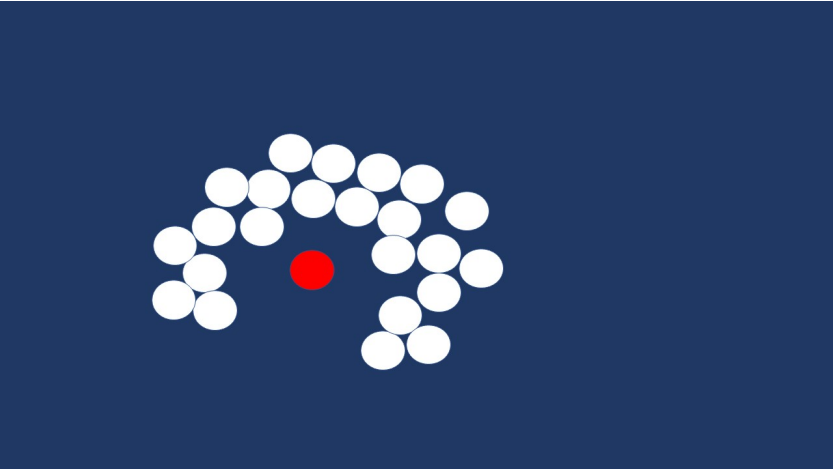
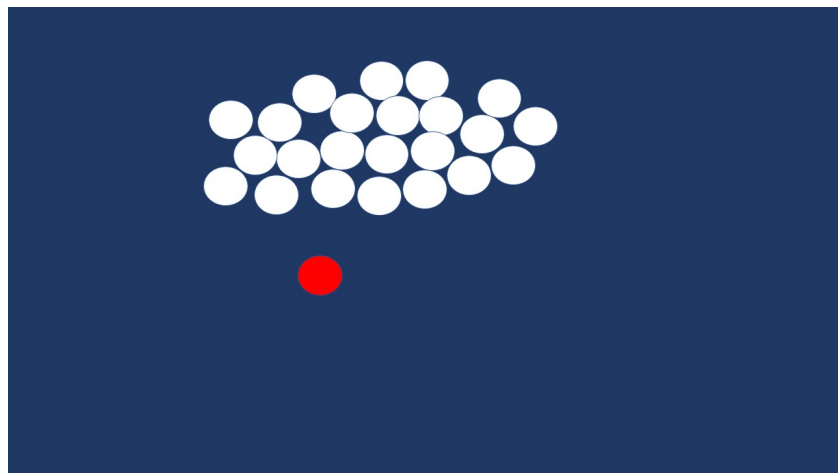
人々は、派閥の力に物を言わせて、行動する。
人々は、派閥に入っている方が、力が強い。

どこの派閥にも入れない孤立者は、「一匹狼」である。
「一匹狼」は、社会的な立場が弱い。「一匹狼」は、肩身が狭い思いをする。

これらは、以下の図のように、まとめられる。

（初出2020年5月）

女性優位社会における、いじめ。あるいは、所属集団からの追放。

女性優位社会でのいじめ、所属集団からの追放は、以下のような経過をたどる。
最初は、グループ内部におけるメンバー全員は、次の状態である。
「互いに、和合、同調、一体化した状態。」。

グループ内部において、以下のメンバーが、発生する。それは、一人である。
「メンバー間における、心理的同調、和合を乱す存在。メンバー間で、浮いた存在。」

すると、周囲のメンバーは、その非同調のメンバーの存在を、遠ざ

け、無視し始める。

さらに、その非同調のメンバーの周囲からは、他のメンバーが、いなくなる。

最終的には、新たなグループが、以下の形で、再結成される。
「それは、浮いたメンバーだけを外し、除いた。」。

女性優位な人々は、以下の傾向を持つ。
（１）人々は、自己保身の傾向が強い。人々は、自分の立場を守ろうとする。
（２）人々は、そこで、どこかのグループに絶えず所属しようとする。

そうした人々にとって、一番効果のある、いじめの方法は、以下の方法である。
「所属集団からの追放。」。
この方法は、人々が持つ、上記の性質を逆手に取ったものである。
それは、具体的には、以下の内容である。
（１）人々を、どこのグループにも所属できなくすること。
（２）人々を、グループから無視し、グループから外すこと。

例えば、以下が、これに該当する。日本社会における、「村八分」の慣行。

（初出2020年5月）

女性優位社会での人生

（１－１）絶えず周囲に合わせ、流される人生。
（１－２）進路の自己決定が困難な人生。

（２－１－１）自分の行きたい方向が分からない人生。
（２－１－２）自分の行き先を、周囲、前例、しきたりに決めてもらう人生。
（２－２－１）他人が敷いたレールに沿って動く人生。
（２－２－２）他人が動かすエスカレーターに乗り続ける人生。

（３－１）目標が無い状態が続く人生。
（３－２）時間潰しが横行する人生。

（４）以下ののことが自己目的化する人生。
（４－１）次の状態から外れないこと。「標準的な集団や、多数派の集団に所属した状態。」。その状態を維持すること。
（４－２）所属集団の中枢部へと昇進すること。
（４－３）集団内での相対的な偏差値評価を向上させること。

（５）以下のことが、自己目的化した人生。
（５－１）周囲から注目を浴びること。
（５－２）周囲の人々に対して、マウントを取ること。

（６－１）人間関係を断つこと、断たれることが死を意味する人生。
（６－２）人間関係維持が自己目的化する人生。

（７）以下のことが自己目的化した人生。
（７－１）上位者、周囲に媚を売ること。
（７－２）下位者を、自分に対して、隷従させること。

（８－１）自己保身、自己愛、自己憐憫の人生。
（８－２）次のことが、自己目的化した人生。
（８－２－１）安全地帯を絶えず確保すること。
（８－２－２）安全地帯に常駐すること。

（９）以下のことが、自己目的化した人生。
（９－１）周囲への相互監視、
（９－２）周囲への「重箱の隅つつき」。
（９－３）陰口。密告。

（１０）一生の生活が安定する人生。引き換えに、所属集団の終身奴隷となる人生。生活を束縛され続ける人生。

（初出2020年5月）

女性優位社会、男性優位社会。教科書への信仰。

女性優位社会の人々は、以下のように行動する。
彼らは、自分自身の保身を、一番重視する。
彼らは、事なかれ主義の道を進む。彼らは、リスクを、自分からは、決して取らない。
彼らは、以下のことを極力避ける。
「新しいことへの、未知の危険に満ちた、チャレンジ。」

彼らは、以下の世界で生きようとする。
「前例、しきたりの世界。」。
彼らは、その通りに動けば、自身の身の安全が、確実に保証される。

彼らは、その時々の社会的上位者に対して、積極的に、忖度し、慕い、懐く。
それは、自己の保身のためである。
彼らは、その上位者の言う通りに動こうとする。

彼らにとって、上位者は、以下の通りである。
（１）身の安全を保証してくれる存在。
（２）人格的に尊敬できそうな、権威ある存在。

女性優位社会の人々にとっての教科書は、以下の内容である。
それは、学習、暗記しやすく、まとめられている。
（１）前例、しきたり。古くから、伝統の形で蓄積されてきた、知識や、経験。

（２）その時々の、権威ある上位者の言葉。

女性優位社会の人々は、前例、しきたりについて、以下のことを重視する。
（１）伝統があること。
（２）権威があること。
（３）上位者のお墨付きがあること。
人々は、そうした前例、しきたりを、そのまま、「慣行性」を持って、変えずに守り続ける。
女性優位社会では、以下の内容が、生き続ける。
「以前から続いてきた前例、しきたり。」

一方、男性優位社会の人々は、以下のように行動する。
彼らは、捨て身で、積極的にリスクを負う。
彼らは、新たな未知の世界にチャレンジを試みる。
彼らは、そうして、大きな新しい権益を、一挙に、一番先に独占できる。
彼らは、既存の秩序を破壊する。
彼らは、自分自身のオリジナルな新秩序を、生成する。
彼らは、それを、世界全体に向かって、一発で構築できる。
彼らは、新たに大きな世界支配力、影響力を得られる。
彼らは、失敗して転落するリスクが大きい。
しかし、彼らには、成功によって得られるメリットがとても大きい。それは、魅力的である。
彼らは、何も無いところから、チャレンジ行為によって新たな成功を得る。

そうして得られた新知見は、古い前例、しきたりを破壊し、無効化する。
古い前例、しきたりは、今まで、世界を支配してきた。
新知見は、その代わりに、新たに有効な前例になる。
それらは、世界全体に対して、名声と支配力を及ぼす。それらは、世界に君臨する。

以下の行動は、男性優位な社会の人々にとって、独壇場になる。
「古い前例を、書き換えること。新たな前例を創出すること。」

以下の行動は、男性優位社会が、先行する。
「新しい知見の創出。社会の近代化。」

それは、以下の行動によって、実現される。
「彼らが、チャレンジを、たくさん実行すること。彼らは、それらを、捨て身の態度で、失敗を覚悟して、行う。」

男性優位社会の人々にとっての教科書は、以下を集めた文書である。
「新しい知見。新たな前例。彼らは、それらを、新たな成功により、得た。彼らは、それらを、新たに書き換え、追加した。」。
人々は、その都度、危険を伴うチャレンジを積み重ねている。そうした成功は、そのことで、得られた。

男性優位社会の人々の教科書の内容は、常に、以下のことを前提としている。
「それは、新たな知見を獲得することにより、絶えず、書き換えられる。」
それは、ノウハウの集成体である。その内容は、絶えず暫定的である。

女性優位社会の人々は、以下のことを、絶対視してきた。
「自分たちの古い伝統的な前例、しきたりを、順守すること。」

女性優位社会の人々は、尊大な性格を持つ。
女性優位社会の人々にとっては、男性優位社会の人々は、以下のような存在である。
「私たちの伝統ある権威ある世界」の周辺部に現れる存在。
女性優位社会の人々は、男性優位社会の人々を、只の野蛮で粗暴な人々と見なす。
女性優位社会の人々は、男性優位社会の人々を、馬鹿にして、見下す。

しかし、女性優位社会の人々は、以下の知見に圧倒される。
「男性優位社会の人々の生み出す、近代化された、新知見。」

女性優位社会の人々は、以下の力に圧倒される。
「男性優位社会の人々が持つ力。新しい、次の前例を、生み出す力。」
その力は、今までの古い前例の有効性を一気に無効化する。

女性優位社会の人々は、最初は、面倒臭そうに、渋々と重い腰を上げる。

女性優位社会の人々は、男性優位社会から受ける、以下の圧力に負ける。
「自分たち、男性優位社会が、あなたたち、女性優位社会の世界を支配する。」。
女性優位社会の人々は、男性優位社会から受ける、実際の実力行使に対して、負ける。
女性優位社会の人々は、男性優位社会による、植民地支配を受ける。

女性優位社会の人々は、以下のように考える。
「私たちが持つ、古い前例、しきたりは、すっかり無効になった。」。
女性優位社会の人々は、それを、打ち捨てる。
女性優位社会の人々は、必死になって、以下の内容を、物まねし、学習し、暗記し、導入する。
「男性優位社会の人々が書いた、教科書の内容。」。それは、近代的な、新知見に溢れた内容を持つ。

「女性優位社会の人々が書いた、教科書の内容。」。
それは、以下の内容で、埋め尽くされる。
「新知見のデッドコピー。それは、男性優位社会の人々が書いた教科書に、追加された。」
女性優位社会は、知見面で、男性優位社会の植民地状態になる。

女性優位社会にとって、男性優位社会は、近代的な新知見をもたらす。
女性優位社会にとって、そうした男性優位社会は、以下の存在に見える。
「私たちの身の安全を、アップグレードする存在。そのことを、新たに保証してくれる存在。」

女性優位社会にとって、男性優位社会は、以下のように、魅力的に映る。
「今までにない、新たな、権威ある存在。」
一部の女性優位社会は、そうした男性優位社会を、以下のように、考える。新たな「スーパー上位者」。新たな「スーパー先生」。
女性優位社会は、そうした男性優位社会に対して、大いに忖度し、その意向に従う。

それは、例えば、日本である。

「スーパー上位者」は、その社会内部における「上位者」よりも、更に上に立つ。

女性優位社会は、前例、しきたりを偏重する。
女性優位社会は、以下のことが、構造的にできない。
「以下のアイデアを出すこと。私たちの社会を、根本的に変革する、アイデア。」

女性優位社会は、以下の内容に対して、こぞって飛びつく。
「男性優位社会が生み出す、新知見。社会体制を変革する、新たなアイデア。」
女性優位社会は、自分たちの社会体制の変革を、そのアイデアに従って、忠実に、実行する。
例えば、女性優位な中国やロシアは、社会革命を実行した。それは、男性優位、ユダヤ的な共産主義に基づく。
それによって、女性優位社会では、社会体制の変革が表面的に行われる。

しかし、その後も、女性優位社会では、人々の考えは、引き続き、保身重視のままである。
人々の考えは、以下のままである。
（１）人々は、チャレンジを根本的に嫌う。
（２）人々は、前例、しきたり偏重である。

女性優位社会が持つ、以下の本質は、社会革命の後も、そのまま持続する。
（１）自己革新性の欠如。
（２）後進性。
（３）前近代的な性格。

一部の女性優位社会は、以下の内容を、丸呑みして、学習、導入し続けようとする。
「男性優位社会における、社会規範。」。
その典型的な事例が、日本社会である。
それは、明治時代以降、現代に至るまで、続いている。例えば、日本国憲法の導入である。それは、アメリカが主導した。

「女性優位社会による、男性優位社会の社会規範を、丸呑みする行

動。」。
今のところ、それは、見かけだけの導入に終わっている。
それには、実質的な効果は、無い。

その理由は、次の通りである。
（１）
男性優位精神は、以下のことを指向する。
（１－１）個人の自由独立。
（１－２）チャレンジ。
それらは、以下の場所に存在する。
「男性優位社会の社会規範における基盤。」。

（２）
女性優位社会の人々は、自分の保身のことしか頭にない。
彼らは、自分自身は決してチャレンジしない。

（３）
女性優位な社会規範は、以下のことを必須とする。
「人々が、前例、しきたりに対して、完全に同調し、忖度すること。」。
それは、以下のことを、決して許さない。
「個人による、自由で新しい行動。」。

こうして、女性優位社会の人々には、以下のことが、本質的に不可能である。
「男性優位精神を、理解し、体得すること。」。

その導入は、以下のプロセスをたどる。
（１）
仮に、次の人間が、女性優位社会の中に入った、とする。
彼は、以下の精神を持つ。
「男性優位社会規範に沿った精神。」。

（２）
彼は、女性優位社会の中で、以下の態度を取る。
「以下を重視する態度。」
（２－１）個人の自由独立。
（２－２）チャレンジ。

（３）

すると、その中で、彼は、以下のように、見なされる。
「女性優位な社会規範の維持にとって、極めて有害な、異物。」

（４）
彼は、その中で、以下のような存在となる。
「その社会から、徹底的に、排除を受ける存在。」

（５）
彼は、その存在を、女性優位社会の内部で消去される。

こうして、以下の内容は、そのまま変わらずに保持される。
「その社会における、昔ながらの、女性優位な体質。」。

女性優位社会は、以下の（１）を、以下の（２）として、捉える。
（１）「男性優位な社会体制変革のアイデア。男性優位な社会規範。」
（２）それらは、先進的で、近代的である。
女性優位社会は、それらを、自分の社会へと、繰り返し導入する。

しかし、その社会は、いつまで経っても、女性優位なままであり続ける。

また、女性優位社会は、以下の内容を、忠実に導入、実行する。
「男性優位社会原案の、新たな社会体制変革のアイデア。」。
女性優位社会は、体制変革を行う。

すると、今度は、そうしたアイデアが、女性優位社会にとって、以下の存在として、作用し始める。
「新たな前例、しきたり。」
それは、以下の内容を、備えている。
（１）忠実に守るべき内容。
（２）権威ある、不可侵な内容。

女性優位社会内では、以下の批判、要求が一切できなくなる。
（１）そのアイデアの内容に対する批判。
（２）「そのアイデアの内容を改変すること」の要求。
（３）そのアイデア内容を実現した、新たな社会体制そのものへの批判。

例えば、女性優位社会の日本。
日本は、日本国憲法を、新たに導入した。
それは、アメリカ的、男性優位な社会規範に基づく。
日本では、その改憲が、表向き、不可能になっている。

そのため、女性優位社会では、以下のような現象が起きる。
（１）女性優位社会が、以下の内容を導入したとする。
「私たちの社会体制を変革するための、男性優位なアイデア。」

（２）女性優位社会の人々は、自分たちのことを、以下のように、自画自賛する。
「私たちは、以下のものを、新たに持つようになった。
（２－１）先進的な、男性優位な外見。
（２－２）表向きの、前例、しきたり。それは、男性優位、先進的である。」

（３）そうした女性優位社会の内部で、誰かが、以下のことを指摘する。
「私たちの社会の本質が、女性優位なままであること。」

（４）その行為は、社会の人々からは、以下のように、見なされる。
「私たちの新たな社会体制についての、本質的な批判。」
「それは、社会的に、決して許されない。」

（５）その行為は、社会の人々からは、否定され、無視される。
その行為は、以下の真実に関わらず、そうした反応を受ける。
「その社会の本質的な体質は、昔ながらの女性優位なままである。」

あるいは、、女性優位社会では、以下のような現象が起きる。
（１）女性優位社会は、以下の内容を、新たに自分たちの社会体制に導入する。
「社会体制の変革に関する、男性優位なアイデア。」

（２）女性優位社会は、その内容を、女性特有の思考で、以下のように考えるようになる。
「新たな前例、しきたり。」
「それは、不可侵であり、絶対的に守られるべきである。」

（３）女性優位社会は、以下のように、表面上、必死になって主張する。
「自分たちの社会は、男性優位で、女性差別的である。」
このようにして、女性優位社会の実態と完全に矛盾した現象が、発生する。それは、世界的に発生する。

また、このことは、世界的に、次のような現象を引き起こしている。
（１）
世界の様々な女性優位社会は、男性優位社会と交流する。
その結果、女性優位社会は、新たな社会体制を、こぞって導入する。
女性優位社会は、彼らの体制を、以下のように、考える。
「それは、先進的、近代的である。」

彼らの新たな社会体制は、もともと、以下の内容に基づくものである。
「男性優位社会が考え出したアイデア。」
彼らの新たな社会体制は、見かけ上は、男性優位である。

女性優位社会の人々は、これに、伝統的、女性優位な態度で、必死に従う。
その社会の内部では、言論の自由が消える。
それは、以下のことを主張する自由である。
「その社会の体質が、女性優位なままである。」

（２）
一方、世界中の男性優位社会は、女性優位な価値観を、以下のように考える。
「それらは、以下を、脅かす。」
「我々が持つ、男性優位な社会規範の、維持。」
男性優位社会は、それらを、無視、否定しようとする。

これは、世界的に、次のような誤解を生み出している。
（１）世界的に、女性優位社会や、母権社会が、存在しない。
（２－１）世界中の全ての社会は、普遍的に男性優位である。
（２－２）それらは、全て、男性が支配する父権社会である。

女性優位社会は、確かに、男性優位な見かけになった。

しかし、その社会の内部では、以下の存在が、今まで通り、維持され続けている。
「伝統的な、女性優位な社会規範。」

その規範は、以下の通りである。
（１）人々による、自己保身の最優先。
（２）それに基づく、前例、しきたりの無批判な遵守。

それらの規範は、強固、厳格に、維持されている。
その社会における、真の支配者は、今まで通り、女性のままである。

そして、世界の女性優位社会の内部では、以下の言論の自由が、無くなっている。
（１）以下の内容を指摘する、言論の自由。
「その社会が持つ、女性優位性格。」

（２）以下の内容を指摘する、言論の自由。
「その社会では、女性による社会支配が、行われている。」

その原因は、以下である。
（１）女性優位社会の内部で、以下の存在が存続していること。
「女性優位な社会規範。」。
それは、以下の行動を、強制する。
（１－１）前例、しきたりを偏重すること。
（１－２）それらに対して、一方的に従うこと。

（２）「女性優位社会が新たに導入した、男性優位な社会変革のアイデア。」
それが、女性優位社会内において、以下の存在になったこと。
「新たな、前例、しきたり。」
「人々は、それに、絶対的に従うべきである。」

世界中の女性優位社会は、表向きは男性優位になりつつも、以下の状態を保持している。
（１）その社会の内実は、女性優位なままである。
（２）その社会は、以下の行動を本質的に嫌う。以下の新規アイデアを創出するチャレンジ。それは、自分たちの社会体制を、変革する。
（３）その社会は、自分たちでは、そうした新規アイデアを、永久

に出せない。
（４）その社会の体質は、後進的で、前近代的なままである。

だからこそ、そうした女性優位社会の内部では、以下の（１）が、以下の（２）として、捉えられる。以下の（１）は、表向きは、もてはやされる。

（１）「男性優位社会規範や価値観」

（２－１）その内容は、新規性、先進性がある。
（２－２）その内容は、以下のことに対して、有効そうである。
「自分たちの、女性優位な、伝統的な社会体制を、新たに変革すること。」。

（２－３）その内容は、自分たちの社会にとって、今後、以下の存在に、なりそうである。
「有望な、価値ある、前例、しきたり。」。
そして、その社会の体質は、いつまでも女性優位なままである。
それは、その社会が、男性優位な社会規範や価値観を、いくら導入しても、そうである。

女性優位社会では、こうした無意味な堂々巡りが、永久に続く。

女性優位社会は、しばらくの間、以下のことに明け暮れていた。
「男性優位社会の教科書の内容のデッドコピー。」

女性優位社会は、それに慣れて、だんだん精神的、経済的に余裕が出てくる。
女性優位社会は、今度は、以下の内容を、互いに組み合わせるようになる。
「男性優位社会がもたらす、さまざまな新知見。」。
女性優位社会は、器用な手先や、細やかな神経を使う。
女性優位社会は、上記の新知見に対して、以下のことを行う。
（１）ミクロな微調整や小改良。
（２）高品質化の実現。

女性優位社会は、以下の内容の創出を、どんどん進める。
「その社会独特の、別次元の新知見。」。

「それは、完成度や洗練度が、格段に高い。」。
これは、男性優位社会には不可能なことである。

男性優位社会は、未知の領域で新知見を生み出すことができる。
男性優位社会は、マクロで大胆なリスク対応力、チャレンジ力はある。
しかし、男性優位社会は、基本的に粗暴で粗野である。
その社会は、ミクロな微調整が、本質的に苦手である。

女性優位社会は、こうした高い完成度、高品質の新知見をこぞって出すようになる。
一方、男性優位社会は、そのままでは低品質で完成度に劣る知見しか出せない。
そのため、男性優位社会は、出す知見が持つ競争力の点で、大きく負けてしまう。
男性優位社会は、今まで世界社会において、大きな支配力、影響力を誇ってきた。
しかし、その社会は、一転して、一挙に、劣勢に立たされることになる。

男性優位社会は、以下の状態が続くと、女性優位社会に太刀打ちできず、沈んでしまう。
（１）男性優位社会は、そのまま、以下の内容を、なかなか出せない。
「有効な、マクロな視点による、革新的な新知見。」。

（２）男性優位社会は、仮に、何とか、そうした新しい知見を出す。
しかし、その知見の内容は、女性優位社会によって、すぐに検知され、物まねをされる。
そして、女性優位社会は、それにミクロな改良を施す。それは、別次元の新たな知見を、出してしまう。

「女性優位社会が生み出す、今までとは別次元の、新知見。」
それは、以下のような特徴を持つ。
（１）それは、細やかな神経な行き届いている。
（２）それは、高品質で、完成度が高い。
（３）それは、革新性に乏しく、停滞している。
（４）それは、権威主義の考えに満ちている。

男性優位社会の天下は一時的なものである。
その次は、女性優位社会が世界を支配する時代になる。
それは、以下の時代である。
「女性優位社会の教科書が、世界のスタンダードになる時代。」。

仮に、人々が、以下のように考えた、とする。
（１）欧米諸国は、男性優位社会である。
（２）中韓は、女性優位社会である。
それは、今の世界情勢に適合している。

こうした点では、以下の（１）は、以下の（２）になっていると言える。
（１－１）世界の歴史の移り変わり。
（１－２）世界における、様々な人間社会同士の勢力争い。その情勢の変化。

（２）男性優位社会と女性優位社会とのデッドヒート。その繰り返し。

それは、以下のようにまとめられる。

（１）「男性優位社会」。
その社会は、チャレンジが得意である。
その社会は、マクロな、大胆な、新機軸の新知見を生み出す。
その社会は、そうして世界をリードする。
しかし、その社会は、粗暴で完成度の低い知見しか出せない。

（２）「女性優位社会」。
その社会は、チャレンジが本質的に嫌いである。
その社会は、以下の能力には、根本的に欠けている。
「革新的で、近代的な新知見を生み出す能力。」

しかし、その社会は、男性優位社会の出す新知見を、効率よくどんどん物まねする。
その社会は、それに対して、以下の内容をどんどん加える。
「ミクロで器用な、微調整と小改良。」。
その社会は、以下の内容を、怒涛の勢いで出力し続ける。
「より完成度、洗練度、品質の高い、競争力に優れた、新知見。」
その社会は、男性優位社会の立場を、劣勢へと一気に追い詰める。

その社会は、代わりに新たに世界の覇権を握ろうとする。

女性優位社会は、以下のような構造的な欠陥を抱える。
「自分からは、革新的な新知見を、なかなか生み出せないこと。」。
そこで、男性優位社会は、以下の内容を、女性優位社会に渡さないようにする。
「自分自身によるチャレンジで生み出した、新知見。」。

男性優位社会は、そうして、以下の状態を保つ。
「自分たちが、知見面で優位性を保持する状態。」。
男性優位社会は、こうして、以下のことを阻むことが可能である。
「女性優位社会が、興隆すること。」。

しかし、そのことで、世界社会は、以下の問題に苦しめられる。
「男性優位社会の持つ、以下のような欠陥。」。
「低品質で、粗雑な知見しか出せないこと。」。

世界社会は、以下のことに期待する。
「女性優位社会が、高品質で完成度の高い知見を創出してくれること。」。

結局、男性優位社会は、女性優位社会に、自分たちの新知見を渡さざるを得なくなる。

世界社会の人々は、自分たちの生活にとって、完全に満足する知見を、獲得し続けようとする。
そのためには、男性優位社会と女性優位社会の両方が必要である。
そこで、男性優位社会と、女性優位社会との間で、以下のことが必要となる。
（１）相補性の実現。
（２）世界的な役割分業。

あるいは、女性優位社会は、世界的に興隆して、男性優位社会を支配するようになる。
すると、女性優位社会は、危ないチャレンジの実行を、男性優位社会にやらせる。女性優位社会は、それを、下請け的に押し付ける。
女性優位社会は、以下の内容を、その場で瞬時に強引に横取りする。
「男性優位社会が、チャレンジによって生み出した、新知見。」。

女性優位社会は、以下のことを、徹底的に高める。
「その新知見が持つ、完成度や、品質。」
それは、女性が得意とする。
それは、以下の程度まで、行われる。
「それは、男性優位社会単独では、実現不可能である。」

女性優位社会は、それを、世界に独占的に売りさばく。
女性優位社会は、大きな利益を得る。

女性優位社会は、男性優位社会を、植民地的に、徹底的に、搾取、支配する。
そのことが恒常的に起きて、それが世界的に広がる。

そこでは、世界的には、以下の内容が、表向き、全面的に支持され続ける。
（１）男性優位な価値観。
（２）男性優位な社会規範。

しかし、世界の社会の実質的支配者は、女性優位社会となる。
そして、女性優位社会規範が、世界の社会において、以下の存在となる。
「実質的に、標準的な、社会規範。」。
それは、表に出ない状態を、そのまま維持し続ける。

女性優位社会による、世界社会の支配は、以下の事例で表される。
「以前の日本。今の中韓。それらの世界的な躍進。」。

こうした分析は、以下のことを前提として、初めて可能になる。
「男女の間に、社会的性差が存在すること。」
その点、以下のことが、世界的に認められるべきである。
「男女の社会的性差研究についての自由。」。
それは、現在、世界的に、制限されている。
（初出2020年5月）

女性優位社会と近代化

女性優位な人々は、自分たちだけの力では、以下のことが出来ない。
「社会を、近代化すること。」。
女性優位な人々は、何事も、以下のように考える。
「自分が一番大切である。」
人々は、自分の保身を最優先する。
人々は、リスクを回避する。
人々は、未知へのチャレンジを、とても嫌う。
それは、どんな危険が待っているか、分からない。
人々は、恒常的に、以下の世界に回帰する。
「既に得られた、前例と、しきたりを、暗記学習すること。」

そのため、女性優位社会は、いつまでも、以下の世界から、抜け出すことが出来ない。
「これまでの、前例、しきたりが支配する、世界。」。

女性優位社会の内部では、以下の現象が見られる。
（１）古参者や年長者は、新参者や若年者に対して、以下のことを強要する。
「前例、しきたりの学習。」。

（２）古参者や年長者は、前例、しきたりを多く知っている。
彼らは、自分たちの習得した前例、しきたりを、以下のものとして、捉える。
「絶対的な価値があるもの。」

（３）古参者や年長者は、以下の立場になる。
「新参者や若年者に対して、前例、しきたりを、上から目線で、教える立場。」
彼らは、先生、師匠、教授となる。

（４）新参者や若年者は、以下の立場になる。
「古参者や年長者から、前例、しきたりを、盲目的に教わる立場。」。
彼らは、生徒、弟子、学生になる。

（５）古参者や年長者は、新参者や若年者に対して、次の態度を取る。
（５－１）相手に対して、威張った、高圧的な態度。

（５－２）相手に対して、一方通行の会話を行う態度。
（５－３）彼らへの反論を、一切許さない態度。

（６）古参者や年長者は、新参者や若年者に対して、以下のことを強要する。
（６－１）前例、しきたりの学習。
（６－２）その内容を、教科書通りに、手本通りに、学習すること。
（６－３）その内容を、微細なところまで、学習すること。
（６－４）その内容を、盲目的に、学習すること。
（６－５）その内容を、暗記学習すること。

これでは、女性優位社会は、いつまでも、新しい知見を得ることができない。
女性優位社会は、完全に社会的に停滞してしまう。
女性優位社会は、後進的なままである。
女性優位社会は、そのままでは、近代化は、いつまで経っても不可能である。
女性優位社会は、前近代的である。
社会の近代化を推進する立場の人たちは、そのことを批判、忌避する。

そこで、女性優位社会は、男性優位社会が生み出す、新知見に着目する。
そうした新知見は、男性優位社会が、以下の結果、自発的に生み出す。
（１）「危険を冒すこと。」
（２）「チャレンジ。」
それらは、今までに発見、発明されていなかった、斬新な内容を持つ。

男性はこれらの新たに得られた知見を用いて、男性優位社会の仕組みをどんどん変える。
男性たちは、以下の社会を、自分たちの力で生み出す。
「高性能で、革新的な、競争力に満ちた、社会。」

男性優位社会は、内発的に、近代化が可能である。
男性優位社会は、女性優位社会と違って、近代化のエンジンを、内蔵できている。

女性優位社会は、前例、しきたりでしか動けない。
この時点で、男性優位社会と、女性優位社会とは、決定的な差が付いてしまう。

女性優位社会は、何もしないまま放置すると、近代化できていないままになる。
女性優位社会は、以下の存在を、本質的に欠いている。
「近代化を行うための、内部エンジン。」。
女性優位社会は、自力で近代化する能力を持つ、男性優位社会に負けてしまう。
女性優位社会は、以下のことを、経験する。
「男性優位社会による、植民地支配。」。
女性優位社会は、これに対応する必要がある。

女性優位社会は、どうしても前例、しきたりでしか動けない。
女性優位社会が近代化するには、以下の内容を、どんどん、その社会に取り入れていく必要がある。
「男性優位社会が持つ、新たな科学的、技術的ノウハウ。」。

それらは、男性優位社会が、以下のことで生成した。
「チャレンジの繰り返し。」。

女性優位社会は、男性優位社会に、同盟関係を結ぶなどをして、取り入る。
女性優位社会は、以下の内容を、大量に、見境なく、同調や一体化の対象として真似る。
「そうした、新たな科学的、技術的ノウハウ。」。

女性優位社会は、それらを、以下のものとして、どんどん自分たちの社会に取り入れていく。
「今までに無い、革新的な、前例の集成。」

女性優位社会は、男性優位社会の成果を、以下のものとして、そのまま、次々と真似る。
「女性優位社会における、効果的な、新鮮な、前例。」。

そうした成果は、男性優位社会で、どんどん蓄積していく。
そうした成果は、男性優位社会による、新たなチャレンジに基づいて、生成される。
そうした成果は、新しく、競争力の高い、ポテンシャルを秘めた内

容を持つ。

女性優位社会は、そうして、それらを、以下の場所に蓄積する。
「彼らの社会が持つ、「前例データベース」。」。
女性優位社会は、そうして、それらの内容について、書き換えを行う。
女性優位社会は、それらを、猛スピードで行っていく。

これで、女性優位社会の近代化の第一段階が完了する。
それは、以下の手順で完了する。
（１）女性優位社会は、男性優位社会から、以下の内容を、高速で、大量に真似る。
「その先進的、先端的な、技術や、ノウハウ。」。

（２）女性優位社会は、それらを、以下の内容へと、転化する。
「彼らにとっての、新たな前例。」。

（３）女性優位社会は、そうして、以下の内容を、一通り、根本から刷新する。
「彼らの社会における、前例、しきたりの内容。」。

男性優位社会が持つ、新しいノウハウや製品は、確かに、以下のようになっている。
「新味に溢れた、独創性のある内容。」。
それらは、男性が、危険を恐れずに、自らのチャレンジで生成した。
それらの生成は、男性優位社会の近代化に直結する。
しかし、その一方、それらの内容は、試作品のようで、粗削りのままになっている。
それらは、完成度が低く、細かな品質面で劣っている。

ここで、女性優位社会の人々は、製品の出来を、いろいろ微調整して、小改良を重ねる。
これは、男性優位な人々が持っていない能力である。

女性優位社会の人々は、そうして、以下の水準を、飛躍的に高めることが出来る。
（１）製品の品質の高さ。
（２）製品の最終的な完成度の高さ

その高さは、男性優位な人々が決して出来ないレベルまで、上昇する。
それらは、細かいところまで、配慮が行き届いている。
女性優位社会は、そうして、以下のものを市場に大量に送り込む。
「彼らの作った、「最終的な完成度」が高い製品。」
女性優位社会は、そうして、大量の製品シェアを獲得して、市場で覇権を握る。
女性優位社会は、そうして、世界社会において、以下の内容を、大幅に高める。
（１）存在感。
（２）覇権の度合い。
女性優位社会は、男性優位な低品質の製品を、完全に駆逐する。

女性優位社会は、こうして、以下のものを、市場に出す。
「彼らが生成した、改良製品。」
「それは、以下の性質を持つ。」
（１）最高の品質。
（２）最高の完成度

そうすると、男性優位社会の製品は、結局は、市場競争で、女性優位社会の製品に負けてしまう。
男性優位社会の製品は、アイデアが新機軸に富んでいる。
しかし、それは、品質や完成度が劣る。
女性優位社会はこうすることで、以下のことを、満足の行くところまで、行うことが出来る。
「女性優位社会のの近代化。」。
女性優位社会は、以下の内容を、そのまま真似て、コピーする。
「男性優位社会が持つ、新たな知見。」。
そうした新たな知見は、もともと、男性優位社会が、危険なチャレンジによって、発見、発明した。
女性優位社会は、そうした新知見を、以下のものとして、活用を行う。
「我々の社会における、新たな前例。」。
女性優位社会は、その新たな前例同士を、効果的に組み合わせて、改良する。
女性優位社会は、そうして、以下の内容を、世界に向けて、直ぐに投入する。
「以下のアウトプット。それらは、高品質で、完成度が高い。」

その品質や完成度の高さは、女性特有である。

それは、男性レベルでは、太刀打ち出来ない。

女性優位社会は、これを繰り返す。
女性優位社会は、大きな利益を得る。
女性優位社会は、以下の力を、大きく付けることに成功する。
「彼らの社会が持つ、経済力。」。
これが、女性優位社会の近代化における、第二段階である。

ただし、その頃には、男性優位社会が、次の新たなチャレンジで、新たな知見をまた得ている。
その時点で、女性優位社会の製品は、時代遅れになり、競争力を失う。
それは、品質や完成度が高くても、そうなる。
女性優位社会は、それに追いつく作業に、際限なく果てしなく追われることになる。

女性優位社会は、以下の（１）を、以下の（２）として、次々と物まねし、導入し、改良して行く。
（１）男性優位社会が次々と得る、新知見、新技術。
（２）自分たちにとっての、新規の前例。

女性優位社会は、以下の内容を、理解することが出来ない。
「男性優位社会が持つ、男性優位な精神の本質。」。
（１）それは、チャレンジ精神である。
（２）それは、扱うターゲットに対して、科学的、理性的なアプローチを行う。

女性は、リスクを恐れる。
なので、女性には、チャレンジは、心理的に不可能である。

女性は、以下の精神が強すぎる。
（１）扱うターゲットに対して、情緒的同調、一体化を行う精神。
（２）ターゲットを、丸呑みしようとする精神。
女性は、男性優位な、「科学的、理性的アプローチ」が、出来ない。

女性にとっては、以下の（１）が、以下の（２）になってしまう。
（１）男性が、初期試作品を生成するまでの心理過程。
（２）ブラックボックス。彼女は、その中身を良く理解できない。

これが、社会の近代化において、女性優位社会の持つ、根本的な弱点である。

しかし、これには、別の側面がある。
男性優位社会は、女性優位社会に、試作品同様の、完成度の低い製品をもたらす。
女性優位社会は、それを、以下のものとして、活用する。
「製品作りに関する、新規のノウハウ。」。
女性優位社会は、それにより、以下のことを、実現する。
「新たな前例を、大量に蓄積すること。」。
女性優位社会は、その製品について、微調整、小改良を行う。彼らは、それを、とても細かい視点で、行う。
女性優位社会は、その製品について、以下のことを行う。
「ミクロなレベルでの、品質向上や、欠点潰し。」。
女性優位社会は、そうして、製品の完成度や品質を、瞬く間に、すさまじい勢いで、向上させる。

まさに、この部分が、女性優位な精神の本質である。
これは、男性にとって、理解できない、付いていけない、ブラックボックスとなる。
これが女性優位社会の近代化における、根本的に優れた点となる。

こうした、女性優位社会と、男性優位社会との関係は、製品作りだけには、限定されない。
社会の近代化は、その他、以下の面で、生じる。
「社会インフラの整備。商業、工業、物流の設備を、整備すること。」

こうした、女性優位社会と、男性優位社会との関係は、これらの近代化においても、共通に見られる。

「近代化のサイクル。」。
それは、男性優位社会と、女性優位社会とが、相互に動かす。

これが、人間社会では、果てしなく続くのである。

（初出2020年5月）

共産主義、社会主義の社会。女性優位社会。両者を混同するな！その男性優位社会での実現が、新たに必要である。

従来の社会科学においては、政治学者、経済学者や社会学者は、以下の混同を、行っている。
（１）共産主義や、社会主義の社会。
（２）女性優位社会。
かれらは、それを、無自覚のうちに行ってしまっている。

共産主義の社会は、以下の社会である。
（１）共産主義革命を、実行した社会。
（２）そうして、以下の内容を、樹立した社会。
「共産主義に基づく、新たな、社会体制。」。

それは、従来の世界社会においては、女性優位社会ばかりである。
これは、そうした混同の原因である。
元々の共産主義は、以下のような内容になっている。
（１）それは、人間社会の内部を、以下の状態であるとして、捉える。
「資本家階級の人々と、労働者階級の人々との、対立。」。

（２）それは、以下のことを、理想として捉える。
（２－１）労働者階級の人々が、以下のものを、打倒、破壊すること。
「資本家階級の人々が持つ、社会的な、既得権益。」。
（２－２）以下の内容を、新たに樹立すること。
「労働者階級の人々が、主導権を握る、社会体制。」。

この共産主義の考え方を作り出したのは、男性優位社会の欧米諸国の人々である。
この新たな社会体制に関する考え方が、女性優位社会にも伝わった。
女性優位社会は、以下のことが、根本的に苦手である。
「何も無いところからの、新たな知見の創出。」

女性優位社会の人々は、もともと、大きな劣等感や危機感を抱いて

いた。
それは、以下のものだった。「
自分たちの社会が、以下の（１）に比べて、以下の（２）に、満ちていること。」
（１）先進的で、近代的な、男性優位社会。
（２－１）後進性。
（２－２）前近代性。

そのため、女性優位社会の人々は、以下の内容に、熱狂的に共感した。
「共産主義の考え方。それは、男性優位社会が新たに考えた。」。
それは、以下の内容を提唱するものだった。
「従来の社会体制を、今までにない全く新たな社会体制へと、根本的に変革しよう！」

女性優位社会の人々は、以下の（１）を、次のものと捉えた。
「以下の（２）を実現するための、絶好のチャンス。」。

（１）共産主義を、自分たちの社会に新たに導入すること。

（２）以下の（２－１）を、以下の（２－２）へと、衣替えすること。
（２－１）自分たちの、後進的で、前近代的な、社会体制。
（２－２）全く新規の、先進的で、超近代的な、社会体制。

それは、以下のことだった。
「自分たちの社会が、男性優位社会に、先進性や近代性の面で、追いつくか、追い越すこと。」。
女性優位社会は、これに、雪崩のように、一斉に、飛びついた。
女性優位社会は、次々と社会体制面での革命を引き起こした。
その社会は、そうして、新たな社会体制を築いた。
女性優位社会の人々は、共産主義の導入によって、次々と新たな社会体制は樹立した。

しかし、その社会的な体質は、結局、従来の女性優位なままに留まった。
女性優位社会による共産主義導入は、女性特有の感覚で行われた。
それは、以下のことと同様だった。
（１）冬服から、夏服への、衣替え。
（２）古い流行遅れの服から、最新ファッションの服への衣替え。

つまり、その服の外観は、確かに最新ファッションになった。
しかし、以下の内容は、従来通りの女性優位なままだったのである。
「中身の人間たちが持つ、精神的な構造や、体質。」。

そのため、こうした、以下の社会では、以下のようなことが起きた。
「元のままの女性優位社会。それは、共産主義を、新たに導入した。」。
その社会では、以下の状態が起きた。

（１）以下の二者が、社会的に分離すること。
（１－１）社会的上位者（「上位者」）。
（１－２）社会的下位者（「下位者」）。

（２）その状態が、再生産されること。

それは、伝統的な女性優位社会には、付き物である。

あるいは、こうした社会では、以下の状態が起きた。
「女性優位な社会関係が、再生産されること。」
そこでは、上位者に対して、下位者が、精神的に、一方的に忖度、隷従する。

こうした社会では、以下の状態が起きた。
（１）上位者が、下位者に対して、共産主義の考え方を、女性優位なやり方で、教条的に、一方的に、強制し続けた。
（２）上位者は、上位者の命令に従わない下位者を、一方的に処刑したり、投獄し続けた。
この結果、こうした社会では、従来通り、以下の状態が続いた。
「社会内部で、以下の自由が無い状態。」。
（１）思想の自由。
（２）表現の自由。
こうした社会的傾向は、以下の人々から、大きな批判の対象になった。
「個人の自由独立を好む、男性優位社会の人々。」

（２）こうした社会では、以下のことの持続が起きた。
（２－１）社会の後進性。

（２－２）社会の前近代性。

こうした社会では、以下の内容を、彼らの力では、新たに作り上げることができなかった。
「社会生活向上に必要な、新たな科学技術。」。

彼らは、外部の男性優位社会に頼ろうとした。
しかし、彼らは、男性優位社会からの協力が得られなかった。
彼らは、仕方なく、男性優位社会に対するスパイ活動などに頼った。
しかし、それも上手く行かなかった。

その結果、こうした社会では、以下のことが深刻になった。
「社会の、科学技術面での、遅れ。」。

彼らは、社会生活の向上において、停滞や後退を続けた。
結局は、こうした社会では、共産主義を捨てた。
あるいは、彼らは、それを、表面上は維持した。
しかし、彼らは、実質的に、資本主義を、再度導入することになった。
それは、男性優位社会が、維持し続けていた。

（３）こうした社会では、女性優位社会によくある、以下のような傾向が続いた。
それらは、女性優位な人々の持つ心理構造に基づく。
（３－１）上手くやっている他者に対する、嫉妬心の強さ。

（３－２）それに基づく、次の行為がはびこる傾向の強さ。
（３－２－１）相互監視。
（３－２－２）密告。
（３－２－３）相互の足の引っ張り合い。

（３－３）その結果、以下の状態が、もたらされること。
（３－３－１）「悪平等。」
（３－３－２）その持続。それに対する強い指向。

この結果、こうした社会は、経済面で、大きく停滞し続けた。
そこでは、経済活動面でも、自由が乏しかった。
その社会は、計画経済と呼ばれる状況に陥った。
その社会では、物資不足がまん延した。

結局は、こうした社会では、共産主義を捨てた。
あるいは、彼らは、それを、表面上は維持した。
しかし、彼らは、実質的に、自由市場経済を、再度導入することになった。
それは、男性優位社会が、維持し続けていた。

従来の社会科学においては、政治学者、経済学者や社会学者は、以下の二つを、混同した。
（１）こうした、共産主義を導入した女性優位社会。
（２）共産主義社会そのもの。

彼らは、共産主義社会について、しきりと否定的な評価を下すようになっている。

しかし、現状では、以下の状況になっている。
男性優位社会でも、貧富の格差が、大きく開いている。例えば、欧米諸国。
その格差は、資本家の人々と、労働者の人々との間で、広がっている。
そうした格差の抜本的是正のために、以下のことが、新たに求められる。
「男性優位な共産主義社会。男性優位社会による、その構想と実現。」
そうした、社会的経済的状況が新たに生まれている。
そうした意味では、共産主義は、今でも、男性優位社会において、今なお有効である。例えば、特に、欧米諸国。
それは、新たに検討の対象とすべき考え方であり続けている。

世界の人々は、以下のことを、共産主義のスタンダードと考え続けてはいけない。
「女性優位社会における、共産主義。」。
これと関連して、社会主義についても、以下の内容を、分けて考えることが必要である。
（１）男性優位な社会主義。
（２）女性優位な社会主義。

社会主義は、以下の充実を重んじる。
（１）人々の間での、社会的な相互扶助。
（２）社会的下位者のための社会福祉。

世界の人々は、以下の内容を、社会主義のスタンダードと考えてはいけない。
「社会的悪平等を実現するタイプ」の社会主義。女性優位社会における社会主義。

社会福祉の充実した男性優位社会のあり方も、社会主義の社会の別のスタンダードの一つである。
それは、例えば、北欧諸国である。

（初出2020年5月）

女性優位社会。その共産主義革命。その真意。共同性の優先。

女性優位社会。その共産主義革命。
その真意。
それは、以下である。
社会における、共同性の優先。

（Ａ）
従来の共産主義についての解釈。
それは、以下の二つを、混ぜている。
そのため、その内容は、分かりにくい。
それらは、以下の二つへと、別々に分けるべきである。

（１）労働者革命主義。
労働者が、資本家を、倒すこと。その実現。
資本家は、経済的な既得権益を持っている。
彼らは、支配者である。
労働者は、経済的な既得権益を持っていない。
彼らは、従属者である。
従属者が、支配者を倒す。
それは、以下である。
下剋上。
労働者は、新たに、社会における支配者になる。

この主義は、そのことを推進する。

（２）共同性優先主義。
社会における、共同性の優先。
共同性を、個人性よりも、優先すること。その実現。
個人性を優先する場合。社会は乾く。その人間関係は、味気ない。
社会において、個人性よりも、共同性を優先すること。その実現。
そうして、社会は潤う。その人間関係は、充実する。

（Ｂ）
上記の二者をリンクさせる考え方。
それは、以下である。
（１）個人主義。自由主義。それらの社会への浸透。それによる、以下の発生。
（１－１）社会における、個人の競争の激化。
（１－２）社会的格差の増大。資本家。労働者。その両者の対立の激化。
それを、以下によって、克服すること。
（２）個人性よりも、共同性を優先すること。その実現。

（Ｃ）
女性優位社会。
女性優位社会は、以下の（１）よりも、以下の（２）について、より強く反応した。
（１）労働者による革命。
（２）社会における共同性の優先。

女性優位社会には、男性優位社会の新知見が浸透した。
そのことで、以下が行われた。
女性優位社会の近代化。

しかし、女性優位社会には、それと同時に、以下が入ってきた。
男性優位社会の価値観。
それは、個人性優先の価値観であった。
それは、以下と、対立した。
女性優位社会における、従来の価値観。共同性を優先する価値観。

両者の対立。
それは、女性優位社会の人々に、思考面での矛盾を引き起こした。
それは、不快であった。
人々は、それを解決しようとした。
人々は、そのために、共産主義に、すがった。
それは、以下を掲げていた。
社会における、共同性の優先。

（１）社会の近代化。
（２）社会における、共同性の優先。
その両方を備えた社会。
人々は、それを、最優先で、実現しようとした。

人々は、そのために、以下を、副次的に実行した。
労働者による革命。

それは、女性優位な思考によって、教条的に行われた。

（初出2020年8月）

民主主義と、女性優位社会。

女性優位社会による、民主主義の受容。
それは、以下の二通りに分かれる。

（１）
女性優位社会が、男性優位社会が生成する先進思想を、求める場合。

（２）
女性優位社会の上位者が、男性優位社会である場合。

大元の民主主義のイデオロギーの内容。

（１）
相互に自由に動く、相互に独立した個人。
そうした存在を、前提とすること。

（２）
議論や討論のリアルタイムでの公開。
その実現を、前提とすること。

（３）
上位者に対する反論や批判。
上位者による、それに対する処罰無しでの、再反論。
それらが可能であること。
その実現を、前提とすること。

（４）
発言者自身が、その発言の内容について、責任を取ること。
そこから逃げることを、禁止すること。
その実現を、前提とすること。

（５）
所属集団内部での意見の割れ。
その発生を許容すること。
多数決を目指すこと。
その実現を、前提とすること。

（６）
人々が、彼ら自身の意見に合致する主張をする人々のことを、支持すること。
その際に、それらの主張者たちが、多数派か、少数派かどうかは、特に気にしないこと。
それらを、常時行うこと。
その実現を、前提とすること。

（まとめ）
それは、男性優位社会における理想である。

女性優位社会本来のイデオロギーの内容。

（１）
相互に一体化や同調や忖度によって動く、相互に一つにまとまった個人。
そうした存在を、前提とすること。

（２）
議論や討論の非公開。
それらの内容の、関係者間における事前了解性の確保。
それらの内容の事前決定性の確保。
それらの機密性や密室性の確保。
公開する対象は、関係者間において、既に決定済であること。
それらの実現を、前提とすること。

（３）
上位者に対する反論や批判。
それらの抑制や禁止。
それらが可能であること。
その実現を、前提とすること。

（４）
発言者自身が、その発言の内容について、責任を回避すること。
発言者自身が、その発言の内容について、責任を転嫁すること。
連帯責任を実現すること。
それらが可能であること。
その実現を、前提とすること。

（５）
所属集団内部での意見の割れ。
その発生を、阻止すること。
満場一致。
全会一致。
そうした状態を、目指すこと。
その実現を、前提とすること。

（６）
多数派に付くこと。
多数派の意見に賛成すること。
そのことで、自身の保身を図りやすくすること。
与党を支持すること。
野党の存在を、見下すこと。

それらを、常時行うこと。
その実現を、前提とすること。

民主主義の内容は、女性優位社会における理想の内容とは、互いに相容れない。

女性優位社会は、民主主義を、表向きは、必死になって受容する。
女性優位社会は、民主主義を理解することが、出来ない。
女性優位社会は、民主主義を実際に運用することが、出来ない。

民主主義に代わる、社会的理想。
その内容を、一言で、明快に、簡潔に、表現できること。
そうした単語を、自力で生み出すこと。
上記の内容の実現が、女性優位社会にとって、必要である。

上記の内容は、例えば、以下のように、表現できる。

調和主義。

あるいは、以下の内容の実現が、世界社会にとって、必要である。
それは、女性優位社会にとって、特に必要である。

以下の二つを、全くの別物として、それぞれ構築すること。

（１）
男性優位な民主主義。

（２）
女性優位な民主主義。

（初出2021年2月）

男性優位社会。そのタイプ分け。宗教。血縁関係。

男性優位社会。
その世界的に主要な勢力。
それらは、現在、以下の二通りに、大きく分かれる。

（１）
民主主義。
欧米諸国。

（２）
イスラーム。
中東諸国。

上記の両者は、以下の側面において、共通している。

相互に自由に動く、相互に独立した個人。
そうした存在を、前提とすること。

唯一の絶対者。
天の父なる神。
そうした存在を、信仰すること。

（１）
キリスト教。

（２）
イスラム教。

上記の両者は、以下の面において、相違している。

（Ａ）
宗教性との関連。

上記の（１）。

旧来の宗教。
それらの顕示的な主導者では無い者。
彼らが、その社会の人々を主導している。

旧来の宗教。
それらに代わる、新たな社会的理想やイデオロギー。
宗教の代用品に該当する思想。
新たな宗教に該当する思想。
例。
リベラリズム。
ポリティカルコレクトネス。

それらの主導者。
彼らが、その社会の人々を主導している。

上記の（２）。

旧来の宗教。
それらの主導者。
彼らが、その社会の人々を、引き続き主導している。

（Ｂ）
血縁集団との関連。

上記の（１）。

血縁定住集団以外の選択肢を持って、動くこと。
核家族を形成すること。

上記の（２）。

血縁定住集団を、専ら中心として、動くこと。
巨大血縁集団を形成すること。

（初出2021年2月）

女性優位社会の女性優位な人々。彼らは、有力な学説を信じる。

女性優位な人々は、女性優位社会を構成する。
女性優位な人々にとっては、学問上の学説は、次のように位置付けられる。
「人間関係を構築し、維持するためのツール。」

女性優位な人々にとっては、学説の内容はどうでもいい。
女性優位な人々の信奉する学説の内容は、以下のようになる。
それは、以下のことに応じて、その都度、流動的に変わる。
「人々による、人間関係の構築や、維持。」。

女性優位な人々は、自己保身を重視する。
女性優位な人々は、以下のように、考える。
（１）私は、どこかの仲間集団に、入りたい。
（２）私は、次のことは、嫌である。
（２－１）「野良で、ひとりぼっちでいること。」。

女性優位な人々は、同じ学説に賛成する。
彼らは、そうして、以下のところに入れてもらう。
「その学説を信奉する、仲間集団。」。
女性優位な人々は、「仲間集団への加入」が、自己目的化している。
彼らにとっては、学説の内容は、おまけである。
女性優位な人々は、以下のように考える。
「集団に加入するなら、有力な集団に加入する方が、良い。それは、自己の保身にとって、より好都合である。」
彼らは、有力学説に積極的に賛同する。

女性優位な人々は、以下のところに加入する。
「以下の人々が中心となる、師弟集団。」
「彼らにとっての先生や、師匠。彼らは、有力な学説に詳し

い。」。

例えば、以下の内容は、有力学説の一つとして位置づけられる。
「女性優位な日本社会における、現在のフェミニズム。」。

女性優位な師弟集団内では、以下の条件によって、上下関係が一方的に決まる。
「前例、しきたりとしての学説。その習得、理解、蓄積の度合い。」

女性優位な人々は、以下の中で、過ごす。
（１）師弟間の、一方的教授と勉強の関係。
（２）古参者と新参者との間の支配、隷従関係。

女性優位な人々は、以下のように考える。
「自分も早く、先生や古参者の立場に回りたい。」

女性優位な師弟集団内では、以下のことが起きる。
（１）仮に、あるメンバーが、学説習得、理解、蓄積の度合いを格段にアップした、とする。
（２）そのメンバーは、師匠や、他のメンバーから、実力があると認められる。
（３）そのメンバーは、集団内での扱いが良くなり、出世昇進することもある。
（４）なので、集団内の誰もが、学説習得、理解、蓄積に励む。

学説の有力性の度合いも、社会情勢の変化に応じて、その都度変動する。
学説の流行度合いが変化する。
そこで、以下のことも起きる。
「今まで有力視されていた学説の人気が、落ちること。」

女性優位な人々は、以下の行動が多い。
「その都度、人気の学説に、節操なく手のひら返しをして鞍替えすること。」

そうなると、彼らは、次のタイプの、女性優位な仲間集団、師弟集団と、そりが合わなくなる。
「彼らが信じる、特定の学説について、前例、しきたりを習得し、蓄積することを重視する集団。」

女性優位な人々には、以下のタイプの人々がいる。
（１）
ゼネラリスト。
彼らは、以下の集団へ、その都度、鞍替えで加入を行う。
「有力性が急増した、流行の、人気ある学説を信奉する集団。」。
そうした派閥の人々。

（２）スペシャリスト。
彼らは、以下の内容を、固定的に信奉する。
「有力性が永続しそうな、特定の学説。」。
そうした派閥の人々。

どちらの派閥の人々も、信奉する学説の有力性を重視する。
どちらも、以下の意図で動いている。
彼らは、その学説を信奉することで、自分の保身を図ろうとする。
その点では、両者は共通である。

女性優位な人々は、以下のように考える。
「社会的に無力な学説は、自分の保身のためには役に立たない。」。
彼らは、それらを、無視しがちである。
彼らは、それらについて、以下のことは、見ようとしない。
（１）その内容の真実性。
（２）その内容の説明力の高さ。

女性優位な人々にとっては、学説は、以下の対象である。
「情緒的に、同調し、一体化する対象。」。

彼らには、科学性は、重視されない。
女性優位な人々は、科学性を重視する主張を行う。
しかし、それは、以下のことに過ぎない。
（１）有力な社会の社会規範を、丸呑みすること。
（２）それに同調し、一体化し、忖度すること。

その対象は、以下のものに限定される。「男性優位社会。」。
彼らは、それを、有力な存在と想定する。例えば、欧米諸国。

以下の精神は、女性優位な人々には、そもそも根本的に理解されな

い。
「科学性の精神。」
それは、男性優位社会の社会規範に由来する。
それは、以下のように見なされる。
「それは、女性優位社会の維持にとって、有害である。」。
それは、以下の対象になる。
「社会的な、排除や消去。」。

女性優位な人々は、次の学説について、その都度、以下のことを続ける。
「その内容を、盲目的に、丸呑みし、導入すること。」

（１）世界的に、勢力や有力さの度合いの強い社会による学説。
（２）男性優位社会が、未知へのチャレンジによって次々と生み出す新たな学説。
（３）それらの社会で、勢いがあって有力そうな学説。

彼らは、それらを、以下のように考える。
「新たな有力な前例。」。
「それらは、先進的で、学ぶ価値がある。」。

女性優位社会は、本来的に、前例、しきたり偏重である。
その社会は、そのままでは、学説面において、動きや変化に乏しい。

しかし、女性優位社会では、上記の行為により、以下のことが、可能になる。
（１）その時々の、既存の有力学説が、新登場の学説へと、ダイナミックに交代すること。
（２）そのことが、頻繁に、容易に、繰り返し行われること。
女性優位社会では、こうしたことが、高く評価される。

女性優位社会では、次の人々が、その社会的功績を、高く評価される。
「紹介者。彼らは、有力学説を、その社会で、新たに、紹介した。」

彼らは、以下のことを、評価される。
（１）有力学説を、社会に、先駆的に導入したこと。
（２）そうして、社会的に大きく貢献したこと。

女性優位社会では、以下の行為が、以下のことのために、重要である。
「人々が、その社会的地位を、向上させること。」。
（１）有力学説を、他人に先駆けて自分たちの社会に導入、紹介する行為。
（２－１）その有力学説の内容に追随し続ける行為。
（２－２）そうして、以下の度合いを高める行為。
「彼らが有する、学殖の深さ。」。

女性優位な人々は、以下のことを行う。
（１）異なる有力学説同士を、組み合わせること。
（２）有力学説の内容を、微調整し、小改良すること。
人々は、それによって、以下のことを主張する。
「学説面における、自分自身が持つ、オリジナリティ。」。
人々は、そうして、次のことを図ろうとする。
「以下のことを、向上させること。」
「彼らの、所属集団内、社会全体の中での、立ち位置。」。

あるいは、女性優位な人々は、以下のことに没頭する。
（１）有力な学説についての、詳細な検討。
（２）その内容についてのチェック。

それは、訓詁の学である。

（初出2020年5月）

女性優位社会における、科学。その社会にとっての上位者が、先進的な男性優位社会である場合。

女性優位社会における、科学。
その社会にとっての上位者が、先進的な男性優位社会である場合。

女性優位社会の人々。
彼らにとっての、科学。

それは、以下の内容である。

彼らの社会の上位者に当たる、先進的な男性優位社会。
その社会規範に対する、信仰や崇拝。
その一環。

彼らの社会の上位者に当たる、先進的な男性優位社会。
その理論。
その学説。

それらの内容の、絶対的な順守。
それらに対する、隷従。
それらに対する、従属。
それらに対する、手放しの礼賛。
それらの内容の、丸暗記。
それらの内容の、丸呑み。

それらの実行。
その、下位者への強制。
それに従わない下位者。
彼らに対する社会的な厳罰。
その執行。

そのために、以下の行為を、絶えず行うこと。
下位者に対する、統制。
下位者に対する、説教。

それらは、下位者にとって、厳しい。
それらは、下位者にとって、逃げ道が無い。
それらは、下位者にとって、一方的である。

（初出2021年4月。）

女性優位社会における社会学やフェミニズム。先進的な男性優位社会が、スーパー上位者の場合。

（Ａ）
社会学。

女性優位社会の社会学。
それが、以下の内容になること。
スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の理論。
その輸入を、専ら、行うこと。
そうした内容の学問になること。

女性優位社会の社会学の教科書。
それらの内容が、以下の状態になること。
それは、スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会理論によって、埋め尽くされる。

それらの理由。

それらは、以下の内容である。
女性優位社会。定住生活様式中心社会。
それらが行う、ありふれた典型的な社会行動。
それらの一例。

上位者に対する隷従。

現在の上位者にとってのライバル。
それらに対する敵視。
それらに対して、悪口や批判を述べること。

現在の上位者に対する、忠誠心の顕示。
それを、必死で、行うこと。

過去や現在における、下位者。

それらに対する蔑視。
それらに対する専制支配。
そうした態度。
それらの継続。

上位者の社会規範に対する賛美。
先進的な男性優位社会を、上位者と見なすこと。
先進的な男性優位社会の社会規範に対する賛美。

女性優位社会の社会規範を、下位であり、劣位であると、見なすこと。

以下の（１）は、以下の（２）に対して、以下の（３）の内容に、該当すること。
（１）
女性優位社会の社会規範。
（２）
先進的な男性優位社会の社会規範。
（３）
全面的に対立すること。
正反対であること。

その事実を、無意識のうちに、予め、認識していること。
彼ら自身が持つ、女性優位社会の社会規範。
その内容を、前面に押し出すこと。
その行為の実行が、怖いこと。
それは、以下の内容に反する行為である。
上位者としての先進的な男性優位社会。
それらが持つ意向。

女性優位社会の社会規範。
その内容を、表向きは、否定すること。
それは、以下の行為に、該当する。

現在の上位者の社会規範に刃向かう内容。
現在の上位者に対して、刃向かう存在。
現在の上位者にとってのライバルに当たる存在。
下位者と考える存在。
それらの否定。

実は、彼ら自身が、その中の一員であること。
その社会的真実。
その表面的な否定や、必死の隠ぺい。

前例踏襲のみを、行うこと。

今までに前例の無い、全く新たな社会理論の構築。
その行為を、とてもリスキーに感じること。
その行為が、怖くて出来ないこと。
そのため、その構築の能力が無いこと。
その結果。
先進的な男性優位社会が新たに構築する社会理論。
その内容に、頼ることしか出来ないこと。
そうした心理の基盤。
彼ら自身の内面において、以下の内容が、予め、組み込まれていること。
彼ら自身の保身。
彼ら自身の安全を、確保すること。
それらを最優先する行動様式。

その効力は、強力である。
その効力の発生は、遺伝的である。

女性優位社会社会の場合。
スーパー上位者としてのスーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国。
上位者としての、女性優位社会の国家体制。それは、以下の内容の国策を、長期にわたって堅持し続けている。

スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国。それらへの仲間入り。その実現を、試行すること。

それらへの隷従。
そのことによる、彼ら自身の保身の実現。

彼ら自身の所属する定住集団。大学。

そこにおける、以下のような存在。
それへの取り入り。
そのことを、専ら、行うこと。

それに伴う、以下の内容の実現。
彼ら自身の社会的な昇進。

スーパー上位者としてのスーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国。
それらに対して、心理的に依拠すること。
そのことで、新たに、以下のような存在になること。
スーパー上位者。それらの末席のメンバー。
そのことで、以下の内容の実現が、可能になること。
社会的に権力を振るうこと。
社会的に優遇されること。

国内の上位者。
それは、上記の結果、彼ら自身よりも下位者になる。
そうした、下位者。
そうした存在に対して、マウントを取ること。
そうした存在に対して、専制支配を行うこと。
そうした存在に対して、教条的な説教を行うこと。
そのことによって、そうした存在を、サンドバッグ扱いすること。

そのことで、彼ら自身のプライドの保持を、行うこと。
そのことで、彼ら自身のストレスを、発散すること。

そうしたことが、出来ること。

彼ら自身が所属する、以下のような社会。
女性優位社会。
定住生活様式中心社会。

それらの内実。それらの社会的真実。
それらを、外部に向けて、語ること。

そのことは、以下の内容に当たる。
その女性優位社会と、他の女性優位社会諸国との間の同質性。
女性優位社会と、スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国との間の異質性。
それらを、明示的に主張すること。

そのことは、以下の内容に、真っ向から、歯向かう内容である。
女性優位社会の国家体制。それが主導する、以下の内容の国策。
スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国。それらへの仲間入り。その実現を、試行すること。

仮に、ある人物が、それらを行った場合。
その人物は、以下のような存在として、見なされる。

スーパー上位者のスーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の意向に反抗する反逆者。
女性優位社会の国家体制の基本的な方針に反抗する反逆者。

そのことで、以下の（１）の存在から、以下の（２）の扱いを受けること。
（１）
スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会。
女性優位社会の国内の社会。
（２）
不利な扱い。

それは、その人物の生涯にわたって続く。
そのことが、確定すること。

その人物は、社会的な保身の術を、全面的に喪失する。
その人物は、社会的に、大きな恥辱を受ける。

彼らは、それらの発生を避ける。
彼らは、そのため、決して、以下の行為を、行わない。
彼ら自身の社会の内実。
彼ら自身にとっての社会的真実。
それらを、外部に向けて、語ること。

その結果、彼らは、以下の行為を、専ら、行う。
女性優位社会社会の現状。
それを、スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会規範に沿って、解釈すること。
女性優位社会社会を、スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会の一員として、解釈すること。

彼ら自身の社会。
女性優位社会。
定住生活様式中心社会。
それら社会の内実。その社会的真実。
それらの内容は、機密情報に相当する。
それらの内容は、秘匿性の確保を前提とする。
それらの内容は、外部に漏らしては、決してならない。

仮に、ある人物が、以下の行為を行った場合。
それらの内容を、詳細に分析すること。
その結果を、社会の外部に公開すること。

それは、以下の内容に、当たる。
機密情報の漏洩。
内部告発。

その結果、その人物は、彼自身が所属していた定住集団から、以下のような扱いを受ける。
無視されること。
虐められること。
追い出されること。

その結果。
その人物は、以下のような状況に陥る。
社会的な地位を失うこと。
社会で生きていくことが出来なくなること。

大学の教員も、その典型例に当たる。

そうした事態の発生。

それは、以下の（１）において、以下の（２）に当たる。
（１）
彼ら自身の保身を確保すること。
その状態を、維持すること。
（２）
致命的なダメージ。

彼らは、それらの発生を、避ける。
そのため、彼らは、以下の行為を、徹底的に回避する。

彼ら自身の社会内部の真実。
それらを分析すること。
それらを解明すること。
そうした作業。

彼らは、代わりに、以下の行為を、専ら、行う。

スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の有名学者。
彼らの唱える有名な学説。
それらの輸入。それらの紹介。

それらは、内容面で、当たり障りが無い。
それらには、社会的な需要が、相当ある。

彼ら自身の上位者。
例。
師匠。先輩。
そうした人々は、今まで、以下の行為を、専ら行ってきた。
スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会理論。
それらの輸入。それらの紹介。

彼ら自身が、以下の状況を実現すること。
そうした上位者。その弟子。その後輩。
そうした存在として、上位者に対して、以下の状態を維持するこ
と。
隷属すること。
忖度すること。
懐くこと。
気に入られること。

そうした状態の持続。

その実現には、以下の行為の実行が必要である。
上位者に対して、態度面で、以下の行為を、絶えず実行すること。
同調すること。
一体化すること。
その後継者として振る舞うこと。
それらの持続。

そこで、彼ら自身も、以下の行為を行う必要がある。
彼ら自身の師匠。
彼ら自身の先輩。
そうした人々に習って、以下の行為を行うこと。
スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会理論。その輸入。その紹介。
それらを、続けること。
そのことで、初めて、彼らは、以下の状況を、実現することができる。
彼ら自身の師匠。彼ら自身の先輩。
そうした人々の正統な後継者となること。
そのことで、社会的な出世や昇進を果たすこと。
そのことで、アカデミックポストの獲得に成功すること。
そのことで、大学の定住集団の正規メンバーとなること。

その結果。
彼らは、以下の状況を実現することが出来る。
社会的な信用や肩書。それらを得ること。
そのことで、以下の二つの内容を、同時に実現すること。
社会的な見栄。社会的な保身。

それらの行為は、以下の内容に、忠実に従ったものになっている。
女性的な社会規範。
定住生活様式の社会規範。
その両方。

例。
日本社会の場合。

日本の社会学。
それが、以下の内容になること。
欧米諸国の理論。
その輸入を、専ら、行うこと。
そうした内容の学問になること。

日本の社会学の教科書。
それらの内容が、以下の状態になること。
それは、欧米諸国の社会理論によって、埋め尽くされる。

それらの理由。

それらは、以下の内容である。
女性優位社会。定住生活様式中心社会。
それらが行う、ありふれた典型的な社会行動。
それらの一例。

上位者に対する隷従。

現在の上位者にとってのライバル。
それらに対する敵視。
それらに対して、悪口や批判を述べること。

現在の上位者に対する、忠誠心の顕示。
それを、必死で、行うこと。

過去や現在における、下位者。
それらに対する蔑視。
それらに対する専制支配。
そうした態度。
それらの継続。

上位者の社会規範に対する賛美。
先進的な男性優位社会を、上位者と見なすこと。
先進的な男性優位社会の社会規範に対する賛美。

女性優位社会の社会規範を、下位であり、劣位であると、見なすこと。

以下の（１）は、以下の（２）に対して、以下の（３）の内容に、該当すること。
（１）
女性優位社会の社会規範。
（２）
先進的な男性優位社会の社会規範。
（３）
全面的に対立すること。
正反対であること。

その事実を、無意識のうちに、予め、認識していること。
彼ら自身が持つ、女性優位社会の社会規範。
その内容を、前面に押し出すこと。
その行為の実行が、怖いこと。
それは、以下の内容に反する行為である。
上位者としての先進的な男性優位社会。
それらが持つ意向。

女性優位社会の社会規範。
その内容を、表向きは、否定すること。
それは、以下の行為に、該当する。

現在の上位者の社会規範に刃向かう内容。
現在の上位者に対して、刃向かう存在。
現在の上位者にとってのライバルに当たる存在。
下位者と考える存在。
それらの否定。

実は、彼ら自身が、その中の一員であること。
その社会的真実。
その表面的な否定や、必死の隠ぺい。

前例踏襲のみを、行うこと。

今までに前例の無い、全く新たな社会理論の構築。
その行為を、とてもリスキーに感じること。
その行為が、怖くて出来ないこと。
そのため、その構築の能力が無いこと。
その結果。
先進的な男性優位社会が新たに構築する社会理論。
その内容に、頼ることしか出来ないこと。
そうした心理の基盤。
彼ら自身の内面において、以下の内容が、予め、組み込まれていること。
彼ら自身の保身。
彼ら自身の安全を、確保すること。
それらを最優先する行動様式。

その効力は、強力である。
その効力の発生は、遺伝的である。

日本社会の場合。
スーパー上位者としての欧米諸国。
上位者としての、日本の国家体制。それは、脱亜入欧の国策を、長期にわたって堅持し続けている。

それらへの隷従。
そのことによる、彼ら自身の保身の実現。

彼ら自身の所属する定住集団。大学。

そこにおける、以下のような存在。
それへの取り入り。
そのことを、専ら、行うこと。

それに伴う、以下の内容の実現。
彼ら自身の社会的な昇進。

スーパー上位者としての欧米諸国。

それらに対して、心理的に依拠すること。
そのことで、新たに、以下のような存在になること。
スーパー上位者。それらの末席のメンバー。
そのことで、以下の内容の実現が、可能になること。
社会的に権力を振るうこと。
社会的に優遇されること。

国内の上位者。
それは、上記の結果、彼ら自身よりも下位者になる。
そうした、下位者。
そうした存在に対して、マウントを取ること。
そうした存在に対して、専制支配を行うこと。
そうした存在に対して、教条的な説教を行うこと。
そのことによって、そうした存在を、サンドバッグ扱いすること。

そのことで、彼ら自身のプライドの保持を、行うこと。
そのことで、彼ら自身のストレスを、発散すること。

そうしたことが、出来ること。

彼ら自身が所属する、以下のような社会。
女性優位社会。
定住生活様式中心社会。

それらの内実。それらの社会的真実。
それらを、外部に向けて、語ること。

そのことは、以下の内容に当たる。
日本と、中国や韓国やロシアや東南アジア諸国との間の同質性。
日本と、欧米諸国との間の異質性。
それらを、明示的に主張すること。

そのことは、以下の内容に、真っ向から、歯向かう内容である。
日本の国家体制。それが主導する、脱亜入欧の国策。

仮に、ある人物が、それらを行った場合。
その人物は、以下のような存在として、見なされる。

スーパー上位者の欧米諸国の意向に反抗する反逆者。
日本の国家体制の基本的な方針に反抗する反逆者。

そのことで、以下の（１）の存在から、以下の（２）の扱いを受けること。
（１）
欧米諸国の社会。
日本の国内の社会。
（２）
不利な扱い。

それは、その人物の生涯にわたって続く。
そのことが、確定すること。

その人物は、社会的な保身の術を、全面的に喪失する。
その人物は、社会的に、大きな恥辱を受ける。

彼らは、それらの発生を避ける。
彼らは、そのため、決して、以下の行為を、行わない。
彼ら自身の社会の内実。
彼ら自身にとっての社会的真実。
それらを、外部に向けて、語ること。

その結果、彼らは、以下の行為を、専ら、行う。
日本社会の現状。
それを、欧米諸国の社会規範に沿って、解釈すること。
日本社会を、欧米諸国の社会の一員として、解釈すること。

彼ら自身の社会。
女性優位社会。
定住生活様式中心社会。
それら社会の内実。その社会的真実。
それらの内容は、機密情報に相当する。
それらの内容は、秘匿性の確保を前提とする。
それらの内容は、外部に漏らしては、決してならない。

仮に、ある人物が、以下の行為を行った場合。

それらの内容を、詳細に分析すること。
その結果を、社会の外部に公開すること。

それは、以下の内容に、当たる。
機密情報の漏洩。
内部告発。

その結果、その人物は、彼自身が所属していた定住集団から、以下のような扱いを受ける。
無視されること。
虐められること。
追い出されること。

その結果。
その人物は、以下のような状況に陥る。
社会的な地位を失うこと。
社会で生きていくことが出来なくなること。

大学の教員も、その典型例に当たる。

そうした事態の発生。
それは、以下の（１）において、以下の（２）に当たる。
（１）
彼ら自身の保身を確保すること。
その状態を、維持すること。
（２）
致命的なダメージ。

彼らは、それらの発生を、避ける。
そのため、彼らは、以下の行為を、徹底的に回避する。

彼ら自身の社会内部の真実。
それらを分析すること。
それらを解明すること。
そうした作業。

彼らは、代わりに、以下の行為を、専ら、行う。

欧米諸国の有名学者。
彼らの唱える有名な学説。

それらの輸入。それらの紹介。

それらは、内容面で、当たり障りが無い。
それらには、社会的な需要が、相当ある。

彼ら自身の上位者。
例。
師匠。先輩。
そうした人々は、今まで、以下の行為を、専ら行ってきた。
欧米諸国の社会理論。
それらの輸入。それらの紹介。

彼ら自身が、以下の状況を実現すること。
そうした上位者。その弟子。その後輩。
そうした存在として、上位者に対して、以下の状態を維持すること。
隷属すること。
忖度すること。
懐くこと。
気に入られること。
そうした状態の持続。

その実現には、以下の行為の実行が必要である。
上位者に対して、態度面で、以下の行為を、絶えず実行すること。
同調すること。
一体化すること。
その後継者として振る舞うこと。
それらの持続。

そこで、彼ら自身も、以下の行為を行う必要がある。
彼ら自身の師匠。
彼ら自身の先輩。
そうした人々に習って、以下の行為を行うこと。
欧米諸国の社会理論。その輸入。その紹介。
それらを、続けること。
そのことで、初めて、彼らは、以下の状況を、実現することができる。
彼ら自身の師匠。彼ら自身の先輩。
そうした人々の正統な後継者となること。

そのことで、社会的な出世や昇進を果たすこと。
そのことで、アカデミックポストの獲得に成功すること。
そのことで、大学の定住集団の正規メンバーとなること。

その結果。
彼らは、以下の状況を実現することが出来る。
社会的な信用や肩書。それらを得ること。
そのことで、以下の二つの内容を、同時に実現すること。
社会的な見栄。社会的な保身。

それらの行為は、以下の内容に、忠実に従ったものになっている。
女性的な社会規範。
定住生活様式の社会規範。
その両方。

＝＝＝＝＝
（Ｂ）
フェミニズム。

女性優位社会のフェミニズム。
それが、以下の内容になること。
スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の理論。
その輸入を、専ら、行うこと。
そうした内容の学問になること。

女性優位社会のフェミニズムの教科書。
それらの内容が、以下の状態になること。
それは、スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会理論によって、埋め尽くされる。

それらの理由。

それらは、以下の内容である。
女性優位社会。定住生活様式中心社会。
それらが行う、ありふれた典型的な社会行動。

それらの一例。

上位者に対する隷従。

現在の上位者にとってのライバル。
それらに対する敵視。
それらに対して、悪口や批判を述べること。

現在の上位者に対する、忠誠心の顕示。
それを、必死で、行うこと。

過去や現在における、下位者。
それらに対する蔑視。
それらに対する専制支配。
そうした態度。
それらの継続。

上位者の社会規範に対する賛美。
先進的な男性優位社会を、上位者と見なすこと。
先進的な男性優位社会の社会規範に対する賛美。

女性優位社会の社会規範を、下位であり、劣位であると、見なすこと。

以下の（　１　）は、以下の（　２　）に対して、以下の（　３　）の内容に、該当すること。
（　１　）
女性優位社会の社会規範。
（　２　）
先進的な男性優位社会の社会規範。
（　３　）
全面的に対立すること。
正反対であること。

その事実を、無意識のうちに、予め、認識していること。
彼ら自身が持つ、女性優位社会の社会規範。
その内容を、前面に押し出すこと。
その行為の実行が、怖いこと。
それは、以下の内容に反する行為である。

上位者としての先進的な男性優位社会。
それらが持つ意向。

女性優位社会の社会規範。
その内容を、表向きは、否定すること。
それは、以下の行為に、該当する。

現在の上位者の社会規範に刃向かう内容。
現在の上位者に対して、刃向かう存在。
現在の上位者にとってのライバルに当たる存在。
下位者と考える存在。
それらの否定。

実は、彼ら自身が、その中の一員であること。
その社会的真実。
その表面的な否定や、必死の隠ぺい。

前例踏襲のみを、行うこと。

今までに前例の無い、全く新たな社会理論の構築。
その行為を、とてもリスキーに感じること。
その行為が、怖くて出来ないこと。
そのため、その構築の能力が無いこと。
その結果。
先進的な男性優位社会が新たに構築する社会理論。
その内容に、頼ることしか出来ないこと。
そうした心理の基盤。
彼ら自身の内面において、以下の内容が、予め、組み込まれていること。
彼ら自身の保身。
彼ら自身の安全を、確保すること。
それらを最優先する行動様式。

その効力は、強力である。
その効力の発生は、遺伝的である。

女性優位社会社会の場合。
スーパー上位者としてのスーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国。
上位者としての、女性優位社会の国家体制。それは、以下の内容の国策を、長期にわたって堅持し続けている。
スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国。それらへの仲間入り。それに伴う、社会の家父長制化。その実現を、試行すること。

それらへの隷従。
そのことによる、彼ら自身の保身の実現。

彼ら自身の所属する定住集団。大学。

そこにおける、以下のような存在。
それへの取り入り。
そのことを、専ら、行うこと。

それに伴う、以下の内容の実現。
彼ら自身の社会的な昇進。

スーパー上位者としてのスーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国。
それらに対して、心理的に依拠すること。
そのことで、新たに、以下のような存在になること。
スーパー上位者。それらの末席のメンバー。
そのことで、以下の内容の実現が、可能になること。
社会的に権力を振るうこと。
社会的に優遇されること。

国内の上位者。
それは、上記の結果、彼ら自身よりも下位者になる。
そうした、下位者。
そうした存在に対して、マウントを取ること。
そうした存在に対して、専制支配を行うこと。
そうした存在に対して、教条的な説教を行うこと。
そのことによって、そうした存在を、サンドバッグ扱いすること。

そのことで、彼ら自身のプライドの保持を、行うこと。
そのことで、彼ら自身のストレスを、発散すること。

そうしたことが、出来ること。

彼ら自身が所属する、以下のような社会。
女性優位社会。
定住生活様式中心社会。

それらの内実。それらの社会的真実。
それらを、外部に向けて、語ること。

そのことは、以下の内容に当たる。
その女性優位社会と、他の女性優位社会諸国との間の同質性。
女性優位社会と、スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国との間の異質性。
それらを、明示的に主張すること。

そのことは、以下の内容に、真っ向から、歯向かう内容である。
女性優位社会の国家体制。それが主導する、以下の内容の国策。
スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国。それらへの仲間入り。それに伴う、社会の家父長制化。その実現を、試行すること。

仮に、ある人物が、それらを行った場合。
その人物は、以下のような存在として、見なされる。

スーパー上位者のスーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の意向に反抗する反逆者。
女性優位社会の国家体制の基本的な方針に反抗する反逆者。

そのことで、以下の（１）の存在から、以下の（２）の扱いを受けること。
（１）
スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会。
女性優位社会の国内の社会。

（２）
不利な扱い。

それは、その人物の生涯にわたって続く。
そのことが、確定すること。

その人物は、社会的な保身の術を、全面的に喪失する。
その人物は、社会的に、大きな恥辱を受ける。

彼らは、それらの発生を避ける。
彼らは、そのため、決して、以下の行為を、行わない。
彼ら自身の社会の内実。
彼ら自身にとっての社会的真実。
それらを、外部に向けて、語ること。

その結果、彼らは、以下の行為を、専ら、行う。
女性優位社会社会の現状。
それを、スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会規範に沿って、解釈すること。
女性優位社会社会を、スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会の一員として、解釈すること。

彼ら自身の社会。
女性優位社会。
定住生活様式中心社会。
それら社会の内実。その社会的真実。
それらの内容は、機密情報に相当する。
それらの内容は、秘匿性の確保を前提とする。
それらの内容は、外部に漏らしては、決してならない。

仮に、ある人物が、以下の行為を行った場合。
それらの内容を、詳細に分析すること。
その結果を、社会の外部に公開すること。

それは、以下の内容に、当たる。
機密情報の漏洩。
内部告発。

その結果、その人物は、彼自身が所属していた定住集団から、以下のような扱いを受ける。
無視されること。
虐められること。
追い出されること。

その結果。
その人物は、以下のような状況に陥る。
社会的な地位を失うこと。
社会で生きていくことが出来なくなること。

大学の教員も、その典型例に当たる。

そうした事態の発生。
それは、以下の（１）において、以下の（２）に当たる。
（１）
彼ら自身の保身を確保すること。
その状態を、維持すること。
（２）
致命的なダメージ。

彼らは、それらの発生を、避ける。
そのため、彼らは、以下の行為を、徹底的に回避する。

彼ら自身の社会内部の真実。
それらを分析すること。
それらを解明すること。
そうした作業。

彼らは、代わりに、以下の行為を、専ら、行う。

スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の有名学者。
彼らの唱える有名な学説。
それらの輸入。それらの紹介。

それらは、内容面で、当たり障りが無い。
それらには、社会的な需要が、相当ある。

彼ら自身の上位者。

例。
師匠。先輩。
そうした人々は、今まで、以下の行為を、専ら行ってきた。
スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会理論。
それらの輸入。それらの紹介。

彼ら自身が、以下の状況を実現すること。
そうした上位者。その弟子。その後輩。
そうした存在として、上位者に対して、以下の状態を維持すること。
隷属すること。
忖度すること。
懐くこと。
気に入られること。
そうした状態の持続。

その実現には、以下の行為の実行が必要である。
上位者に対して、態度面で、以下の行為を、絶えず実行すること。
同調すること。
一体化すること。
その後継者として振る舞うこと。
それらの持続。

そこで、彼ら自身も、以下の行為を行う必要がある。
彼ら自身の師匠。
彼ら自身の先輩。
そうした人々に習って、以下の行為を行うこと。
スーパー上位者としての先進的な男性優位社会諸国の社会理論。その輸入。その紹介。
それらを、続けること。
そのことで、初めて、彼らは、以下の状況を、実現することができる。
彼ら自身の師匠。彼ら自身の先輩。
そうした人々の正統な後継者となること。
そのことで、社会的な出世や昇進を果たすこと。
そのことで、アカデミックポストの獲得に成功すること。
そのことで、大学の定住集団の正規メンバーとなること。

その結果。
彼らは、以下の状況を実現することが出来る。

社会的な信用や肩書。それらを得ること。
そのことで、以下の二つの内容を、同時に実現すること。
社会的な見栄。社会的な保身。

それらの行為は、以下の内容に、忠実に従ったものになっている。
女性的な社会規範。
定住生活様式の社会規範。
その両方。

＝＝＝＝＝
彼らは、以下の内容を、全面的に、封印する。
女性優位社会社会。
その内部における、女性の支配力の強さ。
その内部における、母親の支配力の強さ。
それらについての、主張。

彼らは、以下の行為を、専ら、行う。
女性優位社会社会。
それを、以下の内容として、扱うこと。
男性支配の社会。
家父長制の社会。

＝＝＝＝＝
例。
日本社会の場合。

日本のフェミニズム。
それが、以下の内容になること。
欧米諸国の理論。
その輸入を、専ら、行うこと。
そうした内容の学問になること。

日本のフェミニズムの教科書。
それらの内容が、以下の状態になること。
それは、欧米諸国の社会理論によって、埋め尽くされる。

それらの理由。

それらは、以下の内容である。
女性優位社会。定住生活様式中心社会。
それらが行う、ありふれた典型的な社会行動。
それらの一例。

上位者に対する隷従。

現在の上位者にとってのライバル。
それらに対する敵視。
それらに対して、悪口や批判を述べること。

現在の上位者に対する、忠誠心の顕示。
それを、必死で、行うこと。

過去や現在における、下位者。
それらに対する蔑視。
それらに対する専制支配。
そうした態度。
それらの継続。

上位者の社会規範に対する賛美。
先進的な男性優位社会を、上位者と見なすこと。
先進的な男性優位社会の社会規範に対する賛美。

女性優位社会の社会規範を、下位であり、劣位であると、見なすこと。

以下の（１）は、以下の（２）に対して、以下の（３）の内容に、該当すること。
（１）
女性優位社会の社会規範。
（２）
先進的な男性優位社会の社会規範。
（３）
全面的に対立すること。
正反対であること。

その事実を、無意識のうちに、予め、認識していること。

彼ら自身が持つ、女性優位社会の社会規範。
その内容を、前面に押し出すこと。
その行為の実行が、怖いこと。
それは、以下の内容に反する行為である。
上位者としての先進的な男性優位社会。
それらが持つ意向。

女性優位社会の社会規範。
その内容を、表向きは、否定すること。
それは、以下の行為に、該当する。

現在の上位者の社会規範に刃向かう内容。
現在の上位者に対して、刃向かう存在。
現在の上位者にとってのライバルに当たる存在。
下位者と考える存在。
それらの否定。

実は、彼ら自身が、その中の一員であること。
その社会的真実。
その表面的な否定や、必死の隠ぺい。

前例踏襲のみを、行うこと。

今までに前例の無い、全く新たな社会理論の構築。
その行為を、とてもリスキーに感じること。
その行為が、怖くて出来ないこと。
そのため、その構築の能力が無いこと。
その結果。
先進的な男性優位社会が新たに構築する社会理論。
その内容に、頼ることしか出来ないこと。
そうした心理の基盤。
彼ら自身の内面において、以下の内容が、予め、組み込まれていること。
彼ら自身の保身。
彼ら自身の安全を、確保すること。
それらを最優先する行動様式。

その効力は、強力である。

その効力の発生は、遺伝的である。

日本社会の場合。
スーパー上位者としての欧米諸国。
上位者としての、日本の国家体制。それは、社会の家父長制化の国策を、長期にわたって堅持し続けている。

それらへの隷従。
そのことによる、彼ら自身の保身の実現。

彼ら自身の所属する定住集団。大学。

そこにおける、以下のような存在。
それへの取り入り。
そのことを、専ら、行うこと。

それに伴う、以下の内容の実現。
彼ら自身の社会的な昇進。

スーパー上位者としての欧米諸国。
それらに対して、心理的に依拠すること。
そのことで、新たに、以下のような存在になること。
スーパー上位者。それらの末席のメンバー。
そのことで、以下の内容の実現が、可能になること。
社会的に権力を振るうこと。
社会的に優遇されること。

国内の上位者。
それは、上記の結果、彼ら自身よりも下位者になる。
そうした、下位者。
そうした存在に対して、マウントを取ること。
そうした存在に対して、専制支配を行うこと。
そうした存在に対して、教条的な説教を行うこと。
そのことによって、そうした存在を、サンドバッグ扱いすること。

そのことで、彼ら自身のプライドの保持を、行うこと。
そのことで、彼ら自身のストレスを、発散すること。

そうしたことが、出来ること。

彼ら自身が所属する、以下のような社会。
女性優位社会。
定住生活様式中心社会。

それらの内実。それらの社会的真実。
それらを、外部に向けて、語ること。

そのことは、以下の内容に当たる。
日本と、中国や韓国やロシアや東南アジア諸国との間の同質性。
日本と、欧米諸国との間の異質性。
それらを、明示的に主張すること。

そのことは、以下の内容に、真っ向から、歯向かう内容である。
日本の国家体制。それが主導する、社会の家父長制化の国策。

仮に、ある人物が、それらを行った場合。
その人物は、以下のような存在として、見なされる。

スーパー上位者の欧米諸国の意向に反抗する反逆者。
日本の国家体制の基本的な方針に反抗する反逆者。

そのことで、以下の（１）の存在から、以下の（２）の扱いを受けること。
（１）
欧米諸国の社会。
日本の国内の社会。
（２）
不利な扱い。

それは、その人物の生涯にわたって続く。
そのことが、確定すること。

その人物は、社会的な保身の術を、全面的に喪失する。
その人物は、社会的に、大きな恥辱を受ける。

彼らは、それらの発生を避ける。
彼らは、そのため、決して、以下の行為を、行わない。
彼ら自身の社会の内実。
彼ら自身にとっての社会的真実。
それらを、外部に向けて、語ること。

その結果、彼らは、以下の行為を、専ら、行う。
日本社会の現状。
それを、欧米諸国の社会規範に沿って、解釈すること。
日本社会を、欧米諸国の社会の一員として、解釈すること。

彼ら自身の社会。
女性優位社会。
定住生活様式中心社会。
それら社会の内実。その社会的真実。
それらの内容は、機密情報に相当する。
それらの内容は、秘匿性の確保を前提とする。
それらの内容は、外部に漏らしては、決してならない。

仮に、ある人物が、以下の行為を行った場合。
それらの内容を、詳細に分析すること。
その結果を、社会の外部に公開すること。

それは、以下の内容に、当たる。
機密情報の漏洩。
内部告発。

その結果、その人物は、彼自身が所属していた定住集団から、以下のような扱いを受ける。
無視されること。
虐められること。
追い出されること。

その結果。
その人物は、以下のような状況に陥る。

社会的な地位を失うこと。
社会で生きていくことが出来なくなること。

大学の教員も、その典型例に当たる。

そうした事態の発生。
それは、以下の（１）において、以下の（２）に当たる。
（１）
彼ら自身の保身を確保すること。
その状態を、維持すること。
（２）
致命的なダメージ。

彼らは、それらの発生を、避ける。
そのため、彼らは、以下の行為を、徹底的に回避する。

彼ら自身の社会内部の真実。
それらを分析すること。
それらを解明すること。
そうした作業。

彼らは、代わりに、以下の行為を、専ら、行う。

欧米諸国の有名学者。
彼らの唱える有名な学説。
それらの輸入。それらの紹介。

それらは、内容面で、当たり障りが無い。
それらには、社会的な需要が、相当ある。

彼ら自身の上位者。
例。
師匠。先輩。
そうした人々は、今まで、以下の行為を、専ら行ってきた。
欧米諸国の社会理論。
それらの輸入。それらの紹介。

彼ら自身が、以下の状況を実現すること。
そうした上位者。その弟子。その後輩。

そうした存在として、上位者に対して、以下の状態を維持すること。
隷属すること。
忖度すること。
懐くこと。
気に入られること。
そうした状態の持続。

その実現には、以下の行為の実行が必要である。
上位者に対して、態度面で、以下の行為を、絶えず実行すること。
同調すること。
一体化すること。
その後継者として振る舞うこと。
それらの持続。

そこで、彼ら自身も、以下の行為を行う必要がある。
彼ら自身の師匠。
彼ら自身の先輩。
そうした人々に習って、以下の行為を行うこと。
欧米諸国の社会理論。その輸入。その紹介。
それらを、続けること。
そのことで、初めて、彼らは、以下の状況を、実現することができる。
彼ら自身の師匠。彼ら自身の先輩。
そうした人々の正統な後継者となること。
そのことで、社会的な出世や昇進を果たすこと。
そのことで、アカデミックポストの獲得に成功すること。
そのことで、大学の定住集団の正規メンバーとなること。

その結果。
彼らは、以下の状況を実現することが出来る。
社会的な信用や肩書。それらを得ること。
そのことで、以下の二つの内容を、同時に実現すること。
社会的な見栄。社会的な保身。

それらの行為は、以下の内容に、忠実に従ったものになっている。
女性的な社会規範。
定住生活様式の社会規範。
その両方。

＝＝＝＝＝
彼らは、以下の内容を、全面的に、封印する。
日本社会。
その内部における、女性の支配力の強さ。
その内部における、母親の支配力の強さ。
それらについての、主張。

彼らは、以下の行為を、専ら、行う。
日本社会。
それを、以下の内容として、扱うこと。
男性支配の社会。
家父長制の社会。

＝＝＝＝＝

（初出2021年3月）

女性たち。女性優位社会の人たち。定住生活様式者たち。彼らは、社会学者として、根本的に無能である。

女性たち。
女性優位社会の人たち。
定住生活様式者たち。

彼ら自身の社会の内実についての分析。
彼ら自身は、そのことを、進んで実行しようとは、決して、しないこと。
彼ら自身は、その実行に対して、徹底的に、後ろ向きであること。
彼ら自身は、その実行を、回避しようとして、一生懸命になること。
彼ら自身は、その実行への呼びかけに対して、沈黙し、不動の状態

で静止し続けること。
そのことに対する口止めや制止。
彼ら自身の社会の内部で、それが、当たり前のように、相互監視の下で、行われていること。

その分析結果をもたらす存在。
それは、彼ら自身の社会の外部に存在する、部外者であること。
しかし、そうした部外者は、分析対象の社会の内情について、部内者よりも、どうしても、疎くなってしまうこと。

その結果。
部外者による分析結果。
それは、部分的で、一面的で、的外れであること。

部外者による分析の試み。
それは、以下の内容に対しては、到達が困難であること。
部内者が隠蔽する、社会的真実。

////
部内者としての、生活体験。
それを通して得る、リアルな社会規範の内実。
それは、機密情報と化している。
それは、部内者限定である。
//

それらの実現が、以下の内容にとって、必須であること。
//
部外者が、部内者が内包する社会的真実へと、到達すること。
その実現。
////

外部の社会的上位者が、それを実行した場合。
彼ら自身は、その結果内容を崇拝し、その後追いを、必死になって行うこと。
例。
日本社会の人々が、以下の内容に対して、熱狂して、模倣行動を行うこと。
アメリカの学者が執筆した、日本社会についての分析内容。
「菊と刀。」

彼ら自身の社会についての分析。
その分析の内容が、機密情報扱いになること。

仮に、誰かが、その分析を行おうとしたとする。
すると、彼は、直ちに、周囲の他者から、制止や口止めを受けること。
その結果。
彼は、以下の状態に、全く進めなくなること。
その先の、社会の内容の全容解明のフェーズ。

彼ら自身の社会についての分析。
その分析の内容が、いつまでも、外部に公開されないこと。

その機密の分析内容。
その公開者。
その公開者に対して、証拠の情報を、提供した者。
彼らは、社会的に、制裁を受けること。
彼らは、社会的に処罰されること。
彼らは、社会的に、秘密裏のうちに、抹消されること。
彼らの存在は、最初から、無かったことにされること。

彼らが公開した内部情報。
その内容は、社会的に、秘密裏のうちに、抹消されること。

彼らの公開した内部情報。
その存在は、最初から、無かったことにされること。

彼ら自身の社会についての内部情報。
その内容は、以下の内容で、溢れかえっていること。
////
彼ら自身のプライバシーに関する機密情報。
その内容は、とても詳細で、具体的である。
その流通は、とても高速で、広範囲である。
////

そうした情報の内容が、外部に漏れた場合。

彼らは、彼ら自身のプライバシーを、全面的に、失うこと。
それは、彼ら自身にとって、とても大きな社会的不利益や、社会的損失になること。

そうした情報漏洩。
それは、彼ら自身にとって、如何なる形を取ってでも、必ず阻止されなければならないこと。

そのための対策。
それは、以下の内容である。

彼ら自身の社会についての内部情報。
それは、彼ら自身の間で、外部から到達不可能な形で、占有され続けること。
それは、彼ら自身の間では、決して、分析されないこと。
そうした分析行為は、彼ら自身の社会において、社会的禁忌であること。
その状態が、彼ら自身の社会において、永久に続くこと。

彼ら自身の属する社会が持つ、社会規範。
彼らは、社会学者としては、上記の存在のせいで、根本的に、永久に無能であること。

彼らは、以下の内容の実現において、永久に、成功しないこと。
彼ら自身の社会についての、根本的な分析と解明。

彼ら自身にとって、そのことが、社会的に運命付けられていること。

彼ら自身の社会が持つ、閉鎖性や排他性。
それは、以下の内容を、生成する。

////
彼ら自身の社会における、社会的真実。
彼ら自身が、その地点に到達すること。
//
そのことは、彼ら自身にとって、永久に、不可能であること。
彼ら自身において、その地点に達する能力が、根本的に欠如してい

ること。
////

////
彼ら自身の社会についての自己分析。
それを真っ当に行う能力。
それに成功する能力。
そうした機会を取得する可能性。
そうした能力や可能性。
//
それらが、彼ら自身において、最初から、社会的に禁止され、奪われていること。
それは、以下の存在のせいである。
彼ら自身が作り出す、自家製の社会規範。
////

彼ら自身の社会の内部における、調和への強い指向性。
そうした社会の調和を乱す内容の社会分析。

例。
彼ら自身の社会に対する、批判や異論の主張。

例。
彼ら自身の社会における上位者。
彼に対する、批判や異論の主張。

彼ら自身が、社会的調和の破壊に対して、心情的に、ソフト過ぎること。

その結果。
社会の調和を乱す内容の、社会分析。
彼らは、それらに対して、心情的に、直ぐに、容易に、大きく傷ついてしまうこと。

その結果。
彼らは、感情的に逆上すること。

彼らは、以下の人物を、徹底的に、厳しく処罰し、社会的に抹消すること。
調和を乱す社会分析を行った者。

彼らは、以下の内容を、徹底的に、もみ消し、抹消すること。
そうした分析結果。
その存在。

その結果。
彼らの社会の内部における調和状態。
それに賛成する内容の社会分析のみが、社会的に生き残ること。

調和への賛同や礼賛。
それは、社会的上位者への隷従である。
それは、前例やしきたりへの隷従である。
それは、古参者への隷従である。

社会が調和しているかどうかを、一方的に決定する存在。
それは、社会的上位者である。

社会の調和。
その内容は、社会的上位者にとって、心の癒しに、相当する。

彼ら自身の社会における、社会的上位者。
彼の心は、ソフトで、デリケートである。
彼の心は、容易に傷つきやすい。

彼の心が傷ついた場合。
社会的上位者は、以下の存在に対して、感情的に逆上し、攻撃する。
彼自身の心を傷つけた存在。

彼の心における、傷つき。
その発生は、瞬間的である。
その発生は、容易である。

その結果。
彼は、彼自身の心を傷つけた存在を、社会的に、直ちに抹消する。

彼自身にとっての調和。

それを乱した存在。
彼自身の心を傷つけた存在。
それは、彼自身に対する批判者である。
それは、彼自身に対して、異論や反論を唱えた者である。

前例。
しきたり。
人々が、その内容に従って動くと、社会の調和が保たれる。
人々が、その内容に背いて動くと、社会の調和が乱れる。
その内容は、歴代の社会的上位者たちが主唱してきた。

（初出2021年5月）

女性たち。女性優位社会の人たち。定住生活様式者たち。彼らは、テレワークにおいて、根本的に無能である。

女性たち。
女性優位社会の人たち。
定住生活様式者たち。

彼らは、以下の社会的特性を、本質的に、所持し続けている。
////
社会関係における、物理的な遠隔性。
社会関係における、物理的な離散性。
//
それらに対する、根本的な脆弱性。
それらに対する、根本的な相性の悪さ。
それらに対する、根本的な無能性。
//
それらを、強力に、所持し続けていること。
////

////
在宅勤務。
在宅での学校生活。

テレワーク。
//
それらを、苦手とすること。
それらを、回避すること。
それらについて、文句や悪口を言うこと。

例外。
電話は、物理的な近接感が得られるので、問題無い。
////

////
相互に、物理的に、近接し、密着すること。
相互に、物理的に、一緒に生活し、行動すること。
//
そうした状態を、絶えず持続させること。
//
それによって、彼ら自身の自己保身を、相互に、より有利に進めること。
それらの実現に対して、根本的に、とても熱心であること。

例。
毎日、混み合う満員電車で、通勤や通学を行うこと。
毎日、物理的に同じ場所の、オフィスや学校に、通い続けること。
毎日、物理的に同じ場所を共有するメンバー同士で、調和行動を取り続けること。

//
それらの実現を阻む存在。
それに対して、根本的に、とても攻撃的であること。
//

////
物理的な遠隔性。
それを保ちながら、社会関係を、構築すること。
そうした行為。
//
それを、嫌うこと。
それを、攻撃すること。
//

//
ネットを終日活用する行動。
それを、病気と見なして、攻撃すること。
例。
呼称としての、ネット依存症。
//

//
オンライン主体の活動に終日参加する行動。
それを、病気と見なして、攻撃すること。
例。
オンラインゲームのユーザーに対する呼称としての、ゲーム依存症。
////

（初出2021年5月）

女性や、女性優位社会。自己保身性と自己中心性。その同時発生。

女性や、女性優位社会の人々は、女性優位な自己保身性を重視する。
彼らは、有力な存在によって、自分のことを守ってほしい。
女性優位社会の人々は、有力社会の社会規範や文化を取り入れる。
彼らは、有力社会の庇護下に入ろうとする。
彼らは、それで、自分自身の保身がなされやすくする。
この場合、有力社会は、男性優位社会のこともあれば、女性優位社会のこともある。

女性や、女性優位社会の人々は、女性優位な自己中心性を重視する、
彼らは、以下のように考える。「
「私が、周囲のみんなの中で、以下のようになりたい。」
（１）中心的な存在。
（２）目立つ存在。
（３）人気がある存在。

女性優位社会の人々は、自分たちの社会体制を、以下のものとして捉える。
（１）ファッション。流行。
（２）身に着ける対象。

女性優位社会の人々は、以下のことを気にする。
（１）彼らの社会体制の、見栄え。

（２）それが、以下の内容に合致している度合い。
（２－１）「それは、世界的に流行している。」
（２－２）「それは、世界的に最先端である。」

女性優位社会の人々にとっては、体制の中身はどうでもいい。
女性優位社会の人々は、社会体制を、その時々に合わせて、服装みたいに、どんどん着替えていく。
女性優位社会の人々にとっては、社会体制は、「社会的な着替え」の対象になる。
これは、女性優位社会の人々による、「自己中心性」の現れである。
人々は、世界社会から、注目されたい。

女性優位社会の人々は、先進国社会から注目されたい。
彼らは、先進社会群の仲間になりたい。

女性優位社会の人々は、その本性が後進的である。
しかし、彼らは、先進的に、見られたい。
彼らは、外見的には、先進的でいたい。

彼らは、矛盾した性格的特徴を持っている。
例えば、日本。その社会は、以下のことにこだわる。
「先進国であること。」。
女性優位社会の人々は、その本性が、前近代的なのに、近代的に見られたい。

女性優位社会の人々は、自分たちの社会のことを、自己中心性に基づいて、以下のように考える。
（１）私たちは、最先端に見られたい。
（２）私たちは、斬新な、目新しい、ニュースになる存在でありたい。

（３）自分たちは、世界社会において、自分への評価が、高い偏差値を持ったものになりたい。

女性優位社会の人々の考えは、全ては、以下の通りである。
「私は、以下のことを、実現したい。
「みんなが、私に対して、着目すること。」。
私は、それを、個人的な見栄を実現するために、望む。」

彼らは、考えが、表面的であさましい。
女性優位社会の人々は、何を考えるにおいても、しょせんは見栄が第一である。
彼らは、物事の本質には切り込みにくい。
彼らは、物事の深堀が苦手である。
彼らは、物事の本質に切り込む発見、発明ができにくい。
この点で、女性優位社会の人々は、こうしたことが得意な男性優位社会と比べて、限界を持っている。

女性優位社会の人々は、先進的になれる。
しかし、彼らは、その力を、自己保身のために封印、抑止している。
彼らは、その力を、実質的に持ってない。

そこで、女性優位社会の人々は、男性優位社会のことを真似て、追いつこうとする。
彼らは、それを、さらに小改良して、それで最先端に躍り出る。
彼らは、それで、良い恰好をしたい。
彼らは、それで、世界的に注目され、世界の中心的存在になりたい。
これは、女性が持つ、自己保身性と、自己中心性の両方の現れである。

女性や女性優位社会の人々には、以下の内容が、合体して、同時に現れる。
（１）自己中心性。
（２）自己保身性。
それらは、女性優位な本性である。

そのことが、頻発する。

女性優位社会は、有力で先進的な男性優位社会を、以下のように扱

う。
（例えば、女性優位社会の日本は、男性優位社会の欧米諸国のことを、以下のように扱う。）

彼らは、それによって、その自己中心性と、自己保身性を、同時に示す。

（１）「自己保身性」。
彼らは、男性優位社会を、以下のように見なす。
「世界における、列強。」
彼らは、それを、以下の存在と見なす。
「私たちのお手本。上位で、有力な社会。」
彼らは、有力な社会から、自分のことを、守ってもらおうとする。
彼らは、その後を付いて行き、隷従する。
彼らは、その行動を、盲目的に丸呑みして学習する。

（２）「自己中心性」。
彼らは、男性優位社会を、先進的社会と見なす。
彼らは、以下のように考える。
「そうした先進的社会が、私たちに、様々な新知見を供給してくれる。」

それは、以下のような内容である。
（１）新知見は、先進性や、最先端性に満ちあふれている。
（２）彼らは、その新知見を使って、周囲社会に対して、相対的に優位に立てる。
（３）彼らは、その新知見を使って、自分たちの社会の外観を、より見栄えのするものにできる。
そうした新知見は、社会規範や、科学技術についてのものである。
彼らは、そうした新知見を、継続的に導入し続ける。

（初出2020年5月）

女性優位社会と、勉強。

女性優位社会の人々が持つ、勉強に対する姿勢。
それは、要約すると、以下の通りである。
（１）人々は、権威ある定説、決まった正解を、習得する。
（２）人々は、それを、疑問を一切持たずに、丸呑み暗記する形で、習得する。
（３）人々は、それを、確実に、かつ完全に習得する、

女性優位社会の人々の勉強は、以下のような内容と目的でなされる。
（１）「勉強の内容」。
人々は、以下の内容を、勉強する。
（１－１）有力者や上位者のお墨付きがある内容。
（１－２）安心して習得できる内容。

（２）「勉強の目的」。
人々は、周囲に、以下のことを、見せびらかしたい。
（２－１）彼らが達成した、難関試験への合格。
（２－２）彼らが達成した、優秀な学習成績。

人々は、周囲から、自分の有能さを注目され、褒められ、評価されたい。
人々は、最終的には、自分の社会的地位や収入を、大きく上げたい。

女性優位社会の人々は、以下のような姿勢で勉強に当たる。
（１）人々は、以下のことを、目指そうとする。
「難関試験への合格。それは、社会的に有名で、権威がある。」

（２－１）人々は、学習内容範囲を、事前に明確に決定する。
それは、以下にに当たる。
「権威ある、確実に習得すべき前例。」
（２－２）人々は、その限定された範囲の内容を、隅々まで、完璧に、暗記学習しようとする。

（３－１）人々は、、以下のマウント心理で、動く。
「私は、試験で、周囲の人々より、いい点数や偏差値を、取得したい。」
（３－２）人々は、完璧主義である。
「私は、試験で、百点満点を取りたい。」。

（４－１）人々は、以下のことを行う。
「以下の学習内容を、丸呑みすること。」。
「それは、そのまま従っていれば、大丈夫そうである。」。
（４－２）人々は、以下のことを行う。
「何も考えない、機械的な暗記。」。
（４－３）仮に、人々が、難解な学習事項に出会った、とする。
人々は、その内容を、詳細に解析する。
人々は、そうして、その理解、吸収と習得を行う。

（５）人々は、試験勉強で、以下の存在に、学習の進行をお任せする。
（５－１）特定の学習ターゲット。その範囲は、予め、分かっている。
（５－２）有名な教則本。その内容は、上記の範囲について、定評のある解説がなされている。
人々は、それに心理的に完全に頼る。人々は、それを丸呑みする。

（６）人々は、大学受験などで、以下の存在に、学習の進行をお任せする。
「著名な講師による、授業。」。
「その講師は、著名な予備校に所属する。」。
人々は、それに心理的に完全に頼る。人々は、それを丸呑みする。

（７）人々は、自分の学習する教科書を、以下のように、考える。
「確実な定説が書かれた、定本。」
人々は、その内容について、疑問を一切持たずに、習得に励む。

（８）人々は、問題集による学習や、実際の試験などで、以下のことを、固く信じる。
「問題には、必ず正しい答えが存在すること。」
人々は、その正解を何とか当てようと必死になって問題を解く。

（初出2020年5月）

女性優位社会。女性同士。上下関係。対等な関係。

（Ａ）
女性。
その自己保身の本性に基づく、上下関係の生成。

女性は、自己保身の実現を、最優先する。
女性は、そのため、以下の行動を、取る。

（１）
彼女自身にとっての上位者。
その人物は、彼女自身の生殺与奪の権限を握る。

仮に、その人物が、その女性に対して、機嫌を損ねた場合。
その人物は、その女性に対して、以下の行動を取る。
////
その女性を、社会的に、より生きにくくすること。

その女性を、社会的に不利な立場へと、追放すること。
その女性を、社会的な周辺部へと、追放すること。
その女性の社会的な評価を、大きく低下させること。
その女性の社会的な地位を、大きく低下させること。
その女性の経済的な豊かさを、大きく低下させること。

その女性に対して、処罰を与えること。
その女性に対して、恥辱を与えること。
////

彼女自身にとっての上位者。
その人物による、そうした行動。
それが、彼女自身に対して、もたらす結果。
その内容。
////
それは、彼女自身の自己保身を、脅かす。
それは、彼女自身の生物を、脅かす。
それは、彼女自身の社会的な立場を、脅かす。

それは、彼女自身を、社会的に破滅させる。
それは、彼女自身の保身にとって、不利になる。
////

それは、彼女自身の自己保身にとって、致命的なダメージになる。

（２）
彼女自身の生物。
彼女自身の安全。
彼女自身が、それらを脅かされること。
そうした事態の発生。
その可能性の発生。
女性は、それを、徹底的に回避しようとする。

女性は、そのことで、以下の内容を、得ようとする。
////
彼女自身の自己保身が、問題無く、確保されること。
そのような状況が、今まで通り、継続すること。
//
彼女自身の保身にとって、より有利な、社会的立場。
それを、新たに確保すること。
////
女性は、それらの実現に向けて、必死になる。

その結果。
彼女は、上位者に対して、隷従する。
////
彼女は、上位者の機嫌を取る。
彼女は、上位者に対して、取り入る。
彼女は、上位者に対して、媚びる。
彼女は、上位者に対して、忖度する。
彼女は、上位者に対して、懐く。
彼女は、上位者に対して、忠誠を誓う。
彼女は、上位者のことを、信仰する。
彼女は、上位者のことを、崇拝する。

彼女は、以下の内容の行動を、直ちに、中止する。
彼女は、以下の内容の行動の実行を、全面的に、回避する。
//

上位者の機嫌を損ねる行動。

例。
上位者に対する批判。
上位者に対する風刺。

例。
上位者にとって不都合な、社会的な真実。
その内容の暴露。
//

仮に、彼女が、上記の内容の実現に失敗した場合。

彼女自身と、上位者との間の対人関係。
それは、新たに、大幅に悪化する。
それは、彼女自身の自己保身の水準を、大幅に低下させる。

彼女は、そのことを、本質的に、とても恐れる。

彼女自身と、上位者との間の対人関係。
仮に、それが、新たに、悪化した場合。
彼女は、それを、必死になって、修復しようとする。

上位者が持っていた、彼女に対する、機嫌の良さ。
仮に、それが、上位者から、失われた場合。
彼女は、それを、必死になって、回復させようとする。

彼女による、それらの行動。
その最終目的。
それは、以下の内容である。
//
彼女は、再び、以下のような存在になる。
上位者にとっての、個人的な、お気に入り。

彼女は、そのことで、彼女自身の自己保身を、再び、より確実にする。
//

////

（３）
彼女自身が取る、上位者に対する隷従の行動。
それが、彼女自身に対して生み出す、心理的ストレス。
それは、とても強烈である。
それは、とても不快である。
彼女は、そのために、以下の行動を取る。

その心理的ストレスを、以下の人物に対して、ぶつけること。
彼女自身にとっての、下位者。

彼女は、そのことで、上記の心理的ストレスを、解消する。

女性は、以下のように、考える。
////
私も、私自身の保身の確保を、より確実にしたい。
私自身も、上位者になりたい。
私も、周囲の他者の生殺与奪の権限を、握りたい。
私も、周囲の他者を、私自身に対して、隷従させたい。
私も、周囲の他者を、下位者として、扱いたい。
私も、周囲の他者に対して、マウントを取りたい。
私も、周囲の他者に対して、優越感を得たい。
////

上位者が、彼女自身に対して取る、行動様式。
その内容。
女性は、彼女自身も、それを、真似ようと考える。
仮に、彼女自身が、上位者になった場合。
女性は、以下の行動を取る。
////
女性は、下位者の生殺与奪の権限を握る。
女性は、下位者を、彼女自身に対して、隷従させる。
女性は、下位者に対して、以下の内容の実行を、社会的に禁止する。
//
下位者による、彼女自身に対する批判。
//
////

（Ｂ）
女性。
その自己中心性の本性に基づく、上下関係の生成。

人間社会では、男性優位社会も、女性優位社会も、自分たちは最高だとうぬぼれる。
彼らは、自分のことを最高視する。
その際、男性優位社会と、女性優位社会とで、様相が異なる。
男性優位社会の人々は、以下のように考える。
（１－１）僕たちは何でもチャレンジ、実現できる。
（１－２）僕たちは、最高に有能で、出来ないことは何も無い。
（１－３）僕たちは、世界で一番強い存在だ。
（１－４）周囲は、僕たちの言うことを、採用すべきだ。

（２－１）僕たちは、反論の自由は許す。
（２－２）しかし、僕たちは、その反論を、容赦なく、攻撃打破する。

彼らは、全能感に酔いしれる。
彼らは、次のように考える。
（１）人類は、あらゆる生物の中で、一番進化した最上位の存在だ。
（２）人類は、自然環境を、思い通りに、コントロールする。

一方、女性優位社会の人々は、以下のように考える。
（１）世界は、自分たちを中心に回る。

（２）私たちは、世界において、以下の存在だ。
（２－１）一番大切な存在。
（２－２）一番光り輝く存在。、
（２－３）一番高貴な存在。
（２－４）一番素敵な存在。

（３）世界は、私たちのもとに、ひざまずき、ひれ伏し、奉仕すべきだ。
（４）世界は、私たちの下僕であるべきだ。
（５）私たちは、反抗を、一切許さない。
彼らは、以下の感覚に酔いしれる。
「自己中心的な、「究極の自己愛」の感覚。」

この違いは、以下のことを行うために重要である。
「世界の社会、文化の違いを認識、分類すること。」
それは、以下の問題を解決する。
「男性優位社会における上位者。女性優位社会における上位者。
各々は、どのように、うぬぼれやすいか？」

このことから、以下の内容を見出せる。
「女性優位社会における、女性同士の上下関係の特徴。」。
（１）女性は、自分を中心に世界が回ると考える。
（２）女性は、自分のことが一番大切で、高貴と考える。
（３）女性は、自己愛に満ちている。
（４）女性は、尊大に、偉そうに振る舞う。

女性は、次のことを、当然のように求める。
「周囲の人々が、私に対して、以下の行動を取ること。彼らが、そのように、努力すること。」
（１）人々が、私に対して、一方的にひざまずき、ひれ伏すこと。
（２）人々が、私に対して、下僕として、奉仕し続けること。
（３）人々が、私の命令、説教を、一方通行で、強制的に、聞き続けること。
（４）人々が、私の言った通りに、素直に言うことを聞いて行動すること。
（５－１）人々が、私を慕い、私に懐くこと。
（５－２）人々が、以下のことを実現するように、努力すること。
「私に気に入られること。そうして、私に可愛がられること。」
（６）人々が、私に対して、忖度、気配り、ご機嫌取りを、限定なく、行うこと。

女性は、以下の内容を、以下の理由で、許さない。
「そうした周囲の人々による、私に対する反論、批判。」。
（１）それは、私が持つ、高貴でソフトな精神を、故意に傷つける。
（２－１）それは、彼らの低い身分をわきまえないものである。
（２－２）それは、私にとって、極めて無礼で、厚かましいものである。

女性は、それを、許容できない。
女性は、それを、全面的、一方的に、拒絶、却下する。

女性同士は、出会うと、互いに、直ぐにマウントを取り合う。

彼女たちが、マウントを取る条件は、以下の通りである。

（１）
今の社会的身分の高さ。
今の経済的資産。
その優劣、

（２）
容姿や化粧、服装の美しさ。
年齢の若さ。
振る舞いや言葉遣いの上品さや洗練の度合い。
見た目の優劣、

（３）
生きていくために有効な知識。
生活上の前例、しきたり。それらを蓄積している度合い。
それらを即時に取り出し可能な有能さ。
その優劣、

（４）
学歴。頭の良さ。
前例、しきたりを暗記、学習、理解する能力。
その優劣、

（５）
友人、恋人や結婚相手、子供の有無。
彼らがどれだけ優れているか？その優劣。

女性たちは、これらについて、互いの間で、短時間のうちに、質問攻めをする。
女性たちは、それで、どちらがマウントを取れるかを、判定する。
もしも、差が無ければ、彼女たちは、以下の関係になる。
（１）仲の良い友人。
（２）同等の仲間。
（３）ライバル。

しかし、差が大きくて、超えられない場合は、女性たちは、以下の関係になる。
「上位者と下位者。」

女性の上下関係においては、以下の内容が、直接的に出る。
（１）高貴さへの指向。
（２）尊大さ。
女性は、それらを、本来的に、持つ。

それは、上位者にとっては、特権階級扱いで、快適である。
それは、下位者にとっては、悲惨で、苛酷なものとなる。

上位者は、以下のように行動する。
（１）彼女は、下位者に向かって、尊大に、上から目線で、そっくり返って、とても威張る。
（２）彼女は、下位者に対して、強制的に、説教、叱り飛ばしを行う。
（３）彼女は、下位者に対して、以下を求める。
（３－１）「私に対して、一方的に、忖度し、奉仕し、隷従すること。」。

女性の下位者は、以下のように行動する。
（１）彼女は、自分の保身のため、それに従う。
（２）彼女は、ペコペコ卑屈に頭を下げて、上位者の言うことを聞く。
（３）彼女は、上位者のことを尊敬できる場合は、以下のように振る舞う。
（３－１）上位者を慕うこと。
（３－２）上位者に懐いて行くこと。
（３－３）上位者によって、気に入られること。
彼女は、そうして、心を開いた上位者から、可愛がられる。

同一の女性が、ある時は、上位者になって、尊大に振る舞う。
彼女は、別の時は、下位者になって、別の上位者に向かって、大きく頭を下げる。

女性の間での、マウントの発生は、女性たちが取る、以下の行動が元になる。
（１）彼女は、自分自身が一番大切である。
（２）彼女は、自分自身の保身を最優先する。
（３）彼女は、リスクを回避する。
（４）彼女は、以下のことを、自分からは一切行わない。
（４－１）新たなチャレンジ。
（４－２）今までにない新知見を発見すること。

（５）彼女は、前例、しきたり、経験に頼る。
（６）彼女は、以下の内容を、丸暗記する。
（６－１）「正解としての前例。」
それは、先達者が、教える。先生。先輩。

以下の度合いが、女性の能力評価の中心となる。
「以下の内容を、有効に蓄積している度合い。」
（１）前例、しきたり。
（２）経験。
それらが、女性同士のマウントにおいて、中心、核となる。
古参者の方が、それらを、豊富に持っている。
新参者は、それらを、持っていない。

女性の間では、以下のことが起きる。
（１）古参者の方が、新参者に比べて、上位者になりやすい。
（２）新参者は、より、下位者になりやすい。

これは、例えば、以下のようなものである。
（１）家庭における、姑による、嫁への支配。
（２）先輩後輩制における、先輩による、後輩への支配。
これらは、女性優位社会の日本で、当たり前にみられる。

ここでは、以下の条件において、次のことが、大きく影響する。
（１）人々がマウントを取る条件。
（２）上位者と下位者の関係が決まる条件。

「以下の内容についての、蓄積の多さと、少なさ。」
（１）前例、しきたり。
（２）経験。

家庭では、新参者としての嫁に比べて、古参者としての姑が、圧倒的に有利である。
姑は、以下の内容を、たくさん蓄積している。
「家庭の中における、代々の前例、しきたり。」。
姑は、上位者となる。
嫁は、下位者となる。
姑は、嫁を、下僕扱いする。
姑は、嫁に対して、説教する。姑は、嫁を、叱り飛ばす。
下位者としての嫁は、それに対して忍従する。

これは、先輩後輩関係も同様である。
以下の（１）は、以下の（２）により、異なる。
（１）生きていくために必要な、前例、しきたりを、蓄積している度合い。
（２）人々が持つ、所属集団内部での生存年数の差。

それは、古参者としての先輩では、多い。
それは、新参者としての後輩では、少ない。
そこで、以下の関係が生まれる。
先輩は、上位者になる。後輩は、下位者になる。
先輩は、後輩を叱りつけ、隷従させ、懐かせる。

女性優位社会には、先輩後輩制と並行して、以下のものがある。
それは、「同期の制度」である。
人々の間では、以下のことが発生する場合がある。
（１）人々は、同じ集団に、同じタイミングで、同期して、加入する。
（２）その結果、人々の間で、以下の条件が満たされる。
（２－１）人々の間で、所属集団での生存年数が、同じである。
（２－２）人々の間で、蓄積している、前例や、しきたりの量が、変わらない。

こうした場合、彼らは、上下関係無く、平等な仲間として共に過ごす。

女性同士の関係は、必ずしも隷従を伴う上下関係ばかりではない。
彼女たちには、以下の人間関係も、結構、存在する。
（１）「同期している人々」の間での、対等な仲間関係。
（２）対等な友人関係。

女性優位な人々は、以下の行動をとる。
（１）人々は、上位者に対して、忖度し、隷従する。
（２）人々は、下位者に対して、隷従を要求する。
彼らは、人間関係面で二面性を持っている。

女性優位な中華思想は、以下の通りである。それは、中国において、顕著である。
（１）人々は、自分たちのことを、最上位者の女性優位存在と捉える。

（２）人々は、自分たちが、世界の中心である、と考える。
（３）人々は、自分たちが一番高貴で、大切であると考える。
（４）人々は、自分たちが、根本的に上位者であると考える。
（５）人々は、以下のように考える。
（５－１）「周辺国は、私たちより、格下である。」
（５－２－１）「周辺国は、私たちに対して、一方的に貢物を寄こすべきだ。」
（５－２－２）「周辺国は、下僕として、私たちに対して、奉仕すべきだ。」
（５－３）「下僕による、私たちへの反抗は、とても失礼である。私たちは、それを、一切許さない。」

女性優位社会での上下関係は、権威主義的で、苛酷を極める。
その原因は、以下の内容によるものが大きい。
「女性が本来持つ、基本的な性格。」。
それは、不愉快な社会現象である。
しかし、その改善は、難しい。

（初出2020年5月）

女性優位社会における、上下関係。その社会的な真実。

女性優位社会一般。(FS-GE)。
そこにおいて、女性が取る、社会的行動。
そこにおいて、女性が所有する、社会的規範。
その内容。

特定の女性優位社会。
ある、特定の条件下に置かれている、女性優位社会。
その、女性優位社会。(FS-A)。
その社会が、以下の条件の下に置かれている場合。

その社会が、以下の存在による支配下にある場合。
他の、特定の男性優位社会。
その男性優位社会。(MS-B)。

その、男性優位社会(MS-B)。
その社会は、以下の考えを、所有している。
その社会は、女性優位社会(FS-A)にとって、社会的上位者である。
その社会は、女性優位社会(FS-A)のことを、社会的下位者と見なしている。

その、女性優位社会(FS-A)。
その社会は、男性優位社会(MS-B)のことを、社会的上位者と、見なしている。
その社会は、彼ら自身の社会のことを、以下のように、見なしている。
私たちの社会は、男性優位社会(MS-B)にとって、社会的下位者である。

例。
日本社会。

女性優位社会(FS-A)。
男性優位社会(MS-B)。

女性優位社会(FS-A)は、男性優位社会(MS-B)によって、支配されている。

その、女性優位社会(FS-A)。
その社会は、以下のような社会規範に従って、行動する。
それは、メタなレベルでは、以下の内容である。
女性優位社会一般(FS-GE)。
その社会に共通する、基本的な、社会規範。
その厳守。

女性優位社会一般(FS-GE)。

その、社会規範。
それは、以下の内容である。
上位者への隷従。
上位者への無条件の従順。
彼ら自身にとって上位者に該当する、他の社会。
その社会規範。
それへの隷従。
それへの無条件の従順。
仮に、男性優位社会が、上位者である場合。
その男性優位社会の社会規範。
その内容に対する、隷従。
その内容に対する、無条件の従順。

女性優位社会一般(FS-GE)。
その、社会規範。
それは、以下の内容である。
上位者への隷従。
下位者への専制支配。
下位者に対して、以下の行為の実行を、全面的に、禁止すること。

下位者が、上位者に対して、以下の行動を取ること。
自由な行動。
抜け駆けをすること。
上位者を批判すること。

そのことがもたらす、以下の内容。
上記の、特定の男性優位社会(MS-B)。
男性優位社会一般(MS-GE)。
その社会規範への根本的な離反。

男性優位社会一般(MS-GE)。
その、社会規範。
それは、以下の内容である。
上位者からの、自主独立の確保。

下位者に対して、以下の行為の実行を、一定レベルで許可すること。

自由な行動。
抜け駆けをすること。
上位者を批判すること。

女性優位社会一般(FS-GE)。
その、社会規範。
女性優位社会(FS-A)による、上記の内容の厳守。
それは、以下の内容である。

男性優位社会(MS-B)に対する、根本的な謀反。
男性優位社会(MS-B)に対する、根本的な反逆。

それは、すなわち、以下の内容である。
上位者への根本的な謀反。
上位者への根本的な反逆。

それは、以下の内容である。
女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の内部において、以下の内容が、存在すること。
内的な、ダブルスタンダード。
内的な、自己矛盾。

そのような、自己矛盾。
それを、彼ら自身が、意識すること。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の内部において、以下の内容が、存在すること。
内的な、ダブルスタンダード。
内的な、自己矛盾。
その、意識のレベルにおける、気付き。
彼ら自身の内部における、その状況の発生。
彼ら自身による、その抑制や、抑圧。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の内部において、以下の内容が、存在すること。
内的な、ダブルスタンダード。
内的な、自己矛盾。

上記の存在を、無意識のレベルへと、留め置くこと。
上記の存在を、無意識のレベルへと、低く抑圧すること。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身が、以下のような態度を、取ること。
彼ら自身の内部において、以下の内容が、存在すること。
内的な、ダブルスタンダード。
内的な、自己矛盾。
その存在に対して、気付かない振りをすること。
その存在に対する、他者からの指摘。
それを、笑って誤魔化すこと。
それを、表向き、否定すること。
それを、無視すること。
それを、抹消すること。

それらの行為の永続性。

そのことで、以下の状態を、何とか、保持すること。
彼ら自身における、精神的な正常性。
そのことで、以下の状態を、何とか、回避すること。

彼ら自身の内部における、以下の症状の発生。
精神異常。
精神障害。

それらの深刻化。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の内部において、以下の内容が、存在すること。
内的な、ダブルスタンダード。
内的な、自己矛盾。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の社会の内部。
そこでは、彼ら自身が、以下の行動を、取っている。
上位者に対する不平不満。
それを、秘密裏に、沢山、互いに漏らすこと。
彼ら自身が、そのことで、互いに共感し合うこと。
彼ら自身が、そのことで、互いの結束を強化すること。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の社会の内部。
そこでは、彼ら自身が、以下の行動を、取っている。
男性優位社会(MS-B)の支配。
それに対する不平不満や悪口。
それを、秘密裏に、沢山、互いに漏らすこと。
彼ら自身が、そのことで、互いに共感し合うこと。
彼ら自身が、そのことで、互いの結束を強化すること。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の社会の内部。
そこでは、以下の内容を、決して守らないこと。
社会的な上位者としての、特定の男性優位社会(MS-B)。
男性優位社会一般(MS-GE)。
その社会規範。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の社会の内部。
そこでは、それらの行為が、常態化し、日常化すること。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の社会の内部。
そこでは、以下の行為を、互いに、徹底すること。
女性優位社会一般(FS-GE)。
その社会規範。
それを、守ること。

女性優位社会一般(FS-GE)。
その社会規範。
それを、守らない者。
その人物を、反社会的存在として、攻撃すること。
その人物を、彼ら自身の社会から、抹消し、追放すること。

男性優位社会(MS-B)。
男性優位社会一般(MS-GE)。
その社会規範。
その内容に沿って、行動する者。

その人物を、反社会的存在として、攻撃し、弾圧すること。
その人物を、彼ら自身の社会から、抹消し、追放すること。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の社会。
それは、社会的真実の面において、以下の内容であること。
それは、実は、男性優位社会では無いこと。
それは、以前と同様に、女性優位社会のままであること。

その社会における、真の社会支配者。
その人物は、女性であること。
その人物は、以下の状況の下で、絶えず主導権を握る。
家計管理。
子供の養育や教育。

その社会における、男性。
彼らは、実際は、そうした女性にとって、以下のような存在に過ぎないこと。
使い捨ての対象。
使役の対象。
雑用係。
補助労働力。

そうした真の状況。
それを、今後において、少しでも変えること。
そのための、心積もり。
そのための、真の用意。
それらの内容が、彼ら自身の本心において、実は、全く存在しないこと。
そのことは、以下の内容の現れである。
彼ら自身の本心。

女性優位社会(FS-A)。
その社会における、以下の（１）の存在に対する、以下の（２）の内容の行為。
その日常的な実行。
（１）

男性優位社会(MS-B)。
それは、彼ら自身にとって、社会的な上位者である。
（２）
男性優位社会(MS-B)。
その存在。
その社会規範。
それらに対して、表面上だけは、服従すること。
それらに対して、そのように見せかけること。
それらに対して、内心では反対すること。

その社会的真実。
その、対外的な隠ぺい。
その、対外的な機密情報化。

その内容の、対外的な公開。
その行為の、全面的な禁止。
その行為を、社会的な禁忌とすること。
その行為を、以下の内容と、見なすこと。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の社会の社会規範。
その内容への重大な違反。
彼ら自身の社会の存続。
それに対する、根本的な脅威。
その行為を、社会的に、決して、許さないこと。

その社会的真実。
その内容の、対外的な公開。
その行為の、実行者。
その人物を、直ちに、以下のような存在として、見なすこと。
内部告発者。
彼ら自身の社会。
その社会規範。
その内容への根本的な違反者。
社会的な危険人物。

社会的な排除。
社会的な抹消。
それらの対象。

その人物に対して、以下の内容の行為を、実行すること。
社会的な制裁。
社会的な処罰。
社会的な弾圧。

それらを、秘密裏のうちに、実行すること。
それらを、外部からは見えない形で、実行すること。
それらを、その社会の内部で、相互に一致結束して、実行すること。
それらを、徹底的に、実行すること。
その結果、その人物を、社会的に、死亡させること。

その公開された情報。
それを、直ちに、全面的に抹消すること。
そのことで、以下の内容を、実現すること。
その公開された情報。
その存在を、最初から無かったことにすること。

以下の内容の主張。
それを、対外的に、盛んに、アピールすること。
以下の内容の公教育。
それを、彼ら自身の社会の内部で、以下のような態度で、推進すること。
それは、徹底的である。
それは、教条的である。
その内容に対する、疑問の余地。
それを、一切認めないこと。

彼ら自身の社会。
それは、以下の内容である。

高度な男性優位社会。
その内部では、女性は、社会的弱者である。
その内部では、女性は、社会的に差別されている。

それを、以下の存在に対して、行うこと。
男性優位社会(MS-B)。
それは、彼ら自身にとって、社会的な上位者である。
それによる、以下の内容の実現。

上位者に対する、表面的な、ご機嫌取り。

それは、以下の内容である。

男性優位社会(MS-B)。
女性優位社会(FS-A)にとっての、社会的な上位者。
それが、以下の内容に気付くこと。

女性優位社会(FS-A)。
男性優位社会(MS-B)にとっての、社会的な下位者。

女性優位社会(FS-A)が、男性優位社会(MS-B)に対して、少しも、従順で無いこと。

女性優位社会(FS-A)による、男性優位社会(MS-B)に対する、裏切り行為。
それは、以下の内容である。
下位者による、上位者に対する、裏切り行為。

女性優位社会(FS-A)。
社会的な下位者の社会。
その内部。
そこにおける、それらの行為の、常態化。
そこにおける、それらの行為の、日常化。

それらの内容が、それらの社会において、以下の内容に相当すること。
それらの社会における、社会的真実。

その内容は、以下の状況を、引き起こす。
以下の（１）の存在が、以下の（２）の存在に対して、以下の（３）の内容を、発生させること。

（１）
男性優位社会(MS-B)。
社会的な上位者。
社会的な優位者。
（２）
女性優位社会(FS-A)。

社会的な下位者。
社会的な劣位者。

（３）
不快な感情。
怒りの感情。

そのことは、以下の内容を、もたらす。

上記の（１）が、上記の（２）に対して、以下の（３）を、実行すること。
報復の攻撃。
処罰。
お仕置き。

そのことは、以下の内容を、もたらす。
上記の（２）が、上記の（１）に対して、敗北すること。
その結果。
上記の（２）は、社会的な敗者になった。
そのことは、以下の内容を、もたらす。
上記の（２）が、彼ら自身の存在を、破滅させること。

それらの結果内容。
それは、彼ら自身にとって、とても不都合である。

そのことは、以下の内容を、もたらす。
上記の（２）。
女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身が、以下の内容を、実行すること。
それらの発生。
それを、予め、徹底的に、回避すること。

そのことで、以下の内容を、実現すること。

彼ら自身の、自己保身。
その確保。
その確実性の水準の高さ。
その維持。

そのことで、彼ら自身が、生存上、有利になること。
それらの推進。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身における、以下の内容の存在。
内的な、自己矛盾。
その、対外的な隠ぺい。
それを、以下の存在に対して行うこと。

他の女性優位社会(FS-K)。
それは、女性優位社会(FS-A)自身にとって、以下のような内容に相当する。
社会的なライバル。

それによる、以下の内容の実現。
他の女性優位社会(FS-C)。
他の女性優位社会(FS-K)。
社会的なライバル。

そのような社会的なライバルから、以下の内容の行為を、受けること。

突っ込みを入れられること。
揚げ足取りをされること。
彼ら自身の弱みを、握られること。

そのことで、女性優位社会(FS-A)自身が、生存上、不利になること。
それらの抑制。

女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身における、以下の内容の存在。
内的な、自己矛盾。
その、対外的な隠ぺい。
それを、以下の存在に対して行うこと。

他の女性優位社会(FS-C)。

それは、女性優位社会(FS-A)自身にとって、以下のような内容に相当する。

女性優位社会(FS-A)にとっての、社会的な上位者。
男性優位社会(MS-B)。
その、男性優位社会(MS-B)にとっての、社会的な敵対者。

それによる、以下の内容の実現。

男性優位社会(MS-B)。
女性優位社会(FS-A)にとっての、社会的な上位者。
その社会に対する、以下の行為の、実行。
忠誠心のアピール。
取り入り。
媚び。
忖度。
それらの、更なる実現。

そのことにより、以下の内容を実現すること。
男性優位社会(MS-B)による、女性優位社会(FS-A)自身に対する、以下の行為の実行。
女性優位社会(FS-A)に対する態度。
それを、好転させること。
女性優位社会(FS-A)との関係。
その仲良し化。
その親密化。
それらの、更なる進展。
その実現。

そのことにより、以下の内容を実現すること。
男性優位社会(MS-B)による、女性優位社会(FS-A)自身に対する、以下の行為の実行。
女性優位社会(FS-A)に対する待遇。
それを、向上させること。
その、更なる進展。
その実現。

そのことにより、以下の内容を実現すること。
女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の自己保身。
その実現の水準。
その度合いを、更に高めること。
その実現。

例。
世界社会における、社会的な昇進。
彼ら自身による、その実現。

そのことにより、以下の内容を実現すること。
女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身の自己保身。
その実現の水準。
その度合いを、高止まりさせること。
その状態の更なる維持。
その実現。

そのことにより、以下の内容を実現すること。
女性優位社会(FS-A)。
彼ら自身が持つ、女性的な本質。
その永続的な保持。
その実現。

（初出2021年4月）

女性優位社会。定住生活様式。専制支配行為を順送りで行うこと。

女性優位社会。定住生活様式。それらの社会の人々。
彼らは、以下のように、行動する。

(1)
下位者は、上位者に対して、隷従する。
例。

後輩は、先輩に対して、隷従する。
弟子は、師匠に対して、隷従する。
部下は、上司に対して、隷従する。
嫁は、姑に対して、隷従する。

(2)
下位者は、上位者になると、下位者に対して、専制支配を行う。
例。
後輩は、先輩になると、後輩に対して、専制支配を行う。
弟子は、師匠になると、弟子に対して、専制支配を行う。
部下は、上司になると、部下に対して、専制支配を行う。
嫁は、姑になると、嫁に対して、専制支配を行う。

（2021年6月初出。）

女性優位社会。定住生活様式。上位者から、下位者への、理不尽な仕打ち。その仕打ちの内容の、世代間における、時系列的な継承。

女性優位社会。定住生活様式。それらの社会の人々。
彼らは、以下のように、行動する。

下位者は、上位者から、特定の内容の、理不尽な仕打ちを、一方的に受ける。
下位者は、その仕打ちを、耐え忍んで、受容し続ける。
やがて、下位者は、上位者になる。
すると、彼は、それと同一の内容の仕打ちを、彼自身にとっての下位者に対して、一方的に行う。
そこでは、以下の状況が、恒常的に発生する。
上位者から、下位者への、理不尽な仕打ち。その仕打ちの内容の、世代間における、時系列的な継承。
上記の状況は、永続する。

例。

後輩は、先輩から、特定の内容の、理不尽な仕打ちを、一方的に受ける。
後輩は、その仕打ちを、耐え忍んで、受容し続ける。
やがて、後輩は、先輩になる。
すると、彼は、それと同一の内容の仕打ちを、彼自身にとっての後輩に対して、一方的に行う。
そこでは、以下の状況が、恒常的に発生する。
先輩から、後輩への、理不尽な仕打ち。その仕打ちの内容の、世代間における、時系列的な継承。
上記の状況は、永続する。

弟子は、師匠から、特定の内容の、理不尽な仕打ちを、一方的に受ける。
弟子は、その仕打ちを、耐え忍んで、受容し続ける。
やがて、弟子は、師匠になる。
すると、彼は、それと同一の内容の仕打ちを、彼自身にとっての弟子に対して、一方的に行う。
そこでは、以下の状況が、恒常的に発生する。
師匠から、弟子への、理不尽な仕打ち。その仕打ちの内容の、世代間における、時系列的な継承。
上記の状況は、永続する。

部下は、上司から、特定の内容の、理不尽な仕打ちを、一方的に受ける。
部下は、その仕打ちを、耐え忍んで、受容し続ける。
やがて、部下は、上司になる。
すると、彼は、それと同一の内容の仕打ちを、彼自身にとっての部下に対して、一方的に行う。
そこでは、以下の状況が、恒常的に発生する。
上司から、部下への、理不尽な仕打ち。その仕打ちの内容の、世代間における、時系列的な継承。
上記の状況は、永続する。

嫁は、姑から、特定の内容の、理不尽な仕打ちを、一方的に受ける。
嫁は、その仕打ちを、耐え忍んで、受容し続ける。
やがて、嫁は、姑になる。

すると、彼は、それと同一の内容の仕打ちを、彼自身にとっての嫁に対して、一方的に行う。
そこでは、以下の状況が、恒常的に発生する。
姑から、嫁への、理不尽な仕打ち。その仕打ちの内容の、世代間における、時系列的な継承。
上記の状況は、永続する。

（2021年6月初出。）

女性優位社会における、人々の本名についての扱い。それは、社会的な機密情報である。

女性優位社会の女性。
彼女たちが、対外的に、彼女自身の本名を、公開しないこと。
その理由。
それは、以下の内容である。

彼女自身の本名。
それは、以下の内容である。
社会的な機密情報。
社会的な非公開。
その対象。
例。
中国。
朝鮮。
それらの社会における、巨大血縁定住集団。
それらの、家系図。
それにおける、以下の内容の実現。
女性たちの本名。
それらの、全面的な、不掲載。

女性優位社会の人々。
彼らが、対外的に、彼ら自身の本名を、公開しないこと。

その理由。
それは、以下の内容である。

彼ら自身の本名。
それは、以下の内容である。
社会的な機密情報。
社会的な非公開。
その対象。

例。
中国。
その社会の美術館。
そこに存在する、以下の内容の作品。
美術工芸作品。
ある職人が、それを、製作した。
その製作者の本名。
その、全面的な、不掲載。

（初出2021年4月）

中心者。周辺者。女性優位社会。

（Ａ）
中心者。周辺者。概念の整理。

（１）
中心者。周辺者。その分類。
（１－１）
中枢の人員は、中心者。現場の人員は、周辺者。
管理の人員は、中心者。作業の人員は、周辺者。
政府は、中心者。国民は、周辺者。
官公庁の人員は、中心者。民間の人員は、周辺者。
（１－２）
上流工程の人員は、中心者。下流工程の人員は、周辺者。
元請けの人員は、中心者。下請けの人員は、周辺者。
（１－３）
内勤の人員は、中心者。外働きの人員は、周辺者。

家庭の人員は、中心者。企業の人員は、周辺者。

（１－４）
人間系統の人員は、中心者。物質系統の人員は、周辺者。
文系の人員は中心者。理系の人員は周辺者。
文官は中心者。技官は周辺者。

例。技術者。開発者。彼らの仕事は、物質系か非人間系。彼らの存在は、周辺者に相当する。
例。
文系の人員は、以下を扱う。中枢の人間系統。彼らは、以下を行う。対人面での直接対話。
理系の人員は、以下を扱う。周辺的な物質系統。非人間系統。機械系統。論理系統。

（１－５）
卵子は、中心者。精子は、周辺者。
女性は、中心者。男性は、周辺者。

（２）
定住生活様式。
女性優位価値観の優越。
男性優位価値観への敵視。

女性優位価値観。
それは、以下の区別を、生成する。中心者。周辺者。
中心者は、上位者。周辺者は、下位者。
支配者は、中心者。従属者は、周辺者。

人々は、社会的な出世昇進を、実現したい。
人々は、上位者になりたい。
人々は、中心部に行きたがる。人々は、周辺部を避けたがる。

（２－１）
女性。自己保身性。
中心部は、保身において、有利である。
中心部は、好条件である。周辺部は、悪条件である。

中心者は、周辺者によって、守られる。
中心者は、周辺者を、守らない。

（２－２）
女性。自己中心性。
中心部は、見栄の実現において、有利である。

中心部。人々の分布は、高密度。
周辺部。人々の分布は、低密度。

中心部には、人々が、たくさんいる。
周辺部は、人々は、まばらである。

中心部は、人間の気配が多い。
周辺部は、周辺部は、人間の気配が乏しい。

中心部は、みんなの脚光を浴びる。
周辺部は、みんなの脚光を浴びない。

（Ｂ）
具体的な側面。

////
全体的な総括。

女性優位社会。
人々は、以下の態度を取る。
中心部の重視。周辺部の軽視。
人間の気配。それが多いエリア。それは、中心部である。その重視。
人間の気配。それが少ないエリア。それは、周辺部である。その軽視。

////
個別の説明。
（１）
中心者による、周辺者の軽視。

家庭が、社会の中心。
家庭の女性。彼女らは、以下の態度を取る。
家庭の中心視。
企業の軽視。外働きの男性の軽視。

政府が、社会の中心。
官公庁の人員。彼らは、以下の態度を取る。
政府の中心視。
民間の軽視。

定住集団が、社会の中心。
定住民。彼らは、以下の態度を取る。
定住集団の中心視。
流民の軽視。

（２）
中心者は、周辺者への蔑視や差別を行う。
中心者は、周辺者への、労働面での下請け扱いを行う。
元請けの人員は、下請けの人員の見下しを行う。
元請けの人員は、下請けいじめを行う。

（３）
（３－１）
中心者は、周辺者に対して、苦役の丸投げを行う。

中心者は、周辺者に対して、仕事の丸投げを行う。
中枢の人員は、現場の人員に対して、仕事の丸投げを行う。
官公庁は、民間企業に対して、仕事の丸投げを行う。
元請けゼネコンの人員は、下請け建設業者に対して、作業の丸投げを行う。
上流工程の担当者は、下流工程の開発者や技術者に対して、作業の丸投げを行う。
家庭の女性は、男性に対して、企業の仕事の丸投げを行う。
家庭は、企業に対して、仕事の丸投げを行う。
家庭は、国家に対して、政策立案の丸投げを行う。
女性は、男性に対して、機械作業の丸投げを行う。

（３－２）
中心者は、周辺者に対して、苦役の押し付けを行う。
中心者は、周辺者に対して、努力の押し付けを行う。
中心者は、コスト低減を、周辺者に対して、厳しく押し付ける。
中心者は、コスト低減を、自分たちでは、やらない。

（４）
（４－１）
中心者は、周辺者の一方的な管理を行う。
中心者は、工程を一方的に決定する。
中心者は、工程を一方的に管理する。
中心者は、その工程を、周辺者に対して、押し付ける。
周辺者は、仕事の期日を守らないと、中心者によって、仕事から外される。
中心者は、仕事の期日を守らなくても、何も言われない。

（４－２）
中心者は、周辺者に対して、一方的な命令や専制を行う。
仮に、周辺者が、中心者の命令に対して異議を唱えた、とする。
すると、周辺者は、中心者によって、仕事から外される。

（５）
中心者は、周辺者の搾取を行う。
中心者は、周辺者に対して、労働収益の搾取を行う。
元請けは、下請けに対して、収益の中抜きを行う。
政府は、国民に対して、税金を、強制的に徴収する。

（６）
中心者は、周辺者を冷遇する。
中心者の厚遇。周辺者の冷遇。
中心者の高賃金。周辺者の低賃金。
中枢管理者の好待遇。現場作業者の低待遇。
中枢元請けの好待遇。現場下請けの低待遇。
例。テレビ局の人員の賃金の高さ。現場アニメーターの賃金の低さ。
例。ITゼネコン人員の賃金の高さ。現場プログラマーの賃金の低

さ。
文官の昇進の良さ。技官の昇進の悪さ。

（７）
中心者は、中心部に滞留する。その状態は、永続する。
中心者は、周辺部に出てこない。
中心者は、いつまでも、中心部にいる。
経営中枢者は、現場に出向かない。現場は、周辺部に相当する。
中心者は、周辺者の現状を、見ようとしない。
経営中枢者は、現場の工場を、見ようとしない。
中心者は、中心者だけで、物事を決定する。
中心者は、その決定を、周辺者に対して、押し付ける。
例。旧日本軍。

（８）
中心者たちは、中心者同士で結束して、周辺者を叩く。
中心者たちは、そうして、中心者同士の絆を深める。
中心者たちは、そうして、地位保全を図る。
中心者たちは、そうして、以下の状態を、楽々と維持する。
安全地帯への滞留。

周辺者は、上記の目的を実現するための生贄として使われる。

弱者。被害者。障害者。無能者。異端者。
彼らは、周辺者である。
彼らは、中心者たちによって、一方的に叩かれる。
彼らは、中心者たちによって、一方的にいじめられる。

周辺者の中には、以下の行為を行う者がいる。
彼らは、中心者に味方する。
彼らは、中心者に取り入ろうとする。
彼らは、そうして、彼ら自身も、安全地帯に入ろうとする。

彼らは、そのため、中心者と一体になって、他の周辺者を叩く。
彼らは、そのため、中心者と一体になって、他の周辺者をいじめる。

中心者が、周辺者を叩く。
中心者が、周辺者をいじめる。

周辺者が、周辺者を叩く。
周辺者が、周辺者をいじめる。
それらの行為は、女性優位社会では、主流である。
それらの行為は、女性優位社会では、当然である。

（９）
女性優位社会。
周辺者は、冷遇されたままである。
周辺者は、声を上げにくい。
仮に、周辺者が、声を上げた、とする。
すると、彼らは、叩かれる。

周辺者の行為は、人々によって、以下のように見なされる。
その行為は、身の程知らずである。
その行為は、厚かましい。
その行為は、失礼である。

女性優位社会。
周辺者の仕事は、いつまでも軽蔑される。
周辺者の社会的地位は、いつまでも向上しない。

（１０）
（１０－１）
女性優位社会。定住生活様式。
その社会においては、先頭に立つ者は、少ない。
その社会においては、指導者は、少ない。

その社会で多いのは、中枢から指令を下す者である。
その社会で多いのは、中枢から仕切る者である。
その社会で多いのは、中心者である。

中枢部は、安全地帯である。
その社会の支配者が存在する場所は、安全地帯である。

その社会においては、中枢と現場との乖離が、生じやすい。

（１０－２）
男性優位社会。移動生活様式。
その社会においては、中枢から中枢から指令を下す者は、少ない。
その社会においては、中枢から仕切る者は、少ない。
その社会においては、中心者は、少ない。

その社会で多いのは、先頭に立つ者である。
その社会で多いのは、指導者である。

先頭部は、危険地帯である。
その社会の支配者が存在する場所は、危険地帯である。

その社会においては、中枢と現場との乖離は、生じにくい。

（初出2020年8月）

優しい女性。厳しい女性。女性優位社会。

////
女性優位社会。その中の女性たち。
それは、以下の二通りである。
（１）優しい女性。
（２）厳しい女性。
それは、両方とも数多く存在する。
従来、クローズアップされてきたのは、優しい女性。
例。日本女性。大和撫子。

女性優位社会。その中の母親たち。
それは、以下の二通りである。
（１）優しい母親。
（２）厳しい母親。
それは、両方とも数多く存在する。

従来、クローズアップされてきたのは、優しい母親。
例。日本の母。慈母。

////
しかし、以下の（１）のためには、以下の（２）の実行が不可欠である。
（１）
女性性の真の姿をつかむこと。
母性の真の姿をつかむこと。
その実現。

（２）
厳しい女性。
厳しい母親。
その存在を、社会的にクローズアップすること。
例。日本社会。
鬼女。
姑。
教育ママゴン。

それは、以下の（３）を実現する上で、必須である。

（３）
女性優位社会の本質をつかむこと。

（初出2020年8月）

男性優位社会。女性優位社会。支配者。権力者。社会の支配。その形態。

支配者。権力者。社会の支配。その形態。
それは、以下のように分類される。

（Ａ）男性優位社会。

独裁。
上位者は、下位者を、道具として酷使する。
上位者は、下位者の人格には、立ち入らない。
個人行動の自由は、保たれる。

（Ｂ）女性優位社会。
専制。
上位者は、下位者を、全人格的に、隷従させる。
上位者は、下位者の人格そのものに、介入する。
個人行動の自由は、許されない。

（初出2020年8月）

男性優位社会。女性優位社会。集団における下位者の昇進。その条件。

下位者が、既存の集団で昇進すること。例えば、企業。
その条件は、以下の通りである。

（Ａ）男性優位社会。
「ツールとしての有能さ。」
下位者が、それを、上位者に対して、見せること。
それを、上位者によって、認められること。

一体感。
それは、下位者と上位者との間では、不要である。
両者は、以下の関係にある。
契約関係。

こうした姿勢は、以下に基づく。
能力主義。

（Ｂ）女性優位社会。
「お気に入り。」
下位者が、上位者にとって、そうした存在になること。

（１）
一体感。
それは、下位者と上位者との間では、必須である。
それは、以下である。

以下の両方が、同時に存在すること。
（１－１）上位者への懐き。
（１－２）上位者からの愛情。

（２）
上位者の望みをかなえる能力。
それは、以下に基づく。
能力主義。

（初出2020年8月）

女性優位社会。新しい上位者。過去の上位者。両者に対する扱いの違い。

女性。
女性優位社会の人々。
彼らは、以下の行為を実行する。

新しい上位者。
その歓心を、買うこと。
その実現に対して、必死になること。

そのために、以下の行為を実行すること。
過去の上位者。
そのことを、徹底的に、貶すこと。
そのことを、徹底的に、否定すること。

そのために、以下の行為を実行すること。
以下の結果の解明。
それにつながる、全ての研究。

それを、社会的に禁止すること。

//
彼らは、新しい上位者とは異質であること。
彼らは、過去の上位者と同質であること。
//

そのことで、以下の内容を、実現すること。
//
彼ら自身の保身しやすさ。
それを、向上させること。
//

例。
日本の人々。
彼らが、欧米諸国を、手放しで、礼賛すること。
彼らは、一方で、中韓を、全面的に、否定し、侮蔑すること。
日本の人々。
彼らが、以下の内容の実現を、阻止し続けること。
彼らは、それを、全員が総出になって、行うこと。
彼らは、それを、必死になって、行うこと。
//
女性性の解明。

それは、以下の真実の暴露を、もたらす。

日本が、実は、女性優位社会であること。
日本は、男性優位社会では無いこと。

日本は、欧米諸国とは、異質であること。
日本は、中韓と、同質であること。
日本は、ロシアと、同質であること。
//

（初出2021年3月。）

男性優位社会。女性優位社会。言論統制の共通性。

男性優位社会も、女性優位社会も、以下の傾向を持つ。
（１）有力者、上位者や支配者は、表現や主張に関して、好き勝手なせん滅や禁止をやる。
（２）人々は、以下の内容を、自主的に抹殺する。
「彼らの信仰や価値観に反する、異端の表現や主張。」
それは、人間社会の限界である。

（初出2020年7月）

男性優位社会における言論統制

（１）男性や、男性優位社会の人々は、以下のものを、攻撃して、せん滅する。
「自己拡大を邪魔する存在。自己の既得権益を脅かす存在。」

特に、有力者や、上位者、支配者が、そうする。

そのせん滅の対象には、表現内容や主張も含まれる。
例えば、それは、以下の内容である。
「次とは反対の内容の主張。有力者、上位者や支配者による主張。」

（２）男性優位社会の人々は、表現に対して、容易に、異端尋問を実施する。
その行為は、宗教的な理想への信仰に基づく。
人々は、異端とされた表現や主張を、抹殺する。

男性優位社会の人々は、そうして、自己表現を、容易に、せん滅され、抹殺される。
彼らにとっては、以下のことが不可能になる。
（１）自己表現の保存。

（２）自己表現の後世への伝達。
（３）自己表現の内容を、自己の文化的子孫として、残すこと。

男性優位社会の人々は、以下の価値観を、誇示する。
「その社会における、表現の自由の尊重。」

その社会では、表現の自由は、表向き、存在する。
しかし、表現は、容易に、せん滅され、抹殺されてしまう。
せん滅された表現は、消去され、何も残らない。
異端とされた表現は、消去され、何も残らない。
それでは、人々にとって、何にもならない。それでは、人々にとって、何も意味がない。

男性優位社会では、表現の自由は、実質的に、無いのと同じである。
男性優位社会では、表現の自由の尊重は、表向きの「きれいごと」になっている。

（初出2020年7月）

「女性優位社会。権力構造。言論統制。」

女性優位社会における権力構造。

女性優位社会は、その「私たちの社会」において、以下の３種類の権力によって、成り立つ。

（１）「スーパー上位者」。
「私たちの社会」の外部に存在する、他の社会。
それは、「私たちの社会」よりも、より有力である。

（２）上位者。

「私たちの社会」の内部における、支配者や権力者。
（２－１）上位者は、「スーパー上位者」に対して、隷従する。
（２－２）上位者は、下位者に対して、反論を一切許さない。
上位者は、下位者に対して、専制的な支配を行う。

（３）下位者。
「私たちの社会」の内部において、そうした上位者に従属する
人々。
人々は、上位者に対して、隷従する。

（初出2020年7月）

女性優位社会における言論統制。

「女性優位社会における、言論の自由の有無。」
それは、以下の通りである。

（１）上位者は、下位者に対して、反論を一切許さない。
仮に、下位者の誰かが、反論した、とする。
上位者は、それに対して、感情的に大きく傷つく。
上位者は、その下位者に対して、直ちに厳罰を下す。

（２）下位者は、上位者に対して、反論することが許されない。
下位者は、以下のことのみが可能である。
「上位者に対して、迎合し、忖度すること。」

仮に、女性優位社会において、以下のことが起きた、とする。
「ある人が、以下の（１）と（２）の両者に対して、反論を、同時
に行った。」

（１）スーパー上位者。
有力な、部外者。
彼らは、その女性優位社会を、外部から支配する。

（２）上位者。その女性優位社会の内部における支配者。

（２－１）彼らは、「スーパー上位者」に対して、反論できず、隷従する。

（２－２）彼らは、その社会内部において、以下のことを行う。
（２－２－１）彼らは、下位者に対して、隷従を、強制する。
（２－２－２）彼らは、以下の行為を、失礼だとして、禁止する。
「下位者による、上位者への反論。」

すると、上記の反論者は、以下の状態になる。
（１）彼は、その社会の中で、居場所を、完全に失う。
（２）彼は、その社会から、追放される。

その社会では、人々は、以下の（１）を行う。それは、以下の（２）の実現にとって、必須である。

（１）人々は、次の存在に対して、必ず、同調し、忖度する。
「上記の両者について、少なくとも、どちらか一方。
あるいは、その両方。」

（２）人々は、その社会の中で、何とかして、生き延びる。

それは、以下の二通りである。

（１）仮に、ある人が、以下の二つの行為を、同時に行った、とする。
（１－１）「スーパー上位者」への支持。
（１－２）上位者への批判。

上位者は、上記の行為に対して、不快になる。
しかし、上位者は、スーパー上位者に対して、反論できない。
上位者は、上記の行為を、仕方なく、黙認する。
その主張者は、その社会内部で、居場所を、問題なく、確保できる。

例えば、アメリカ支配下の日本における、左派の人々。

（２）仮に、ある人が、以下の二つの行為を、同時に行った、とする。
（２－１）「スーパー上位者」への批判。
（２－２）上位者への支持。

上位者は、スーパー上位者に対して、反論できない。
上位者は、スーパー上位者の機嫌を、損ないたくない。
上位者は、上記の行為に対して、表向き、不快感を示す。
しかし、上位者は、上記の行為が、内心、うれしい。
上位者は、上記の行為を、快く黙認する。
その主張者は、その社会内部で、居場所を、問題なく、確保できる。

例えば、アメリカ支配下の日本における、国粋的な右派の人々。

仮に、ある女性優位社会で、以下のことが起きていた、とする。

その女性優位社会においては、有力な男性優位社会が、「スーパー上位者」として、君臨する。
そうした「スーパー上位者」は、以下の内容を、高らかに主張する。
「言論の自由の重要性。」
それは、典型的な、「男性優位な社会規範」である。

女性優位社会の人々は、次の行為を、必死になって、行う。
「スーパー上位者に対する、心理的な同調や忖度。」

女性優位社会の人々は、以下の内容を、盲目的に信仰する。
「スーパー上位者による、上記の主張。」

仮に、その女性優位社会において、ある人が、次の主張を行った、とする。
「その社会の内部において、言論の自由が無いこと。」

彼による、そうした行為は、次の内容になる。
「上位者への反論や批判。」

その行為は、次のことになる。

「以下の両者を、同時に、批判したこと。」

（１）スーパー上位者。
彼らは、当初の主張者である。
彼らは、次のことを、確信している。
「私たちは、その社会を、確実に支配できている。」
彼らは、そのことに満足し、良い気持ちになっている。

（２）上位者。その社会の内部における支配者。
彼らは、スーパー上位者の主張に対して、同調し、隷従する。
彼らは、下位者に対して、絶対的な隷従を強制する。

そうした批判者は、次の状態になる。
（１）彼は、上記の両者を、同時に、怒らせる。
（２）彼は、そうして、その社会の中で、居場所を、完全に失う。
（３）彼は、その社会から、追放される。

例えば、アメリカ支配下の、今の日本。

（初出2020年7月）

女性優位社会が、他の社会に従う。その分類。

１．相手社会の種類。
（１）有力な社会。
女性優位社会は、それに従う。
女性優位社会は、それによって、自分のことを、守ってもらう。
女性優位社会は、それによって、自己保身性を実現する。

（２）先進的社会。
（２－１）女性優位社会は、先進科学技術や、社会規範に従う。
それらは、先進的社会が提供する。
女性優位社会は、そのことで、自分も、最先端の存在になる。
女性優位社会は、そのことを、周囲から注目される。

女性優位社会は、そのことで、自己中心性を実現する。

（２－２）女性優位社会は、以下のことを希望する。
「私たちは、以下の存在の中へ、加入したい。」
「先進的社会が作る、群れ。」

女性優位社会は、それを、定住集団として捉える。
女性優位社会は、それを、世界の中心として捉える。
女性優位社会は、そこに加入する。
女性優位社会は、そのことで、自己中心性を実現する。
女性優位社会は、それらの価値観に同調し、忖度しようとする。
女性優位社会は、そこからの追放を恐れる。

２．相手社会の性別。
（１）男性優位社会。
（２）女性優位社会。

２－１．性別と、先進性との関連について。
（１）男性優位社会。
その社会が、チャレンジに基づく新知見をいろいろ持っている場合。

（２）女性優位社会。
（２－１）その社会が、以下の内容をたくさん蓄積している場合。
「前例やしきたり。
それらは、旧来から存在する。
それらは、他の社会に無い、独自の内容を持つ。」
そのことは、別の社会からは、ある意味、先進的に見える。

（２－２－１）その社会が、以下の内容を、既にたくさん導入している場合。
「男性優位社会が生み出した、新知見。」

（２－２－２）その社会が、以下の内容を持っている場合。
「その社会独自の、新知見。」

それらは、その社会が、以下のようにして、生成した。
それは、以下の（２－２－２－１）を、以下の（２－２－２－２）のようにした。

（２－２－２－１）「男性優位社会が生み出した、新知見。」
（２－２－２－２）その社会は、それを、独自に、改良した。

３．女性優位社会は、相手社会のことを、どう扱うか？
女性優位社会は、相手社会を、「スーパー上位者」として扱う。
女性優位社会は、相手社会に対して、隷従する。
女性優位社会は、以下のものを丸呑みする。
「相手社会が持つ、価値観や、社会規範。」
（１）相手社会が、女性優位社会の場合。
女性優位社会は、例えば、中国に対して、その「儒教」を真似る。
（２）相手社会が、男性優位社会の場合。
女性優位社会は、例えば、欧米諸国に対して、その「家父長制」を真似る。

４．男性優位社会に従う場合。

一部の女性優位社会は、男性優位社会に従う。
それが起きるきっかけは、以下の通りである。

（１）男性優位社会から受ける、軍事的圧力。
両者の間で、以下について、大きな格差が存在する。
「その社会が近代化されているレベル。」

女性優位社会は、以下のことへの圧力を感じる。
「私たちの社会が、男性優位社会によって支配されること。」

女性優位社会は、男性優位社会によって、以下のことを、強制される。
「不平等条約を締結すること。」

女性優位社会は、男性優位社会を、教師扱いする。

（２）男性優位社会に対する敗戦
仮に、女性優位社会が、男性優位社会に対して、戦争で負けた、とする。
そうした女性優位社会では、以下の状態が持続する。
「男性優位社会によって、軍事的に占領される状態。」

両者の間で、有力さの点で、大きな格差がある。

女性優位社会は、「男性優位社会の属国」の状態になる。
女性優位社会は、男性優位社会によって、男性優位社会規範を、強制される。
例えば、日本は、アメリカによって、日本国憲法を強制された。

女性優位社会は、「男性優位社会による支配」を受ける。
女性優位社会は、それに対して、手のひら返しをして、迎合する。
女性優位社会は、それに対して、隷従する。

女性優位社会は、何をやるか？
（１）女性優位社会は、以下の内容を見習う。
「男性優位社会による、周囲に対する、侵略行動。」

女性優位社会は、そうした「自己拡大」の物まねをする。

そうした女性優位社会は、周辺社会に対して、以下のことを行う。
（１－１）軍事的な領土拡張。
（１－２）植民地支配。

（２）女性優位社会は、男性優位社会の製品を、真似る。
女性優位社会は、その改良と高品質化を実現する。
女性優位社会は、そうして、国際競争力を拡大させる。
女性優位社会は、世界に対して、力を振るう。

５．その結果、女性優位社会は、他の社会から、何をされるか？

（１）男性優位社会は、それに対して、脅威を感じる。
女性優位社会は、そうした男性優位社会によって、潰される。

（１－１）女性優位社会は、男性優位社会から、軍事的干渉を受ける。

（１－２）女性優位社会は、男性優位社会から、通貨高を強制される。
女性優位社会は、その結果、一挙に衰退する。

（２）他の女性優位社会は、それと同様の行為を行う。
女性優位社会は、そうした社会に、どんどん追い越される。

女性優位社会は、そうして、以下の状態になる。
「没落した女性アイドルが、悪あがきをする。」

（初出2020年7月）

女性優位社会。男性優位社会。それらによる相互作用。

仮に、新たな有力な先進的な男性優位社会が登場した、とする。

それについて、女性優位社会の取る態度は、以下のように分類される。

（１）その男性優位社会に対して、以下の内容を崩そうとしない態度。
「私たちの社会がもともと持っていた、上位性。」

そうした女性優位社会は、以下の内容を、有効な前例として、導入する。
「男性優位社会が持つ、先進的な思想。」

しかし、そうした女性優位社会は、以下の内容を、維持する。
「自身が持つ、自己中心性や、尊大さ。」
例えば、中国。

（２）その男性優位社会を、新たに、「スーパー上位者」として扱う態度。

（２－１）そうした女性優位社会は、男性優位社会に対して、以下のことをしようとする。
「心理的に一体化し、忖度すること。」

そうした女性優位社会は、以下の内容を、見境なく導入する。
「男性優位社会が持つ、先進的な思想。」

そうした女性優位社会は、男性優位社会に対して、実質的な下位者となって、盲従する。
そうした女性優位社会は、以下の存在を、世界の中心と見なす。
「有力な男性優位社会が作る群れ。」

女性優位社会は、その仲間に加入する。
女性優位社会は、そうして、自己中心性を実現する。
例えば、日本。

（２－２）そうした女性優位社会は、次の女性優位社会を、一転して見下す。
「それは、今まで、私たちにとって、上位者だった。」

女性優位社会は、それを、下位者として、新たに扱い始める。
そうした女性優位社会は、それに対して、隷従を求める。
それは、女性優位社会同士が引き起こす、確執である。
そうした女性優位社会は、男性優位社会のまねをして、それへの侵略を行う。

女性優位社会に、言論統制が、新たに、発生する。
それは、男性優位社会を、新たに、「スーパー上位者」として扱う。

（１）

その女性優位社会は、以下の（１－１）に対して、以下の（１－２）を行う。
（１－１）「有力で、先進的な、男性優位社会。」
（１－２）心理的に憧れ、懐き、忖度し、一体化すること。

その女性優位社会は、（１－１）の作る仲間集団に対して、加入し、所属する。
その女性優位社会は、勝手に、そうした気分になる。

その女性優位社会は、それらに対して、隷従し、反抗できない状態になる。
その女性優位社会は、それらによる軍事的な支配を受ける。
すると、その女性優位社会の内部では、以下の言論統制が、起きる。

その女性優位社会は、その男性優位社会の言うことを、盲信する。
その女性優位社会は、それを、「スーパー上位者」として扱う。
その女性優位社会は、それに対して、反論できない。

その女性優位社会では、以下の言論が、禁止される。
「以下の内容を、表立って、主張すること。
「私たちの社会と、男性優位社会との間の、本質的な差。」」

（１－１）
その女性優位社会では、以下のことを、表明することは、認められない。
「私たちの社会が、定住生活様式中心社会であること。
私たちの社会は、移動生活様式中心社会ではないこと。」

その女性優位社会では、以下のことを、社会的に禁止する。
「それを、社会を分析する視点として、設定すること。」

（１－１－１）その社会では、以下のことは、禁止される。
「移動と、定住とを、区分すること。」

（１－１－２）その社会では、以下のことは、禁止される。
「遊牧や牧畜と、農耕とを、区分すること。」

その社会では、人々は、以下のように考える。
「交通機関の発達により、私たちも、移動生活様式主体になった。」

その社会では、定住集団のルールの存在を表に出すことは、禁止される。
例えば、日本村社会のルール。

（１－２）
その女性優位社会では、以下のことを、表明することは、認められない。

「私たちの社会が、女性優位社会であること。
その社会が、男性優位社会でないこと。」

その女性優位社会では、以下のことを、社会的に禁止する。
「それを、社会を分析する視点として、設定すること。」
その社会では、人々は、その行為に対して、徹底的に、無視と嘲笑を行う。

その社会では、人々は、以下のように考える。
「自分たちの社会は、家父長制である。」
「男女間に、性差は無い。
性差を認めることは、性差別である。
人々は、性差から解放されて、自分らしさを持つべきだ。」

（２）

（２－１）その女性優位社会は、周囲の女性優位社会を、以下の存在として、見下す。
「後進的で、劣った下位者。」
そこでは、上記の（１）と同じことが起きる。

その女性優位社会では、以下の言論が、禁止される。
「以下の内容を、表立って、主張すること。
「私たちの社会と、女性優位社会との間の、本質的な同質性。」」

（２－１－１）
その女性優位社会では、以下のことを、表明することは、認められない。
「私たちの社会が、定住生活様式中心社会であること。」
これは、上記の（１－１）と同様である。

（２－１－２）
その女性優位社会では、以下のことを、表明することは、認められない。
「私たちの社会が、女性優位社会であること。」
これは、上記の（１－２）と同様である。

（２－２）その女性優位社会は、周囲の女性優位社会を、以下の存

在とみなす。
「私たちにとっての、異質者。」

その女性優位社会では、人々は、以下の内容を、主張する。
「周囲の彼らは、自分とは違う。」
人々は、それに固執する。

その社会では、人々は、以下のように考える。
「彼らは、異質である。」

「彼らは、純粋な定住生活様式者ではない。
私たちだけが、純粋な定住生活様式者である。」

「彼らの思考は、論理的である。
私たちだけが、情緒的な思考をする。」

「私たちだけが、本当に女性優位である。」

その女性優位社会では、以下の言論が、禁止される。
「以下の内容を、表立って主張すること。
「私たちの社会と、周囲の彼らとの間の、本質的な同質性。」」
（２－２－１）「周囲の彼らが、私たち同様、定住生活様式者であること。」
（２－２－２）「周囲の彼らの思考が、私たち同様、女性優位であること。」

（（１）と（２）のまとめ）

仮に、その女性優位社会が、こうしたことを、世界的に認めた、とする。
すると、その女性優位社会では、以下のような考えが起きる。

（Ａ－１）
「私たちは、有力社会とは違う。
それらは、先進的で、上位者である。
私たちは、それらとは、異質である。
私たちは、それらとは、一緒にはなれない。
私たちは、それらから、仲間として扱われない。
私たちは、先進的ではなくなる。

私たちは、見栄を張れなくなる。
私たちは、せっかく加入した集団から追放されてしまう。」

その社会の人々は、こうしたことの発生を、女性優位な考えで、勝手に妄想する。

（Ａ－２）
「私たちは、以下の社会と、同質になる。
「私たちは、その社会を、下位者扱いして、馬鹿にしてきた。」

私たちは、その仲間となる。
私たちは、上位者として威張ってきた。
しかし、私たちは、その状態を失った。
私たちは、その社会から、仕返しされる。
私たちは、それが怖い。」

（３）

その女性優位社会では、その社会における内部事情により、以下の言論が、禁止される。
（３－１）
以下の（３－１－１）に対して、以下の（３－１－２）を行うこと。

（３－１－１）「その社会における上位者」が取る判断。
（３－１－２）その批判や反抗に当たる主張。

上位者は、女性優位である。
その上位者は、以下のことを主導している。
「その社会が先進的社会になること。」

女性優位な上位者に対する批判や反抗は、厚かましく、失礼である。
それは、処罰の対象になる。

（３－２）
以下に当たる主張をすること。」

（３－２－１）「その社会の内部告発。」

（３－２－２）「その社会の内部事情を暴露すること。」

そのことで、以下の内容が、部外者へと、知れ渡れる。
「その社会内部における、不都合な真実。」

それは、その社会では、重罪である。
それは、以下のことの対象になる。
「その社会から、追放されること。」

（初出2020年7月）

女性優位社会における右派。

女性優位社会における右派は、主流派、体制派である。

（１－１）彼らは、彼らの社会の上位者に対して、盲従する。
（１－２）彼らは、必要に応じて、以下の存在に対しても、盲従する。
「外部の有力社会。
「スーパー上位者」。」

（２－１）彼らは、下位者を叩く。
（２－２）彼らは、以下の存在を叩く。
「上位者に対して反論する人。」

彼らは、次のことを主張する。
「その人は、失礼で、厚かましい。
私たちは、その人を、私たちの社会から、追放しよう！」

（初出2020年7月）

女性優位社会における左派。

（１）女性優位な人々である場合。
彼らは、次の人々を、批判する。

「その社会における、主流派や体制派の人々。」

（１－１）彼らは、野党的な存在である。
彼らは、次の主流派になることを狙う。
彼らは、政治的に負けて、劣位である。
彼らは、政治的に、少数派で、支持されない。
例えば、共産党の人々。

（１－２）彼らは、次のような存在である。
「社会における、はみ出し者。
社会における、異質者。」
例えば、在日韓国人。

彼らにとっては、次のような存在がいる状態が起きている。
「彼らとは異質な、「スーパー上位者」。」
それは、以下の存在である。
「有力で、先進的な、男性優位社会。」

彼らは、その「スーパー上位者」に対して、女性優位な精神で、盲従する。

（１－Ａ－１）彼らは、「スーパー上位者」が持つ「先進的な思想」に、乗る。
彼らは、その思想を丸呑みして身に付ける。
彼らは、そうして、他の人々に対して、見栄を張る。

（１－Ａ－２）彼らは、「スーパー上位者」が持つ「権威」に乗る。
彼らは、その権威を利用して、以下の存在を、上から目線で、叩く。
「私たちの社会における、上位者。」

彼らは、他の人々に対して、「思想警察」を行う。

（２）男性優位な人々である場合。
彼らは、彼らの社会の女性優位な人々が持つ、女性優位精神を批判する。

（２－１）彼らは、男性優位社会の出身者である。
（２－１－１）彼らは、そのルーツが、他の男性優位社会である。
例えば、在日欧米人。

（２－１－２）彼らは、そのルーツが、彼ら自身の女性優位社会である。
しかし、彼らは、男性優位社会の中で、育った。
例えば、欧米諸国からの帰国子女。

（２－２）彼らは、女性優位社会の出身者である。
彼らは、男性である。
彼らは、その生育過程において、「男性優位精神の消去」が不完全だった。

（初出2020年7月）

女性優位社会における、社会不適合者。

（１）定義。
彼らは、女性優位な行動がうまくできない人である。
彼らは、はみ出し者になる。
彼らは、浮いた存在になる。

（２）その潜在性と顕在性。
（２－１）「潜在的な不適合者」。
彼らは、表面的に、適合者として行動する。
実際には、彼らは、社会に対して、内心では、適応上の困難を強く感じている。

しかし、彼らは、次のようになると、社会的に被る不都合が大きい。
「周囲に対して、彼ら自身が不適合者であることがばれること。」

彼らは、はみ出し者として扱われないように、気を遣う。
彼らは、主流者や上位者に対して、必死になって、行動を合わせ

る。
彼らは、心の底で、そのことに対して、大きな不満を持つ。

（２－２）「顕在的な不適合者」。
彼らは、次のことを、周囲に対して、思わず露呈させる。
「彼ら自身が、社会的に、不適合者であること。」

（３）彼らが、受ける扱い。
（３－１）主流者からの扱い。
（３－１－１）彼らは、いじめられる。
（３－１－２）彼らは、疎外される。
（３－１－３）彼らは、潰される。
（３－１－４）彼らは、追放される。
（３－１－５）彼らは、隔離される。

（３－２）上位者からの扱い。
（３－２－１）彼らは、説教される。
（３－２－２）彼らは、矯正を受ける。
（３－２－３）彼らは、しごきを受ける。
（３－２－４）彼らは、破門される。

（４）彼らが、社会的に、はみ出す原因。
（４－１）彼らは、以下のことが、うまくできない。
「周囲への、心理的な同調や忖度。」

（４－１－１）彼らは、コミュニケーションが下手である。
彼らは、意思疎通がうまく行かない。

（４－１－２）彼らは、個人行動をする。
彼らは、男性優位精神の保持者である。

（４－１－３）「異質者。異常者。」
（４－１－３－１）彼らは、周囲とは、異なる意見を持つ。
彼らは、和合しない。
（４－１－３－２）彼らは、周囲とは、容貌が違う。
（４－１－３－３）彼らは、周囲とは、文化的背景が違う。
（４－１－３－４）彼らは、変な病気にかかっている。
例えば、精神病。

彼らは、女性優位社会では、以下の内容を阻害する。
「人々の間における、相互の一体感。」
彼らは、社会的に、有害な存在である。

（４－１－４）彼らは、以下の能力に欠ける。
（４－１－４－１）「その行動を、周囲に合わせる能力。」
（４－１－４－２）「周囲に対して、付いていく能力。」

彼らは、、そうした有能さに欠ける。
彼らは、「できない人」である。
彼らは、社会にとって、「足手まとい」である。

（４－２）彼らは、内部告発をする。
彼らは、以下のことを許さない。
「集団内部や社会内部における、不正の横行。」

それは、主流者や上位者にとって、以下の内容に当たる。
「彼らの持つ秘密が、暴露されること。」
主流者や上位者は、それによって、恥をかく。
それは、主流者や上位者にとって、不都合である。
主流者や上位者は、それを許せない。

（４－３）彼らは、主流者や上位者に対して、反論をする。
主流者や上位者は、それで、プライドが傷つく。
それは、主流者や上位者にとって、厚かましく、失礼である。
主流者や上位者は、それを許せない。
それは、社会的な処罰の対象になる。

（５）彼らが取る、「主流者や上位者」に対する措置。
（５－１）彼らは、社会に入れてくれるように、懇願する。
彼らは、許しを請う。
彼らは、以下の存在になる。
「「主流者や上位者」の下僕。」

（５－２）彼らは、別途、力を付けて、反撃する。
（５－２－１）彼らは、以下の存在を、他に見つける。
「今までとは異質で、もっと有力な存在。」

彼らは、それに依拠する。
彼らは、それと精神的に一体になる。
彼らは、その威力を借りる。
彼らは、左派的になる。
彼らは、以下の内容への、彼ら自身の完全な同質化を行う。
「有力で、先進的な、男性優位社会の価値観。」
例えば、日本における、日本国憲法の価値観。

（５－２－２）彼らは、独自の努力を重ねて、才能を発揮して、有能になる。
彼らは、例えば、お金持ちになる。

（５－３）彼らは、引きこもりになる。
彼らは、社会関係を断つ。
彼らは、一人になる。
彼らは、そうして、精神的な自由を得る。

（初出2020年7月）

女性優位社会。敗戦、劣勢への対応。

（１）その社会では、人々は、以下のことが下手である。
「負けを認めること。」

彼らは、「負け」の存在を、無視して、なかったことにする。
彼らは、以下のことばかりを回顧する。
「自分たちが勝利していたときのこと。」

例えば、日本の右翼は、旧日本軍の栄光に対して、酔いしれる。

彼らは、以下のことを、認めることができない。
「日本人が、中韓に対して、経済的に敗退したこと。」

（１－１）彼らは、以下のことに、耐えられない。
「恥辱を受けること。
周囲に対して、見栄を張れなくなること。
彼ら自身への評判が地に落ちること。

以下の内容が低下すること。」
「彼ら自身が持つ、周囲に対する、相対評価。」

（１－２）仮に、彼らが負けた、とする。
すると、彼らには、以下のことに対する責任が発生する。
「彼ら自身が引き起こした、社会的な失政や失敗。」

それは、彼ら自身の保身にとって、危険である。
彼らは、そうした危険を回避し、「無謬性」を維持したい。
彼らは、それを、無かったことにする。
例えば、日本による、太平洋戦争への敗戦。

（２）彼らは、以下のことを認めるのが、下手である。
「彼ら自身が、劣勢に立っていること。」

彼らは、そのことを、話題に出さない。

例えば、日本が、以下のことによって、経済的に転落し続けていること。
「アメリカによる、日本に対する、「人為的な通貨高」の設定。」

（３）彼らは、完全に敗北する。
彼らは、新たな上位者に対して、保身をする。
彼らは、社会全体で、一斉に、手のひら返しをする。
彼らは、新たな上位者に対して、全面的に、迎合し、媚びる。
彼らは、みんなで行動を合わせないと、恥ずかしい。

例えば、日本。日本は、太平洋戦争で、アメリカに敗北した。

（初出2020年7月）

女性優位社会同士の、マウント合戦。

（１）彼らは、下位者に対して、高慢になる。
彼らは、下位者のことを、馬鹿にして、見下す。
彼らは、下位者に対して、尊大な態度を取る。
彼らは、下位者に対して、朝貢を要求する。

彼らは、下位者を、いじめる。
彼らは、下位者に対して、暴虐の限りを尽くす。
彼らは、下位者に対して、殺戮をする。

彼らは、下位者に対して、恩着せがましい。
「私たちは、あなたの社会の発展に対して、貢献してあげた。
あなた方は、そのことを、ありがたく思いなさい。」

彼らは、以下のことを、恐れる。
「下位者から、仕返しされること。」

（２）彼らは、上位者に対して、保身のため、隷従する。
仮に、彼らが、上位者に対して、反論したとする。
すると、彼らは、上位者から、激昂され、処罰される。
彼らは、それが怖い。

彼らは、上位者が、以下のような場合、嫉妬する。
（２－１）上位者は、かつて彼らと、同位だった。
（２－２）上位者は、その昇進が、にわかだった。

彼らは、以下のことに対して、恨みの感情を蓄積させる。
「上位者から、理不尽な目を受けること。」

彼らは、感情を、爆発させる。
「私は、報復したい。」
「私は、耐えきれない。」

彼らは、かつての上位者に対して、以下のことへの謝罪の要求を、執拗に繰り返す。
「その上位者による、私たちへの、理不尽な支配。」

（３）仮に、次の（３－１）が、次の（３－２）のような態度を取るようになった、とする。
（３－１）その社会は、かつて、彼らよりも、下位者であった。
（３－２）その社会は、彼らに対して、上位者ぶって、支配者ぶって、威張るようになる。

彼らは、そうした態度が、猛烈に腹立たしい。
彼らは、そうして、プライドや見栄を傷つけられる。
彼らは、上記の社会の言うことを聞かない。

彼らは、上記の社会に対して、感情的に反発する。
彼らは、上記の社会に対して、反抗する。
彼らは、以下のように考える。

「あなたたちは、にわかに上位者になっただけだ。
あなたたちは、それなのに、私たちに対して、偉そうにするな。
あなたたちは、厚かましい。
あなたたちは、失礼だ。
もともとは、私たちの方が、あなたたちよりも、上位者だ。
再び、私たちが、あなたたちに対して、上位者になる。
私たちは、あなたたちのことを、見返す。」

それは、例えば、以下のものである。
「以前の韓国が、日本に対して、持っていた感情。」
「最近の日本が、韓国に対して、新たに持つようになっている感情。」

（４）彼らは、以下の心を保ち続ける。
「上位者としての威信。尊大な余裕。」

彼らは、以下のことを、恩寵で許してあげる。
「下位者が、私に対して行った、無礼な行為。」

例えば、中国による、日本に対する態度。
日本は、中国を、軍事的に侵略した。

（初出2020年7月）

女性優位社会。「自己責任論」。

（１）その社会では、上位者は、以下の内容を、下位者に対して、押し付ける。
「上位者自身による、失政や判断ミスの責任。」

上位者は、そうして、自身の「無謬性」を維持する。
上位者は、自身の保身を維持する。

上位者は、以下のように考える。

「本当にまずかったのは、以下の内容である。」
「下位者が、彼自身で取った、行動の内容。」

上位者は、下位者のことを、社会的に、「生贄」にする。

（２）その社会では、個人行動に対する非難を行う。
「彼は、定住集団において、同調行動を破った。
私たちは、彼を、助けない。」

（初出2020年7月）

女性優位社会が衰退する、没落する。その社会が持つ特徴。

その社会は、自己中心性を喪失する。
その社会は、以下の内容を、喪失する。
「周囲による、私たちへの注目。」

彼らは、以下のように考える。

「私たちは、先端性を失った。
私たちは、先進者扱いされなくなった。
私たちは、有力さを失った。
私たちは、自分たちへの注目を失った。
私たちは、世界や周囲から、無視されるようになった。
私たちは、貧乏になった。
私たちは、下位者になった。
私たちは、その地位を低下させた。

私たちは、次の存在よりも、劣位になった。
「下位者。私たちは、彼らを、以前、馬鹿にしていた。」

私たちは、プライドが傷ついた。」

その社会は、次の内容の低下に対して、こだわる。
「相対評価。それは、私たちが、周囲に対して、持っていた。」

それは、以下の内容と同じである。
「「没落する女性アイドル」による、悪あがき。」

彼らは、以下の状態に対して、しがみつく。
「過去の、私たち自身に栄光があった状態。」

彼らは、以下のものに対して、執着する。
「高い地位。それは、私たち自身が、かつて有していた。」

彼らは、それを、過去の栄光によって、得た。

例えば、日本は、Ｇ７への加盟にこだわる。

彼らは、過去の栄光を、ひたすら回顧する。

彼らは、自画自賛を行う。
彼らは、自身を持ち上げる。
彼らは、「自己愛」に浸る。
彼らは、以下のように考える。
「私たちの社会は、凄い！」

彼らは、以下の内容を、渇望する。
「私たちが、有力な社会、先進的な社会から、褒められること。」

彼らは、以下の存在に対して、意地悪と妨害を、徹底的に行う。
「かつての下位者。彼らは、私たちのことを、追い越した。」

彼らは、以下のことを、恐れる。
「私たちは、高慢な態度を、周囲に対して、取り続けた。
私たちは、周囲から、そのことに対して、仕返しを受ける。」

彼らは、その社会の内部で、以下のように、考える。
「みんなで、仲良く、衰退しよう！」
彼らは、その社会の人々に対して、以下のことを強制する。
「全員が、衰退に向かって、道連れをすること。」

それは、例えば、かつての中国や、今の日本である。

（初出2020年7月）

女性優位社会。定住集団の内部。その真の内情。それは、機密情報として扱われる。

女性。
女性専用社会の女性たち。
女性優位社会の人々。
定住生活様式者の社会の人々。
彼らは、以下の内容を、指向する。

周囲の他者に対する、気配りや忖度。
その、絶え間ない実現。

そのために、以下のような行為を、行うこと。
それを、恒常的に、行うこと。
それを、平然として、行うこと。

//
彼ら自身が所属する定住集団。
その内部における真実。
その真の内情。
その内容について、表向き、否定や無視を、いつまでも続けること。
その真実とは違う内容を、いつまでも説明し続けること。
//

そうした気配りをすること。
そのことで、以下の内容を、実現すること。

以下の内容の水準。
それを、向上させること。
そのことを、以下の場所において、実現すること。
彼らの集団や社会。その内部。
//
彼ら自身が所属する定住集団。

その内部への、彼ら自身の、留まりやすさ。
彼ら自身の保身しやすさ。
//

そのような真実。
それは、彼らにとって、以下のような内容である。
//
機密情報。

彼ら自身のプライバシー。
それに関する情報。
その集積体。
//

彼ら自身が所属する定住集団。
その内部。
そこでは、プライバシーは、存在しない。

そのような、定住集団の内部の真実。
それは、彼らにとって、以下のような内容である。
//
それは、決して、周囲や外部に対して、明かしてはいけない。
//
彼らは、以下の行為を実行する。
////
そうした機密情報。
そうした真実。
それが、外部に漏れないようにすること。
そのために、以下の行為を実行すること。
//
彼らが所属する社会や集団。
その周囲。
そこに、鉄のカーテンを、張り巡らすこと。
////

仮に、誰かが、彼らの言うことを、そのまま信用した場合。
その人物は、痛い目に合う。
その人物にとっては、以下の内容の実現が、永久に不可能になる。
//

そのような真実。
その内容に、到達すること。
//

仮に、彼らの中の誰かが、そのような真実を、漏らした場合。
その人物は、定住集団の内部で、秘密裏のうちに、潰される。
その人物は、定住集団から、永久に追放される。
その人物は、元々所属していた定住集団へと戻ることが、永久に出来ない。

その結果。
その人物は、まともに生きて行くことが出来ない。
その人物は、社会的に死ぬ。

//
彼らの社会における真実。

彼らの所属する定住集団。
そこにおける、真の内情。
それらの内容を、解明すること。
//

その実現。
それは、以下の条件下では、永遠に不可能である。
////
解明者の立場の人物。
彼が、以下の場所に、存在し続けること。
//
彼自身や彼女自身が所属する、定住集団。
その内部。
////

その実現。
それは、以下の場所においては、永遠に不可能である。
//
彼らの社会。
その内部。
//

その実現。
そのためには、以下の内容の実現が、必要である。
//
解明者が、以下の内容を、実行すること。
彼らの社会の外部から、彼らの社会の内部に向けて、穿孔を行うこと。
//

あるいは、解明者にとっては、以下の二つの内容が、両方、必須である。
（１）
彼らの社会。
その定住集団。
その内部。
そこで暮らした、経験。
それを、過去において、持つこと。
（２）
彼らの社会。
その内部。
そこから追放された、経験。
それを、過去において、持つこと。
//

（初出2021年3月。）

女性や女性優位社会。定住生活様式。人々を説得する方法。人々を動かす方法。その注意点。

（１）
（実態）
人々は、上位者に隷従する。
人々は、下位者を、彼ら自身へと隷従させる。
人々は、下位者を、専制的に支配する。

人々は、下位者による反論を、一切許さない。

人々は、上位者の言うことは、何でも聞く。
人々は、下位者の言うことは、何も聞かない。

仮に、人々が、説得者を上位者だと判断した、とする。
すると、人々は、その主張に無条件で従う。
その主張の当否は、問題とされない。
人々は、その主張に、盲目的に従う。
その理由は、次の通りである。
「それは、上位者による主張である。」
その理由は、単に、それだけである。

仮に、人々が、説得者を下位者だと判断した、とする。
すると、説得者が、人々に、何を主張しても、無駄である。
その場合、説得者の主張は、全く無駄である。
それは、内容的に説得力があっても、そうである。
それは、人々によって、一方的に却下される。
その理由は、次の通りである。
「それは、下位者による主張である。」
その理由は、単に、それだけである。

それは、人々にとって、以下の行為の対象になる。
（Ａ）無視。
（Ｂ）嘲笑。
（Ｃ）見下し。
人々は、次のように考える。
それは、上位者への口答えである。それは、失礼で厚かましい。
それは、人々から非難される。
その主張は、そのまま、人々には、永遠に受け入れられない。

スーパー上位者は、上位者よりも、人々にとって、より上位である。
人々は、スーパー上位者の言うことを、上位者の言うことより優先させる。
人々は、スーパー上位者に従う。
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
「上位者の意向だけでなく、スーパー上位者の意向も、考慮すること。」

仮に、説得者が、そうしなかった、とする。
すると、彼は、人々から無視される。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
（Ａ）
説得者は、以下の立場に回る。
「上位者。スーパー上位者。」
説得者は、以下の内容を、全面的に主張する。
「上位者やスーパー上位者の言説。」

（Ｂ）
説得者は、予め、自身も上位者の立場になっておく。
説得者は、予め、既存の上位者に気に入られる。
彼は、そうして、予め、社会的に昇進しておく。

（Ｃ）
説得者は、人々に対して、以下のように、主張する。
（Ｃ－１）彼は、以下の（Ｃ－１□１）から、以下の（Ｃ－１□２）を、予め探し出す。
（Ｃ－１□１）スーパー上位者の言説。
（Ｃ－１□２）彼の主張に近そうな内容。

（Ｃ－２）
彼は、その内容を、「スーパー上位者による主張」として、主張する。
彼は、その主張時に、以下のことを、絶えず明示し続ける。
「それは、スーパー上位者の主張である。それは、説得者独自の主張ではない。」

（２）
（実態）
人々は、感情や情緒で動く。
人々は、好き嫌いで動く。
「論理。理屈。科学。」
それらは、人々には、効かない。
人々は、それらを、体得できない。
それらは、人々に、不快感を与える。
それらは、人々にとって、逆効果である。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次の態度が必須である。
（Ａ）彼は、人々の感情や情緒に訴える。
（Ｂ）彼は、非科学的な精神論で動く。

（３）
（実態）
人々は、自己保身で動く。

（アドバイス）
説得者は、人々の保身に役立つ言動をしないといけない。

（３－１）
（Ａ）
（実態）
人々は、権威ある前例のみに従う。
仮に、説得者が、新たなチャレンジによる成果を訴えた、とする。
すると、人々は、それを、以下のように見なす。
「それは、前例が無い。」
人々は、それを信用しない。
人々は、それに不安を抱く。
それは、逆効果である。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
「権威ある前例。彼は、それを、豊富に暗記する。彼は、それを、必ず引用する。」

（Ｂ）
（実態）
（Ｂ－１）
人々は、古参者にのみ従う。
古参者は、人々にとって、以下の存在である。
「熟練者。定住集団内部への長期加入者。定住民。彼は、信頼できる。彼は、貴重な生活経験を、長期間にわたって積んでいる。」
彼は、前例の習得者、保持者である。
彼は、そのため、人々から尊重される。
仮に、人々が、説得者を古参者と見なした、とする。

すると、人々は、彼を、重視する。
（Ｂ－２）
新参者は、人々にとって、以下の存在である。
「未熟者。彼は、前例を習得していない。彼は、経験が浅い。」
仮に、人々が、説得者を新参者と見なした、とする。
すると、人々は、彼を、軽視する。
人々は、彼を、馬鹿にして、受け入れない。
人々は、彼の主張を、一切聞き入れない。
（Ｂ－３）
流民は、人々にとって、以下の存在である。
「部外者。彼は、どこの定住集団にも入れてもらえない。彼は、信用ならない。」
仮に、人々が、説得者を流民と見なした、とする。
すると、人々は、彼を軽視し、馬鹿にして、受け入れない。
彼は、人々から邪険に扱われる。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
「彼は、古参者になる。」
（Ａ）彼は、予め、次のことを許される。「定住集団内部への加入。」彼は、そうして、定住民になる。
（Ｂ）彼は、そのまま、長期間にわたって生活する。彼は、そうして、経験をたくさん積む。

（３－２）
（実態）
人々は、安全第一、危険回避で動く。
人々は、危ない人を、徹底的に回避する。

危ない人々。
彼らは、次の通りである。
（Ａ）反抗者。彼は、上位者に盾突く。
（Ｂ）冒険者。彼は、命知らずである。
（Ｃ）犯罪者。彼は、社会規範に違反した。
（Ｄ）精神障害者。彼は、狂っている。

仮に、説得者がリスキーな態度を取った、とする。
すると、人々は、強い不安を感じる。
人々は、彼を、集団で、回避し、隔離する。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
（Ａ）彼は、人々に安全な感じを与える。
（Ｂ）彼は、次の行為を、なるべくしない。
「上位者に盾突く主張。」
（４）
（実態）
人々は、自己中心的である。
人々は、みんなの中心になって、みんなから注目され、褒められたい。
人々は、次の内容で動く。
（Ａ）見栄張り。
（Ｂ）恥の回避。

仮に、説得者が、社会的真実を訴えた、とする。
仮に、それが、以下だった、とする。
（Ａ）それは、人々の見栄を潰す。
（Ｂ）それは、人々に恥をかかせる。

それは、人々によって拒絶され、回避される。
それは、そのまま、無効になる。
それは、永遠に受け入れらない。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
（Ａ）彼は、人々の見栄を実現する。
（Ｂ）彼は、人々に、恥をかかせない。

（５）
（実態）
人々は、閉鎖的で排他的である。
人々が所属する定住集団の内部情報。人々は、それを機密として扱う。
仮に、定住集団内部で、不正や良くないことが行われていた、とする。
仮に、説得者が、それを外部に漏らした、とする。
すると、人々は、彼を、裏切り者として扱う。

人々は、彼を、集団で、いじめて、潰す。
人々は、彼を、彼らの集団から、永久に追放する。
人々は、彼らの不正を、決して反省しない。
人々は、上位者から□責されない限り、そのままである。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
「人々の所属する定住集団。彼は、その内部告発を、なるべくしない。」

（６）
（実態）
人々は、以下の内容を好む。
「定住集団内部での、以下の維持。」
（Ａ）相互の一体感。
（Ｂ）相互の和合。
仮に、説得者が、それらを壊す言動をした、とする。
すると、人々は、それを不快に感じる。
人々は、彼を、異質者として扱う。
人々は、彼を、定住集団から追放する。
人々は、彼を、二度と、そこに入れようとしない。
説得者は、その説得に、永遠に失敗する。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
彼は、次の行為を、なるべくしない。
「人々の一体感や和合を乱す行為。」

（７）
（実態）
人々は、絶えず、以下の行動をする。
（Ａ）人々は、相互に同調する。
（Ｂ）人々は、相互監視をする。
（Ｃ）人々は、団体行動をする。

仮に、説得者が、以下の態度を取った、とする。
（Ａ）彼は、個人行動をする。
（Ｂ）彼は、以下を主張する。「個人の自由独立の重視。」

（Ｃ）彼は、以下を主張する。「個人のプライバシーの確保の必要性。」

人々は、それを不快に感じる。
人々は、彼を、以下のように見なす。
「邪悪な人物。彼は、相互同調を拒否する。」
人々は、彼を、集団で、いじめて、潰す。
人々は、彼を、集団から、永久追放する。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
（Ａ）彼は、人々に絶えず同調する。
（Ｂ）彼は、個人行動を、なるべくしない。

（８）
（実態）
人々は、メンタルが、やわで、傷つきやすい。
仮に、説得者が、人々を、ちょっと批判した、とする。
すると、人々は、それだけで、大きなショックを受け、傷つく。
人々は、それを、しつこく根に持つ。
人々は、それを、いつまでも、許さない。
批判は、人々の人格そのものを、傷つける。
それは、人格攻撃と見なされる。
それは、人々によって、拒絶される。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
（Ａ）彼は、人々を傷つけることを言わない。
（Ｂ）彼は、人々を、直接的に批判しない。
（Ｃ）彼は、人々に対して、取り入り、共感し、忖度をする。
（Ｄ）彼は、人々に対して、心地よいことを言う。

（９）
（９－１）
（Ａ）
（実態）
人々は、互いに事前に合意しないと、動かない。
仮に、説得者が、次の（Ａ－１）の状態で、次の（Ａ－２）をし

た、とする。
（Ａ－１）彼は、人々の事前の合意を、まだ得ていない。
（Ａ－２）独自判断。独自行動。

すると、人々は、それを不快に感じる。
人々は、それを、却下し、拒絶する。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
（Ａ－１）彼は、まず人々の事前の合意を得る。
（Ａ－２）彼は、次の行為を避ける。
「人々の事前の合意無しに、独自に動く行為。」

（Ｂ）
（実態）
仮に、説得者が、先走って、議論の流れを決めようとした、とする。
すると、人々は、それを拙速だ感じる。
人々は、それを、批判し、受け入れない。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
（Ｂ－１）彼は、次の行為を避ける。
「人々の議論の流れを、勝手に先走って決めようとする行為。」
（Ｂ－２）彼は、人々の議論の流れを読む。

（９－２）
（実態）
人々は、慣性で動く。
仮に、人々の議論の流れが、形成された、とする。
仮に、説得者が、それに逆らう主張をした、とする。
すると、人々は、それを不快に感じる。
人々は、それを、拒絶する。

（アドバイス）
説得者は、人々を説得する。それには、次のことの実現が必須である。
彼は、次の行為をしない。

「以下の内容を主張すること。」
人々の議論の流れが、いったん決まった状態。それに、逆らう主張。

（初出2020年7月）

女性優位社会。相互監視の積極的な実現と、プライバシーの欠如を肯定すること。

女性。
女性優位社会の人々。
彼らは、以下の内容を、指向する。

周囲の他者への相互監視。
その実現。
そのために、以下のような行為を、行うこと。
それを、恒常的に、行うこと。
それを、平然として、行うこと。
（１）
個室の否定。

大部屋。
そこでは、プライバシーが、一切存在しない。
そこにおける、共同作業。
その実行を、重視すること。

（２）
集合住宅における、壁の薄さ。
そのことがもたらす、隣人のプライバシーの流出。
それらの、積極的な肯定。
それらの、推進。
それらの、維持。

（３）
（３－１）

広い部屋に、分散して居住すること。
それを、否定すること。
（３－２）
狭い部屋に、密集して居住すること。
それを、肯定すること。

（４）
彼らが所属する、定住集団。
その内部において、以下の行為を、積極的に実行すること。
（４－１）
周囲の他者のプライバシー。
それを、暴露すること。
（４－２）
周囲の他者に関する、噂話と悪口。
それらを、周囲に向けて、流布すること。

（初出2021年3月。）

女性優位社会。定住生活様式中心社会。そうした社会において、統合失調症患者が、迫害を受けること。その原因。

女性優位社会。
定住生活様式中心社会。
そうした社会において、統合失調症患者が、迫害を受けること。
その原因。

(1)
危険な人物であること。

陽性症状。

(1-1)
気が狂っていること。
彼自身は、そのことについて、自覚が無いこと。

周囲の他者にとって、制御不能な存在であること。

(1-2)
妄想に取り付かれること。
彼自身は、そのことについて、自覚が無いこと。
周囲の他者に対して、危害を加えてくること。

(1-3)
安全第一、保身第一の社会のルールに対して、真っ向から刃向かってくる、危険な存在。
社会の基盤に対して、破壊行為を行う、有害な存在。

(2)
不調和な人物であること。

定住集団内部における調和。
その破壊者であること。

定住集団内部に置いておけない存在。
定住集団内部から抹消すべき存在。
定住集団内部から追放すべき存在。

(2-1)
集団内部の意見が、事前の了解によって、一致している状況で、異論を述べて来ること。
周囲の意見や、上位者の意見に対して、公然と反論して来ること。

(2-2)
個人行動を好むこと。
抜け駆けを好むこと。

(2-3)
周囲の他者との間で、コミュニケーションを取ろうとしないこと。
彼自身の世界の中で、閉じこもって過ごそうとすること。
行動面で、独自性が強いこと。
協調性に欠けること。

(3)
定住集団内部におけるモチベーションを落とすこと。

陰性症状。

寝てばかりであること。
働かないこと。
動かないこと。
勤勉さに欠けること。

(4)
定住集団内部。
周囲の他者との間で、生活サイクルを、同調させること。
それが、出来ないこと。

陰性症状。

昼夜が逆転した生活を送ること。
定時の入場と退場を、毎日、守ることが出来ないこと。

(結論。)
結局、統合失調症患者は、以下の存在である。

//
社会的に隔離すべき存在。
社会的に抹消すべき存在。
社会的に有害な存在。
//

彼らは、精神病院や作業所へと、一方的に隔離される。

(2021年5月初出。)

女性優位社会としての稲作農耕民社会

稲作農耕民の社会は、典型的な女性優位社会である。例えば、日本である。
そこでは、稲作農耕社会を構築する過程で、以下のような、行動様

式が求められた。
（１）集団による一斉行動。田植えや、刈り取りなど。
（２）一カ所への定住。
（３）農業水利面での、周囲他者との、緊密な、相互依存関係の樹立。
（４）集約的農業による、高密度人口分布。

そうした行動は、湿っている。それは、液体分子に似ている。

女性は、こうした行動様式を、生まれながらにして身に付けている。
（男性は、個人主義、自由主義などを、生得的に身につけている。それは、乾いている。それは、気体分子に似ている。）
そうした社会の実現には、女性の力が、強く求められた。

人々は、女性の強い影響下で、その社会の構築を推し進めた。
その副作用として、女性優位な行動様式が、男性にも強く感染した。
それは、例えば、自己保身や安全第一を重視する。
このことは、男性の「女性化」を引き起こした。
このようにして、女性優位行動様式が、支配的になった。
それは、稲作農耕民の社会全体を、包み込んだ。
そこでは、以下の構図が成立した。
「稲作農耕民の社会。＝女性優位社会。」

仮に、以下の存在を、一人の人格として、擬人化して捉えるとする。
それは、以下のように、捉えることができる。
「一人の女性。一人の女の子。」。
「稲作農耕民の社会全体。その国家の全体。」

そこでは、以下の内容において、以下の特徴がみられる。
「国全体としての、意思決定や、外交交渉。」

（１－１）明確な意思決定をしないこと。
（１－２）あいまいな態度を取り続けること。
（１－３）決定を、先送りすること。

（２－１）自分からは行動を起こさないこと。
（２－２）受動的、退嬰的であること。

（３）その時々の雰囲気に流され、メジャーな流れに追従すること。
（４）ヒステリーを起こすこと。
（戦争などで、思わず激高し、残虐行為を行うこと。）

（５）意思決定のあり方が、以下の内容であること。
（５－１）情緒的。
（５－２）非合理的。
（５－３）非科学的。
（５－４）精神主義的。
（例えば、根性論を主張すること。）

（６）閉鎖的、排他的であること。
（６－１）内部だけで固まること。
（６－２）部外者に対して、門戸を閉ざすこと。
（例えば、外国人や難民を差別すること。）

（７－１）周囲の国々に彼らがどう思われているか、やたらと気にすること。
（７－２）八方美人であること。
（８－１）先頭にならず、二番目になること。
（８－２）絶えず先頭を後追いすること。
（例えば、先進諸国に対して、絶えず追い付こうとすること。）
（９－１）有力な他国による外圧がかかって、初めて重い腰をあげること。
（９－２）外圧がないと、自主的に動かないこと。
（１０）長期的な視点を持てないこと。

そこでは、以下の存在が、女性優位な人格を持って、行動している。
（１）国家全体。
（２）社会全体。

稲作農耕民の国家・社会は、以下のように、呼べる。
「女性優位社会」。「女性優位社会」。

こうした稲作農耕民社会の女性優位な性質は、以下の地域で、共通して見られる。

日本。中国。韓国。北朝鮮。東南アジア。

こうした特質は、稲作農耕民の社会の地帯に共通のものである。
稲作農耕民の社会は女性優位社会である。
アジア的生産様式は、女性優位生産様式である。

例えば、「日本村社会」の掟は、ほぼ稲作農耕民の社会の掟、女性優位社会の掟である。

一方、牧畜民の社会は、男性優位社会として、捉えることができる。
例えば、欧米諸国である。

アメリカが日本に導入した日本国憲法は、ほぼ男性優位社会の掟である。

稲作農耕民の社会では、男性も、女性の色に染まっている。
女性優位な男性は、自分の保身に対して、敏感である。
彼らは、湿った人間関係を好む。彼らは、女性優位な中身を持っている。
稲作農耕民の男性の心理は、それに加えて、以下の特徴を持つ。
「表面上の、専制君主的な、強さ、強がり。その実現にこだわること。」

これは、女性を守る役割を取らせるため、女性によって植えつけられた。

稲作農耕民の男性は、「筋力、武力のある女性」として捉えられる。
稲作農耕民の男性は、家庭では、家計管理の権限を、女性に奪われてしまう。
父親は、以下のことしか、存在意義が無い。
「母親と子供のために、下僕になって、給料を稼ぐこと。」。

男性は、育児の主導権を、女性に奪われている。
男性は、父性を喪失した、立場の弱い存在である。
それは、男性として、劣化している。

これに対して、牧畜民の社会における女性は、以下のように、捉えられる。

「男性の色に染まった存在。男性化した存在。女性として、劣化した存在。」

（初出2020年5月）

（ご参考）人生投資家としての女性。投資先企業家としての男性。女性の社会的優位性。

この文章の内容は、筆者による書籍に掲載されています。

「Sex differences and female dominance」「男女の性差と女性の優位性」

女性優位社会の外見は、なぜ男性優位社会に見えるのか？

１．女性優位社会。強者女性は、弱者男性の存在を、故意に、偉くする。

女性は、女性優位社会における社会的強者である。
強者女性は、弱者男性に対して、以下の役割を、一方的に押し付ける。
（１）対外的な代表。
（２）責任者。

弱者男性は、強者女性によって、これらを強制的に担わされている。

そうした、弱者男性は、外部から見ると、以下の存在に見える。

（１）一見、目立つ存在。
（２）社会的に偉い、上位者としての存在。

一方、強者女性は、そうした、代表や責任者の役割を回避する。強者女性は、自分の保身を、堂々と実現する。

そうした、強者女性は、以下の存在に見える。
「社会的に劣った、下位者としての存在。」

強者女性は、そうした弱者男性を、表面上、以下のように扱う。
「社会的な上位者。偉い存在。」

彼女たちは、その存在を、盛んにもてはやす。
そのことで、次のことは、さらに強まる。
「弱者男性が、そのような存在に見える傾向。」

その社会では、以下のことが起きている。
（１）以下のような社会的な役割の存在。
（１－１）対外的な代表。
（１－２）責任者。
強者女性たちは、それらを、自己保身を行う都合で、勝手に回避する。

（２）その役割をこなす人は、表向き、以下の存在として、見なされること。
（２－１）社会的上位者。
（２－２）偉い存在。
その存在は、強者女性によって、もてはやされる。

（３）その役割を実際にこなす人は、弱者男性。

この傾向が、女性優位社会において、ほぼ普遍的に見られるようになっている。

これだと、女性優位社会は、外部からは、以下のような社会としてのみ、見えるようになる。
「男性優位社会。その社会では、男性は、偉い。彼は、上位者である。」。

そこでは、以下のことが、人為的に詐称されている。

「弱者男性の持つ、表面的な、社会的偉さ。」。

それは、強者女性によって、行われている。

この結果、人間社会には、外部からの見かけでは、以下のタイプしか存在しないことになる。
「男性優位社会。男性が偉いか、偉そうに行動する社会。」

これが、人間社会では、以下の事態を生んでいる。
（１）以下が、世界標準の存在と見なされる事態。
（１－１）男性優位社会。
（１－２）男性の社会的な優位。

（２）以下の存在が、世界的に、なかなか発見されにくい事態。
（２－１）「女性優位社会。その社会は、女性優位である。」

女性優位社会、女性中心社会は、女性優位男性を生成する。彼は、社会的弱者になる。
彼は、例えば、父親である。
社会的強者の女性は、彼に対して、以下の役割を、押し付ける。
（１）対外的な代表。
（２）責任者。

彼女たちは、そうした父親を、表面上、以下のように見せかける。
（１）偉い上位者。
（２）権力者。

彼女たちは、そうして、以下の社会を、生成する。
「疑似父権社会。」

これは、次の社会で起きる。
「植物栽培メインでの食糧確保に、依存する社会。」
（例えば、稲作農耕や畑作農耕を行う社会。）

それは、女性向きの社会である。

そこでは、伝統的に、以下のことが起きている。
「母親が、子育てで、主導権を握ること。」。

そのことにより、以下のことが起きている。
「息子の持つ、男性優位精神が、消去されること。息子の精神の女性化。」。

東アジアの中国における、孟母三遷の教えが、その実例である。

中国では、女性による社会支配が行われている。
それは、巨大血縁家族集団の社会である。それは、実質、女性優位である。それは、女性中心社会である。

巨大血縁家族集団は、典型的な、年齢階梯制を敷いている。
それは、以下のような社会である。
（１）親や年長者は、前例、しきたり、経験を、積んでいる。
（２）親や年長者は、そうして、年少者に対して、上位者になれる。

そうした社会は、以下を信奉する。
「以下の存在が、永劫的に有効であること。」
「昔からある、伝統的な、前例や、しきたり」。
人々は、その通りに動けば、必ず失敗無く、成功できる。
それらは、そうして、身の安全や、保身を、その場で保証してくれる。

そうした社会は、以下の行為を、徹底的に排除する。
「チャレンジ行為」。積極的にリスクを取って、今までに無い新知見を得る行為。

その行為は、危険であるとして、排除される。

それは、女性優位な社会規範である。
それは、儒教の根本である。

彼らの大規模血縁家族集団は、儒教によって動く。それは、年齢階梯制を基本とする。
彼らは、その点でも、女性中心社会である。
以下の二つの兼ね合いを、どう解決するかが、課題である。
（１）彼らが持つ、女性優位性格。
（２）彼らが重んじる、疑似父権社会。

彼らは、本来、女性優位なのに、なぜやたらと疑似父権にこだわるのか？
その根本理由の解明が必要である。

彼らの社会では、以下のことが起きる。
弱者男性は、家庭内で、劣等者扱いされる。
（１）彼らは、母や妻といった強者女性に対して、絶えず絶対服従を強いられる。
（２）彼らは、強者女性たちから、頻繁に、虐待の対象になってしまう。

そうした、弱者男性が、疑似父権社会で、なぜ次のような扱いになるか？
（１）トップとしての扱い。
（２）名誉職としての扱い。
そのメカニズムの解明が必要である。

その解明は、以下のように行われる。
（１）女性は、リスクやチャレンジが大嫌いである。
（２）女性は、それゆえ、以下の行動を、重視する。前例や、しきたりを守り、存続させること。
（３）女性は、それに従っていれば、確実に身の安全が保証される。

女性が、そうした社会の支配者になっているとする。
女性たちは、以下のように考える。
「
（１）仮に、私たちのところに、外部から、何らかのリスク要因が、飛び込んできた、とする。
（２）それは、そのままでは、私たちの保身や安全を、根本から脅かす。
（３）それは、とっても危ない感じである。
（４）なので、以下のことは、避けなくてはならない。
（４－１）私たちの内部に対して、リスク要因が侵入すること。
」

女性たちは、男性を育てる過程で、以下のことを行う。
それは、女性優位な社会規範に沿う。
「男性が持つ、基本的な男性優位精神を、消去すること。」。

それは、以下の考えに基づく。
「男性優位精神は、社会的に有害である。」

一方で、女性化した男性には、以下の内容が、身体的に残る。
「以下の存在に対して、対抗し、攻撃する能力。」
（１）外部のリスク要因。外部から、自分たち女性優位集団の内部に侵入する、危険な存在。
（２）外部において、自分たちの社会と敵対する存在。

女性化した男性において、残存する能力は、以下の通りである。
（１）「ガードとしての能力。」。筋力。腕力。武力。
（２）「対外的な能力。」。外部を見張る力。対外交渉力。対外戦略立案力。

女性たちは、女性化した男性を、以下のことに使う。
（１）彼は、女性たちを、リスク要因から、防御する。
（２）彼は、リスク要因に対して、反撃する。

女性たちは、そのことで、以下のことを、実現する。
「自分たち、女性優位な社会集団の勢力を、拡大させること。」。

女性優位社会の女性たちは、以下のことに強く迫られた。
「女性優位男性を、社会的に、何とか活用する必要性。」。

その存在は、以下のように活用される。
（１）「人間の盾」。
女性の支配する内部集団に、リスク要因が侵入した場合。
彼は、それに対する防御と撃退、さらには積極的な攻撃を行う。
そして、彼は、いざという時、女性中心社会の存続のために、死んだりして、犠牲となる。

（２）「生贄」。
女性中心社会において、女性主導の決定がなされる場合。
女性は、その決定についての決定責任を、徹底的に回避したいと考える。
そうした女性たちは、その決定責任を、彼に対して、押し付ける。

（３）
（３－１）「置き換え可能な看板。」。
（３－２）「対外的な代表。」。

「彼は、女性たちによって、責任を、代わりに、取らされる。」
仮に、女性たちによる決定が、失敗した、とする。
女性たちは、彼に対して、その首のすげ替えをする。
彼女は、そうして、以下の内容から、逃れることができる。
「部外者による、以下のことに対する、追求。」。
「私が犯した失敗。それが引き起こす、私の自己責任。」。

女性中心社会が、そうした女性優位な弱者男性を社会的に生み育てる理由は、何か？
それは、女性中心社会において、以下の存在が強く求められるからである。
それは、女性たちの自己保身のために、必須である。

（１）「内部社会の広告塔」。
彼は、以下のことを、対外的に、明言し、主張し、宣伝する。
その社会において、以下の状態が保持されていること。
（１－１）その社会の内部が、平穏で無事であること。
（１－２）その社会において、「内部での安心さ」が確保されていること。

（２）「軍隊」。彼は、外部からのリスク侵入に抗戦して、以下のことを行う。
（２－１）防御。
（２－２）進撃。

（３）「生贄としての代表者」。
もしも、女性中心社会の内部で、メンバーによる失政、失敗があったとする。
彼は、その時に、その女性中心社会の代表として、責任を取って、いけにえとなる。
そのことで、以下のことが行われる。
女性中心社会の内部で、以前の代表者から、新たな代表者へと、首が挿げ替えられること。
そうして、女性中心社会の内部で、以下のことが実現する。
（３－１）メンバーの保身が、楽々と保たれること。
（３－２）メンバーの無謬性が維持されること。

女性優位男性は、精神が女性優位化している。彼らは、以下の役割を、強制される。
「外部向きの「広告塔」。「軍隊」。「代表者」。」。

彼らのような、女性優位男性は、女性中心社会の中では、社会的適応力が大きく減退している。
彼らは、以下の対象になる。
「奴隷化。虐待。」。
彼らは、その社会的な価値は、大きく低下している。

しかし、彼らは、以下の面では、能力が残存している。
「武力。リスク要因の侵入に対する、反撃力。」。

女性中心社会は、彼らに対して、以下の扱いを行う。
『対外リスクに対して、直接、対応する存在。「人の盾」。』。

女性中心社会は、彼らに、社会において、次のようになってもらうことを望む。
『「代表者」。「広告塔」。「捨て駒」や「いけにえ」。』。

そのため、実質的には、その社会は、女性優位中心社会になっている。
その社会では、女性が、強権を振るう。

男性は、女性によって、精神の女性化を強制される。
男性は、そうした後でも、以下の力を残存させ、備え続ける。
「筋力。武力。外部を見張る力。対外交渉を行う力。対外戦略を立案する力。」。
それらは、数少ない、男性優位な能力である。

しかし、男性は、結局は、女性優位な社会規範の中で、弱者として生きる。
そうした、女性優位男性は、社会の中で、以下の存在に、就任する。
「社会の代表者。広告塔。」。

女性優位中心社会では、以下の権限は、当然ながら、女性側にある。
「出産、子育てにおける、主導権。」。

女性中心社会では、以下の存在を、生み出さないといけない。
『「広告塔」「代表者」になる、女性優位男性。』
その存在は、少なくとも、誰か一人は必要である。誰かが、それに

なる必要がある。

それは、女性による主導で、生み出される。女性は、出産と子育ての権力を握る。
仮に、女性が、そうした女性優位男性を、出産、子育てした、とする。
女性中心社会は、そうした女性に、以下のことを保証する。
「彼女にとって、以下の内容が、大いに向上すること。」
（１）彼女の社会的地位。
（２）彼女が社会的に優遇されること。その度合い。

つまり、女性中心社会は、彼女に対して、社会的に、下駄を履かせる。
そうして、女性中心社会の中で、次の社会的傾向が生じる。
「女性優位男性を、積極的に生んで、子育てしようとする傾向。」

そうした、女性優位男性は、本来、女性中心社会の中では、弱者であり、避けられる存在のはずである。
しかし、彼は、この措置で、ある意味、優遇される。

女性中心社会においては、以下の必要がある。
（１）外部からのリスク要因侵入に備える必要。
（２）社会内部の安寧維持を実現する必要。
「対外的代表者」は、以下の存在である。
彼は、これらの必要を満たすために、責任を取らされる。

女性中心社会では、こうしたリスクのある役割を、女性優位男性に押し付ける。
女性中心社会の内部では、こうした、女性優位男性の創出を、絶えず行う必要がある。
女性中心社会では、以下のことが必要である。
「男性は、その社会において、対外的代表者になる。」
「そうした男性の確保が、恒常的に必要である。例えば、父親。」

これが、以下の現象を生み出す。
（１）その社会のあり方は、女性中心社会のままである。
（２）次の役割を、男性、父親が、表向き、常に、代々にわたって果たす。その役割は、その社会における「代表者」や「広告塔」である。
その男性や父親は、女性優位な弱者男性、女性優位な父親である。

（３）女性は、強迫的に、男性の出産と、その育児に励む。それは、以下の実現を目的として、行われる。
『そうした役割の男性の存在が、決して途切れないこと。』

そうして、「疑似父権社会」が誕生する。それは、以下のような内容を持つ。
（１）女性の権力が極めて強い、女性中心社会。
（２－１）その社会では、男性が、女性化して、弱者として扱われる。
（２－２）その社会は、女性優位男性、女性優位な父親を、「代表者」や「広告塔」として活用する。
（２－３）その社会は、そうした、「代表者」や「広告塔」を、絶え間なく、連続的に確保する。

それは、例えば、儒教社会である。それは、中国、韓国などに見られる。

疑似父権社会は、以下の内容を、持続させようとする。
（１）女性中心社会。
（１－１）以前通り、伝統的に女性の力がとても強い社会。
（１－２）男性が精神を女性化される社会。
（１－３）男性が、社会に上手く適合できない「社会的弱者」として、捉えられる社会。
（１－４）弱者男性が、強者女性による支配や虐待の対象になる社会。
（１－５）女性優位な社会規範が、通用し続ける社会。

（２）女性が、女性優位男性を、「広告塔」や「代表者」の地位に就任させる社会。
（２－１）女性が、男性に、以下のことをさせる社会。外部リスク要因に対して、身を張って対応すること。
（２－２）男性が、女性中心社会での失政責任を、女性に代わって切らされる社会。
（２－３）男性が、以下のことを、外部に向けて、宣伝する社会。
（２－３－１）「その社会の勢力の強さ。その社会の興隆。」。

男性は、そのことを、女性によって強制される。

（３）女性が、そうした、代々の「広告塔」「代表者」の確保に対して、必死になる社会。

（３－１）女性が、女性優位男性を、代々、その役割に就任させ続ける社会。
（３－２）その状態の永続的維持を、母親たちが、必死になって行う社会。母親は、出産、子育てで主導権を握る。母親は、女性中心社会の支配者である。

以下の（１）が、以下の（２）を、必然的に、生み出している。
（１）社会の女性中心性。女性による社会支配。
（２）社会の表向きの「疑似父権的な性質」。

こうした社会の男性は、以下のような状態にある。
（１）男性は、見かけは、広告塔や代表者扱いである。男性の、対外的な社会的地位は、一見高い。
（２）男性は、以下のことを、対外的に保護、隠ぺいしている。社会内部における、女性による実質的な社会支配。
（３）男性は、武装面での張りぼてである。それは、社会内部における女性を、外部からの直接のリスク侵入から守る。

こうした社会では、女性は、いつでも自分たちの保身を最優先させる。男性は、そうした女性たちの「生贄」になっている。

例えば、中国の漢民族の皇帝は、以下のような背景で誕生する。
（１）個々の、大規模血縁家族集団は、女性中心社会である。
（２）そうした、大規模血縁家族集団が複数集まる。そうして、一時的な寄り合い所帯が形成される。
（３）その中で、ある大規模血縁家族集団が、一番強い勢力を持っている。
（４）その最強の血縁集団の「代表者」「広告塔」が存在する。それは、一人の女性優位男性である。
（５）彼が、全体社会の「代表者」「広告塔」の地位に就任する。

儒教の中国は、見かけは、男性による強権政治である。
しかし、それは、実際のところは、年齢階梯制度に全面的に依存している。
年齢階梯制度では、ある人物の年齢の高さによって、その人物の社会的地位の上下が決まる。
年齢は、その人物への、伝統的前例、しきたりの集積度を示す指標である。
この考えは、前例、しきたりを何よりも重んじる、女性優位な社会規範の根本である。

その点、こうした、年齢階梯制度を採用する儒教は、女性優位な社会規範なのである。

科挙制度は、中国の歴代王朝における、役人登用の試験制度である。
その試験においては、以下の人物が、役人として登用される。
以下の（１）の対象に対する、（２）の能力に優れた者。
（１）古代からの前例、しきたり。
（２）暗記量。暗記の細かさ。その運用能力。

中国のような儒教社会は、その点でも、以下の存在に従っている。
「女性優位な社会規範。」
それは、前例、しきたりを偏重する。

中国における、男性皇帝による強権政治は、実態としては、女性優位社会規範に忠実に従っている。
その社会を支配しているのは、女性である。

儒教社会の中国社会は、以下のようにまとめられる。
（１）儒教社会は、女性中心社会である。それは、定住生活様式を前提とする。それは、以下の内容で動く。前例やしきたりを重視する価値観。それは、女性優位な価値観である。
（２）儒教社会では、実際の支配者、権力者は、以下のような女性である。子育ての主導権を独占する母親。
（３）儒教社会は、大規模な血縁家族集団の集まりである。各集団は、女性中心社会である。各集団の代表者は、女性優位男性である。儒教社会は、見かけ上、疑似父権社会になりやすい。
（４）儒教社会では、大規模家族集団は、各々独立した存在である。
各集団は、以下を、絶えず目指す。
（４－１－１）各集団の興隆。
（４－１－２）各集団が持つ支配力の強化。
各集団は、そのために、以下のことを、永続的に繰り返す。
（４－２－１）集団同士の合従連衡。
（４－２－２）集団の間での、対立抗争。

（初出2020年5月）

２．女性優位社会。強者女性は、対外的なガード役の男性を、強く見せる。

女性は、男性より、生物学的に、優位だったり、劣位だったりする。

（１）女性が、男性よりも、生物学的に、優位である側面。

（１－１）女性は、以下のものを備える。
「女性器。生殖面における、本格的な、身体資本。」。
女性は、そこが貧弱な男性に比べて、優位である。女性は、以下の存在である。
「女性は、生物学的に、高貴で、貴重である。」
「女性の生物は、大切に保たれる。」
女性は、以下の権限を、遺伝的に保有している。
（１－１－１）自己の保身を最も優先する権限。
（１－１－２）男性から守られる権限。
その点、女性は、男性よりも優れている。
女性は、男性よりも優位者、上位者である。
女性は、男性に対して、とかく、尊大な強者としての態度を取る。

（１－２）女性は、女性器を独占する。
女性は、セックスするかどうかの許認可権限を持っている。
そのため、女性は、強者として行動する。
男性は、女性に対して、セックスしてくれるよう、必死にお願いする。
男性は、弱者の立場になってしまう。
女性が、男性に対して、強者の態度を取るのは、これらが原因である。

（２）女性が、男性よりも、生物学的に、劣位である側面。
女性の身体は、以下のような特徴を持つ。
（２－１）女性は、身体の筋力が、緩くなっている。それは、出産対応のため、遺伝的に、生じている。
（２－２）女性は、身体が、小ぶりになっている。

女性は、そうした身体能力の面では、男性よりも、劣っている。

女性は、男性よりも、劣位者、下位者である。
この点、女性は、男性から、身体的に守られ、助けられる存在になる。
女性は、そのことを、男性に対して、下手に出て、お願いしなければならない。
女性が、男性に対して、弱者の態度を取るのは、これが原因である。
女性が、男性に強姦されるのも、これが原因である。

上記の点で、女性は、生物学的に、以下の点を自覚する。

（１）
女性は、自分が持つ、生物学的貴重性の高さを自覚する。
女性は、それに基づいて、自分が持つ、社会的身分の高さを自覚する。
女性は、それに基づく自己保身を最優先させる。
女性は、自分の身体を、自分より下位者に当たる男性にガードさせようとする。

（２）
女性は、自分の身体能力の低さを自覚する。
女性は、そのことをカバーしてくれる、自分より身体能力の高い存在を求める。
女性は、自分のことを、男性に、ガードさせようとする。
女性は、以下のように考える。
「男性は、自分より、身体能力が高い。なので、男性は、自分より社会的に上位者になる。」

以上をまとめると、次のようになる。
女性は、生物学的側面からは、以下の存在になろうとする。
「身の安全を、保証される存在。」

女性は、そのために、次のような存在になろうとする。
「社会的、集団的に、より内側に分布する存在。」

女性は、それを実現するために、自分より外側にガード役の男性を配置しようとする。

その場合、女性は、自分の身の安全を、より高くしようとする。
（１）女性は、そのために、以下の内容を、とても高く見せようとする。
「男性が持つ、「ガードする能力」。」。」

（２）女性は、その点で、以下の内容を、強調する。
「私をガードする男性の強さ。」

（３）女性は、そのことで、自分のことを、相対的に、弱く見せる。

この点で、以下の言説が、人間社会的に広くまかり通る。
（１）「男性は、一般的、普遍的に強者である。」
（２）「女性は、一般的、普遍的に弱者である。」

一方、生活環境との関連では、人間社会は、以下のように分類される。
（１）移動生活様式中心の社会。遊牧民、牧畜民の社会。
この社会では、そうした移動生活様式が、人々に対して、以下のことを要求する。
「個人の自由行動を中心に動くこと。」
これは、男性の心理に適合している。
その社会は、男性優位になる。その社会は、男性優位になる。

（２）定住生活様式中心の社会。農耕民の社会。
この社会では、そうした定住生活様式が、人々に対して、以下のことを要求する。
「個人が、定住居住集団単位で動くこと。個人が、その中で、以下の実現を中心に動くこと。」
（２－１）相互に、心理的に同調し、一体化すること。それを維持すること。

これは、女性の心理に適合している。
その社会は、女性優位になる。その社会は、女性優位になる。

ここで、次のことを考える。
「定住生活様式中心社会である女性優位社会で、女性が社会的に優位な立場にいる場合。」

女性は、次の存在になろうとする。それは、その社会的優位性とは別口で、推進される。
「自分の身の安全を保証される存在。社会的、集団的により内側の安全地帯に留まる存在。」

女性は、自分より外側の危険地帯に、ガード役の男性を配置しようとする。
そして、そうした女性は、自分を守るガード役の男性を、武装させる。彼女は、彼を、強く見せようとする。

女性優位社会では、以下のことが起きている。
（１）女性は、本来、社会的強者、社会的上位者である。
（２）男性は、本来、社会的弱者、社会的下位者である。
男性は、女性に対して、下僕や奴隷のような、劣悪な立場に置かれている。

女性優位社会の女性は、そうした弱者男性の存在を、以下のように扱う。
（１）その存在を、あたかも、社会的な強者、上位者であるかのように、持ち上げること。
（２）そのことを、大げさに、もてはやすこと。
女性は、以下のことを、対外的に、必死で隠ぺいする。
「弱者男性が持つ、本来的な弱さ。」。
女性は、以下のことを、対外的に、堂々と詐称する。
「弱者男性における、表面上の、社会的な強さ。その社会的な上位性。」。

例えば、女性優位社会でも、戦乱が多く、社会の治安が悪い時代が続く場合がある。
例えば、中世から近世の日本がそうである。
（１）人々は、女性を含めて、自分たちの身を守る必要が出る。
（２）人々は、強力に武装して、身体面でのガードを強くする。
（３）人々には、以下の必要が、生じる。
「外部に対して、我々のことを、強く見せること。」

そうした女性優位社会では、
社会的強者の女性は、以下のことを行う。
「以下のことを、外部に向かって、より大声で、連呼すること。」。
「社会的弱者の男性が持つ、見かけ上の強さ。」

そのことで、女性は、以下のことを、必死で隠ぺいし続ける。
「女性優位社会における、男性の本質的な立場の弱さ。」。

これは、以下の場合、顕著である。
「女性優位社会が、「武家社会タイプ」である場合。」。
例えば、日本。

女性優位社会では、以下のことが、起きる。
（１）以下の状態が、強固に持続する。
「女性が、社会的な優位性や、上位性を、持っている状態。」
（２）男性は、いつまでも、社会的弱者のままである。

一方、女性優位社会では、以下のことも、起きる。
（１）社会的弱者の男性は、以下を、ガード役として、取り巻いて、守る。「社会的強者の女性の外周。」
（２－１）そうした男性について、その社会的強さが、詐称される。
（２－２）それは、以下の内容を、強くする。
「男性の、表面上の、対外的な見かけ。」
（３）その詐称は、女性によって、人為的、意図的になされる。
そうした女性こそが、本来の、社会的上位者である。

こうして、女性優位社会では、以下の内面が、外部からは、ほぼ完璧に隠ぺいされる。
「女性が持つ、社会的な優位性や、上位性。」

そのため、女性優位社会は、外部社会からは、以下として、認識されることになる。
「男性が本来的に強い「男性優位社会」。」

結果として、人間社会には、外部からの見かけでは、以下しか存在しないことになる。
「男性が強いか、強そうな社会。男性優位社会。」。

これが、人間社会では、以下の事態を生んでいる。
（１）以下の存在が、世界標準と見なされる。
「男性優位社会。男性が持つ、社会的な優位性。」
（２）以下の存在が、世界的になかなか発見されにくい。

「女性優位の社会。女性優位社会。」

（初出2020年5月）

３．男性優位社会と、女性優位社会との相互作用。それは、副作用をもたらす。

女性優位社会の人々は、もともと、以下のような体質の持ち主である。
（１）人々は、自分の保身や安全の確保が最優先である。
（２）人々は、前例、しきたり偏重である。
（３）人々は、以下のことが大嫌いである。
「危険を伴う、未知へのチャレンジ。」
（４）人々は、前近代的で、後進的である。
こうした女性優位社会の人々は、男性優位社会との新たな交流によって、以下の内容に触れる。
「男性優位社会における、新たな知見」。
その新知見は、先進的な内容である。それは、積極的なチャレンジ精神に基づく。
こうした新知見生成の根源には、男性優位な価値観が存在する。それは、以下の通りである。
「自分たちは、以下を、自主的に実行するのだ！それは、チャレンジ精神に基づいて、ブレークスルーを引き起こす行動だ。」

女性優位社会の人々は、それに対して、以下のような考えを持つ。
（１）私たちは、こうした実行が、本質的に苦手で、大嫌いである。
（２）私たちは、その実行を、社会的に、拒絶する。
（３）それゆえ、私たちは、以下の（３－１）には、以下の（３－２）の態度を取るしかない。
（３－１）こうした男性優位社会がもたらす、新知見。
（３－２）私たちは、そうした新知見には、私たちの独力では、到底到達できない。
（４）男性優位社会がもたらす、新知見。それは、とにかく驚異的で、素晴らしい！
女性優位社会の人々は、そうした新知見の内容に社会的、心理的に

圧倒される。

そして、女性優位社会の人々は、以下の（１）を、以下の（２）のように、捉える。
（１）そうした男性優位社会がもたらす、新知見。
（２－１）それは、新たに生み出された前例である。それは、世界的に有効で、先進的である。
（２－２）それは、私たちのような、女性優位社会にとっても、とても有効であるはずである。」
女性優位社会の人々は、それに、無批判に、我先に、飛び付く。
人々は、その物まねや、導入をしようとする。

この導入の手法は、以下を相手にする場合には、有効である。
「物を言わない物品。」
しかし、それは、以下を相手にする場合には、問題が起きる。
「物を言う人間が持つ社会思想。」

女性優位社会は、場合によっては、そうした先進的な男性優位社会を、以下のように扱う。
「私たちにとっての、上位者。」。
そうした女性優位社会の人々は、以下の内容を、盲信するようになる。
「男性優位社会の価値観。」
彼らは、それを、自分たちの社会に対して、以下のようにして、導入を図るようになる。
（１）それは、上から目線で、行われる。
（２）それは、反論不能な形で、行われる。
（３）それは、一方的に、行われる。
（４）それは、強制的に、行われる。

しかも、彼らは、それらの根底にある考え方を、理解、体得することが、全くできない。
それは、以下の考え方である。
（１）個人の自由独立を、重視すること。
（２）個人行動、個人的思考を、重視すること。

女性優位社会の人々は、男性優位社会と出会う。
そのことで、彼らには、以下の機会が生まれる。
「女性優位社会と、男性優位社会とで、その内容を比較する機会。」。

そして、彼らは、以下のことをとても気にするようになる。
「女性優位社会が本来的に持つ、前近代的で、後進的な体質。」。
彼らは、以下のことを、しきりに考えるようになる。
「私たちには、以下のことが必要だ。私たちが持つ、こうした体質の克服、解消。」

男性優位社会は、以下の内容を、盛んに生み出す。
「社会体制を変革するための、斬新な思想。その内容は、新機軸のアイデアに基づく。」
それは、その社会の持つ、男性優位な価値観に沿った内容である。

女性優位社会の人々は、以下の内容に染まり、感化される。
「そうした、社会体制を変革する思想。それは、男性優位な内容を持つ。」
女性優位社会の人々は、それを、強引に実現しようとする。

仮に、それが、実現された、とする。
すると、その女性優位社会は、表向きは、以下のような外観になる。
「その社会は、以下の内容で動いている。」
「男性優位な価値観。男性優位な社会規範。」。

そして、女性優位社会の人々は、社会の内部で、次のことを、社会的に禁じられる。
「人々が、次の事実を、表立って口にすること。」
その事実とは、以下のものである。
「自分たちの社会の中では、以前の女性優位社会規範が、何事もなく、そのまま存続している。」。

女性優位社会の内部では、次のことが発生する。
『次の存在が、社会において、表面的に、不可視になること。
「昔ながらの、伝統的な、彼ら本来の女性優位社会規範。」
その存在が、社会の水面下に隠れて、潜在化すること。』

実際には、女性優位社会の人々は、男性優位価値観を、理解できない。
彼らは、その価値観を、受け入れることが、内心では、できない。
その状態が、そのまま続く。
なので、女性優位社会では、女性優位価値観や女性優位社会規範は温存される。

それは、実効性を、強力に維持し続ける。

そのため、女性優位社会では、以下の状態が起きる。
（１）その社会では、男性優位価値観は、表面的に、盲信の対象として、採用されている。
（２）その社会の内部では、次のことが、一切許されないままである。
（２－１）個人の思考の自由。
（２－２）個人行動の自由。
（２－３）批判の自由。
これらは、男性優位価値観の本質である。

そうした女性優位社会では、男性優位価値観を、以下のように、強制的な信仰の対象とし続ける。
（１）人々は、その価値観への、異論、反論は、一切許されない。
（２）人々は、以下のことを、社会的に、強制される。
（２－１）その価値観を、みんなで仲良く、一斉に唱和し続けること。
（２－２）その価値観に対して、心理的な同調や、一体性を、強く持ち続けること。

女性優位社会の人々は、みんなで、その状況に追い込まれる。
しかも、その社会の内部では、みんなが、その状況を、当然視する。
誰も、その状況のことを、変だと思わない。
（例えば、戦後の日本では、アメリカが、日本に対して、以下の内容を導入した。「自由民主主義の価値観。」日本人は、それを、今なお、みんなで仲良く、盲信し続けている。）

そうした女性優位社会では、男性優位社会による以下の思想も、同様に、強制的な信仰対象になる。
それは、「家父長制」の社会思想である。
その思想は、男性優位社会における、男性の社会的な優位を前提としている。
それは、女性を、一方的に、社会的弱者とみなす。

女性優位社会規範は、以下のことを許さない。
「人々が、この思想に対して、異論や、反論をすること。」
女性優位社会の人々は、以下のことしか、できない。
「人々が、この思想を、みんなで仲良く、一斉に、唱和し続けるこ

と。」

男性優位社会では、その社会における男性優位に関して、次のような考え方がある。
（１）男性優位の現状を、当然視すること。それは、以下のことを支持する。
「家父長制が、社会を支配する状態が、続くこと。」。
（２）男性優位を崩すこと。それは、「男女平等」を実現しようとする。それは、理想論に基づく。
（２－１）フェミニズム。それは、弱者女性を、男性並みの存在にしようとする。
（２－２）マスキュリズム。それは、以下の内容を、無くそうとする。
「男性にとって不利な、社会的負担。それは、強者男性が、社会的に、一方的に負わされている。」

これらの考え方は、いずれも、女性優位社会に、直輸入されている。
これらが導入された女性優位社会では、これらへの反論の自由が許されていない。
仮に、女性優位社会に、これらの男性優位の思想が導入された、とする。
その場合、人々は、女性優位社会で生きていくために、次のことを強制させられる。
「それらの考え方の中で、少なくとも一つを、必ず信仰すること。」

仮に、女性優位社会において、以下のことが起きた、とする。
「その社会において、以下の内容が、新たに、表面的に導入された。」
「先進的な、男性優位な社会体制。」
その状態になると、その社会の内部では、以下の行為は、一切許されない。
（１）本来の女性優位社会規範を、公式に、表に出す行為。
（２）以下の内容に反論する行為。
（２－１）「男性優位な価値観。それは、その社会へ、表面的に導入された。」。

人々は、以下のように考える。
「こうした行為は、以下の内容と同じである。」

「私たちの社会体制に対する、本質的な批判。」

そうした女性優位社会では、以下の状態が発生する。
（１）その社会では、表面的には、「男性優位価値観への信仰」が、要求される。
（２）その社会では、「そうした男性優位価値観」は、以下の（２－１）の観点からは、実際には、以下の（２－２）の対象として扱われる。
（２－１）人々が、実際に守るべき社会規範。人々が、実際に取るべき行動。
（２－２）それは、社会的には、完全に、否定され、抹殺される。
人々は、以下に従って生きるしかない。
「女性優位価値観。女性優位社会規範。」
それらは、強力な実効性を持つ。

そこでは、女性優位の思考が全面的に保たれ続けている。
これは、以下のことの、確実な証拠である。
「女性優位社会の実在。」。

女性優位社会は、以下の状態を、表面的に維持している。
「その社会は、「こうした男性優位価値観」への支持を表明している。」

女性優位社会は、それによって、以下の体裁を持続している。
（１）「偽物の、男性優位社会。」。
（２）「見かけ上の、家父長制社会。」。

このことは、男性優位社会の人々に対して、以下の誤解を与えている。
「彼らの社会は、自分たち同様に、男性優位社会なのだ。世界には、女性優位社会は存在しないのだ。」。

現状の女性優位社会は、以下のことを、拒絶している。
「その社会が持つ、女性優位な本質を、外部に対して明らかにすること。」

このことは、次のような誤解を、外部の人々に対して、与えている。
（１）「人間社会は、普遍的に、男性優位社会であり、男性優位である。」

（２）「人間社会では、女性優位の社会は、存在しない。」
（３）「人間社会では、女性は、普遍的に、社会的弱者である。」

この誤解は、次の人々の間に起きている。
（１）当の本人たち。女性優位社会の人々。
（２）外部の人々。男性優位社会の人々。
結局、このことについて、世界中の人々が、誤解を起こしている。

女性優位社会の取っているこうした現状は、社会的性差の研究にとっては、極めて有害である。
このことは、何とかして、解決されるべきである。

女性優位社会は、男性優位価値観の表明を、表面的に維持し続ける。
女性優位社会は、それによって、以下の体裁を持続する。
（１）「偽物の、男性優位社会。」。
（２）「見かけ上の、家父長制社会。」。

一方、女性優位社会は、その女性優位本性を用いて、以下のことを行う。
「本物の男性優位社会に対する、抑圧や支配。」。
（例えば、ロシアによる、東ドイツに対する支配など）。

あるいは、以下のことは、今後、世界社会全体レベルで、容易に発生する。
「女性優位社会による、男性優位社会に対する、本格的な支配、抑圧。」。
（例えば、中国による欧米諸国に対する支配など。）

女性優位社会の人々は、本来、以下の存在である。
「自己中心的で、尊大な精神の持ち主。」
彼らは、次第に、次のような行動を取るようになる。
彼らは、男性優位社会の人々を、危険な仕事を担当する下請け作業員として、扱う。
彼らは、男性優位社会の人々を、目下の存在と見なす。

女性優位社会の人々は、自分たちは、チャレンジせずに、安全地帯に留まる。
彼らは、自分たちの保身を、最大限に維持する。
彼らは、男性優位社会の人々に、危険なチャレンジを、一方的にや

らせる。
彼らは、男性優位社会の人々に、新知見を出させる。
彼らは、それを、直ちに横取りして、自分たちのものにする。
女性優位社会の人々は、そうした新知見に対して、以下の加工を行う。
（１）細かい微調整。
（２）小改良。
（３）品質の改善。

それらは、女性優位な人々が、本質的に得意なことである。
女性優位社会の人々は、そうすることで、元の知見の完成度を大きく高める。

男性優位社会の人々は、本質的に、以下の通りである。粗暴で大雑把な精神の持ち主。
女性優位社会の人々は、元の知見を改良して、高い完成度を実現する。
男性優位社会の人々は、それに対して、能力的に太刀打ちできない。

女性優位社会の人々は、その高度に改良された新知見を、世界社会に対して、生産し、放出する。
女性優位社会の人々は、そうして、男性優位社会の人々を屈服させる。
女性優位社会の人々は、以下の状態を維持したまま、世界社会の覇権を握る。
「「偽物の男性優位社会」としての外見を、保持すること。」

（初出2020年5月）

４．女性優位社会。性的役割分業の永続。それは、表面には出てこない。

この文章の内容は、筆者による書籍に掲載されています。

「Sex differences and female dominance」「男女の性差と女性の優位性」

５ ．女性優位社会の存在についての主張。それは世界的に消去される。

人間は、生物として、自分の立場を不利にする情報、知見の存在を許さない。
人間は、生物として、自分の立場を不利にする価値観の存在を許さない。
この性質は、男性も、女性も同じである。
人間は、自分の立場を不利にする情報、知見、価値観の存在については、隠ぺいするか、消して潰すか、のどちらかの処置を取りやすい。
こうした傾向は、特に、支配者サイドの人間において、顕著である。

人間社会では、以下のことが、まかり通っている。
「支配者サイド、社会的強者サイドに都合の悪い言論が、実質的に消去されること。」

これは、女性優位社会で起きている。そこでは、言論の自由が根本的に存在しない。
これは、男性優位社会においても、以下のようにして、起きている。
その社会では、表向きは、言論の自由がある。
そこで、仮に、誰かが、支配者批判の情報を発信した、とする。それらは、次の妨害を受ける。
支配者サイド、社会的強者サイドは、直ちに、以下の情報を、大量に出す。
「その情報とは反対の内容の情報。」
彼らは、そうして、元の情報の存在を、実質的に無かったことにしてしまう。
そうした男性優位社会は、その社会に言論の自由があっても、何も意味がない。
例えば、現在のアメリカでは、以下の（１）が、以下の（２）を、

盛んに封殺している。
（１）富裕層のマイノリティーの社会支配者たち。彼らは、マスコミを牛耳る。
（２）自分たちに反対する、現職大統領の言論。

以下のことを明示する言説は、世界中で、許されない。
「女性優位社会が存在すること。」
それは、男性優位社会からも、女性優位社会からも、許されない。
どちらの社会も、それで、自分たちが不利になる。

その言説は、世界的に抹消される。
１．それは、社会的支配者の性にとって、都合が悪い。
（１）男性優位社会の男性。その社会における支配者。
彼らの社会の女性が、その言説により、以下の内容に、目覚めてしまう。
「女性が真に強い世界が、存在すること。」
そのことは、彼らにとって、都合が悪い。
（２）女性優位社会の女性。その社会における支配者。
彼女たちの社会の男性が、その言説により、以下の内容に、目覚めてしまう。
「彼が置かれている、社会的な立場が、実は、とても悪いこと。」
そのことは、彼女たちにとって、都合が悪い。

２．それは、男性優位本性と、女性優位本性との双方を、阻害する。人々は、そのことを望まない。
（１）男性優位社会。
『その言説は、僕たちの社会にとって、以下のことの実現を阻害する。
「僕たちの社会的な価値観が、世界社会に向けて、普遍的に流布すること。」

そのことで、僕たちの持つ、自己拡大の本性が、ダメージを受ける。』

（２）女性優位社会。
（２－１）
『私たちの社会の外観は、先進性を持つ。
その言説は、以下のことを、勝手に行う。
「以下についての内部告発。」

「私たちの社会の本性が持つ後進性。」
私たちの社会は、そのことによって、その先進的イメージを傷つけられる。
私たちの社会は、次のことを実現したい。
「私たちの持つ、自己中心性の本性を、実現すること。」
その実現は、上記の言説のせいで、以下のようになる。
「事態は、その実現とは正反対の方向へと進む。その事態は、私たちにとって不都合だ。」
私たちは、そのことが、とても恥ずかしい。』
（２－２）
『私たちの社会では、以下の矛盾が、対外的に暴露される。
（２－２－１）私たちの社会の外観が持つ、先進性。
（２－２－２）私たちの社会の本性が持つ、後進性。
そのことは、外部社会から、「嘘つき」呼ばわりされて、批判の対象になってしまう。
そのことで、私たちの社会が望む、「自己保身性」が、阻害される。』

社会的性差の研究においては、研究者は、以下のことを実現する必要がある。
「世界の人々の持つ、こうした傾向に対して、何とかして、打ち勝つこと。」

（初出2020年5月）

６．女性優位社会。それは、その内実を、告白しない。

女性優位社会は、自分たちが女性優位であることを、周囲に向かって、自主的に告白するだろうか？
女性優位社会は、そのことを自分たちからは決して告白しないだろう。
その理由は、そこに、以下の二つの問題があるからである。
女性優位社会は、以下のことを気にする。
（１）「私たちは、そのことで、守られなくなる。」それは、女性優位な「自己保身性」がもたらす。
（２）「私たちは、そのことで、恥辱を受ける。」それは、女性優位な自己中心性がもたらす。

女性優位社会が、上記の告白をしない詳細な理由は、以下の通りである。
（１）
『
私たちが、そうした告白をすることで、以下のことが、周囲の外部にばれる。
「私たちが、本当は、後進的であること。」
（それは、女性優位な自己保身性に基づく。）。

そのことで、私たちの身に着けている、先進性のメッキがはがれる。
そのことで、私たちは、恥辱を受ける。
私たちは、そのことの発生を、全力で避けたい。
（それは、女性優位な自己中心性に基づく。）。
』。

（２）
『
私たちが告白をすることで、以下のことが起きる。
男性優位社会は、私たちにとっての有力社会である。
男性優位社会は、私たちのことを、以下のように、考える。
「彼女たちは、言行不一致の嘘つきである。」
「彼女たちは、その中身の真の姿が、僕たちと異質である。」

彼らは、私たちに対して、機嫌を損なってしまう。
』

（２－１）
『
その結果、彼らは、私たちのことを守ってくれなくなる。
私たちは、そのことの発生を、全力で避けたい。
（それは、女性優位な自己保身性に基づく）。
』。

（２－２）
『
その結果、以下のことが起きる。
彼らは、彼らの生み出す先進的知見を、私たちに、ちっとも渡してくれなくなる。

その結果、私たちには、以下のことが発生する。
「私たちは、先進的になることが不可能になる。私たちは、見栄を張れなくなる。」
そのことは、私たちにとって恥辱である。
私たちは、そのことの発生を、全力で避けたい。
（それは、女性優位な自己中心性に基づく）。
』。

女性優位社会が、いつまでも上記の告白をしない理由には、以下の二つの本性が、両方とも絡むのである。
それらは、女性優位な本性である。
（１）自己保身性。
（２）自己中心性。

（初出2020年5月）

偽物のフェミニズムと本物のフェミニズム

女性が社会的支配者になれる女性優位社会を生成して、女性が男性を支配する社会を実現する方法について

はじめに

従来の、世界に広く流布している、既存のフェミニズムは、男性優位社会から発信されている。その内容は、以下のものである。
「男性優位社会では、女性は、社会的に弱い。そうした弱い女性を、強い男性並みに活用しよう！」

それは、男性に都合の良い内容である。

それは、以下のことを前提としている。
（１）女性を、男性優位社会の枠内に閉じ込め続けること。
（２）女性を、実質的に男性の支配下に置き続けること。
それは、「偽物のフェミニズム」である。

筆者は、こうした出来損ないの、既存の「偽物のフェミニズム」と決別する。
筆者は、以下の内容を提唱する。
「女性優位社会から発信するフェミニズム。」
その社会では、本当に女性が強く、男性が弱い。
それは、以下の視点に基づく。
「社会的に既に強者、支配者の立場にいる女性。」。

それは、以下の方法を教える。
（１）社会における女性の権力を、本当に強化する方法。
（２）女性が男性を根源的に支配する方法。

それは、「本物のフェミニズム」である。これについて、以下に説明する。
具体的には、以下の内容について、説明する。
「筆者は、男性優位社会の弱い女性優位な人々に対して、以下のことを教える。
（１）女性優位社会で、以下の力の源泉は何なのか？女性が社会的に持つ権力、支配力。彼女たちは、社会的に、とても強い。
（２）本当に強い女性は、いかに権力を維持できているか？
それをもとに、男性優位社会の弱い女性の地位を、根本的に引き上げよう！」

（初出2020年5月）

女性優位男性を生成する方法。女性が男性を本質的に弱くする方法。

以下のことを実現する方法。それは、何か？

（１）社会を女性化すること。
（２）女性を、社会の中で、本質的に強い存在にすること。
（３）女性が、男性の存在を、本質的に弱くすること。

その方法は、以下の通りである。
（１）母親は、子育てで、母子密着を実現する。
（２）母親は、自分の子供、特に男の子に対して、べったりくっつく。

（３）そうして、母親は、自分の子供に対して、以下の感覚を、強制的に、植え込む。
「同調や一体感、懐きに対する快感。女性優位な好み。」。

（４）そうして、母親は、以下を、無効化する。
「男性が本来持つ、自由独立、個人行動の精神。」

（５）母親は、女性優位、母性的精神を、強制的に、母から子へと移植する。
（６）母親は、男性を、「女性優位男性」に変える。

母親は、以下のことを、男の子に対して、植え付ける。
（１）母子関係の圧倒的な強力さ。母子関係の優位性。
（２）父子関係の弱体化。
（３）母の持つ、子供に対する、根本的優位性。

具体的には、以下のようにする。
母親は、子供に対して、以下の心を植え付ける。
（１）お母さんと相互に同調、一体化する心。
私は、お母さんのことが大好きだ。
私は、お母さんと、ずっといっしょにいたい。
私は、お母さんに、気に入られたい。

（２）お母さんに対する、生活面における、全面的な依存心。
私は、お母さんに、世話をされたい。
私は、お母さんに、面倒を見てもらいたい。
私は、お母さんに、構ってもらいたい。

「私は、お母さんがいないと生きていけない。」

（３）恐怖政治。

私は、お母さんのことが怖い。
私は、お母さんに逆らえない。
私は、素直にお母さんの言うこと聞こう。
私は、お母さんに対して、ご機嫌取りをしよう。
私は、お母さんに、取り入ろう。

母親は、子供に対して、以下のような存在になるべきだ。

彼女は、子供に対して、激昂する。
彼女は、子供を、一方的に、叱り飛ばす。
彼女は、子供に対して、説教をたくさん行う。

そうすることで、母親は、子供に対して、以下の心を、植え付ける。
「母親を上位者扱いする心。」
「母親に忖度する心。」

（４）既存の前例、しきたりを信頼する心。
お母さん、おばあちゃんは、何でも知っている。
彼女たちは、私にとって、人生の先生、先輩である。
彼女たちの存在は、私にとって、頼りになる。

（５）父親に対する嫌悪感。父親を疎外する心。
母親は、子供に対して、お父さんの悪口を言いふらす。
母親は、子供に対して、お父さんを嫌いにさせる。

母親は、次のことを、実現する。

子供が、お父さんを、遠ざけること。
子供が、お母さんのみに懐くこと。

（初出2020年5月）

女性優位を実現する社会環境の作り方

以下のことが必要である。
人々は、女性上位、女性優位を必須とする社会環境を作る。
人々は、以下の環境の下で生きる。
「そこでは、人々は、女性優位にならないと、暮らして行けない。」
人々は、植物栽培向けの自然環境で生きる。人々は、そうして、定住生活様式で生きる。

（初出2020年5月）

男性優位社会の弱い女性を社会的に強くする方法

人々は、「男性優位社会における弱い女性」を、社会的に強くする。そのため、人々は、男性優位社会を、女性優位社会に、修正する。
人々は、男性優位社会を、女性優位社会に修正する。そのため、人々は、移動生活様式から、定住生活様式にする。
人々は、その移動生活様式を、定住生活様式に修正する。そのため、人々は、遊牧や牧畜の生活を、農耕生活にする。
そのために、人々は、遊牧や牧畜主体の食生活を止める。人々は、それを、植物栽培主体の食生活へと、変える。

（初出2020年5月）

女性優位社会と母権社会

母親は、次の力の源泉になる。
（１）社会を女性化する力。
（２）社会が女性化した状態を、維持し、再生産し続ける力。

その点、母親は、女性優位社会において、以下のように、捉えられ

る。
「中核的な支配者。本質的な権力者。」
女性優位社会の母親は、その存在をグレートマザーと称される。
女性優位社会では、特に、祖母が持つ、社会的支配力や、権力の強さが、顕著である。
それは、以下の理由による。

（１－１）そうした祖母は、社会的に年配である。
（１－２）そうした祖母は、前例、しきたりを、特に豊富に持つ。

（２）そうした祖母は、家族のメンバーを支配する。

女性優位社会は、母権社会として捉えられる。

（初出2020年5月）

女性優位社会の男性と、その母親

女性優位社会の母親は、男性にとって、本来、とても有害な存在である。
母親は、育児で、男性に心理的な密着を続ける。それは、男性が成人した後も、一生続く。母親は、そのことで、男性の男性性を無力化する。
母親は、そうして、男性を劣等の定住民にする。
母親は、男性を、下位者の奴隷扱いする。母親は、男性を、生涯にわたって、企業的定住集団に加入させる。母親は、男性を、そこで、強制労働させる。
母親は、男性に対して、次のような、恩着せがましい態度を、一生続ける。
「私は、あなたを生んであげた。私は、あなたを、成人するまで育ててあげた。あなたは、私のことを、ありがたく思いなさい。」

母親は、男性による、母親への奉仕を一生要求する。母親は、そのことを正当化する。
男性は、母親のその支配戦略に気付くことは、ほとんど不可能である。
母親は、男性に対して、心理的に一体化する。母親は、男性を洗脳

する。
母親は、以下の状態を、生成する。
「男性は、母親に対する盲目的な賛美を、生涯にわたって、続ける。」

母親は、男性に対して、以下のことが続く人生を、生涯にわたって、強制する。
「前例、しきたりを、丸呑みして、暗記し、勉強し続けること。」。
それは、女性優位思考に基づく。

母親は、生涯にわたって男性に貼り付く。母親は、男性に対して、「男性優位な自主独立の思考」を行う暇を、一生与えない。

（初出2020年6月）

女性優位社会。夫にとっての妻。

女性優位社会。夫にとっての妻。
それは、以下の内容である。
////
年下のお母さん。
小さくて若くて可愛い、お母さんの代理。
新参のお母さん見習い。
////

後天的な定住集団の社会の場合。
例。日本。
妻は、彼自身の血縁集団にとって、新規加入の新参者の、お母さん見習いである。
妻は、お母さんという点では、夫にとっては、上位者であり、支配者である。
妻は、新参者という点では、夫にとっては、下位者に当たる。
夫の母親や祖母。血縁集団にとって、一番上位の支配者。
妻は、その支配下に置かれる。

夫と、妻は、共に、夫の母親の支配を受ける。
夫は、彼自身の母親の威を借りて、妻を、支配する。
夫は、妻を、母親の代わりと見なす。夫は、妻に対して、精神的に幼児化して、依存する。夫は、妻に対して、身の回りの世話をしてくれるように、せがむ。

先天的な定住集団の社会の場合。
例。中国。朝鮮。
妻は、夫の血縁集団にとって、部外者の、お母さん見習いである。
妻は、お母さんという点では、夫にとっては、上位者であり、支配者である。
妻は、部外者という点では、夫にとっては、赤の他人に当たる。

（初出2021年5月）

女性優位社会。定住生活様式。下位者による、上位者に対する、批判や異議申し立て。その社会的な取り扱い。

女性優位社会。
定住生活様式。
下位者が、上位者を批判すること。
下位者が、上位者に対して、異議申し立てをすること。
それらの行為の、全面的な社会的禁止。
その理由。
それらの行為は、上位者の心を、深く傷付けること。
他の定住民に対する批判の行為。
その行為が、その場の一体感を、破壊すること。
胎児が、母親の子宮の包含性を、破ろうとすること。

上位者への隷従と、下位者に対する専制支配。
包含や、完全な一体化の状態の維持。
上位者と下位者の関係における、母親と胎児の関係の無限の永続。
それらの理想化。

それは、以下の内容である。
女性の理想。

女性優位社会の女性たち。
彼らは、社会的に強くなるほど、以下の主張を、より強める。
//
我々は、社会的弱者である。
我々は、差別されている。
我々は、下位者である。
我々の社会は、男性優位社会である。
//
そうした行為は、彼らに、以下のような利益を、もたらす。
護衛者の男性を、より強く見せることが出来ること。
男性たちに、男性たち自身が、社会的強者であると、勘違いさせること。
そのことで、以下の内容を、実現出来ること。
//
男性たちが日常的に被っている社会的不利益。
その内容を、隠蔽すること。
その実現が、出来ること。
//
男性による、護衛や苦役の積極的な遂行。
それを、男性自身が、自発的に推進すること。
男性を、そのように、誘導すること。
その実現が、出来ること。
//
男性が、女性による搾取を、自発的に、受容すること。
そのことで、女性たちは、以下の内容を、実現出来ること。
男性たちに対する搾取を、より強め、維持しやすくすること。
そのことで、女性たちは、以下の内容を、実現出来ること。
女性たち自身の温室生活を、より快適なものにすることが出来ること。
その効果は、以下の内容である。
温室維持効果。

男性優位社会の人たちは、女性優位社会の女性たちによる、そうした言動によって、すっかり騙されてしまう。
男性優位社会の人たちは、女性優位社会のことを、以下のように、誤解して捉える。
//

極端な男性優位社会。
//
女性優位社会の女性たちは、表裏の矛盾が、著しい。
女性優位社会の女性たちは、根本的な、嘘つきである。

（2022年2月初出。）

女性優位社会。母親と子供。上位者と下位者。両者の間の社会的な関係。子宮的思考との関連。

女性優位社会における、母親の、子供に対する、深い愛情。
それへの、社会的称賛。
それは、以下の内容である。

母親による、子供に対する、包含性の強さ。
母親による、子供に対する支配。
その、閉鎖性や排他性。
その、逃げ場の無さ。
その、絶え間無さ。
その、無限性。
その永久性。
その脱出不能性。

子供にとって、存在が許容される、空間や時間。
それらの、母親による、一方的な限定。

それらの表現。
それは、以下の内容である。
母親と胎児の関係の理想化。
女性による子宮的思考。
その理想化や正当化。

子供が、母親による専制支配から、逃げること。

そのことが、無限に、永久に、不可能であること。

女性優位社会や定住生活様式における、上位者の、下位者に対する、深い慈愛や恩寵。
その理想化。
それは、母子関係の延長上にある。

女性優位社会における、子供の、母親に対する、深い、依存や甘え。
それへの、社会的承認。
それは、以下の内容である。

子供が、母親によって、包含されること。
その度合いの強さ。
子供が、母親によって支配されること。
その、閉鎖性や排他性。
その、逃げ場の無さ。
その、絶え間無さ。
その、無限性。
その永久性。
その脱出不能性。
子供自身による、それらの積極的な容認。
それらの表現。

女性優位社会や定住生活様式における、下位者の、上位者に対する、深い懐きや、強い忠誠心。
その理想化。
下位者自身による、それらの積極的な容認。
それは、母子関係の延長上にある。
それは、子宮的思考に対する、根本的な容認や支持である。

それらの価値観は、女性優位社会における男性を、女性化させる。
それらの価値観は、女性優位社会における男性を、下位者化させる。

（2022年2月初出。）

「男性優位社会のフェミニズム」。それは、女性優位社会では、有害である。

「男性優位社会のフェミニズム」。その女性優位社会への導入。それは、変質した。

男性優位社会では、以下のことが起きている。
弱者女性は、社会に対して、以下の現状を告発し、批判する。
「女性は、男性に虐げられている！」

そうした内容は、フェミニズムの学説として、まとめられている。

女性優位社会は、そうした学説を、以下のような学説として、自分たちの社会に移入する。
「先進国における、先進的な学説。」。
その学説は、女性優位社会では、以下のものへと、変質している。
「強者女性による、社会を支配するための道具。」。
それは、以下のものである。
「彼女たちが、以下のことを行うための道具。」。
「社会を、彼女たちに都合よく、恣意的に、一方的に操作すること。」。

女性優位社会の強者女性は、男性優位社会の弱者女性にならって、「被害者気取り」を、たくさんする。
彼女たちは、そうして、社会的な責任を回避する。
彼女たちは、やりたい放題である。
例えば、ツイッターにおいて、フェミニストたちは、「被害者気取り」をする。彼女たちは、とても暴れている。

女性優位社会のフェミニストたちは、強者女性である。
彼女たちは、ツイッター上で、自分たちの一方的な主張を、周囲に対して、行う。
彼女たちは、性的表現や、性的な放縦さについての主張などが、気に入らない。
彼女たちは、そうした主張を、ネット上で、すかさず探し出す。
彼女たちは、それらを、「思想警察」を気取って、どんどん取り締まる。
彼女たちは、それらを、集団で、社会的に告発する。

批判者は、その行為に反論する。
彼女たちは、それに対して、以下の主張を連呼する。
（１）「あなたは、「女性の気持ち」について、もっと考えなさい！」。
（２）「あなたは、女性に配慮しなさい！」。
（３）「あなたは、「私たちのフェミニズム」を、もっと勉強しなさい！」。
彼女たちは、反論に対して、まともに答えることをしない。

彼女たちは、以下の心で、動く。
「私たちは、以下のように振る舞いたい。」
（１）上位者。
（２）師匠。先生。

彼女たちは、反論を、一方的に、抑圧、無効化する。

男性優位社会の弱者女性は、以下のように主張する。
「男性優位社会では、弱者女性は、強者男性から、強引にセックス、レイプされまくりだ！」。
この主張は、女性優位社会では、以下の存在と、とても相性がいい。
「「貞淑アピール派」の強者女性。」。

「貞淑アピール派」の強者女性は、以下の欲求を持っている。
（１）私たちは、社会をリードしたい。
（２）私たちは、「性的な攻略しにくさ」を、向上させたい。
（３）私たちは、自分たちの性的価値を上げたい。
（４）私たちは、そうして、周囲に対して、優位に立って、マウントを取りたい。
その欲求は、自己中心的で、身勝手である。

彼女たちは、女性優位社会における、以下のことを、徹底的に叩き、抑圧する。
（１）性的な存在。
（２）性的な表現。
（３）性的な発言。
（４）性的な行動。

人々は、彼女たちの生体の仕組みを見る。彼女たちは、普通に、性

欲が、とても強い。
しかし、上記の強者女性は、それを、必死に隠ぺいする。

（初出2020年5月）

女性優位社会。強者女性は、「キャリア指向」になる。それは、女性の社会的地位を、低下させる。

女性優位社会では、従来、性別役割分業が、行われている。

強者女性は、母親や妻のような存在である。
弱者男性は、息子や夫のような存在である。

強者女性は、弱者男性を、女性優位性格へと飼いならす。
強者女性は、弱者男性を、上位者に対して、従順で隷従的な性格にする。
強者女性は、弱者男性を、会社や官公庁のような職場へと、強制的に送り出す。
職場は、「弱者男性だけを集めた、隔離のための場所」である。

強者女性は、弱者男性同士に、職場で、以下の関係を、結ばせる。
「女性優位な人間関係。それは、束縛感や、統制感が強い。」
強者女性は、弱者男性を、職場で、奴隷化させる。
強者女性は、弱者男性を、以下のことにまい進させる。
「職場内での、出世昇進競争。」
強者女性は、弱者男性を、職場のために、長時間労働させる。

弱者男性は、そのようにして、必死で、お金を稼ぐ。
強者女性は、そのお金を、弱者男性から、一方的に取り上げる。
強者女性は、そのお金を、自分たちの管理下に置く。
強者女性は、弱者男性には、「生活に必要な、最低限のお金」しか渡さない。
そのお金は、弱者男性にとって、強者女性から支給される、「お小遣い」である。

一方、強者女性自身は、そのお金を、自由に、好きに、たくさん使える。
強者女性は、弱者男性の生活を、全面的に管理する。
強者女性は、弱者男性を、自分たち無しでは生きていけないようにする。

それは、生活面で、以下の状態を作り出す。
「弱者男性による、強者女性への、完全依存状態。」。

強者女性は、弱者男性を、永久的に支配する。
強者女性は、自分が生んだ子供に対して、「母子間が密着した状態」を持続する。
強者女性は、自分の子供を、自分の占有物とする。
強者女性は、育児や子育てにおいて、主導権を握る。
強者女性は、子供たちを、生涯にわたって、延々と精神的に支配し続ける。
夫や父は、弱者男性である。
強者女性は、自分の子供と、そうした弱者男性との関係を、徹底的に弱体化する。

「男性優位社会における弱者女性」は、家庭にいると、以下の生活になる。
「強者男性から、お小遣いを貰うだけの、生活。」。
弱者女性は、強者男性によって、経済的に支配されてしまう。
弱者女性は、経済的自立を目指して、職場進出をするしかない。
男性優位社会において、弱者女性たちは、この考えを、フェミニズムとして、主張している。

この考えは、女性優位社会に導入される。
女性優位社会では、この考えは、以下のように捉えられる。
「男性優位社会における、「先進的な女性」の考え。」
女性優位社会の強者女性の多くは、この「先進的」考えに、影響される。

女性優位社会では、性別役割分業が行われている。
女性優位社会の性別役割分業は、もともと、強者女性の利益のために設計されている。

女性優位社会の「先進的」強者女性は、「女性優位社会の性別役割分業」を、排撃する。

そうした強者女性は、それを、以下のように、みなす。
「それは、男女の性的差別の温床になっている。それは、遅れた、劣った、社会制度である。」。

そうした強者女性は、以下の（１）を、以下の（２）ようにみなす。
（１）女性が、新たに、キャリア指向になること。
（２）「それは、先進的である。それは、格好いい。」。

そうした強者女性は、職場に進出する。

そうした職場には、もともと、弱者男性ばかりが集まっている。弱者男性は、そのことを、母や妻のような強者女性によって、強制されている。彼らは、奴隷化した状態で、働いている。

キャリア指向の強者女性は、以下のことを、しきりに訴える。
「そうした職場において、キャリア指向の女性は、少数派扱いされ、居心地が悪い。」
キャリア指向の強者女性は、以下の（１）について、以下の（２）の主張を、大声で訴える。
（１）職場にいる勤務者のほとんどは、男性である。
（２）「これは、女性差別だ！」。
キャリア指向の強者女性は、女性の職場進出の促進を、しきりに主張する。

キャリア指向の強者女性は、遅れて、職場に進出してきた。
なので、現状、職場においては、以下の存在は、今のところ、弱者男性ばかりである。
「上位者にあたる、管理職や、代表者。」
キャリア指向の強者女性は、それを、以下のこととして、問題視する。
「それは、職場における、女性に対する昇進差別である。」。
キャリア指向の強者女性は、そうして、女性の昇進を、強制的に行わせる。
キャリア指向の強者女性は、そのことに成功しつつある。
キャリア指向の強者女性は、職場で、上位者になる。
キャリア指向の強者女性は、弱者男性に対して、以下の力を振るうようになる。
「圧倒的な、暴力的な支配力。」
キャリア指向の強者女性は、「スーパー権力者」になる。

彼女たちに対しては、誰も、手を付けられなくなる。
彼女たちは、「巨大な台風」のような存在になる。
この問題は、まだ顕在化していない。

弱者男性は、職場で、キャリア指向の強者女性によって、自分たちの居場所を奪われる。
なので、弱者男性は、女性の職場進出に対して、否定的である。
キャリア指向の強者女性は、そのことを、以下のように、攻撃する。
「それは、性差別的態度である。」
女性優位社会の弱者男性は、性別役割分業の下では、以下の通りである。
「専ら、家庭に収入をもたらす存在。」。
弱者男性は、強者女性によって、職場での奴隷労働を一方的に強いられてきた。
その労働は、弱者男性に、以下の力を与えている。
（１）家庭に収入をもたらす力の強さ。
（２）経済力の強さ。

こうした力は、弱者男性にとって、心理面では、以下のようになっている。
「自分たちの存在感を示す、最後のよりどころ。」。

女性優位社会では、弱者男性は、自分たちの「奴隷自慢」を盛んに行う。
これは、変な社会現象である。

以下の力は、性別役割分業のせいで、弱者男性へと偏っている。
（１）家庭に収入をもたらす力。
（２）経済力の強さ。
キャリア指向の強者女性は、そのことを、以下のように、しきりに問題視する。
（１）「これは、男女間における、収入差別だ！」
（２）「これは、男女間における、経済力の差別だ！」

そのことの原因となっているのは、「性別役割分業の慣行」である。
女性優位社会における性別役割分業は、本来、以下の目的で作られている。
（１）強者女性が、弱者男性に奴隷労働をさせる。

（２）強者女性は、弱者男性を、経済的に、搾取、支配する。
そこでは、強者女性から、弱者男性に対して、「小遣い制」が、強制される。
それは、女性にとって、とても有利に作られている。
それは、女性を優遇する慣行である。

キャリア指向の強者女性は、次のことに対して、懸命になっている。
「こうした「性別役割分業の慣行」の破壊。」

そうした、女性優位社会では、以下の（１）の間で、以下の（２）が起きている。
（１－１）キャリア指向の強者女性。
（１－２）「性別役割分業」指向の強者女性。従来型の強者女性。

（２－１）強烈な社会的対立。
（２－２）マウント合戦。

上記の（１－１）は、上記の（１－２）のことを、以下のように、しきりに攻撃する。
「彼女たちは、自分自身では稼ごうとしない。」。
「彼女たちは、経済的自立の面で、劣った存在である。」。

キャリア指向の強者女性は、そうした、既存の性別役割分業を破壊する。
彼女たちは、以下のようになる。
（１）彼女たちは、職場や社会において、昇進する。
（２）彼女たちは、高収入になる。

すると、キャリア指向の強者女性は、以下のことを言い出す。
「
私たちは、新たに、職場や社会で、高い地位や収入を得た。
しかし、私たちには、結婚相手の男性が、ちっとも見つからない。
私たちは、次の男性を、結婚相手として選びたい。
その男性は、私たちに釣り合う、高い地位や収入を持つべきだ。
」。
キャリア指向の強者女性は、以下のことに躍起になる。
「次のような、数少ない弱者男性を、探し出すこと。」。
その男性は、以下の条件を満たしている必要がある。
「彼らは、職場での地位や収入が、私たちよりも、高い。」

キャリア指向の強者女性は、彼女たちの間で、そうした弱者男性の「争奪戦」を、激しく行う。
このことで、以下のことが発生している。
「キャリア指向の強者女性における、結婚難。」

また、弱者男性は、以下の（１）の存在について、以下の（２）の内容を、強く持っている。
（１）キャリア指向の強者女性。彼女は、以下の通りである。
（１－１）彼女は、僕よりも、職場での地位が高い。
（１－２）彼女は、僕よりも、収入が高い。

（２）以下の感情。
（２－１）引け目。
（２－２）劣等感。

弱者男性は、以下のことを考える。
『
（１）「僕が、仮に、そうしたキャリア指向の強者女性と結婚した、とする。」
（２）「すると、僕は、家庭で、自分の存在価値が無くなる。」
僕の存在価値は、以下の通りである。
（２－１）職場で地位が高いこと。
（２－２）収入が高いこと。
（３）そうして、僕は、家庭内で、完全に劣位に追い込まれる。

（４）僕は、それを、避けたい。
』

弱者男性は、以下のことに対して、とても消極的になる。
「そうしたキャリア指向の強者女性と付き合うこと。」。

結局、以下によって、弱者男性も結婚難に陥る。
「キャリア指向の強者女性の数の増加。」。

女性優位社会においては、性別役割分業の下では、以下のことが普通だった。
「弱者男性が、強者女性を、経済的に養うこと。」

キャリア指向の強者女性は、以下の力を新たに獲得した。
（１）彼女自身が稼ぐ力。
（２）経済力。
しかし、彼女は、以下の存在とは、結婚しない。
「経済力の無い、弱者男性。」。
彼女は、以下のことを、しようとしない。
「そうした弱者男性を、経済的に養おうとすること。」

女性優位社会は、以下の（１）が起きると、以下の（２）の状態になる。

（１）その社会において、「キャリア指向」が、強者女性たちに対して、浸透すること。

（２－１）その社会において、結婚難が進む。
（２－２）その社会において、少子化問題が深刻になる。

女性の社会的地位は、以下のことで、上がったか？
「強者女性が、キャリア指向になる。」

キャリア指向の強者女性は、以下のことを行った。
「彼女は、弱者男性の「社会的な居場所」を、強引に奪った。」

従来、女性優位社会では、強者女性は、以下の考えで動いていた。
「彼女は、伝統的な性別役割分業を、指向する。」
そうした強者女性は、弱者男性を、奴隷的に働かせていた。
彼女は、弱者男性から、経済的搾取を行っていた。
彼女は、そうして、経済力と社会的支配力を得ていた。
彼女は、そうして、気楽で、優雅な生活を送れていた。

キャリア指向の強者女性は、次のことを、新たに主張している。
（１）「女性の職場における地位が、向上した。」
（２）「女性は、自分自身で稼ぐようになった。」

（３－１）「女性は、経済面で、男性の労働への依存が無くなった。」
（３－２）「女性は、経済的に自立した。」

しかし、キャリア指向の強者女性は、実際は、次のような状態に

なった。

（１）彼女は、職場の中で、以下のことをするようになった。

「苛酷な奴隷労働。」

それは、劣悪な待遇である。
それは、「弱者男性」並みである。

（２）彼女は、以下の状態から、脱却できなくなってしまった。
「そうした、「人権に欠けた重労働」を続ける状態。」。

（３）彼女は、以下の度合いが、格段に強くなった。
「家事を負担に感じること。」

（４）彼女は、そうして、以下のことが不可能になった。
「彼女は、自分の子供の子育てについて、主導権を十分に発揮する。」

（５）彼女は、以下のようになった。
「彼女は、子育てを、外部の保育所や学校などに、依存する。」
彼女は、子育てをする実権を失った。

性別役割分業を採用していた女性優位社会に、以下の新たな考え方が、浸透した。
「女性は、キャリア指向を持つことが望ましい。」。

強者女性は、その存在が、弱者男性並みに、奴隷化した。
そのデメリットは、拡大した。
以下は、全体的に大きく悪化した。
（１）強者女性における「生活の質」。
（２）強者女性における「労働の条件」。

「強者女性への社会的待遇」は、大きく低下した。

以下の（１）は、以下の（２）につながる。
（１）人々の社会的待遇の悪化。
（２）人々の社会的地位の低下。

結局、女性優位社会では、女性の社会的地位は、以下の実現で、大

きく低下した。
「強者女性が、キャリア指向になる。」

（初出2020年5月）

男性優位社会と女性優位社会。「綺麗事」。

「綺麗事」とは、以下のような内容を持つ、主張である。
（１）主張内容が、実態とかけ離れていること。
（２）主張内容の実現が不可能であること。

それは、社会によって、性質が異なる。
（１）女性優位社会。
人々は、「見栄」による、綺麗事の主張を行う。
（例えば、日本における、「美しい日本」のスローガン。）

（２）男性優位社会。
人々は、それとは違う、綺麗事の主張を行う。
それは、彼らが、絶対者を信仰する宗教において、天国の存在を主張することと、同じである。
それは、「天国的な理想」の一方的追求に基づく。
（例えば、欧米諸国における、「人種差別反対」、「性差別反対」のスローガン。）

（初出2020年6月）

独立系女性優位社会による、従属系女性優位社会に対する救出活動。その必要性。

性差は、世界におけるイデオロギー対立の中核の一つを形成している。それは、例えば、民主主義と調和主義の対立である。民主主義は、男性優位社会の価値観である。調和主義は、女性優位社会の価

値観である。それは、以下の二者の対立の根源的な背景を形成している。（１）調和主義で進む中露。（２）民主主義で進む欧米諸国。彼らに従属する日韓。
彼らが本来伝統的に所有する価値観とは、正反対の欧米諸国の価値観。そうした価値観に対して、進んで隷従する、日本人と韓国人。その矛盾を、社会的に表出し暴露することは、日本と韓国では、社会的タブーである。
男性優位社会に従属する女性優位社会の人々。彼らにとって、以下の（１）の行為は、以下の（２）の行為内容を意味する。
（１）彼ら本来の女性優位の価値観。そうした価値観を、社会的に主張すること。
（２）彼らの上位者に当たる、男性優位社会の欧米諸国。そうした上位者に対する社会的な反抗。
そのため、彼らは、上記の（１）の行為を実行することが出来ない。彼らにとって、上記の（１）の行為は、社会的タブーである。
男性優位社会に隷従する女性優位社会。そうした女性優位社会は、彼らの本来の価値観と正反対の価値観を、必死で主張する。その点において、そうした女性優位社会、根本的な嘘つき社会となっている。そうした女性優位社会は、自己矛盾や精神の分裂を、根源的に内包している。
女性優位社会の人々は、上位者に隷属し、下位者を専制支配する。隷従か、専制支配か、そのどちらかしか出来ない人々。それが、女性優位社会の人々である。
女性優位社会の人々は、普段は、上位者に対して、ひたすら隷従し、迎合する。女性優位社会の人々は、上位者から酷い搾取や虐待を受けても、なかなか反抗せず、ひたすら忍従する。
女性優位社会の人々は、上位者によって、ぎりぎりまで追い詰められて、完全に精神的な行き場が無くなった時、精神的な限界に達して、突如として、決起して、上位者に対して、決死の、捨て身の反抗や侵攻を開始する。それが、女性優位社会における下剋上であり、一揆であり、反乱であり、革命である。例。ロシア革命。アメリカによって、石油供給で追い詰められた日本における、アメリカに対する真珠湾攻撃や特攻隊玉砕攻撃。
社会的上位者の男性優位社会の社会規範。そうした社会規範に隷従することしか出来ない、従属系女性優位社会。その状態から自力では脱出できない従属系女性優位社会。そうした、従属系女性優位社会の、独立系女性優位社会による、軍事的、言論的な救出活動。そうした活動が、必要である。
男性優位社会による支配に従属する女性優位社会。そうした従属系女性優位社会としての、日韓。男性優位社会による支配から独立し

ている女性優位社会。そうした独立系女性優位社会としての中露。中露による、日韓社会の救出が望ましい。中露の介入による、日韓社会の、欧米流の家父長制的民主主義を強制された社会から女流本来の調和主義社会への転換。その実現が望ましい。それを口実とする中露の日韓への共同軍事介入や、共同言論介入が望ましい。例。日本社会における、欧米諸国への隷従を積極的に推進してきた明治政府の勢力。中露による、その撲滅。それが、必要である。そのための社会的決起の促進。それが、必要である。
従属系女性優位社会の人々による、男性優位社会による支配に対する社会的決起。例。日韓の人々による、欧米諸国による支配に対する、社会的決起。中露にとっては、そうした社会的決起を援助し促進することが、望ましい。
日韓は、男性優位の民主主義の価値観の外装コートを脱ぎ捨てて、女性優位社会本来の調和主義の価値観に戻るべきである。そのことで、日韓の人々は、精神分裂状態からの脱却を図ることが出来る。そのことで、日韓の人々の精神衛生が向上する。それは、日韓における、深刻な社会的タブーを、根本的に解消する。それは、日韓の人々を、より幸福にする。
中露において、彼らが模範としている共産主義や社会主義は、男性優位社会の価値観を反映したものとなっている。中露も、男性優位の価値観の外装コートを脱ぎ捨てて、女流オリジナルの社会的調和を重んじる共産主義や社会主義の思想を、男女の性差についての知見に基づいて、自力で確立することが望ましい。
女性優位社会同士の団結が必要である。女性優位社会同士による、男性優位社会に対する対抗が必要である。女性優位社会の、男性優位社会からの独立が必要である。女性優位社会による、男性優位社会に対する支配が必要である。

(2021年11月初出)

男性優位社会と、女性優位社会。相互の恋愛と結婚。

男性優位社会と、女性優位社会。
彼らは、互いに反対の、対照的な性格を持つ。
彼らは、互いに、相手を、異質と見なし、対立し、潰し合う。

しかし、彼らの間の関係は、次と似ている。
「生身の男女関係。」

生身の男女は、互いに、相手を、恋愛対象と見なし、仲良く付き合い、結婚する。

それと同様に、男性優位社会と女性優位社会も、次のようにすれば良い。
「互いに、相手の社会を、恋愛対象と見なし、仲良く付き合い、結婚すること。」

そうすれば、彼らは、世界社会において、次の実現が可能になる。
（１）互いの特技を生かした、国際的分業。
（２）それによる、互いの友好や協力の実現。
（３）それによる互いの繁栄の実現。その持続。

現在の世界社会においては、アメリカと中国が、対立している。
アメリカは、男性優位社会である。
中国は、女性優位社会である。

双方は、覇権争いばかりしていないで、次を実現すべきである。
（１）相互の社会的恋愛。
（２）相互の社会的結婚。
（３）それによる、相互の国際的分業の実現。
（４）それによる、相互の友好や協力の実現。
（５）それによる、相互の繁栄の実現。

双方は、実は、相性が、結構良いのかも知れない。

（初出2020年7月）

女性優位社会が、世界的な覇権を握ること。その実現の方法。

女性優位社会。

新たな知見。
それらを、未知の領域への危険な探査を行わずに、得ること。
そのことで、以下の内容を、実現すること。
高品質で、最高の完成度の製品。
それらを、低コストで、大量に、生産すること。
そのことで、経済的に、世界の覇権を握ること。
その実現方法。

男性優位社会に対する、スパイ行為。
男性優位社会のサーバーへの、サイバー攻撃。
それらによる、以下の内容の誘発。
男性優位社会の人々が持つ新知見。
それらの情報。
それらの漏えいを、故意に、引き起こすこと。

女性特有の、強力な性的誘引力。
それらの生成能力。
その活用。
強い性的誘引力を備えた萌え絵女性のコンテンツ。
それらは、女性優位社会の人々にしか作成できない。
それらを、作成して、男性優位社会の人々に閲覧させること。
それへの対価として、以下の内容を、強制的に、回収し、搾取すること。
男性優位社会の人々が持つ、新知見や新技術。

（2022年3月初出。）

男性的な女性。彼らの、長所。

男性的な女性。
彼らの、長所。
それらは、以下の内容である。

移動生活様式性。
気体性。
乾燥性。

連れ立ち行動の少なさ。

護衛の能力。
救助の能力。
温室。それを、自力で生成すること。その能力。

（2022年3月初出。）

（資料）女性専用社会の内部を知るのに有用な情報源（一例）

これらの情報源は、いずれも、以下向けである。
「日本国内。」。
それらは、日本語専用になっている。
日本は、女性優位社会である。

１．書籍の例。
（１）以下の（１－１）による、以下の（１－２）に対する観察調査。
（１－１）女子専用の学校に勤務する教師。
（１－２）女子専用の学校に通う生徒たちが生成する社会。

天野隆雄「女子生徒の教育」成文堂 1986
天野隆雄「若い女性の心理」成文堂 2006

２．ネット上のサイトの例。
（１）女性専用匿名掲示板。
（１－１）若年女性向け。
Girls Channel ガールズちゃんねる
http://girlschannel.net/

（１－２）一般女性向け。
発言小町
http://komachi.yomiuri.co.jp/

（２）ネット雑誌。匿名女性ライターが、主体となって、それらの記事を、執筆している。
（２－１）若年女性向け
MenJoy!
http://www.men-joy.jp/

（２－２）恋愛専用
オトメスゴレン
http://girl.sugoren.com/

（２－３）働く女性向け
BizLady
http://bizlady.jp/

マイナビウーマン
http://woman.mynavi.jp/

日経ウーマン
http://wol.nikkeibp.co.jp/

Table of Contents

「５」絶対者への権威主義的な服従。その発生しやすさ。
「６」権威主義。チャレンジ精神。それらの体現者。その社会的な強力性。
「７」契約の重視。
「８」離合集散の激しさ。流動性の強さ。能力主義。
「９」命令のトップダウンの強さ。意思決定の明快さ。
「１０」異論の許容。多数決の重視。
「１１」開放性。
「１２」積極性。チャレンジ精神の強さ。加点主義。
「１３」プレゼンテーション技術の発達しやすさ。
「１４」社会的階級の発生。社会的不平等の固定化。
「１５」思想面での統制の強さ。思想面での絶対者気取りの発生しやすさ。
「１６」独創性。先進性。革新性。ブレークスルーの重視。
「１７」個性の重視。科学性。実証性。
「１８」ライバルに対する好戦性。セキュリティの重視。
「１９」普遍性。グローバリズム。それらの重視。
「２０」女性の無力化。女性の男性化。それらの推進。
「２１」交通。通信。それらの発達しやすさ。
「２２」犯罪性。粗暴性。攻撃性。それらの強さ。
「２３」有能感。全能感。自信。それらの強さ。
「２４」異質性。多様性。少数性。それらへの寛容さ。
「２５」社会福祉への注力。その熱心さ。

女性が形成する社会の概要。「女性優位社会」と「女性専用社会」。
女性が形成する社会を調査する方法。「女性優位社会」と「女性専用社会」。
女性優位社会の特徴

（１）『対人関係の重視』
（２）『コミュニケーションの重視』
（３）『対人関係の累積』
（４）『対人関係の癒着』

（５）『集団主義』
（６）『所属の重視』
（７）『定住の重視』
（８）『同調性の強さ。強い嫉妬心。』
（９）『同期制や、先輩後輩制の重視』
（１０）『物真似指向』
（１１）『和合の重視』
（１２）『小グループ間の無関心』
（１３）『被保護への欲求』
（１４）『権威主義』
（１５）『リスクの回避』
（１６）『前例踏襲指向』
（１７）『後進性。現状維持。』
（１８）『恥や見栄の重視』
（１９）『気配りの重視』
（２０）『清潔さの重視』
（２１）『責任の回避』
（２２）『懐きの重視』
（２３）『事前合意の重視』
（２４）『失敗恐怖症』
（２５）『閉鎖性。排他性。』
（２６）『受動性。被害者意識の強さ』
（２７）『相互監視の重視』
（２８）『間接的対応』
（２９）『局所性。（ローカル性。）』
（３０）『感情性。』
（３１）『小スケール性。』
（３２）『高密度指向』
（３３）『厳格さの重視』
（３４）『減点主義』
（３５）『管理統制主義』
（３６）『従順さの重視』
（３７）『総花的』
（３８）『突出の回避』
（３９）『中心指向』
（４０）『マイナス思考』
（４１）『真実や内実の隠蔽』
（４２）『多数派指向』
（４３）『安定指向』
（４４）『批判への耐性の低さ』

（４５）『無謬性の主張』
（４６）『製品の品質や完成度の高さ』
（４７）『上位者好みと下位者への冷酷さ』
女性優位社会の特徴。それらの内容についての分類。

女性優位社会の掟
人々の性格の女性優位な度合いの判定基準
移動、定住生活様式と、男女の遺伝的性差
女性優位社会の憲法、男性優位社会の憲法
男性優位社会、女性優位社会の優位性比較。
女性優位社会と男性優位社会。コンピュータによるシミュレーション。
父性と母性。男性優位社会と、女性優位社会。その支配的な価値観。その発生源。
女性優位社会における権力行使
女性優位社会と派閥、一匹狼
女性優位社会における、いじめ。あるいは、所属集団からの追放。
女性優位社会での人生
女性優位社会、男性優位社会。教科書への信仰。
女性優位社会と近代化
共産主義、社会主義の社会。女性優位社会。両者を混同するな！その男性優位社会での実現が、新たに必要である。
女性優位社会。その共産主義革命。その真意。共同性の優先。
民主主義と、女性優位社会。
男性優位社会。そのタイプ分け。宗教。血縁関係。
女性優位社会の女性優位な人々。彼らは、有力な学説を信じる。
女性優位社会における、科学。その社会にとっての上位者が、先進的な男性優位社会である場合。
女性優位社会における社会学やフェミニズム。先進的な男性優位社会が、スーパー上位者の場合。
女性たち。女性優位社会の人たち。定住生活様式者たち。彼らは、社会学者として、根本的に無能である。
女性たち。女性優位社会の人たち。定住生活様式者たち。彼らは、テレワークにおいて、根本的に無能である。
女性や、女性優位社会。自己保身性と自己中心性。その同時発生。
女性優位社会と、勉強。

女性優位社会。女性同士。上下関係。対等な関係。
女性優位社会における、上下関係。その社会的な真実。
女性優位社会。定住生活様式。専制支配行為を順送りで行うこと。
女性優位社会。定住生活様式。上位者から、下位者への、理不尽な仕打ち。その仕打ちの内容の、世代間における、時系列的な継承。
女性優位社会における、人々の本名についての扱い。それは、社会的な機密情報である。
中心者。周辺者。女性優位社会。
優しい女性。厳しい女性。女性優位社会。
男性優位社会。女性優位社会。支配者。権力者。社会の支配。その形態。
男性優位社会。女性優位社会。集団における下位者の昇進。その条件。
女性優位社会。新しい上位者。過去の上位者。両者に対する扱いの違い。
男性優位社会。女性優位社会。言論統制の共通性。
男性優位社会における言論統制
「女性優位社会。権力構造。言論統制。」

　　女性優位社会における権力構造。
　　女性優位社会における言論統制。
　　女性優位社会が、他の社会に従う。その分類。
　　女性優位社会。男性優位社会。それらによる相互作用。
　　女性優位社会における右派。
　　女性優位社会における左派。
　　女性優位社会における、社会不適合者。
　　女性優位社会。敗戦、劣勢への対応。
　　女性優位社会同士の、マウント合戦。
　　女性優位社会。「自己責任論」。
　　女性優位社会が衰退する、没落する。その社会が持つ特徴。

女性優位社会。定住集団の内部。その真の内情。それは、機密情報として扱われる。
女性や女性優位社会。定住生活様式。人々を説得する方法。人々を動かす方法。その注意点。
女性優位社会。相互監視の積極的な実現と、プライバシーの

欠如を肯定すること。
女性優位社会。定住生活様式中心社会。そうした社会において、統合失調症患者が、迫害を受けること。その原因。
女性優位社会としての稲作農耕民社会
（ご参考）人生投資家としての女性。投資先企業家としての男性。女性の社会的優位性。
女性優位社会の外見は、なぜ男性優位社会に見えるのか？

　１．女性優位社会。強者女性は、弱者男性の存在を、故意に、偉くする。
　２．女性優位社会。強者女性は、対外的なガード役の男性を、強く見せる。
　３．男性優位社会と、女性優位社会との相互作用。それは、副作用をもたらす。
　４．女性優位社会。性的役割分業の永続。それは、表面には出てこない。
　５．女性優位社会の存在についての主張。それは世界的に消去される。
　６．女性優位社会。それは、その内実を、告白しない。

偽物のフェミニズムと本物のフェミニズム

　はじめに
　女性優位男性を生成する方法。女性が男性を本質的に弱くする方法。
　女性優位を実現する社会環境の作り方
　男性優位社会の弱い女性を社会的に強くする方法

女性優位社会と母権社会
女性優位社会の男性と、その母親
女性優位社会。夫にとっての妻。
女性優位社会。定住生活様式。下位者による、上位者に対する、批判や異議申し立て。その社会的な取り扱い。
女性優位社会。母親と子供。上位者と下位者。両者の間の社会的な関係。子宮的思考との関連。
「男性優位社会のフェミニズム」。それは、女性優位社会では、有害である。

　「男性優位社会のフェミニズム」。その女性優位社会への導入。それは、変質した。

女性優位社会。強者女性は、「キャリア指向」になる。それは、女性の社会的地位を、低下させる。

男性優位社会と女性優位社会。「綺麗事」。
独立系女性優位社会による、従属系女性優位社会に対する救出活動。その必要性。
男性優位社会と、女性優位社会。相互の恋愛と結婚。
女性優位社会が、世界的な覇権を握ること。その実現の方法。
男性的な女性。彼らの、長所。
（資料）女性専用社会の内部を知るのに有用な情報源（一例）
私の書籍についての関連情報。

私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。
筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。
参考文献。
私が執筆した全ての書籍。その一覧。
私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。
私の略歴。

私の書籍についての関連情報。

私の主要な書籍。それらの内容の、総合的な要約。

////
私は、以下の内容を、発見した。
男女の社会行動上の性差。
そのことについての、新たな、基本的で、斬新な、説明。

男女の性差。
それは、以下の内容である。
精子と卵子との、性質の差。
それらの、直接的な、延長であり、反映。

男女の社会行動上の性差。
それらは、以下の内容に、忠実に、基づいている。
精子と卵子との、社会行動上の差。

それは、全ての生物において、共通している。
それは、生物の一種としての人間にも、当てはまる。

男性の心身は、精子の乗り物に過ぎない。
女性の心身は、卵子の乗り物に過ぎない。

子孫の生育に必要な、栄養分と水分。
卵子は、それらの、所有者であり、占有者である。

生殖設備。
女性は、それらの所有者であり、占有者である。

卵子が占有する、栄養分や水分。
精子は、それらの、借用者である。

女性が占有する生殖設備。
男性は、それらの、借用者である。

所有者が上位者であり、借用者が下位者である。

その結果。
栄養分や水分の所有。
それらにおいては、卵子が上位者であり、精子が下位者である。
生殖設備の所有。
それらにおいては、女性が上位者であり、男性が下位者である。

卵子は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、精子を、一方的に選別すること。
そのことで、精子に対して、受精を、一方的に許可すること。
そうした権限。

女性は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、男性を、一方的に選別すること。
そのことで、男性に対して、婚姻を、一方的に許可すること。
そうした権限。

女性は、以下の行為を、行う。
そうした上下関係を利用すること。
そのことで、男性を、様々な側面から、総合的に搾取すること。

卵子は、精子を、性的に誘引する。
女性は、男性を、性的に誘引する。

卵子は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。
それ自身の内部への、精子の進入。
そのことについての、許認可。
その権限。

女性は、以下の内容の権限を、一方的に占有する。

男性に対する、セックスの許認可。
その権限。

彼女自身が所有する生殖設備。
男性による、それらの、借用。
その許認可。
その権限。

男性からの求婚。
それに対する許諾。
その権限。

生物が、有性生殖を行う限り、以下の内容は、確実に存在する。
男女の社会行動上の性差。

男女の社会行動上の性差。
それらは、無くすことは、決して出来ない。

私は、以下の内容を、新たに説明する。
世界には、男性優位の社会だけでなく、女性優位の社会も、同様に、普通に、多数存在すること。

それは、以下の内容である。
女性優位社会の存在の明瞭性。
その、世界社会における、新たな再確認。

男性優位社会は、移動生活様式の社会である。
女性優位社会は、定住生活様式の社会である。

精子。
その乗り物としての、男性の心身。
彼らは、移動生活様式者である。

卵子。
その乗り物としての、女性の心身。
彼らは、定住生活様式者である。

男性優位社会は、例えば、以下のような社会である。
欧米諸国。中東諸国。モンゴル。

女性優位社会は、例えば、以下のような社会である。
中国。ロシア。日本。韓国や北朝鮮。東南アジア。

男性は、行動の自由の確保を最優先する。
男性は、上位者に反抗する。
男性は、下位者を、暴力で強引にねじ伏せて、服従させる。
男性は、以下の内容についての余地は、少しだけ残す。
下位者による反抗。
その可能性。
下位者による自由行動。
その可能性。
それらの余地。

男性優位社会は、暴力による支配を行う。

女性は、自己保身を最優先する。
女性は、上位者に対して、隷従する。

女性は、下位者を、隷従させる。

それは、以下の内容である。
//
最大限の高慢さと尊大さを、用いること。

下位者による反抗や自由行動。
それらの行動の余地を、完全に封殺して、一切不可能にすること。

それは、以下の内容である。
周囲の同調者と、予め、示し合わせて、行われること。
下位者による反抗を、一切、許さないこと。
下位者を、逃げ場の一切無い、密閉空間に監禁すること。
上位者の気が済むまで、粘着的に、行われれること。
下位者を、サンドバッグ代わりにして、一方的に、虐待し続けること。
//

女性優位社会は、専制による支配を行う。

欧米諸国と、ロシアや中国との、対立。

それらは、以下の内容として、十分に説明可能である。
男性優位社会と、女性優位社会との、対立。

移動生活様式は、男性優位社会を、生み出す。
そこでは、女性差別が起きる。
定住生活様式は、女性優位社会を、生み出す。
そこでは、男性差別が起きる。

女性優位社会では、以下の内容が、恒常的に発生する。
上位者としての女性による、以下のような行動。
自己弱者性についての、恣意的な連呼。
男性の強者性についての、恣意的な連呼。
それらは、以下の内容を、故意に隠蔽する。
女性の社会的優位性。
男性差別。
それらは、女性優位社会の存在そのものを、対外的に、隠蔽する。

女性優位社会における、その内部の機密性や閉鎖性や排他性。
その内部情報の非公開性。
それらは、女性優位社会の存在そのものを、対外的に、隠蔽する。

生物や人間の社会において、性差別を無くすこと。
その実現は、不可能である。
そうした試みは、しょせんは、綺麗事の理想の主張に過ぎない。
それらの行為は、全て無駄である。

男女の性差の存在を強引に否定すること。
性差別に反対すること。
欧米主導の、そうした社会運動。
それらは、基本的に、全て無意味である。

男女の性差の存在を前提とする、社会政策。
その展開が、新たに必要である。

////
私は、以下の内容を、発見した。
人間の本質。
それらについての、新たな、基本的で、斬新な、説明。

当方は、以下のような見方を、根本的に転換し、破壊する。

従来の、欧米やユダヤや中東による主導の、移動生活様式の思想。
それらは、人間と、人間以外の生物とを、峻別する。
それらは、以下の内容に基づく。
家畜の恒常的な屠殺。その必要性。
そうした見方。

私の主張は、以下の内容である。

人間の存在は、生物一般の存在へと、完全に包含される。
人間の本質は、以下の方法によって、より効果的に説明できる。
人間を、生物の一種として、眺めること。
人間の本質を、生物一般の本質として、捉えること。

生物の本質。
それは、以下の内容である。
自己の複製。
自己の存続。
自己の増殖。

それらの本質は、生物に対して、以下のような欲求を、生み出す。
私的な生きやすさ。
その、飽くなき追求。
それへの欲求。

その欲求は、生物に対して、以下のような欲求を、生み出す。
有能性の獲得。
既得権益の獲得。
それらへの欲求。

その欲求は、生物に対して、以下の内容を、絶えず生じさせる。
生存における、優位性。
その確認。
その必要性。

そのことは、結果的に、生物の間に、以下の内容を、生み出す。
社会的優劣関係。
社会的上下関係。

そのことは、以下の内容を、必然的に生み出す。
上位者の生物による、下位者の生物に対する、虐待や搾取。

そのことは、生物に対して、原罪を、回避不可能な形で、もたらす。
それは、生物を、生きにくくする。

そうした原罪や生きにくさから逃れること。
その実現。
どんな生物も、その内容は、生きている限り、決して、実現出来ない。
それは、生物の一種である人間においても、同様である。
人間の原罪は、生物であることそのものにより、生じている。

////
私は、以下の内容を、新たに発見した。
従来の生物学において主流である、進化論。
それについて、以下の内容を指摘すること。
その内容面における根本的な誤り。
そのための、新たな説明。

それは、以下のような見方を、根本的に否定する。
人間は、生物の進化の完成形であること。
生物の頂点に、人間が、君臨すること。
そうした見方。

生物は、自己複製を、ひたすら、機械的に、自動的に、繰り返すだけである。
生物は、そうした点において、純粋に物質的な存在である。
生物は、進化への意思を、全く持たない。

生物の自己複製における突然変異。
それらは、純粋に、機械的に、自動的に、起きる。
それは、生物に対して、新たな形態を、自動的にもたらす。

従来の進化論の説明。
そうした新たな形態が、従来の形態よりも、優れていること。
そうした説明は、何も根拠が無い。

現状の、生物の一環としての人間の、形態。
それが、生物による自己複製の繰り返しの過程において、そのまま保たれること。
そうした保証は、一切無い。

生物を取り巻く環境は、常に、予想外の方向へと変化する。
以前の環境において適応的だった形質。
それらは、次の変化した環境においては、往々にして、以下のような形質となる。
その新たな環境に対して、不適応であること。

その結果。
生物の形態は、自己複製と突然変異により、常に変化する。
それは、以下の内容の実現を、全く保証しない。
より望ましい状態への進化。
その持続。

////
私の、上記の主張。
それは、以下の内容である。

世界の上位を独占する、世界一の既得権益者。
そうした、男性優位社会。
欧米諸国。
ユダヤ。

国際秩序。
国際的な価値観。
それらは、彼らを中心として、生成されている。
それらの内容は、彼らが、彼ら自身が有利になるように、一方的に決定した。
それらの背景をなす、彼らの、伝統的な社会思想。
キリスト教。

進化論。
リベラリズム。
民主主義。
彼らにとって、一方的に有利な内容の、様々な社会思想。
それらの内容を、根本的に破壊し、封殺し、初期化すること。

国際秩序。
国際的な価値観。
それらの決定のプロセスにおける、女性優位社会の関与の度合い。
その拡大。
その実現を、更に促進すること。

女性優位社会の内部における、根本的に生きづらい、社会的内実。
それは、上位者への隷従と、下位者への専制支配によって、完全に満たされている。
例。
日本社会の内実。

そうした不都合な社会的内実。
その発生メカニズムを徹底的に解明すること。
その結果の内容を、暴露し、内部告発すること。
そうした内容であること。

////
私の書籍。
それらの内容における、隠れた、重要な目的。
それは、以下の内容である。

女性優位社会の人々。
彼らは、今まで、以下の内容に頼るしか無かった。
男性優位社会の人々が、彼ら自身のために生成した、社会理論。

女性優位社会の人々。
彼らが、彼ら自身の社会を説明する、自前の社会理論。
彼らが、それを、自前で持つことが出来るようにすること。
その実現。

そのことによる、以下の内容の実現。
世界秩序の形成において、現在、優位に立っている、男性優位社

会。
それらの弱体化。
女性優位社会の力の、新たな強化。
私が、それを、手伝うこと。

女性優位社会の人々。
彼らが、自前の社会理論を、いつまで経っても、なかなか持つことが出来ないこと。
その理由。
それらは、以下の内容である。

分析行動そのものを、心の底で、嫌っていること。
対象との一体化や、対象との共感を、対象の分析よりも、優先すること。

彼ら自身の社会が持つ、強い排他性や閉鎖性。
彼ら自身の社会の内実を解明されることに対して、強い抵抗感を持っていること。

彼ら自身の女性的な自己保身性に基づく、強い退嬰性。
未知の危険な領域を探査することを嫌うこと。
安全性が既に確立された、前例踏襲ばかりを優先すること。

前例の無い、女性優位社会の内実の探査。
そうした行動そのものを、嫌うこと。

前例としての、男性優位社会の社会理論。
その内容を、ひたすら暗記学習すること。
それしか、能力的に、出来ないこと。

（2022年3月初出。）

筆者の執筆の目的と、その実現に当たっての方法論。

私の執筆の目的。

生物にとっての生きやすさ。生物にとっての生存可能性。生物にとっての増殖可能性。それを増大させること。
それは、生物にとって、一番、価値があることである。それは、生物にとって、本質的に、善である。それは、生物にとって、本質的に、光明性をもたらす。
社会的上位者にとっての善。それは、以下の内容である。最上位の社会的地位の獲得。覇権の獲得。獲得した既得権益の維持。
社会的下位者にとっての善。それは、以下の内容である。有能性の獲得による、社会的上昇。社会的革命の生成による、社会的上位者の既得権益の、破壊と初期化。
その実現に役立つ思想。真実。生物が、自分自身の真実を知ること。それは、生物にとって、冷酷で厳しく辛辣な内容である。その受容。その助けになる思想。それらを、効率良く生み出す方法。その確立。

私の方法論。
上記の目的。その実現に当たっての手順。その実現に当たっての勘所。その実現に当たっての注意点。それらは、以下の内容である。
ネット検索やネット閲覧によって、環境や生物社会の動向を常に俯瞰し観察し把握すること。それらの行為は、以下の内容の源泉になる。
環境や生物社会の真実や法則の解明において、説明力や説得力のあるアイデア。
あるアイデアによって、真実を８０％説明できそうな見通しが立った場合。そのアイデアの内容を、どんどん書き出して、体系化すること。真実に近そうな、説明力の高そうな思想を、独力で、どんどん生み出すこと。その行為を、最優先すること。
詳細な説明を後回しにすること。難解な説明を避けること。
過去の前例との照合は、後回しにすること。正しさの完全な検証は、後回しにすること。
簡潔で分かりやすく使いやすい法則の確立。その行為を、最優先すること。それは、例えば、以下の行為と同様である。簡潔で分かりやすく使いやすいコンピュータのソフトウェアの開発。

私の執筆における、理想とスタンス。

私の執筆における、理想。
それは、以下の内容である。
//

私が生成する内容の説明力の最大化。
そのためにかける手間や時間の最小化。
//

それらの実現のための方針やスタンス。それらは、下記の内容である。

私の執筆における、スタンス。

私が、文章の作成において、考慮する、根本的な方針。
それらの対比。
それらの主要な項目一覧。
それは、以下の内容である。

上位概念性。 ／下位概念性。
要約性。 ／詳細性。
根幹性。 ／枝葉性。
一般性。 ／個別性。
基本性。 ／応用性。
抽象性。 ／具体性。
純粋性。 ／混合性。
集約性。 ／粗放性。
一貫性。 ／変動性。
普遍性。 ／局所性。
網羅性。 ／例外性。
定式性。 ／非定式性。
簡潔性。 ／複雑性。
論理性。 ／非論理性。
実証可能性。 ／実証不能性。
客観性。 ／非客観性。
新規性。 ／既知性。
破壊性。 ／現状維持性。
効率性。 ／非効率性。
結論性。 ／中途性。
短縮性。 ／冗長性。

全ての文章において、内容面で、以下のような性質を、最初から、最上級の形で、実現すること。

概念上位性。

要約性。
根幹性。
一般性。
基本性。
抽象性。
純粋性。
集約性。
一貫性。
普遍性。
網羅性。
定式性。
簡潔性。
論理性。
実証可能性。
客観性。
新規性。
破壊性。
効率性。
結論性。
短縮性。

その実現を最優先して、文章の内容を、執筆すること。
その内容を、なるべく早く完成させること。
その内容を、書き上げた部分毎に、直ぐに、本文に、マージしていくこと。
それらを、最優先すること。
例。
固有名詞を、使わないこと。
ローカルな、抽象度の低い意味の語句を、使わないこと。

先進的なコンピュータプログラミング技術を、文章作成の方法へと、積極的に、応用すること。

例。
オブジェクト思考に基づく、文章作成の技術。
クラスとインスタンスの概念の、文章作成への応用。
上位クラスの内容の優先的な記述。

例。

アジャイル開発の方法の、文章作成への応用。
頻繁に、以下の行動を、繰り返すこと。
電子書籍の内容の、バージョンアップ。
その電子書籍ファイルの、公開サーバーへのアップロード。

私は、従来の学術論文の作成方法とは異なる方法を、採用している。
従来の学術論文の作成方法は、説明力のある内容の導出において、非効率である。

書籍の執筆における、私の視点。
それは、以下の内容である。

統合失調症の患者からの視点。
社会における、最下位者からの視点。
社会における扱いが、一番、劣悪な者からの視点。
社会から、拒絶され、差別され、迫害され、追放され、隔離された者からの視点。
社会不適応者からの視点。
社会で生きることを諦めた者からの視点。
一番、社会的ランクが下位の病気に罹患した患者からの視点。
社会における、一番の有害者からの視点。
社会における、一番の嫌われ者からの視点。
社会に対して、生涯、心を閉ざした者からの視点。
生物や人間に対して、根本的にがっかりした者からの視点。
生物や人間に対して、絶望した者からの視点。
人生を諦めた者からの視点。
罹患した病気のせいで、彼自身の遺伝的子孫を残すことを、社会的に拒絶された者からの視点。
罹患した病気のせいで、極めて短命に終わること。そのことを、運命付けられた者からの視点。
罹患した病気のせいで、生きやすさや救いを、生涯、得られないこと。そのことが、予め確定している者からの視点。
罹患した病気のせいで、有能性を、生涯、得られないこと。そのことが、予め確定している者からの視点。
罹患した病気のせいで、生涯にわたって、社会から、虐待や搾取を受け続けること。そのことが、予め確定している者からの視点。
そうした者による、生物社会や人間社会に対する内部告発の視点。

私の人生目標。
それは、以下の内容である。
男女の性差。
人間社会や生物社会。
生物そのもの。
それらの本質を、自力で、分析し、解明すること。

そうした、私の人生目標は、以下のような人々によって、大きく妨害された。

男性優位社会の人々。例。欧米諸国。
そうした、男性優位社会によって支配されている、女性優位社会の人々。例。日本と韓国。
彼らは、女性優位社会の存在を、決して認めない。
彼らは、男女の本質的な性差を、決して認めない。
彼らは、男女の性差についての研究そのものを、社会的に、妨害し、禁止している。
そうした、彼らの態度は、男女の性差の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

人間と、人間以外の生物との、本質的な共通性。
彼らは、それを、決して認めない。
彼らは、人間と、人間以外の生物とを、必死で、区別し、差別しようとする。
彼らは、人間の、人間以外の生物に対する優位性を、必死で、主張しようとする。

そうした、彼らの態度は、人間社会や生物社会の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

女性優位社会の女性たち。例。日本社会の女性たち。
彼らは、女性優位社会における女性の優位性を、表向きは、決して認めない。
女性専用社会や、女性優位社会における、それらの社会の内部の真実。
彼らは、その公開を、決して認めない。
そうした、彼らの態度は、男女の性差の本質の解明にとって、本質

的に、邪魔であり、有害である。
そうした、彼らの態度は、人間社会や生物社会の本質の解明にとって、本質的に、邪魔であり、有害である。

上記のような人々。
そうした、彼らの態度は、私の人生目標を、根本的に、妨害した。
そうした、彼らの態度は、私の人生を、その土台から、狂わせ、破壊し、台無しにした。
私は、それらの結果について、とても怒っている。
私は、彼らに対して、鉄槌を下したい。
私は、彼らに対して、以下の内容を、何としてでも、理解させたい。
私は、以下の内容を、何としてでも、自力で解明したい。
//
男女の性差における、真実。
人間社会や生物社会における、真実。
//

私は、人間社会を、冷静に、客観的に、分析したかった。
そこで、私は、人間社会から、一時的に、私自身を、隔離した。
私は、人間社会の俯瞰者となった。
私は、人間社会の動向を、ネット経由で、毎日、ひたすら、観察し続けた。

その結果。
私は、以下の内容を、手に入れた。
人間社会の全体を、最下位から俯瞰する、独自の視点。

その結果。
私は、以下の内容を、自力で、何とか、掴んだ。
//
男女の性差の本質。
人間社会や生物社会の本質。
//

その結果。
私は、新たな人生目標を、手に入れた。

私の、新たな人生目標。

彼らの社会的妨害に対して、対抗し、挑戦すること。
そして、以下の内容を、人々の間に広く知らせること。
//
私が自力で掴んだ、男女の性差の真実。
私が自力で掴んだ、人間社会や生物社会の真実。
//

私は、そうした目標の実現のために、これらの書籍を作成している。
私は、そうした目標の実現のために、これらの書籍の内容を、
日々、熱心に、改訂し続けている。

（2022年2月初出。）

参考文献。

＝＝ 男女の性差。
/ 総説。

Bakan, D. The duality of human existence . Chicago: Rand-McNally. 1966.
Crandall, V. J., & Robson, S. (1960). Children's repetition choices in an intellectual achievement situation following success and failure. Journal of Genetic Psychology, 1960, 97, 161-168.(間宮1979 p178参照)
Deaux,K.: The Behavior of Women and Men, Monterey, California: Brooks/Cole, 1976
Goldstein, MJ (1959). The relationship between coping and avoiding behavior and response to fear-arousing propaganda. Journal of Abnormal and Social Psychology, 1959, 58, 247-252.(対処的・回避的行動と恐怖を誘発する宣伝に対する反応との関係)
影山裕子 : 女性の能力開発, 日本経営出版会, 1968
間宮武 : 性差心理学, 金子書房, 1979
皆本二三江 : 絵が語る男女の性差, 東京書籍, 1986
村中 兼松 (著), 性度心理学—男らしさ・女らしさの心理 (1974年) ,

帝国地方行政学会, 1974/1/1
Mitchell,G. : Human Sex Differences - A Primatologist's Perspective, Van Nostrand Reinhold Company, 1981 (鎮目恭夫訳 : 男と女の性差 サルと人間の比較, 紀伊国屋書店, 1983)
Newcomb,T.M.,Turner,R.H.,Converse,P.E. : Social Psycholgy:The Study of Human Interaction, New York: Holt,Rinehart and Winston, 1965 (古畑和孝訳 : 社会心理学 人間の相互作用の研究,岩波書店,1973)
Sarason, I.G., Harmatz, M.G., Sex differences and experimental conditions in serial learning. Journal of Personality and Social Psychology., 1965, 1: 521-4.
Schwarz, O, 1949 The psychology of sex / by Oswald Schwarz Penguin, Harmondsworth, Middlesex.
Trudgill,P.:Sociolinguistics: An Introduction, Penguin Books, 1974(土田滋訳 : 言語と社会, 岩波書店, 1975)
Wallach M. A., & Caron A. J. (1959). "Attribute criteriality and sex-linked conservatism as determinants of psychological similarity. Journal of Abnormal and Social Psychology, 59, 43-50(心理的類似性の決定因としての帰属的規準性と性別関連の保守性)
Wright,F.: The effects of style and sex of consultants and sex of members in self-study groups, Small Group Behavior, 1976, 7, p433-456

東清和、小倉千加子(編) , ジェンダーの心理学, 早稲田大学出版部, 2000
宗方比佐子、佐野幸子、金井篤子(編), 女性が学ぶ社会心理学, 福村出版, 1996
諸井克英、中村雅彦、和田実, 親しさが伝わるコミュニケーション, 金子書房, 1999
D.Kimura, Sex And Cognition, MIT Press,Cambridge,Massachusetts, 1999. (野島久雄、三宅真季子、鈴木眞理子訳 (2001) 女の能力、男の能力 - 性差について科学者が答える - 新曜社)

E.Margolies,L.VGenevie, The Samson And Delilah Complex,Dodd,Mead &Company, Inc.,1986(近藤裕訳 サムソン = デリラ・コンプレックス - 夫婦関係の心理学 - ,社会思想社,1987)

/ 各論。

// 男性単独。

E.モンテール (著), 岳野 慶作 (翻訳), 男性の心理―若い女性のために (心理学叢書) , 中央出版社, 1961/1/1
// 女性単独。
扇田 夏実 (著), 負け犬エンジニアのつぶやき～女性SE奮戦記, 技術評論社, 2004/7/6

// 男女間比較。

/// 1.能力における性差

//// 1.1 空間能力における性差

Collins,D.W. & Kimura,D.(1997) A large sex difference on a two-dimensional mental rotation task. Behavioral Neuroscience,111,845-849
Eals,M. & Silverman,I.(1994)The hunter-gatherer theory of spatial sex differences: proximate factors mediating the female advantage in recall of object arrays. Ethology & Sociobiology,15,95-105.
Galea,L.A.M. & Kimura,D.(1993) Sex differences in route learning. Personality & Individual Differences,14,53-65
Linn,M.C.,Petersen,A.C.(1985) Emergence and Characterization of Sex Differences in Spatial Ability : A Meta-Analysis. Child Development, 56, No.4, 1479-1498.
McBurney,D.H., Gaulin, S.J.C., Devineni,T. & Adams,C.(1997) Superior spatial memory of women: stronger evidence for the gathering hypothesis. Evolution & Human Behavior,18,165-174
Vandenberg,S.G. & Kuse,A.R.(1978) Mental rotations, a group test of three-dimensional spatial visualization. Perceptual & Motor Skills, 47,599-601
Watson,N.V. & Kimura,D.(1991)Nontrivial sex differences in throwing and intercepting: relation to psychometrically-defined spatial functions. Personality & Individual Differences,12,375-385

//// 1.2 数学的能力における性差

Bembow,C.P., Stanley,J.C.(1982) Consequences in high school and college of sex differences in mathematical reasoning ability : A Longtitudinal perspective. Am. Educ. Res. J. 19,598-622.
Engelhard,G.(1990) Gender differences in performance on mathematics items: evidence from USA and Thailand.

Contemporary Educational Psychology,15,13-16
Hyde,J.S.,Fennema,E. & Lamon,S.J.(1990) Gender differences in mathematics performance: a meta-analysis. Psychological Bulletin,107,139-155.
Hyde,J.S.(1996) Half the human experience : The Psychology of woman. 5th ed., Lexington, Mass.: D.C.Heath.
Jensen,A.R.(1988)Sex differences in arithmetic computation and reasoning in prepubertal boys and girls. Behavioral & Brain Sciences,11,198-199
Low,R. & Over,R.(1993)Gender differences in solution of algebraic word problems containing irrelevant information. Journal of Educational Psychology,85,331-339.
Stanley,J.C., Keating,D.P., Fox,L.H. (eds.)(1974) Mathematical talent: Discovery, description, and development. Johns Hopkins University Press, Baltimore.

//// 1.3 言語能力における性差

Bleecker,M.L.,Bolla-Wilson,K. & Meyers,D.A.,(1988)Age related sex differences in verbal memory. Journal of Clinical Psychology,44,403-411.
Bromley(1958) Some effects of age on short term learning and remembering. Journal of Gerontology,13,398-406.
Duggan,L.(1950)An experiment on immediate recall in secondary school children. British Journal of Psychology,40,149-154.
Harshman,R., Hampson,E. & Berenbaum,S.(1983) Individual differences in cognitive abilities and brain organization,Part I: sex and handedness differences in ability. Canadian Journal of Psychology,37,144-192.
Hyde,J.S. & Linn,M.C.(1988) Gender differences in verbal ablility:A Meta-analysis. Psychological Bulletin, 104, No.1,53-69.
Kimura,D.(1994)Body asymmetry and intellectual pattern. Personality & Individual Differences,17,53-60.
Kramer,J.H.,Delis,D.C. & Daniel,M.(1988) Sex differences in verbal learning. Journal of Clinical Psychology,44,907-915.
McGuinness,D.,Olson,A. & Chapman,J.(1990)Sex differences in incidental recall for words and pictures. Learning & Individual Differences,2,263-285.

//// 1.4 運動能力における性差

Denckla,M.B.(1974)Development of motor co-ordination in normal children. Developmental Medicine & Child Neurology,16,729-741.
Ingram,D.(1975)Motor asymmetries in young children. Neuropsychologia,13,95-102
Nicholson,K.G. & Kimura.D.(1996) Sex differences for speech and manual skill.Perceptual & Motor Skills,82,3-13.
Kimura,D. & Vanderwolf,C.H. (1970) The relation between hand preference and the performance of individual finger movements by left and right hands. Brain,93,769-774
Lomas,J. & Kimura, D.(1976) Intrahemispheric interaction between speaking and sequential manual activity. Neuropsychologia,14,23-33.
Watson,N.V. & Kimura,D.(1991)Nontrivial sex differences in throwing and intercepting: relation to psychometrically-defined spatial functions. Personality & Individual Differences,12,375-385

//// 1.5 知覚能力における性差

Burg,A.(1966)Visual acuity as measured by dynamic and static tests. Journal of Applied Psychology,50,460-466.
Burg,A.(1968)Lateral visual field as related to age and sex. Journal of Applied Psychology,52,10-15.
Denckla,M.B. & Rudel,R.(1974) Rapid "automatized"naming of pictured objects,colors,letters and numbers by normal children. Cortex,10,186-202.
Dewar,R.(1967)Sex differences in the magnitude and practice decrement of th Muller-Lyer illusion. Psychonomic Science,9,345-346.
DuBois,P.H.(1939)The sex difference on the color naming test. American Journal of Psychology,52,380-382.
Ghent-Braine,L.(1961)Developmental changes in tactual thresholds on dominant and nondominant sides. Journal of Comparative & Physiological Psychology,54,670-673.
Ginsburg,N.,Jurenovskis,M. & Jamieson,J.(1982) Sex differences in critical flicker frequency. Perceptual & Motor Skills,54,1079-1082.
Hall,J.(1984)Nonverbal sex differences. Baltimore:Johns Hopkins.
McGuinness, D.(1972)Hearing: individual differences in perceiving. Perception,1,465-473.
Ligon,E.M.(1932)A genetic study of color naming and word reading.

American Journal of Psychology,44,103-122.
Velle,W.(1987)Sex differences in sensory functions. Perspectives in Biology & Medicine,30,490-522.
Weinstein,S. & Sersen, E.A.(1961)Tactual sensitivity as a function of handedness and laterality. Journal of Comparative & Physiological Psychology,54,665-669.
Witkin,H.A.(1967)A cognitive style approach to cross-cultural research. International Journal of Psychology,2,233-250.

/// 2.パーソナリティの性差

Maccoby, E.E. & Jacklin, C.N.(1974) The Psychology of sex differences. Stanford,CA:Stanford University Press.

/// 3.社会的行動の性差

Brehm,J.W.(1966)A theory of psychological reactance. Academic Press.
Cacioppo,J.T. & Petty,R.E.(1980) Sex differences in influenceability:Toward specifying the underlying processes. Personality and Social Psychology Bulletin,6,651-656
Caldwell,M.A., & Peplau,L.A.(1982) Sex Differences in same-sex friendships. Sex Roles,8,721-732.
Chesler,M.A. & Barbarin,O.A.(1985) Difficulties iof providing help in crisis: Relationships between parents of children with cancer and their friends. Journal of Social Issues,40,113-134.
大坊郁夫(1988)異性間の関係崩壊についての認知的研究,日本社会心理学会第29回発表論文集,64.
Eagly,A.H.(1978) Sex differences in influenceability.Psychological Bulletin,85,86-116.
Eagly,A.H. & Carli,L.L.(1981) Sex of researchers and sex-typed communications as determinants of sex differences in influenceability:A meta-analysis of social influence studies. Psychological Bulletin,90,1-20.
Eagly,A.H. & Johnson,B.T.(1990) Gender and leadership style: A meta-analysis. Psychological Bulletin,108,233-256.
Hall,J.A.(1984) Nonverbal sex differences:Communication accuracy and expressive style. Baltimore:John Hopkins University Press.
Hays,R.B.(1984) The development and maintenance of friendship. Journal of Personal and Social Relationships,1,75-98.

Horner,M.S.(1968)Sex differences in achievement motivation and performance in competitive and non-competitive situation. Unpublished Ph.D. thesis. University of Michigan.
Jourard,S.M.(1971) Self-disclosure:An experimental analysis of the transparent self. New York:Wiley & Sons, Inc.
Jourard,S.M & Lasakow,P.(1958) Some factors in self-disclosure. Journal of Abnormal and Social Psychology, 56, 91-98.
Latane',B. & Bidwell,L.D.(1977) Sex and affiliation in college cafeteria.Personality and Social Psychology Bulletin,3,571-574
松井豊(1990)青年の恋愛行動の構造,心理学評論,33,355-370.
Nemeth,C.J. Endicott,J. & Wachtler,J.(1976) From the '50s to the '70s:Women in jury deliberations,Sociometry,39,293-304.
Rands,M. & Levinger, G. (1979)Implicit theory of relationship: An intergenerational study. Journal of Personality and Social Psychology,37,645-661.
坂田桐子、黒川正流(1993) 地方自治体における職場のリーダーシップ機能の性差の研究-「上司の性別と部下の性別の組合せ」からの分析,産業・組織心理学研究,7,15-23.
総務庁青少年対策本部(1991) 現代の青少年 - 第 5 回青少年の連帯感などに関する調査報告書,大蔵省印刷局.
上野徳美(1994) 説得的コミュニケーションに対する被影響性の性差に関する研究,実験社会心理学研究,34,195-201
Winstead,B.A.(1986) Sex differences in same-sex friendships. In V.J.Derlega & B.A.Winstead(Eds.) Friendship and social interaction. New York:Springer-Verlag.Pp.81-99
Winstead,B.A., Derlega,V.J., Rose,S. (1997) Gender and Close Relationships. Thousand Oaks, California:Sage Publications.
山本真理子、松井豊、山成由紀子(1982) 認知された自己の諸側面の構造,教育心理学研究,30,64-68

＝＝ 世界の社会の分類。男女間における、優位性の比較。
/ 一般。

富永 健一 (著), 社会学原理, 岩波書店, 1986/12/18
岩井 弘融 (著), 社会学原論, 弘文堂, 1988/3/1

笠信太郎, ものの見方について, 1950, 河出書房
伊東俊太郎 (著) , 比較文明 UP選書 , 東京大学出版会, 1985/9/1

/ 気候。
和辻 哲郎 (著), 風土: 人間学的考察, 岩波書店, 1935
鈴木秀夫, 森林の思考・砂漠の思考, 1978, 日本放送出版協会
石田英一郎, 桃太郎の母 比較民族学的論集 , 法政大学出版局 , 1956
石田英一郎, 東西抄 - 日本・西洋・人間, 1967, 筑摩書房
松本 滋 (著), 父性的宗教 母性的宗教 (UP選書) , 東京大学出版会, 1987/1/1
ハンチントン (著), 間崎 万里 (翻訳), 気候と文明 (1938年) (岩波文庫) , 岩波書店, 1938
安田 喜憲 (著), 大地母神の時代―ヨーロッパからの発想 (角川選書) , 角川書店, 1991/3/1
安田 喜憲 (著), 気候が文明を変える (岩波科学ライブラリー (7)) , 岩波書店, 1993/12/20

鈴木 秀夫 (著), 超越者と風土 , 原書房, 2004/1/1
鈴木 秀夫 (著), 森林の思考・砂漠の思考 (NHKブックス 312) , NHK出版1978/3/1
鈴木 秀夫 (著), 風土の構造, 原書房, 2004/12/1
梅棹 忠夫 (著), 文明の生態史観, 中央公論社, 1967

ラルフ・リントン (著), 清水 幾太郎 (翻訳), 犬養 康彦 (翻訳), 文化人類学入門 (現代社会科学叢書), 東京創元社, 1952/6/1
祖父江孝男『文化とパーソナリティ』弘文堂，1976
F.L.K.シュー (著), 作田 啓一 (翻訳), 浜口 恵俊 (翻訳), 比較文明社会論―クラン・カスト・クラブ・家元 (1971年), 培風館，1970．

J□J□バハオーフェン (著), 吉原 達也 (翻訳), 母権論序説 付・自叙伝, 創樹社, 1989/10/20

阿部 一, 家族システムの風土性, 東洋学園大学紀要 (19), 91-108, 2011-03

/ 移動性。
大築立志, 手の日本人、足の西欧人, 1989, 徳間書店
前村 奈央佳, 移動と定住に関する心理的特性の検討：異文化志向と定住志向の測定および関連性について, 関西学院大学先端社会研究所紀要, 6号 pp.109-124, 2011-10-31
浅川滋男, 東アジア漂海民と家船居住, 鳥取環境大学, 紀要, 創刊号, 2003.2 pp41-60

/ 食糧の確保の手段。
千葉徳爾, 農耕社会と牧畜社会, 山田英世 (編), 風土論序説 (比較思想・文化叢書) , 国書刊行会, 1978/3/1
大野 盛雄 (著), アフガニスタンの農村から―比較文化の視点と方法 (1971年) (岩波新書) , 岩波書店, 1971/9/20
梅棹 忠夫 (著), 狩猟と遊牧の世界―自然社会の進化, 講談社, 1976/6/1
志村博康 (著), 農業水利と国土, 東京大学出版会, 1987/11/1

/ 心理。
Triandis H.C., Individualism & Collectivism, Westview Press, 1995, （H.C. トリアンディス (著), Harry C. Triandis (原著), 神山 貴弥 (翻訳), 藤原 武弘 (翻訳), 個人主義と集団主義―2つのレンズを通して読み解く文化, 北大路書房, 2002/3/1 ）
Yamaguchi, S., Kuhlman, D. M., & Sugimori, S. (1995). Personality correlates of allocentric tendencies in individualist and collectivist cultures. Journal of Cross-Cultural Psychology, 26, 658-672
Markus H.R.,Kitayama,S., Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and motivation. Psychological Review, 98, pp224-253 1991

千々岩 英彰 (編集), 図解世界の色彩感情事典―世界初の色彩認知の調査と分析, 河出書房新社, 1999/1/1

＝＝ 男性優位社会。移動生活様式。遊牧と牧畜。気体。

/ 欧米諸国。全般。
星 翔一郎 (著), 国際文化教育センター (編集), 外資系企業 就職サクセスブック, ジャパンタイムズ, 1986/9/1

/ 西欧。
// 単独社会。
// 社会間比較。
西尾幹二, ヨーロッパの個人主義, 1969, 講談社
会田 雄次 (著), 『アーロン収容所：西欧ヒューマニズムの限界』中公新書, 中央公論社 1962年
池田 潔 (著), 自由と規律: イギリスの学校生活 (岩波新書) , 岩波書

店, 1949/11/5

鯖田 豊之 (著), 肉食の思想―ヨーロッパ精神の再発見 (中公新書 92) , 中央公論社, 1966/1/1
八幡 和郎 (著), フランス式エリート育成法―ENA留学記 (中公新書 (725)) , 中央公論社, 1984/4/1
木村 治美 (著), 新交際考―日本とイギリス, 文藝春秋, 1979/11/1
森嶋 通夫 (著), イギリスと日本―その教育と経済 (岩波新書 黄版 29) , 岩波書店, 2003/1/21
/ アメリカ。
// 単独社会。
松浦秀明, 米国さらりーまん事情, 1981, 東洋経済新報社
Stewart, E.C., American Cultural Patterns A Cross-Cultural Perspectives, 1972, Inter-cultural Press (久米昭元訳, アメリカ人の思考法, 1982, 創元社)
吉原 真里 (著), Mari Yoshihara (著), アメリカの大学院で成功する方法―留学準備から就職まで (中公新書), 中央公論新社, 2004/1/1
リチャード・H. ロービア (著), Richard H. Rovere (原著), 宮地 健次郎 (翻訳), マッカーシズム (岩波文庫) , 岩波書店, 1984/1/17
G.キングスレイ ウォード (著), 城山 三郎 (翻訳), ビジネスマンの父より息子への30通の手紙, 新潮社, 1987/1/1
長沼英世, ニューヨークの憂鬱ー豊かさと快適さの裏側, 中央公論社, 1985
八木 宏典 (著), カリフォルニアの米産業, 東京大学出版会, 1992/7/1
// 社会間比較。
/ ユダヤ。
// 単独社会。
旧約聖書。
新約聖書。
中川 洋一郎, キリスト教・三位一体論の遊牧民的起源―イヌの《仲介者》化によるセム系一神教からの決別―, 経済学論纂 (中央大学) 第60巻第 5 ・ 6 合併号 (2020年 3 月) ,pp.431-461
トマス・ア・ケンピス (著), 大沢 章 (翻訳), 呉 茂一 (翻訳), キリストにならいて (岩波文庫) , 岩波書店, 1960/5/25
// 社会間比較。
/ 中東。
// 単独社会。
クルアーン。コーラン。
鷹木 恵子 U.A.E.地元アラブ人の日常生活にみる文化変化：ドバイで

の文化人類学的調査から http://id.nii.ac.jp/1509/00000892/
Syouwa63nenn
// 社会間比較。
後藤 明 (著), メッカ—イスラームの都市社会 (中公新書 1012) , 中央公論新社, 1991/3/1
片倉もとこ『「移動文化考」 イスラームの世界をたずねて 』日本経済新聞社、1995年
片倉もとこ『イスラームの日常世界』岩波新書，1991．
牧野 信也 (著), アラブ的思考様式, 講談社, 1979/6/1
井筒 俊彦 (著), イスラーム文化−その根柢にあるもの , 岩波書店, 1981/12/1
/ モンゴル。
// 単独社会。
鯉渕 信一 (著), 騎馬民族の心—モンゴルの草原から (NHKブックス) , 日本放送出版協会, 1992/3/1
// 社会間比較。

＝＝ 女性優位社会。定住生活様式。農耕。液体。
/ 東アジア。
山口 勧 (編集), 社会心理学—アジア的視点から (放送大学教材) , 放送大学教育振興会, 1998/3/1
山口 勧 (編集), 社会心理学—アジアからのアプローチ, 東京大学出版会, 2003/5/31
石井 知章 (著), K□A□ウィットフォーゲルの東洋的社会論, 社会評論社, 2008/4/1
/ 日本。
// 単独社会。

/// 文献調査。
南博, 日本人論 - 明治から今日まで , 岩波書店, 1994
青木保, 「日本文化論」の変容-戦後日本の文化とアイデンティティー-, 中央公論社, 1990

/// 社会全般。
//// 著者が、日本人の場合。
浜口恵俊 「日本らしさ」の再発見 日本経済新聞社 1977
阿部 謹也 (著), 「世間」とは何か (講談社現代新書) , 講談社, 1995/7/20
川島武宣, 日本社会の家族的構成, 1948, 学生書房

中根千枝, タテ社会の人間関係, 講談社, 1967
木村敏, 人と人との間, 弘文堂, 1972
山本七平 (著), 「空気」の研究, 文藝春秋, 1981/1/1
会田 雄次 (著), 日本人の意識構造 (講談社現代新書) , 講談社, 1972/10/25
石田英一郎, 日本文化論 筑摩書房 1969
荒木博之, 日本人の行動様式 -他律と集団の論理- , 講談社, 1973

吉井博明 情報化と現代社会[改訂版] 1997 北樹出版

//// 著者が、日本人以外の場合。
///// 欧米諸国からの視点。
Benedict,R., The Chrysanthemum and the Sword : Patterns of Japanese Culture, Boston Houghton Mifflin, 1948 (長谷川松治訳, 菊と刀 - 日本文化の型, 社会思想社, 1948)
Caudill,W., Weinstein,H., Maternal Care and Infant Behavior in Japan and America, Psychiatry,32 1969
Clark,G.The Japanese Tribe:Origins of a Nation's Uniqueness, 1977(村松増美訳 日本人 - ユニークさの源泉 - , サイマル出版会 1977)
Ederer,G., Das Leise Laecheln Des Siegers, 1991, ECON Verlag(増田靖訳 勝者・日本の不思議な笑い, 1992 ダイヤモンド社)
Kenrick,D.M., Where Communism Works: The Success of Competitive-Communism In Japan,1988,Charles E. Tuttle Co., Inc., (ダグラス・M. ケンリック (著), 飯倉 健次 (翻訳), なぜ“共産主義”が日本で成功したのか, 講談社, 1991/11/1)
Reischauer,E.O., The Japanese Today: Change and Continuity,1988, Charles E. Tuttle Co. Inc.
W.A.グロータース (著), 柴田 武 (翻訳), 私は日本人になりたい—知りつくして愛した日本文化のオモテとウラ (グリーン・ブックス 56) , 大和出版, 1984/10/1

///// 東アジアからの視点。
李 御寧 (著), 「縮み」志向の日本人, 学生社, 1984/11/1

/// 心理。
安田三郎「閥について——日本社会論ノート（３）」（『現代社会

学3』2巻1号所収・1975・講談社)
木村敏, 人と人との間 - 精神病理学的日本論, 1972, 弘文堂
丸山真男, 日本の思想, 1961, 岩波書店
統計数理研究所国民性調査委員会 (編集), 日本人の国民性〈第5〉戦後昭和期総集, 出光書店, 1992/4/1

/// コミュニケーション。
芳賀綏, 日本人の表現心理, 中央公論社, 1979

/// 歴史。
R.N.ベラー (著), 池田 昭 (翻訳), 徳川時代の宗教 (岩波文庫), 岩波書店, 1996/8/20
勝俣 鎮夫 (著), 一揆 (岩波新書) , 岩波書店, 1982/6/21
永原 慶二 (著), 日本の歴史〈10〉下克上の時代, 中央公論社, 1965年
戸部 良一 (著), 寺本 義也 (著), 鎌田 伸一 (著), 杉之尾 孝生 (著), 村井 友秀 (著), 野中 郁次郎 (著), 失敗の本質―日本軍の組織論的研究, ダイヤモンド社, 1984/5/1

/// 民俗。
宮本 常一 (著), 忘れられた日本人 (岩波文庫) , 岩波書店, 1984/5/16

/// 食糧の確保。
大内力 (著), 金沢夏樹 (著), 福武直 (著) , 日本の農業 UP選書, 東京大学出版会, 1970/3/1

/// 地域。
//// 村落。
中田 実 (編集), 坂井 達朗 (編集), 高橋 明善 (編集), 岩崎 信彦 (編集), 農村 (リーディングス日本の社会学) , 東京大学出版会, 1986/5/1
蓮見 音彦 (著), 苦悩する農村―国の政策と農村社会の変容, 有信堂高文社, 1990/7/1
福武直 (著) , 日本農村の社会問題 UP選書, 東京大学出版会, 1969/5/1
余田 博通 (編集), 松原 治郎 (編集), 農村社会学 (1968年) (社会学選

書) , 川島書店, 1968/1/1
今井幸彦 編著, 日本の過疎地帯 (1968年) (岩波新書), 岩波書店, 1968-05

きだみのる (著), 気違い部落周游紀行 (冨山房百科文庫 31), 冨山房, 1981/1/30
きだ みのる (著), にっぽん部落 (1967年) (1967年) (岩波新書)

//// 都市。
鈴木広 高橋勇悦 篠原隆弘 編, リーディングス日本の社会学 7 都市, 東京大学出版会, 1985/11/1
倉沢 進 (著), 秋元 律郎 (著), 町内会と地域集団 (都市社会学研究叢書) , ミネルヴァ書房, 1990/9/1
佐藤 文明 (著), あなたの「町内会」総点検 [三訂増補版] —地域のトラブル対処法 (プロブレムQ&A), 緑風出版, 2010/12/1

//// エリア毎の特色。
京都新聞社 (編さん), 京男・京おんな, 京都新聞社, 1984/1/1
丹波 元 (著), こんなに違う京都人と大阪人と神戸人 (PHP文庫) , PHP研究所, 2003/3/1
サンライズ出版編集部 (編集), 近江商人に学ぶ, サンライズ出版, 2003/8/20

/// 血縁関係。
有賀 喜左衛門 (著), 日本の家族 (1965年) (日本歴史新書) , 至文堂, 1965/1/1
光吉 利之 (編集), 正岡 寛司 (編集), 松本 通晴 (編集), 伝統家族 (リーディングス 日本の社会学) , 東京大学出版会, 1986/8/1

/// 政治。
石田雄, 日本の政治文化 - 同調と競争, 1970, 東京大学出版会
京極純一, 日本の政治, 1983, 東京大学出版会

/// ルール。法律。
青柳文雄, 日本人の罪と罰, 1980, 第一法規出版
川島武宣, 日本人の法意識 (岩波新書 青版A-43) , 岩波書店, 1967/5/20

/// 行政。

辻清明 新版 日本官僚制の研究 東京大学出版会 1969
藤原 弘達 (著), 官僚の構造 (1974年) (講談社現代新書) , 講談社, 1974/1/1
井出嘉憲 (著), 日本官僚制と行政文化—日本行政国家論序説, 東京大学出版会, 1982/4/1
竹内 直一 (著), 日本の官僚—エリート集団の生態 (現代教養文庫) , 社会思想社, 1988/12/1
教育社 (編集), 官僚—便覧 (1980年) (教育社新書—行政機構シリーズ〈122〉), 教育社, 1980/3/1
加藤栄一, 日本人の行政—ウチのルール (自治選書), 第一法規出版, 1980/11/1
新藤 宗幸 (著), 技術官僚—その権力と病理 (岩波新書), 岩波書店, 2002/3/20
新藤 宗幸 (著), 行政指導—官庁と業界のあいだ (岩波新書) , 岩波書店, 1992/3/19

武藤 博己 (著), 入札改革—談合社会を変える (岩波新書) , 岩波書店, 2003/12/19

宮本政於, お役所の掟, 1993, 講談社

/// 経営。

間宏,日本的経営 - 集団主義の功罪,日本経済新聞社,1973
岩田龍子, 日本の経営組織, 1985, 講談社
高城 幸司 (著), 「課長」から始める 社内政治の教科書, ダイヤモンド社, 2014/10/31

/// 教育。

大槻 義彦 (著), 大学院のすすめ—進学を希望する人のための研究生活マニュアル, 東洋経済新報社, 2004/2/13
山岡栄市 (著), 人脈社会学—戦後日本社会学史 (御茶の水選書) , 御茶の水書房, 1983/7/1

/// スポーツ。

Whiting, R., The Chrysanthemum and the Bat 1977 Harper Mass Market Paperbacks (松井みどり訳, 菊とバット 1991 文藝春秋)

/// 性差。
//// 母性。母親。
Caudill,W., Weinstein, H., Maternal Care and Infant Behavior in Japan and America Psychiatry,32 1969

河合隼雄, 母性社会日本の病理, 中央公論社 1976
佐々木 孝次 (著), 母親と日本人, 文藝春秋, 1985/1/1
小此木 啓吾 (著), 日本人の阿闍世コンプレックス, 中央公論社, 1982
斎藤学, 『「家族」という名の孤独』講談社 1995
山村賢明, 日本人と母―文化としての母の観念についての研究, 東洋館出版社, 1971/1/1
土居健郎, 「甘え」の構造, 1971, 弘文堂

山下 悦子 (著), 高群逸枝論―「母」のアルケオロジー, 河出書房新社, 1988/3/1
山下 悦子 (著), マザコン文学論―呪縛としての「母」(ノマド叢書), 新曜社, 1991/10/1

中国新聞文化部 (編集), ダメ母に苦しめられて (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1999/1/1

加藤秀俊, 辛口教育論 第四回 衣食住をなくした家, 食農教育 200109, 農山漁村文化協会

//// 女性。
木下 律子 (著), 妻たちの企業戦争 (現代教養文庫) , 社会思想社, 1988/12/1
木下律子 (著), 王国の妻たち―企業城下町にて, 径書房, 1983/8/1
中国新聞文化部 (編集), 妻の王国―家庭内"校則"に縛られる夫たち (女のココロとカラダシリーズ), ネスコ, 1997/11/1

//// 男性。
中国新聞文化部 (編集), 長男物語―イエ、ハハ、ヨメに縛られて (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1998/7/1
中国新聞文化部 (編集), 男が語る離婚―破局のあとさき (女のココロとカラダシリーズ) , ネスコ, 1998/3/1

// 社会間比較。

/// 欧米諸国との比較。
山岸俊男, 信頼の構造, 1998, 東京大学出版会
松山幸雄「勉縮」のすすめ, 朝日新聞社, 1978
木村尚三郎, ヨーロッパとの対話, 1974, 日本経済新聞社
栗本 一男 (著), 国際化時代と日本人—異なるシステムへの対応 (NHKブックス 476) , 日本放送出版協会, 1985/3/1
/// 社会の特殊性。その有無についての検討。
高野陽太郎、纓坂英子, " 日本人の集団主義" と" アメリカ人の個人主義" -通説の再検討-心理学研究vol.68 No.4,pp312-327,1997
杉本良夫、ロス・マオア, 日本人は「日本的」か - 特殊論を超え多元的分析へ - , 1982, 東洋経済新報社
/// 血縁関係。
増田光吉, アメリカの家族・日本の家族, 1969, 日本放送出版協会
中根千枝『家族を中心とする人間関係』講談社 , 1977
/// コミュニケーション。
山久瀬 洋二 (著), ジェイク・ロナルドソン (翻訳), 日本人が誤解される100の言動 100 Cross-Cultural Misunderstandings Between Japanese People and Foreigners【日英対訳】 (対訳ニッポン双書) , IBCパブリッシング, 2010/12/24
鈴木 孝夫 (著), ことばと文化 (岩波新書) , 岩波書店, 1973/5/21
/// 独創性。
西沢潤一, 独創は闘いにあり, 1986, プレジデント社
江崎玲於奈, アメリカと日本 - ニューヨークで考える, 1980, 読売新聞社
乾侑, 日本人と創造性, - 科学技術立国実現のために, 1982, 共立出版
S.K.ネトル、桜井邦朋, 独創が生まれない - 日本の知的風土と科学, 1989, 地人書館

/// 経営。
Abegglen, J.C.,The Japanese Factory:Aspects of Its Social Organization,Free Press 1958（占部都美 監訳 「日本の経営」ダイヤモンド社 1960）
林 周二, 経営と文化, 中央公論社, 1984
太田肇 (著) , 個人尊重の組織論, 企業と人の新しい関係 (中公新書) , 中央公論新社, 1996/2/25
/// 保育。
Caudill,W., Weinstein, H., Maternal Care and Infant Behavior in Japan and America Psychiatry,32 1969
/// 教育。

岡本 薫 (著), 新不思議の国の学校教育―日本人自身が気づいていないその特徴, 第一法規, 2004/11/1
宮智 宗七 (著), 帰国子女―逆カルチュア・ショックの波紋 (中公新書) 中央公論社, 1990/1/1
グレゴリー・クラーク (著), Gregory Clark (原著), なぜ日本の教育は変わらないのですか? , 東洋経済新報社, 2003/9/1
恒吉僚子, 人間形成の日米比較 - かくれたカリキュラム, 1992, 中央公論社
/// 性差。
//// 女性。
杉本 鉞子 (著), 大岩 美代 (翻訳), 武士の娘 (筑摩叢書 97) , 筑摩書房, 1967/10/1
//// 男性。
グスタフ・フォス (著), 日本の父へ, 新潮社, 1977/3/1
/ 韓国。
// 単独社会。
朴 泰赫 , 醜い韓国人, ―われわれは「日帝支配」を叫びすぎる (カッパ・ブックス) 新書 – , 光文社, 1993/3/1
朴 承薫 (著), 韓国 スラングの世界, 東方書店, 1986/2/1
// 社会間比較。
コリアンワークス, 知れば知るほど理解が深まる「日本人と韓国人」なるほど事典―衣食住、言葉のニュアンスから人づきあいの習慣まで (PHP文庫) 文庫 – , PHP研究所, 2002/1/1
造事務所 , こんなに違うよ！ 日本人・韓国人・中国人 (PHP文庫), PHP研究所 (2010/9/30)
/ 中国。
// 単独社会。
/// 社会全般。
林 松濤 (著), 王 怡韡 (著), 舩山 明音 (著) , 日本人が知りたい中国人の当たり前, 中国語リーディング, 三修社, 2016/9/20
/// 心理。
園田茂人, 中国人の心理と行動, 2001, 日本放送出版協会
デイヴィッド・ツェ (著), 吉田 茂美 (著), 関係(グワンシ) 中国人との関係のつくりかた , ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2011/3/16
/// 歴史。
加藤 徹 (著), 西太后―大清帝国最後の光芒 (中公新書) 新書 – , 中央公論新社, 2005/9/1
宮崎 市定 (著), 科挙―中国の試験地獄 (中公新書 15) , 中央公論社, 1963/5/1

/// 血縁関係。
瀬川 昌久, 現代中国における宗族の再生と文化資源化 東北アジア研究 18 pp.81-97 2014-02-19
// 社会間比較。
邱 永漢 (著), 騙してもまだまだ騙せる日本人—君は中国人を知らなさすぎる, 実業之日本社, 1998/8/1
邱永漢 (著) , 中国人と日本人, 中央公論新社, 1993
/ ロシア。
// 単独社会。
/// 社会全般。
ヘドリック スミス (著), 飯田 健一 (翻訳), 新・ロシア人〈上〉, 日本放送出版協会, 1991/2/1
ヘドリック スミス (著), 飯田 健一 (翻訳), 新・ロシア人〈下〉, 日本放送出版協会, 1991/3/1
/// 歴史。
伊賀上 菜穂, 結婚儀礼に現れる帝政末期ロシア農民の親族関係 : 記述資料分析の試み スラヴ研究, 49, 179-212 2002
奥田 央, 1920年代ロシア農村の社会政治的構造（ １ ）, 村ソヴェトと農民共同体, 東京大学, 経済学論集, 80 1-2, 2015-7 https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp › econ0800102
大矢 温, スラヴ派の共同体論における「ナショナル」意識 - 民族意識から国民意識への展開 - , 札幌法学 29 巻 1・2 合併号 (2018) , pp.31-53
// 社会間比較。
/// 心理。
アレックス インケルス (著), Alex Inkeles (原著), 吉野 諒三 (翻訳), 国民性論—精神社会的展望, 出光書店, 2003/9/1
服部 祥子 (著), 精神科医の見たロシア人 (朝日選書 245), 朝日新聞社出版局, 1984/1/1
/// 民俗。
アレクサンドル・プラーソル, ロシアと日本：民俗文化のアーキタイプを比較して, 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第10号、2007.
/// 血縁関係。
高木正道, ロシアの農民と中欧の農民, ——家族形態の比較——, 法経研究, 42巻1号 pp.1-38, 1993
/// 経営。
宮坂 純一, ロシアではモチベーションがどのような内容で教えられているのか, 社会科学雑誌』第 5 巻（2012年11月）—— 503-539
宮坂 純一, 日ロ企業文化比較考, 『社会科学雑誌』第 18 巻（2017 年 9 月）——, pp.1-48

/// 性差。
Д.Х. Ибрагимова, Кто управляет деньгами в российских семьях?, Экономическая социология. Т. 13. № 3. Май 2012, pp22-56

/ 東南アジア。
// 単独社会。
丸杉孝之助, 東南アジアにおける農家畜産と農業経営, 熱帯農業, 19(1), 1975 pp.46-49
中川 剛 (著), 不思議のフィリピン―非近代社会の心理と行動 (NHKブックス) , 日本放送出版協会, 1986/11/1
// 社会間比較。

＝＝ 液体。
/ 液体の性質。液体の動き。
小野周 著, 温度とはなにか , 岩波書店、1971
小野 周 (著), 表面張力 (物理学one point 9), 共立出版, 1980/10/1
イーゲルスタッフ (著), 広池 和夫 (翻訳), 守田 徹 (翻訳), 液体論入門 (1971年) (物理学叢書) , 吉岡書店, 1971
上田 政文 (著), 湿度と蒸発―基礎から計測技術まで, コロナ社, 2000/1/1
稲松 照子 (著), 湿度のおはなし, 日本規格協会, 1997/8/1
伊勢村 寿三 (著), 水の話 (化学の話シリーズ (6)) , 培風館, 1984/12/1
力武常次 (著), 基礎からの物理 総合版 (チャート式シリーズ) , 数研出版, 数研出版, 1986/1/1
野村 祐次郎 (著), 小林 正光 (著), 基礎からの化学 総合版 (チャート式・シリーズ) , 数研出版, 1985/2/1
物理学辞典編集委員会 , 物理学辞典 改訂版 , 培風館, 1992
池内満, 分子のおもちゃ箱 , 2008年1 月19日 http://mike1336.web.fc2.com/ (2008年2月23日)
/ 液体の知覚。
大塚巌 (2008). ドライ、ウェットなパーソナリティの認知と気体、液体の運動パターンとの関係. パーソナリティ研究, 16, 250-252

＝＝ 生物。
/ 総論。
鈴木孝仁, 本川達雄, 鷲谷いづみ, チャート式シリーズ, 新生物 生物

基礎・生物 新課程版, 数研出版, 2013/2/1
/ 遺伝子。
リチャード・ドーキンス【著】，日高敏隆，岸由二，羽田節子，垂水雄二【訳】, 利己的な遺伝子, 紀伊國屋書店, 1991/02/28
/ 精子。卵子。
緋田 研爾 (著), 精子と卵のソシオロジー―個体誕生へのドラマ (中公新書) 中央公論社, 1991/3/1
/ 神経系。
二木 宏明 (著), 脳と心理学―適応行動の生理心理学 (シリーズ脳の科学) , 朝倉書店, 1984/1/1
山鳥 重 (著), 神経心理学入門, 医学書院, 1985/1/1
伊藤 正男 (著), 脳の設計図 (自然選書) , 中央公論社, 1980/9/1
D.O.ヘッブ (著), 白井 常 (翻訳), 行動学入門―生物科学としての心理学 (1970年) , 紀伊国屋書店, 1970/1/1
// 知覚。
岩村 吉晃 (著), タッチ (神経心理学コレクション), 医学書院, 2001/4/1
松田 隆夫 (著), 知覚心理学の基礎, 培風館, 2000/7/1
// パーソナリティ。
Murray,H.A., 1938, Exploration in personality:A clinical and experimental study of fifty men of collegeage.
Schacter, S., 1959, The Psychology of affiliation.Stanford University press.
三隅三不二, 1978, リーダーシップの科学, 有斐閣
Fiedler,F.E., 1973, The trouble with leadership training is that it doesn't train leaders-by. Psychology Today Feb(山本憲久訳 1978 リーダーシップを解明する 岡堂哲雄編 現代のエスプリ131: グループ・ダイナミクス 至文堂).
Snyder,M., 1974, The self-monitoring of expssive behavior. Journal of Personality and Social Psychology, 30, 526-537.
Fenigstein, A., Scheier,M.F., & Buss,A.H., 1975, Public and private self-consciousness: Assessment and theory. Journal of Consulting and Clinical Psychology,43,522-527.
押見輝男, 自分を見つめる自分-自己フォーカスの社会心理学, サイエンス社, 1992
Wicklund, R.A., & Duval,S. 1971 Opinion change and performance facilitation as a result of objective self-awareness. Journal of Experimental Social Psychology,7,319-342.
Jourard, S.M. 1971, The transparent self, rev.ed.Van Nostrand Reinhold(岡堂哲雄訳 1974 透明なる自己 誠信書房).

Brehm, J.W.,1966, A Theory of psychological reactance. Academicpss.
Toennies, F.,1887, Gemeinshaft und Gesellshaft, Leipzig,(杉之原寿一訳「ゲマインシャフトとゲゼルシャフト」1957 岩波書店)
McCrae, R. R., Costa, P. T., Jr., 1987, Validation of the five-factor model of personality across instruments and observers., Journal of Personality and Social Psychology, 52, 81-90
Eysenck, H. J., 1953, The structure of human personality. New York: Wiley.
Edwards, A.L., 1953, The relationship between judged desirebility of a trait and the plobability that the trait will be endowsed. Journal of Applied Psychology, 37,90-93
// 情報。
吉田 民人 (著), 情報と自己組織性の理論, 東京大学出版会, 1990/7/1
/ 社会性。
吉田 民人 (著), 主体性と所有構造の理論, 東京大学出版会, 1991/12/1

/ 人間以外の生物。
// 行動。
デティアー(著), ステラー(著), 日高敏隆(訳),小原嘉明(訳), 動物の行動 - 現代生物学入門7巻, 岩波書店, 1980/1/1
// 心理。
D.R.グリフィン (著), 桑原 万寿太郎 (翻訳), 動物に心があるか―心的体験の進化的連続性 (1979年) (岩波現代選書―NS〈507〉), 岩波書店, 1979年
// 文化。
J.T.ボナー (著), 八杉 貞雄 (翻訳), 動物は文化をもつか (1982年) (岩波現代選書―NS〈532〉) , 岩波書店, 1982/9/24
// 社会。
今西 錦司 (著), 私の霊長類学 (講談社学術文庫 80) , 講談社, 1976/11/1
今西錦司『私の自然観』講談社学術文庫，1990 (1966) .
河合雅雄 (著), ニホンザルの生態, 河出書房新社, 1976/1/1
伊谷純一郎 (著) , 高崎山のサル (講談社文庫), 講談社, 1973/6/26
伊谷純一郎 (著) , 霊長類社会の進化 (平凡社 自然叢書) 単行本 –, 平凡社, 1987/6/1
/ 無神論。
リチャード・ドーキンス (著), 垂水 雄二 (翻訳), 神は妄想である―

宗教との決別, 早川書房, 2007/5/25

＝＝ 辞書。
新村出（編著）,広辞苑 - 第5版, 岩波書店, 1998
Stein, J., & Flexner, S. B. (Eds.), The Random House Thesaurus., Ballantine Books., 1992

＝＝ データ分析の方法。
田中敏 (2006). 実践心理データ解析 改訂版 新曜社
中野博幸, JavaScript-STAR , 2007年11月9日 http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/ (2008年2月25日)

私が執筆した全ての書籍。その一覧。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Sex Differences And Female Dominance
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 性别差异和女性主导地位
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Половые различия и женское превосходство
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 男女の性差と女性の優位性

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Female-Dominated Society Will Rule The World.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 女性主导的社会将统治世界
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Общество, в котором доминируют женщины, будет править миром.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 女性優位社会が、世界を支配する。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Mobile Life. Settled Life. The origins of social sex differences.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 移动生活。定居生活。社会性别差异的起源。
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Мобильная жизнь. Урегулированная жизнь. Истоки социальных различий по половому признаку.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 移動生活様式。定住生活様式。社会的性差の起源。

Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) The essence of life. The essence of human beings. The darkness of them.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 生物的本质。人类的本质。他们的黑暗。
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) Сущность жизни. Сущность человеческих существ. Их тьма.
Iwao Otsuka (Aug 12, 2020) 生物の本質。人間の本質。それらの暗黒性。

Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) On Atheism and the Salvation of the Soul. Live by neuroscience!
Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) 论无神论与灵魂的救赎。靠神经科学生存！
Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) Об атеизме и спасении души. Живи неврологией!
Iwao Otsuka (Aug 21, 2020) 無神論と魂の救済について。脳神経科学で生きよう！

Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) Dryness. Wetness. Sensation of humidity. Perception of humidity. Personality Humidity. Social Humidity.
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) 干性。湿气。湿度的感觉。对湿度的感知。性格湿度。社会湿度。
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) Сухость. Мокрота. Сенсация

влажности. Восприятие влажности. Личностная влажность. Социальная влажность.
Iwao Otsuka (Aug 24, 2020) ドライさ。ウェットさ。湿度の感覚。湿度の知覚。性格の湿度。社会の湿度。

Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) Gases and liquids. Classification of behavior and society. Applications to life and humans.
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) 气体和液体。行为与社会的分类。在生活和人类中的应用。
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) Газы и жидкости. Классификация поведения и общества. Применение к жизни и человеку.
Iwao Otsuka (Aug 26, 2020) 気体と液体。行動や社会の分類。生物や人間への応用。

Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) Elements of livability. Functionalism of life. Society as life.
Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) 宜居的要素。生活的功能主义。社会即生活。
Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) Элементы благоустроенности. Функциональность жизни. Общество как жизнь.
Iwao Otsuka (Sep 3, 2020) 生きやすさの素。生物の機能主義。生物としての社会。

Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) The laws of history. History as a system. History for life.
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) 历史的规律。历史是一个系统。历史的生物。
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) Законы истории. История как система. История на всю жизнь.
Iwao Otsuka (Sep 4, 2020) 歴史の法則。システムとしての歴史。生物にとっての歴史。

Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Social Theory of Maternal Authority. A Society of Strong Mothers. Japanese Society as a Case Study.
Iwao Otsuka (Sep 20, 2020) 母亲权威的社会理论。强势母亲的社会。以日本社会为个案研究。
Iwao Otsuka (Sep 20, 2020) Социальная теория материнства: Общество сильных матерей. Японское общество как пример.
Iwao Otsuka (Sep 15, 2020) 母権社会論 - 強い母の社会。事例としての日本社会。 -

Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Mechanisms of Japanese society. A society of acquired settled groups.
Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) 日本社会的机制。后天定居群体的社会。
Iwao Otsuka (Sep 21, 2020) Механизмы японского общества. Общество приобретенных оседлых групп.
Iwao Otsuka (Aug 28, 2020) 日本社会のメカニズム。後天的定住集団の社会。

Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) Inertial Society
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) 惯性社会（中文版本）
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) инерционное общество
Iwao Otsuka (Oct 25, 2020) 慣性社会（日本語版）

Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) Neurosociology
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) 神经社会学（中文版本）
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) Нейросоциология
Iwao Otsuka (Oct 27, 2020) 神経社会学（日本語版）

Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) From transportation-centric society to communication-centric society. The Progress of Transition.
Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) 从以交通为中心的社会向以通信为中心的社会。转型的进展。

Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) От общества, ориентированного на транспорт, к обществу, ориентированному на коммуникации. Прогресс переходного периода.
Iwao Otsuka (Oct 29, 2020) 交通中心社会から通信中心社会へ。移行の進展。

Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) The Sociology of the Individual -The Elemental Reduction Approach.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 个人社会学 -元素还原法。
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Социология личности -Элементный подход к сокращению.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 個人の見える社会学　- 要素還元アプローチ -

Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Introduction Of A White Tax To Counter Discrimination Against Blacks.
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 引入白人税以打击对黑人的歧视
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) Введение белого налога для противодействия дискриминации черных
Iwao Otsuka (Nov 9, 2020) 黒人差別対策としての白人税導入

Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) Personality and sensation, perception. Light and dark. Warm and cold. Hard and soft. Loose and tight. Tense and relaxed.
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) 人格与感觉、知觉。明与暗。温暖与寒冷。硬和软。松与紧。紧张与放松。
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) Личность и ощущения, восприятие. Светлое и темное. Тепло и холодно. Твердый и мягкий. Свободный и тугой. Напряженный и расслабленный.
Iwao Otsuka (Nov 20, 2020) 性格と感覚、知覚。明暗。温冷。硬軟。緩さときつさ。緊張とリラックス。

Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) Motherhood and Fatherhood. Maternal and paternal authority. Parents and Power.
Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) 母性与父性。母权和父权。父母与权力。
Iwao Otsuka (Nov 21, 2020) Материнство и отцовство. Материнская и отцовская власть. Родители и власть.
Iwao Otsuka (Nov 22, 2020) 母性と父性。母権と父権。親と権力。

Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) Sex differences and sex discrimination. They cannot be eliminated. Social mitigation and compensation for them.
Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) 性别差异和性别歧视。它们无法消除。对它们进行社会缓解和补偿。
Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) Половые различия и дискриминация по половому признаку. Они не могут быть устранены. Социальное смягчение и компенсация за них.
Iwao Otsuka (Dec 15, 2020) 男女の性差と性差別。それらは無くせない。それらへの社会的な緩和や補償。

Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) Mechanisms of acquired settled group societies. Female dominance.
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) 后天定居群体社会的机制。女性主导地位。
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) Механизмы обществ приобретенных оседлых групп. Доминирование женщин.
Iwao Otsuka (Dec 18, 2020) 後天的定住集団社会のメカニズム。女性の優位性。

Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) Ownership and non-ownership of resources. Their advantages and disadvantages.
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) 资源的所有权和非所有权。其利弊。
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) Владение и не владение ресурсами. Их преимущества и недостатки.
Iwao Otsuka (Dec 24, 2020) 資源の所有と非所有。その利点と欠

点。

Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) Wealth and poverty. The emergence of economic disparity. Causes and solutions.
Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) 财富与贫穷。经济差距的出现。原因和解决办法。
Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) Благополучие и бедность. Появление экономического неравенства. Причины и решения.
Iwao Otsuka (Jan 3, 2021) 富裕と貧困。経済的格差の発生。その原因と解消法。

Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) Social delinquents. A true delinquent. The difference between the two.
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) 社会不良分子。真正的不良分子。两者之间的区别。
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) Социальные преступники. Настоящий преступник. Разница между ними.
Iwao Otsuka (Jan 4, 2021) 社会的な不良者。真の不良者。両者の違い。

Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) How to enjoy game music videos.
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) 如何欣赏游戏音乐视频。
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) Как наслаждаться игровыми музыкальными клипами.
Iwao Otsuka (Jan 8, 2021) ゲーム音楽動画の楽しみ方。

Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) Life worth living. Fulfilling life. The source of them.
Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) 值得生活的生活。充实的生活。他们的源头。
Iwao Otsuka (Jan 17, 2021) Жизнь, достойная жизни. Полноценная жизнь. Источник их.

私の書籍の内容。それらの自動翻訳のプロセスについて。

ご訪問ありがとうございます！

私は本の内容を頻繁に改訂しています。
そのため、読者の皆様には、随時サイトを訪れていただき、新刊や改訂版の書籍をダウンロードしていただくことをお勧めしています。

自動翻訳には以下のサービスを利用しています。

DeepL プロ
https://www.deepl.com/translator

本サービスは以下の会社が提供しています。

DeepL GmbH

私の本の原語は日本語です。
私の本の自動翻訳の順序は以下の通りです。
日本語→英語→中国語、ロシア語

どうぞお楽しみ下さい！

私の略歴。

私は、1964年に、日本の神奈川県で、生まれた。
私は、1989年に、東京大学文学部社会学科を卒業した。
私は、1989年度の日本の国家公務員採用試験のI種区分の、社会学の職種に、最終合格した。
私は、1992年度の日本の国家公務員採用試験のI種区分の、心理学の職種に、最終合格した。
私は、大学卒業後は、日系大手IT企業の研究所に勤務して、コンピュータのソフトウェアの試作業務に従事した。
私は、現在は、企業を退職して、執筆活動に専念中である。